

同道遺跡

県立高崎北高等学校新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1983

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

同道遺跡

県立高崎北高等学校新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1983

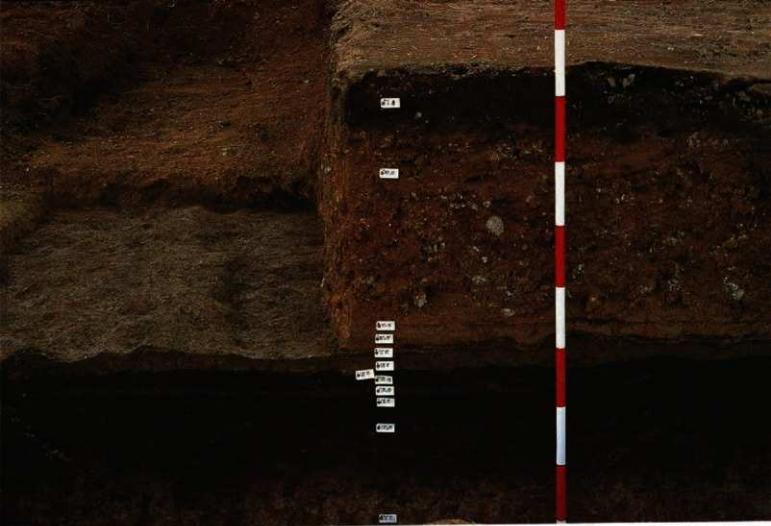




問道Ⅰ期水田(後方)とⅡ期水田(手前)〈北より〉



岡道Ⅲ期水田〈北より〉



▲ 遺跡中央の土層断面

▼ 遺跡北端の土層断面



序

近年、群馬県内では古代水田址の発見が相次いでおりますが、これらの多くは浅間山や榛名山が爆発したときに降り積った火山灰に埋もれて発見されております。いわば、こうした火山灰が当時の水田面を保護してきたために、多くの水田址の発見をもたらしているわけでもあります。

当時の人々にとっては壊滅的な被害をもたらした火山灰の堆積が、現在に生きる私たちにとってはこの上なく重要な考古学上の発見をもたらしているということは、何という皮肉でありましょう。人間の歴史がもつ意味をかいま見る思いがいたします。

ここに報告いたします同道遺跡も古代の水田址が発見された遺跡ですが、ここでは古墳時代初頭から平安時代にかけての4期の水田址が同一地点に重層して検出されたことで一躍注目を集めました。また県内をはじめ、全国的に注目された古墳時代の小区画水田の発見も、同道遺跡の調査がきっかけとなったものであります。

現在急ピッチに進んでいる古代水田址の研究に、この報告が少しでも参考になれば幸いです。

最後に、極めて短い期間の中で調査せざるを得なかった担当者と作業員の皆さんの労をねぎらうとともに、調査実施にあたって多大の尽力をたまわりました関係者の皆様に感謝の意を表し、序といたします。

昭和58年3月25日

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 清水一郎

例 言

1. 本報告は県立高崎北高等学校の新設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 遺跡は群馬郡群馬町大字井出字同道800番地他に所在する。
3. 発掘調査は、予備調査を県教育委員会が行ない、本調査を県埋蔵文化財調査事業団が県教育委員会より委託されて行なった。
4. 調査を実施した年月日は以下のとおりである。

予備調査 昭和53年5月1日～昭和53年5月31日

本調査 昭和53年9月1日～昭和54年3月31日

5. 調査組織は次のとおりである。なお、所属は昭和58年時点のものである。

事業担当 磯貝福七、森田秀策、阿久津宗、井上唯雄、長谷部達雄、飯塚喜代子、国定 均、清水輝夫

調査担当 能登 健 (群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査研究員)
現：群馬県教育委員会文化財保護課
中沢 悟 (群馬県埋蔵文化財調査事業団 調査研究員)
石坂 茂 (//)
藤巻幸男 (//)
茂木由行 (// 調査員)
現：吉井町教育委員会

6. 本書作成の担当者は次のとおりである。なお、本文執筆の文責については文末に記してある。

編集 石坂 茂

本文執筆 能登 健、茂木由行、中沢 悟、石坂 茂、藤巻幸男

図版作成 辻口敏子 (群馬県埋蔵文化財調査事業団 嘱託員)

遺構写真 石坂 茂

空中写真 東京グラフィック 北沢 廣

遺物写真 佐藤元彦 (群馬県埋蔵文化財調査事業団 嘱託員)

遺構測量 株式会社 測研

7. 遺跡の考察に関連して、次の2氏より執筆をいただいた。

藤原宏志 (宮崎大学農学部助教授)

山崎 一 (城郭研究家)

8. 本書の作成にあたり、下記の諸氏より御助言、御協力を得た。記して感謝の意を表したい。(敬称略、アイウエオ順)

新井房夫、飯田陽一、石川正之助、石守 晃、稲田孝司、井上唯雄、内田憲治、大江正行、大木紳一郎、大塚初重、片貝 敦、小島敦子、小林昌二、坂口 一、佐々木高明、佐原 真、徳江秀夫、八賀 晋、細野雅男、平野進一、峰岸純夫、横畑 仁

凡 例

1. 本調査は遺跡全体に 5×5 mグリッドを設定し、東西をアルファベット、南北をアラビア数字で呼称した。各グリッドの名称は南西隅をあてた。またA-0グリッドの国家座標上の位置は次のとおりである。

座標系番号 IX X軸 (+)41,380.00m
Y軸 (-)75,820.00m

2. 南調査区は独自のグリッドを設定したが、その呼称は上記と同様である。また南調査区B-2グリッドの国家座標上の位置は次のとおりである。

座標系番号 IX X軸 (+)41,215.00m
Y軸 (-)75,745.00m

3. 挿図中に使用した方位は座標北であり、真北方向角の偏差は $N 0^{\circ}32'20'' E$ である。
4. 水田面積の算出については、I・II・IV期水田は1/40平面図上でプランニメーター（ローラー極式・レンズ式）による3回計測平均値を使用した。またII期水田の長・短辺の()内数値は、1/80平面図上でのアゼの中心間の計測距離であり、補正面積はその数値を用いて算出したものである。III期水田の面積は、1/80平面図上においてアゼの中心間の距離で計測した長・短辺の長さをを用いて算出した。なお、小数点以下3桁は四捨五入してある。
5. 第1図および第4図は、建設省国土地理院発行の2万5千分の1地形図(前橋・下室田)と5万分の1地形図(前橋・榛名山)をそれぞれ使用した。

目 次

巻頭図版

序

例 言

凡 例

I 発掘調査と遺跡の概要	3
1. 調査に至る経緯	3
2. 遺跡の位置と地形	5
3. 周辺の遺跡	9
4. 調査の方法	16
5. 遺跡の基本層序	18
II 調査の内容	20
1. 調査された遺構	20
2. 同道Ⅰ期水田	21
(1) 水田の地形	21
(2) アゼの走行と区画	21
(3) 水田の面積	29
(4) 取配水方法	32
(5) 耕作痕と足跡	33
(6) 遺物出土状況と内容	35
3. 同道Ⅱ期水田	37
(1) 水田の地形	37
(2) アゼの走行と区画	37
(3) 水田の面積	42
(4) 取配水方法	46
(5) 足 跡	49
(6) 遺物出土状況と内容	49
4. 同道Ⅲ期水田	53
(1) 水田の地形	53
(2) アゼの走行と区画	53
(3) 水田の面積	61
(4) 取配水方法	75

(5) 足 跡	76
(6) 遺物出土状況と内容	78
5. 同道IV期水田	79
(1) 水田の地形	79
(2) アゼの走行と区画	79
(3) 水田の面積	83
(4) 取配水方法	84
(5) 足 跡	85
(6) 遺物出土状況と内容	85
6. 中世館址	87
(1) 遺構の状況	87
(2) 掘立柱建築遺構	87
(3) 井 戸	87
(4) 堀	92
(5) 土 壇 墓	94
(6) 出土遺物	95
7. その他の出土遺物	101
III 関連調査と結果	108
1. 同道遺跡におけるプラント・オパール分析	108
(1) 分析法および試料	108
(2) 分析結果	109
(3) 考察および結論	110
2. 花城寺館と元井出館	113
IV 成果と問題点	115
1. 出土土器からみた各期水田の年代観	115
2. 出土土器からみた各テフラ層の年代観	117
3. I～III期水田における水田面積の統計学的検討	118
4. 同道遺跡の小区画水田	122
5. 井野川周辺の水田開発	123
6. 同道遺跡のIV期水田について	124
7. 中世館址の年代観	125
(1) 遺構について	125
(2) 出土遺物について	125

挿 図 目 次

第 1 図	同道遺跡の位置と周辺の地形	4
第 2 図	遺跡周辺の地形区分	6
第 3 図	同道遺跡の地形	7
第 4 図	同道遺跡と周辺の遺跡	8
第 5 図	試掘トレンチとテストピットの配置	16
第 6 図	各テフラ層の模式層序	17
第 7 図	浅間山系、榛名山系テフラの分布等厚線	17
第 8 図	基本土層の模式図	18
第 9 図	各テストピットの柱状土層図	19
第 10 図	大アゼ・南北小アゼの区画模式図	21
第 11 図	I 期水田・区画と水口のあり方 (南調査区)	22
第 12 図	I 期水田・方形区画の種類	24
第 13 図	I 期水田・方形区画内の変則的区画	25
第 14 図	I 期水田・等高線に沿った方形区画	26
第 15 図	I 期水田・方形区画内の変則的区画	27
第 16 図	I 期水田・小アゼ上の埋石	28
第 17 図	帯状水田下の水路断面	32
第 18 図	I 期水田・帯状水田下の水路 (上下つなぎ)	折り込み
第 19 図	I 期水田の耕作痕 (部分)	折り込み
第 20 図	I 期水田の耕作痕 (部分)	折り込み
第 21 図	I 期水田の耕作痕	折り込み
第 22 図	I 期水田・土器の出土状況	36
第 23 図	I 期水田の出土遺物 (土器)	折り込み
第 24 図	I 期 水 田	折り込み
第 25 図	大アゼによる区割り模式図	37
第 26 図	II 期水田 (南調査区)	38
第 27 図	II 期水田・整然とした区画	40
第 28 図	II 期水田・区画の変換部	41
第 29 図	II 期水田・開削時の水路	47
第 30 図	II 期水田水路・埋設土層の断面	48
第 31 図	II 期水田の水路 (上下つなぎ)	折り込み
第 32 図	II 期水田・水路付近の土層出土状況	49
第 33 図	II 期水田の出土遺物 (土器)	50
第 34 図	II 期水田の出土遺物 (土器)	51
第 35 図	II 期水田・水路中の土器出土状況	折り込み
第 36 図	II 期 水 田	折り込み
第 37 図	大アゼによる区割り模式図	53
第 38 図	I ~ III 期水田の B 大アゼの重複状況 (N ラインの断面)	54
第 39 図	III 期水田・平均的な大きさの区画	55
第 40 図	III 期水田・平均より小さな区画	56
第 41 図	III 期水田・区画の変換部	58
第 42 図	III 期水田・区画の変換部	59
第 43 図	III 期水田・各種の小区画	60

第 44 図	Ⅲ期水田・大アゼと小区面の隣接部の変化	62
第 45 図	Ⅲ期水田・水路の横断面	76
第 46 図	Ⅲ期水田・水路からの取水と配水	77
第 47 図	Ⅲ期水田・A大アゼ下の土器出土状況	78
第 48 図	Ⅲ期水田の出土遺物(土器)	折り込み
第 49 図	Ⅲ期水田	折り込み
第 50 図	小アゼによる区画模式図	79
第 51 図	Ⅳ期水田・変動的な区画	80
第 52 図	Ⅳ期水田・湾曲した南北アゼ	81
第 53 図	Ⅳ期水田・アゼ上の埋石	82
第 54 図	Ⅳ期水田水路・埋設土層の断面	84
第 55 図	Ⅳ期水田の出土遺物(土器)	折り込み
第 56 図	Ⅳ期水田	折り込み
第 57 図	中世館址・独立柱建築遺構(1・2号)	88
第 58 図	中世館址・独立柱建築遺構(3・4号)	89
第 59 図	中世館址・井戸(1~5号)	90
第 60 図	中世館址・井戸(6~10号)	91
第 61 図	中世館址の堀と柵列	93
第 62 図	土塚墓	94
第 63 図	板碑の出土状況	94
第 64 図	中世館址の出土遺物(土器)	95
第 65 図	中世館址の出土遺物(土器)	96
第 66 図	中世館址の出土遺物(石臼)	98
第 67 図	中世館址の出土遺物(磁石、不明遺物)	99
第 68 図	中世館址の出土遺物(板碑)	折り込み
第 69 図	中世館址に関連する遺構群	折り込み
第 70 図	表土層中の出土遺物(磁石)	101
第 71 図	表土層中の出土遺物(土器)	102
第 72 図	表土層中の出土遺物(土器)	104
第 73 図	表土層出土の古銭拓本	106
第 74 図	八幡塚古墳表探の埴輪	107
第 75 図	遺跡の土層断面(A地点)	108
第 76 図	遺跡の土層断面(B地点)	109
第 77 図	プラント・オバール定量分析法(ガラス・ビーズ法)	109
第 78 図	土1区あたりのプラント・オバール数(A地点)	110
第 79 図	土1区あたりのプラント・オバール数(B地点)	110
第 80 図	イネおよびイネ科雑草の乾物量(A地点)	111
第 81 図	イネおよびイネ科雑草の乾物量(B地点)	111
第 82 図	花城寺館および元井出館	114
第 83 図	水田区画面積のヒストグラム(Ⅰ期水田)	118
第 84 図	小区画水田面積のヒストグラム(Ⅱ期水田)	119
第 85 図	小区画水田面積のヒストグラム(Ⅲ期水田)	120
第 86 図	Ⅰ~Ⅲ水田区画面積の正規分布曲線	121

写真図版

- 図版1 遺跡の地形(後方遺跡、手前愛后塚古墳一北方より)
- 図版2 遺跡の地形(手前遺跡、左井野川一南方より)
- 図版3 遺跡の遠景(発掘前一南方より)
遺跡の遠景(発掘中一西方より)
- 図版4 I期水田・アゼの走行と耕作痕の状況
- 図版5 I期水田の全景(東方より)
変則的なI期水田のアゼ(中央部北方より)
- 図版6 I期水田・B大アゼと小アゼによる区画
I期水田の検出状況
- 図版7 I期水田・A大アゼと水路上帯状水田の状況
- 図版8 I期水田(南調査区一北方より)
I期水田(南調査区一東方より)
- 図版9 I期水田・歩行方向を示す足跡
- 図版10 I期水田・歩行方向を示す足跡(部分)
I期水田・水田面に残された不規則な足跡
- 図版11 I期水田のA大アゼと水口(北端)
I期水田のB大アゼと水口(南端)
- 図版12 I期水田・北側帯状水田の区画
I期水田・小アゼ上の埋石
- 図版13 I期水田・帯状水田下の水路
- 図版14 I期水田・帯状水田下水路内の露の痕跡
I期水田・帯状水田下水路内の土器出土状況
- 図版15 II期水田・区画の状況(後方同期水田のB大アゼ)
- 図版16 II期水田・区画の状況(南調査区一北方より)
- 図版17 II期水田・区画の状況
II期水田・区画の状況(南調査区)
- 図版18 II期水田の水口
II期水田の水口(南調査区)
- 図版19 II期水田・掘削当初の水路(水田面はI期水田)
II期水田・FA降下時の水路
- 図版20 II~III期水田の水路の土層断面
- 図版21 II期水田・土器の出土状況(口取入口近辺)
II期水田・土器の出土状況(水路内)
- 図版22 III期水田・水路からの取入口
III期水田・A大アゼと小アゼの状況
- 図版23 I・II期水田の検出状況(手前II期、後方II・III期水田の検出状況(手前II期、後方III期))
- 図版24 II期水田の水路(左)とIV期水田の水路(右)
III期水田の水路(左)とIV期水田の水路(右)
- 図版25 I期水田とII期水田のB大アゼの重複状況(手前II期、後方I期)
II期水田とIII期水田のA大アゼの重複状況(手前II期、後方III期)
- 図版26 III期水田・A大アゼ内の土器出土状況
同上(拡大)
- 図版27 IV期水田全景(東方より)
- 図版28 IV期水田全景(南方より)
- 図版29 IV期水田の区画
IV期水田の水口
- 図版30 IV期水田の水路
同上(土層断面)
- 図版31 中世館址・獨立柱建築遺構と堀
中世館址・4号獨立柱建築遺構
- 図版32 中世館址・1・2号獨立柱建築遺構
中世館址・3号獨立柱建築遺構
- 図版33 土壇墓
中世館址・板碑の出土状況
- 図版34 中世館址・井戸(1~5号)
- 図版35 中世館址・井戸(6~10号)
- 図版36 各期水田址のプラント・オパール資料の採集(A地点)
IV期水田の遺水実験
- 図版37 I期水田耕作土中のイネ(*O. sativa*) 機動細胞プラント・オパール
I期水田耕作中土のヨシ(*P. communis*) 機動細胞プラント・オパール
II期水田耕作土中のイネ(*O. sativa*) 機動細胞プラント・オパール
同上
- 図版38 I期水田の出土遺物(土器)
- 図版39 II期水田の出土遺物(土器)
- 図版40 III期水田の出土遺物(土器)
IV期水田の出土遺物(土器)
- 図版41 中世館址の出土遺物(土器)
- 図版42 中世館址の出土遺物(石臼、砥石、不明遺物)
- 図版43 表土層の出土遺物(陶磁器、砥石、古銭)
- 図版44 中世館址の出土遺物(板碑)
八幡塚古墳表探の埴輪

表 目 次

第 1 表	周辺の遺跡一覧	第 9 表	1号掘立柱間計測値一覧
第 2 表	I期水田の面積一覧	第 10 表	2号掘立柱間計測値一覧
第 3 表	南調査区 I 期水田の面積一覧	第 11 表	3号掘立柱間計測値一覧
第 4 表	耕作痕の分類別区画数	第 12 表	4号掘立柱間計測値一覧
第 5 表	II期水田の面積一覧	第 13 表	井戸の規模一覧
第 6 表	南調査区 II 期水田の面積一覧	第 14 表	古銭一覧
第 7 表	III期水田の面積一覧	第 15 表	機動細胞珪酸体 1 個に対する植物体各部 乾重
第 8 表	IV期水田の面積一覧		

付 図

付図 I	同道 I 期水田全体図	付図 III	同道 III 期水田全体図
付図 II	同道 II 期水田全体図	付図 IV	同道 IV 期水田全体図

同道遺跡

I 発掘調査と遺跡の概要

1 調査に至る経緯

群馬県教育委員会による県下の高校増設計画の一環として、群馬郡群馬町井出地区に高崎北高等学校の新設計画が決定された。これに伴い群馬県教育委員会文化財保護課は、埋蔵文化財の有無を確認するための現地調査を実施した。踏査の結果、ごく少量ではあるが土師器小片の散布を確認した。そして、これらの採集遺物は、明らかに隣接する高燥地上の集落遺跡から流失したものであると判断された。また地形の観察の結果では、井野川に接しすぎており、しかも周辺の高燥地より一段低い部分であるなどの点からみて、集落址などの遺跡の存在する可能性は少ないとの判断にいたった。しかし、付近には八幡塚、薬師塚、愛宕塚などの前方後円墳が近接して存在するとともに、かつてその周辺では集落址の一部が発掘調査されていたなどの経緯もあり、試掘調査の必要性が強調された。

昭和53年5月に、文化財保護課による遺構確認調査が実施された。調査の主眼は、遺構の確認と井野川縁辺の地形変化の観察に置かれた。調査は数本のトレンチと数ヶ所の深掘りピットによった。その結果、この地域は井野川によって形成された沖積地域であることが判明し、井野川の下向侵食が進んでいるとともに、火山堆積物による地形の変化が著しいところであることを確認した。また、沖積地上に堆積した火山噴出物の間に埋没水田の存在が想定されたため、近接して発掘調査が進行していた熊野堂遺跡と保蔵田遺跡にテストピットを設定し、堆積土層の対比を試みた。そして、熊野堂遺跡では古墳時代集落址下に沖積土を検出し、ここでも埋没水田が確認された。以上の点により井野川流域に大規模な埋没水田の存在が確定的になるとともに、同道遺跡では四枚の埋没水田址があることが想定され、本格的な発掘調査に対する説得力ある資料を得ることができた。

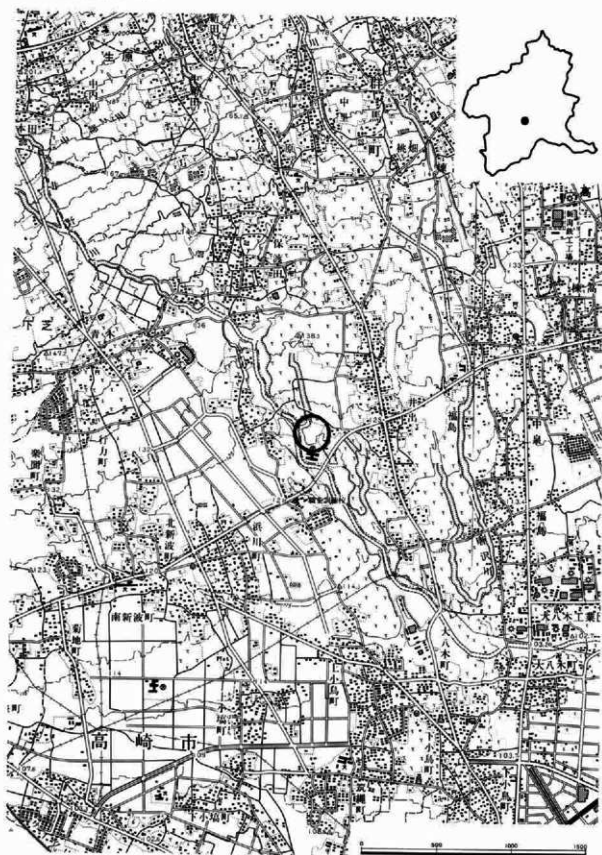
本格的な発掘調査は原因者側の土地買収の停滞から昭和53年10月に入ってようやく開始された。当初の調査期間は、実質二ヶ月間になってしまった。調査主体者は、同年7月に設立された群馬県埋蔵文化財調査事業団によった。発掘調査対象面積は9,200㎡であるが、重層した調査であるために調査面積は約4万㎡^{*}のぼった。逼迫した調査期間の中で、最上面の水田面検出時において、その上面に中世居館址が検出されたが、これの調査は十分にはおこなわれなかった。すなわち、水田面の調査が先行したために、居館址上面が削平されざるを得なかった。

調査は延長に延長を重ねつつ昭和54年3月に入ってようやく終息を迎えた。

(能登 健・藤巻幸男)

*調査対象区は校舍・校庭建設部分の本調査区と自転車置場の南調査区がある。

I 発掘調査と遺跡の概要



第1図 同道遺跡の位置と周辺の地形

2 遺跡の位置と地形

同道遺跡は、群馬県群馬郡群馬町大字井出字同道800番地を中心に所在し、県道前橋安中線が井野川と交叉する地点の井野川左岸に位置する。

県央部に位置する榛名山（最高峰掃部ヶ岳標高1448m）の東南麓一帯には相馬ヶ原と称される火山山麓性扇状地が発達し、その末端は洪積台地である前橋台地に接している。この両地形上には、関東ローム層が連続して堆積しており明確な区分は困難であるが、おおよそ標高120mのあたりに地形の変換をみることができる。この地帯には多くの湧水池が分布している。

近年、前橋台地では各所で埋没水田が発見され、一躍注目をあつめている。これらの埋没水田の多くは、河川に沿った沖積地で検出されるものが多い。同道遺跡をはじめとして、熊野堂遺跡、御布呂遺跡、芦田貝戸遺跡などは、すべて井野川の形成した沖積地に立地している。また、河川のない沖積地に立地する水田遺跡として日高遺跡が挙げられる。ここでは、谷頭の湧水を利用した水田が経営されていたと考えられている。これは、前橋台地が上方にある相馬ヶ原の扇状地の末端にあたるため、扇端部湧水による台地表面の沖積化が進んでいることに起因している。すなわち、榛名山麓から流出する中小河川と扇端湧水による複雑な沖積地の形成によって、台地上面は虫食い状の微高地を残しつつ、水田可耕地が全面に拡がっている。微高地上には水田経営集団による集落が営まれている。人文的景観としては、まさに濃尾平野の沖積地帯と近似しているといえよう。

一方、相馬ヶ原を源とする河川は多く、八幡川、牛池川、染谷川、唐沢川、井野川などの中河川が流出している。これらの河川は、扇状地の火山性堆積物を侵食しつつ伏流水を集めて流下する。前橋台地に入ると中流域としての様相をみせており、このあたりでは両岸に多くの沖積地を形成している。しかし、この地域は、現在では下向侵食が進んで河床が低下するとともに、同時に側方侵食によって両岸には切り立った崖線が発達している。この崖線の断面には、かつての沖積土である黒色土が挟在しており、沖積地を侵食する河床低下が観察できる。また、これらの河川の沿岸には多くのテフラの堆積をみることができる。各テフラは沖積土の上に重層しており、厚いところでは2mを越すものもある。このような、侵食による河床低下とテフラの堆積による沖積地の埋没は、地表からの地形観察を極めて難しくしている。

前橋台地を貫流している河川の河床低下は利根川の変流に関連している。旧利根川は、現在の広瀬川沿いを流れていた。現利根川は八幡川の流路である。利根川は大渡町付近で東方に蛇行をしている。この地点で前橋台地を侵食し、旧利根川は八幡川を争奪し流路を変えた。その結果、利根川と烏川との合流点に変化が生じ、烏川の支流もこれに連動し河床低下を中心とする地形変化が生じたものと考えられる。その時期はおおよそ15～16世紀頃であろう。また、度重なる火山活動によるテ

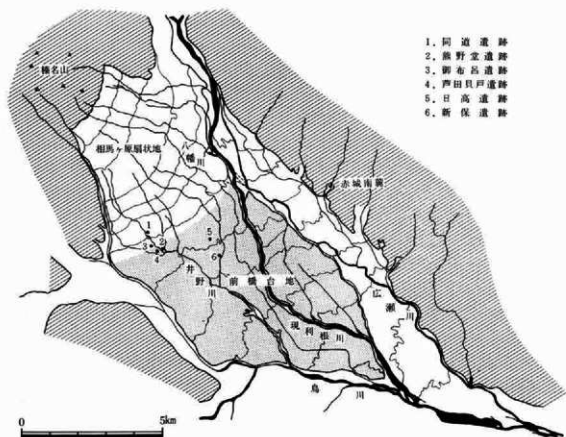
1 発掘調査と遺跡の概要

フラの降下、流出は表層の地形を大幅に変えた。とくに河川に沿って流出した軽石流は、流域の沖積地を埋めつくし、高燥な台地化を促進させていった。

同道遺跡は、この井野川の中流域にあたり、標高約120mである。切り立った崖線に接した現在の井野川水面との比高は約6mである。同道遺跡の立地する地点は井野川河床に向って舌状に突出した台地状の地形を有している。これは台地西側が井野川の崖線によって区切られるとともに、東側を扇状地末端から湧出する流水によって侵食を受けているためであり、一見すると洪積台地の末端的様相を呈している。しかし、同道遺跡の立地する地点は井野川によって形成された沖積地であり、見かけの台地状地形は、その後の火山噴出物の堆積によっている。すなわち、同道遺跡で水田が経営されていた当時は、井野川の河床は現在より5m程度は上方であったことを意味しており、その後、この沖積地は火山活動による降下軽石、火山灰や軽石流などによって水田とともに埋没していったことになる。また、井野川の河床変化（下向侵食）は水田経営がストップされて以後の現象となる。

(能登 健)

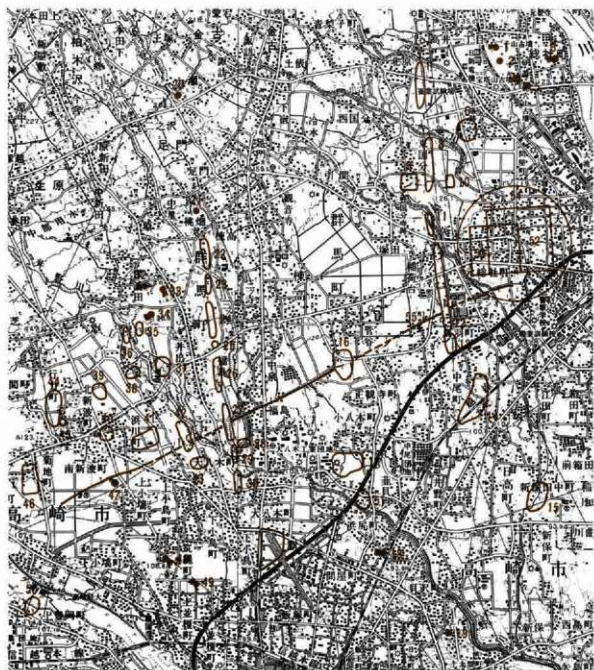
●第3図



1. 同道遺跡
2. 熊野堂遺跡
3. 御布呂遺跡
4. 芦田貝戸遺跡
5. 日高遺跡
6. 新保遺跡

第2図 遺跡周辺の地形区分

I 発掘調査と遺跡の概要



第4図 同遺跡と周辺の遺跡

- | | | | | | | |
|-----------|----------|-----------|------------|-------------|-----------|----------|
| 1 二子山古墳 | 2 愛宕山古墳 | 3 通見山古墳 | 4 宝塔山古墳 | 5 蛇穴山古墳 | 6 山王庵寺 | 7 北原遺跡 |
| 8 国分寺中間 | 9 国分館寺 | 10 国分尼寺 | 11 鳥羽II遺跡 | 12 鳥羽遺跡 | 13 中尾遺跡 | 14 高遺跡 |
| 15 新保遺跡 | 16 正観寺遺跡 | 17 小八木遺跡 | 18 天王山古墳 | 19 聖王山古墳 | 20 中央B号古墳 | 21 天神塚古墳 |
| 22 保原田遺跡 | 23 三ツ寺遺跡 | 24 三ツ寺車遺跡 | 25 三ツ寺I遺跡 | 26 井出村東遺跡 | 27 東下井出遺跡 | 28 兩蓋遺跡 |
| 29 熊野堂遺跡 | 30 福通寺遺跡 | 31 大八木水田 | 32 薬師塚古墳 | 33 八幡塚古墳 | 34 愛宕塚古墳 | 35 冠崎神社跡 |
| 36 乙葉館 | 37 同道遺跡 | 38 新川の岩跡 | 39 矢鳥館跡 | 40 北爪の岩跡 | 41 寺ノ内遺跡 | 42 御布呂遺跡 |
| 43 丹田貝冢遺跡 | 44 北新波遺跡 | 45 北新波の岩 | 46 菊地遺跡群 | 47 稲荷山古墳 | 48 小星山古墳 | 49 稲荷山古墳 |
| 50 丹間遺跡 | 51 尻尾遺跡 | 52 国府推定地I | 53 国府推定地II | 54 国府推定地III | 55 推定東山道 | |

3 周辺の遺跡

同道遺跡では、古墳時代の水田址3面、平安時代の水田址1面に中世の居館址などが検出されている。同道遺跡を理解するには、これらの同時代に属する周辺遺跡の概要についての理解が必要である。周辺遺跡の位置は地図上に番号で示し、遺跡の概要については一覧表にして示した。それらを読んでいただければ、概要について理解していただけると思う。ここでは周辺遺跡を調べていく上で、同道遺跡の置かれている歴史的環境について、気付いた点の概要を記す。

* 第4図、第1表

(1) 弥生時代

井野川周辺において、弥生時代の遺跡は数多く発掘されている。とくに近年高崎市における圃場整備事業に伴って、毎年多くの遺跡が発掘調査されている。調査地域が低地の場合は、浅間C層下の弥生時代から古墳時代初頃にかけての水田遺構であり、微高地の場合は集落遺跡になる。墓地としての方形周溝墓の検出は少ない。それらの遺跡の大多数は後期の樽式土器を伴う遺跡であり、中期の土器を伴う遺跡が非常に少ない特徴を示している。発掘調査された遺跡の中で、中期の遺構を検出できた遺跡は、庚申塚遺跡、浜尻遺跡、新保遺跡の3遺跡で、検出された住居址の総数は28軒である。それに対し、後期の樽式土器を伴う遺跡では引間遺跡の37軒をはじめ、100軒をはるかに超える数になり、発掘により遺構を検出できた遺跡数は16遺跡以上にもおよんでいる。

浅間C層下の埋没水田は、同道遺跡をはじめ、御布呂遺跡、芦田貝戸遺跡、熊野堂遺跡で検出されており、1枚1枚の水田の大きさや、畦畔の作り方、水利等において、ほぼ完成された様相を示しており、そこに耕作者のまともりを見ることができ。また井野川周辺で耕作された浅間C層下の水田は、おそらく広範囲におよび、その生産量も相当なものであったと思われる。これらの生産者達の居住域の一部として、三ツ寺I遺跡、井出村東遺跡、東下井出遺跡、熊野堂遺跡などが考えられる。墓地は前方後方を呈する古墳または方形周溝墓と呼ばれる墳墓が、熊野堂遺跡より検出されており注目される。

** 浅間C層下水田の年代
観はP117を参照

(2) 古墳時代

同道遺跡のI期水田は他の周辺遺跡の水田と同様に、浅間C層の降下後直ちに復旧された。そして古墳時代中頃に至るまで同一場所で水田耕作が継続されている。同道遺跡におけるII・III期水田がこれにあたる。この水田は井野川を隔てた御布呂、芦田貝戸遺跡でも見られるような、通称“ミニ水田”と呼ばれる小区画を有するものである。これらの水田は井野川周辺をはじめ、県中部で最近多く検出されつつある。この時期の墳墓は同道遺跡の北約1kmの地点に八幡塚、薬師塚、愛宕塚の前方後円墳3基が認められ、いずれも6世紀前半代に築造されたものと考えられている。居住域は、東約500~600m地点の井出村東遺跡、東下井出遺跡などがあり、100軒を超える竪穴住居址が検出されている。豪族の居館址と考えられる遺跡として東約500

I 発掘調査と遺跡の概要

mの地点に三ツ寺I遺跡がある。このように約1km四方の範囲の中に、生産域、居住域、墓域が接して検出されており、この地域の支配勢力の中心的地域であったことを物語っている。なお現在まで6世紀以前の古墳時代前期段階の墳墓、住居址はあまり発掘されていない。

(3) 奈良、平安時代

同道遺跡の東約4～5kmの地点に上野国分寺が創建され、南約1kmに東山道が設置され、国府を中心とした古代律令政治が行なわれていた頃、同道遺跡ではI・II・III期水田の上に新たにIV期水田が耕作されていた。この頃の水田遺跡は、井野川を隔てた寺の内、矢島遺跡、北新波遺跡などで調査されている。住居址は御布呂遺跡、寺の内遺跡、熊野堂遺跡、北新波遺跡、菊地遺跡、井出村東遺跡、東下井出遺跡などで調査されている。注目される遺跡として、三ツ寺I遺跡の北わずか30mの地点で、木簡が出土した三ツ寺II遺跡があげられる。この遺跡は一部のみの発掘であったが、遺構の在り方や、木簡をはじめとして多くの墨書・刻書土器の出土などからみて、当地域の中心的施設の一部である可能性が考えられる。

(4) 中世

中世末期の安土・桃山時代に入ると、この地域は西上州最大の勢力を持っていた長野氏一族(箕輪城主)の勢力範囲にはいってくる。同道遺跡の北約500mの地点には、花城寺館および元井出館と呼ばれる館址があり、元井出館の北西約50mには、最後の箕輪城主長野業盛の墓と伝えられる五輪塔がある。また、井野川を隔てた対岸には長野氏の菩提寺であり長野氏歴代の墓石群がある来迎寺をはじめとして、矢島館、乙葉館、浜川の砦、北爪の砦、寺の内遺跡、北新波の砦と呼ばれている環濠を伴う多くの館址、砦址などの遺跡群がある。これらの大部分は長野氏一族に関係したと考えられている。同道遺跡内における井戸、掘立柱礎遺構、堀等の遺構群も、出土遺物の検討によりいずれも長野氏の活躍した15～16C前半代の遺構であることが考えられているため、長野氏に関係した遺構であると思われる。

このように、同道遺跡の周辺においては、開発に伴ない多くの遺跡が発掘調査され、次第に歴史的環境が解明されつつある。それらの遺跡の報告書刊行は、これからのものが多く、詳細なことは今後の研究によらなければならないが、水田耕作地として、非常に恵まれていた井野川上流域は、弥生時代から中世に至るまで、非常に生産力が高かったものと思われる。この生産力を把握した地域の有力者の居住地域が、同道遺跡周辺の三ツ寺、井出、浜川地区の周辺であったことが、以上の周辺遺跡の在り方から考えられる。

(中沢 悟)

* P113の山崎一氏論文を参照

第1表 周辺の遺跡一覧

地区上の番号	遺跡名	時期	遺構				遺跡の概要	文献
			住居	水田	墓地	井戸 その他		
1	二子山古墳 (前橋市総社町)	古墳 (6-7c)	○			前方後円墳	前方部、後円部の二ヶ所に両袖の横穴式石室を持つ。全長約8.99m二段構築の古墳。周濠は方形を想定する。幅24~25m。前方部石室は自然石乱石積。後円部石室の天井石以外は角閃石安山岩(以下角安と略す)の削石を使用。	3 21
2	愛宕山古墳	古墳 (7c)	○			円墳	巨石を使用した横穴式両袖型石室。石室内に東室石棺(凝灰岩製)が安置。壁石は巨石の輝石安山岩の削石を使用。角安も認められる。	21 34
3	遠見山古墳	古墳	○			前方後円墳	主軸の長さは約70m。後円部東南部分は封土が流れ石室の位置を示す。墳丘南側には周濠の1部や墓石が認められる。	100
4	空塔山古墳	古墳 (8c)	○			方墳	現状の墳丘規模は、1辺約50m前後、高さ約11m複室の両袖型石室。玄室内部は安山岩製の家型石棺が置かれ脚部は格扶間に切られている。壁は角安と輝石安山岩(以下輝安と略す)の5面削石を使用。漆喰が残る。	33
5	蛇穴山古墳	古墳 (8c)	○			方墳	墳丘東西43.4m、南北39.1mの方墳。石室は角安使用の載石切組積の横穴式石室。奥壁左右壁及び天井とも一石一つの巨石で箱状に構成。石室と前庭がほぼ完全の形で残る。	21 101
6	山王高寺とその周辺 (前橋市総社町)	奈良 平安				住居 土柱 建物跡 塔 心礎	昭和3年国指定史蹟。日枝神社の境内に塔心礎がある。石製銅尾、礎石、緑釉水注等出土。前橋市教委で6次まで発掘。掘立柱建築跡、住居址56軒以上、溝等を確認。銅鏡、聖徳仏頭片、素弁8葉蓮花瓦、三彩等出土。	1
7	北原遺跡	平安	○	○	○	掘立柱建築 遺構	2年度におたる調査。初年度の概要は以下である。竪穴住居址47軒、掘立柱建築遺構6棟、溝12条、土塚4基、井戸1基が検出された。他に遺物として縄文、弥生、古墳時代の遺物の出土が認められる。	87
8	園分寺中間地域 遺跡	縄文 弥生 古墳 奈良 平安 中・近世	○ ○ ○ ○ ○ ○			土塚 土塚 掘立柱建築 遺構	昭和55年度に調査に着手し、58年度現在調査進行中の遺跡である上野国分僧・尼寺の中間に位置する広大な地域であり、住居址は1000軒前後の数になりそうである。縄文時代~中・近世に至るまで遺構が確認されており、各時代を通して多くの遺物が出土している。特に瓦の出土が大量である。	78 79
9	園分僧寺 (群馬町東園分)	奈良 平安				礎石 礎 地盤	大正15年国指定史蹟。塔跡に12個の礎石が、金堂跡に15個の礎石が認められる。塔跡、又中間、南大門、東門、北門跡とされる地点にも礎石が認められる。発掘により墓地、土走り、濠等確認。浅間山降下以前に築造が崩壊していた事が判明。	5
10	園分尼寺	奈良 平安				中門跡 金堂跡 講堂跡	伽藍配置は南北に主要建物の並ぶ構造であり、その寺院は恐らく南北1.5町、東西1町の規模ではないかと考えられている。中門基礎状遺構、金堂基礎状遺構、講堂礎石群等発掘。浅間山降下以前に中門基礎が崩壊し削平され、四周の掘込中に主要な部分は埋立てられたものと推定される。	13 14
11	鳥羽川遺跡	縄文 古墳 平安 中世	○ ○ ○ ○			カマド跡 採掘地 掘立柱建築 遺構、溝 (館址)	鳥羽川遺跡北側に位置し、縄文、古墳~平安時代の竪穴住居址、中世の館址、大溝等を検出。遺物として縄文式土器、弥生式土器、石田川式土器、木器、黒漆塗りの銅製丸駒、和鏡、石製丸駒、遠方等出土。カマド跡材として再堆積ロームが利用されている。その跡材を掘り出した採掘地が多く検出されている。	1c

I 発掘調査と遺跡の概要

地図上の番号	遺跡名	時期	遺構		遺跡の概要	文献	
			住居 水田 墓域 井戸 その他				
12	鳥羽遺跡	奈良 平安 中世 江戸	○ ○	○ ○	奈良・平安時代の住居址、独立柱建築遺構、井戸址、溝、竪穴遺構、銅治関係遺構、墓域、土坑、礎石、中世墓等々を発掘。土坑中より浅間Bの直上に土師質土師一括資料を得る。	45	
13	中尾遺跡	古墳 奈良 平安	○ ○	○	古墳時代前期の住居4軒、中～後期の住居数軒、奈良・平安時代の住居300軒以上確認。土師器、須恵器、灰輪陶器、鉄器、石製紡錘車、石製の碓方等出土。	35	
14	日高遺跡	弥生 古墳 平安 中世	○ ○ ○ ○	○	○	方形周溝墓 郡越道の路線内を調査して調査を行ない、高崎市で弥生水田と住居の試掘を行なった地域の二ヶ所を含む。県教委の調査時この遺跡は全国的に注目された。市で行なった昭和53年度の調査では1町109m四方の区画による条里制水田が確認された。	36
15	新保遺跡	弥生 古墳 奈良・平	○ ○ ○ ○ ○	○	○	方形周溝墓 独立柱建築遺構 弥生中期の住居址2軒、後期の住居址30軒以上、古墳時代の住居址、FAに埋もれた水田200m以上。奈良・平安時代の住居址、独立柱建築遺構等検出。遺物として弥生時代に属する多くの木製品を出土している点が注目される。	37
16	正観寺遺跡	弥生 古墳 奈良 平安 中世	○ ○	○	○	井戸・溝 弥生～平安時代にかけての竪穴住居址150軒前後発掘。他に土坑、独立柱建築遺構、大溝、円墳、井戸等を検出。2m×2m高さ1.1mの巨石があり、土師器の坏、甕、須恵器の高坏、罐、短頸壺など鬼高瀬の特徴を示す多くの遺物を併せて発掘された。	48
17	小八木遺跡	弥生 古墳 平安 中世	○ ○ ○ ○	○	○	溝状遺構 土坑 独立柱建築遺構 浅間C下に水田、水路、住居址。古墳時代は、住居址、土坑、井戸、溝状遺構。平安時代の浅間B下の水田。中世の独立柱建築遺構、溝状遺構等を確認する。	44
18	天王山古墳	古墳	○	○	○	前方後円墳 上毛古墳群中川村第1号である。現在前方部には諏訪神社の社殿がある。全長53m、前方部幅36m、後門部径28m、高さ4.5m。石室天井石と思われる石が、後門部に露出している。	7
19	聖王山古墳	古墳	○	○	○	古墳 石室が調査されている。石室は凝灰岩を用いた組立式石棺である。約0.6×2mの大きさを持つ。石棺の内部には粘土及び朱の凝固したものを交えた泥塊も認められた。須恵器鏡、鏡、銅鉄片等出土。文部省嘱託の上田三平氏の調査による。	15
20	狭中B号古墳 (群馬町金古)	古墳 (8c)	○	○	○	円墳 直径11mの円墳。石室は横穴式両袖型石室であり玄門、羨門を具備している。角安を縦石加工し互目積みにして、部分的に切廻を用いている。前庭は石組により三方を囲み、割り石を敷きつめ構成している。	10
21	中里天神塚古墳 (群馬町中里)	古墳	○	○	○	円墳 直径約12m、高さ約3mの円形を呈している。内部主体は、安山岩質崩れ石使用の乱石積み両袖型横穴式石室である。主軸方向はN-17-W。主体部はFA上に構築されていた。	58
22	保渡田遺跡	古墳 奈良 平安	○	○	○	独立柱建築遺構 溝 標名山の二ツ岳降下火山灰層（FA）が5号住居の住居内床面直上に確認され、FAの降下期と同時期に比定される。古墳～平安時代の竪穴住居址63軒、独立柱建築遺構5棟、溝6条を検出。土師器、須恵器、灰輪陶器出土。	46

3 周辺の遺跡

地図上の番号	遺跡名	時期	遺構				遺跡の概要	文献	
			住居	水田	墓地	井戸			その他
23	三ツ寺田遺跡 (群馬町)	古墳 平安	○ ○			○	道路状遺構	鬼高1ー13軒、鬼高II・IIIー2軒、国分ー2軒が確認された。鬼高1期には、FA 降下前の遺構確認。	59
24	三ツ寺田遺跡	縄文 弥生 古墳 奈良・平 中世	○ ○ ○ ○			○	石垣・溝 居館の礎	縄文時代住居址3軒、弥生時代住居址1軒、古墳時代鬼高期住居址190軒、奈良・平安時代の住居址99軒、水田址。中世の灌漑、墓塚その他溝、土塚等が検出されている。遺跡南側水田下より石垣に囲まれていた内側に井戸が検出された。井戸には溝が4年なう。その周辺より多くの土師器、須恵器が検出され、遺書、銅書土器140点以上が含まれている。他に木簡4点が出土しており、注目される。	77
25	三ツ寺1遺跡	古墳	○				溝、柱列、 掘立柱建築 遺構、竪穴 住居址、石 敷遺構、溝	1辺86mの方形の区画を持ち、周囲には幅40ー50m、深さ約3mの溝が回らされ、内縁の周囲には石垣が築かれている。西辺には2つの方形をした張り出部が存在する。内側には柱列、西辺に取の取り付いた大規模な掘立柱遺構、石敷遺構、竪穴住居址等が検出された。特異な遺物として手持勾玉、石製横道具、木製の刀等がある。約80cmの盛土の上下より鬼高1期の竪穴住居址が各2軒ほど検出されており、遺跡全体はFP 降下段階では完全に埋没している。	76
26	井出村東遺跡	弥生 古墳 平安 中・近 世	○ ○ ○			○	掘立柱 水田・井戸 島・井戸・溝	弥生後期の住居址20軒、古墳時代の住居址94軒、島、掘立柱建物址、井戸、平安時代の住居址13軒、浅間B下水田址、井戸、溝、土塚、中・近世の島、井戸、土塚、溝、掘立柱建物遺構、火葬土塚、地下式横穴墓等を調査。	102
27	東下井出遺跡	縄文 古墳 奈良・平	○ ○ ○				掘井状遺構 # 推定東山道	縄文前期の住居址1軒、弥生後期の住居址19軒、土塚10、井戸6、溝2、竪穴遺構、古墳時代鬼高期の住居址18軒、土塚2、竪穴6、井戸2、溝2、掘井状遺構。奈良、平安時代の住居址24軒、土塚25、井戸5、溝10、推定東山道等を検出。浅間C下の竪穴遺構よりイネ科植物とイネが検出されている。	81
28	熊野堂遺跡A区 両遺跡	縄文 弥生 古墳 奈良・平	○ ○ ○ ○					熊野堂遺跡A区 弥生時代後期、古墳時代、奈良、平安時代の集落を調査。 両遺跡 縄文時代中期、平安時代の集落を調査。	80
29	熊野堂遺跡	弥生 古墳 (石印)	○ ○					浅間C下の水田。3本の大畦とその間を小畦により区画している。FA 下の水田は浅間C下の水田と類似する。浅い溝が大畦野と平行して走る。水田面には足跡が無数に残り、指先まで確認されたものも多い。	28
30	麻通寺遺跡	古墳 奈良・平 中世	○ ○			○	掘立柱建築 遺構	古墳時代鬼高期の住居址2軒、奈良時代の住居址3軒、奈良、平安時代の住居址100軒以上、瓦葺り、中世の掘立柱建築遺構等を検出。遺物として土師器、須恵器、鉄製品、布目瓦、灰釉陶器、板碑、緑釉陶器 石帯の窓方の破片等を出土。	27
31	大八木水田遺跡	平安	○				水 路	1辺約110m前後の1町四方の区画を形成し、南北方向の畦はほぼ真北を示す。水路は北西側に認められたが、東側は不明。灌漑は1町単位に水の出し入れが行なわれたと考えられる。	26
32	薬師塚古墳 (群馬町保良田)	古墳 (6c)	○				前方後円墳	瀬灰岩製舟型石棺が墳丘上に現存。金銅製馬具(轡、鏡板、苦葉、馬蹄、十字金具他)出土。	50 100

I 発掘調査と遺跡の概要

地図上の 番号	遺跡名	時期	遺構			遺跡の概要	文献	
			住居	水田	墓			井戸
33	八幡塚古墳	古墳 (6c)			○	前方後円墳	幅広い周濠のくびれ部左右に中島1個。中島より多数の土師器出土。墳頂に凝灰岩製舟型石棺、形象埴輪出土。周濠内底部にFAの堆積が認められる。	2
34	愛宕塚古塚 (群馬町井出)	古墳 (6c)			○	前方後円墳	二重の周濠。墓石、埴輪配列がある。竪穴式石室で内部に凝灰岩製舟型石棺がある。鏡、鏡、金環が出土。形象・円筒埴輪、円筒棺出土。	6 100
35	花城寺館 元井出館	中世				濠、館址	両館とも井野川と碓氷の河原にはさまれた自然の要塞である。花城寺館の濠壕遺構は、南北75m、東西65mで南面に張り出し土橋跡が見られる。花城寺館南西約100mに元井出館がある。南北65m、東西60mの濠壕遺構である。元井出館の西北50mには、最後の箕輪城主長野業盛(氏重)の墓と伝えられる五輪塔がある。この両館は同道遺跡に近く、関連が注目される。	97
36	乙葉館	中世				濠、館址	浜川町館の北に乙葉という所があって、長野業盛の父乙葉の館址と伝えられる。そこは井野川の河原上、南北130m、東西70mの細長い地域で、濠址は北側と南側に明らかであるが、西側は内縁が残っているのみである。(山崎 一)	22
37	同道遺跡	弥生 古墳 平安 中世			○ ○		本報告の遺跡	57
38	浜川の磐跡	中世				環濠遺跡	長野氏一族の長野業盛の館として創始したものと言われている。磐の本郭は南面を楯とした半円形で東西150m、南面の虎口は前に土橋をひかえ、東側をわずかに張り出した斜の構えである。	22
39	矢島館跡	平安 中世			○	土壇 館址、土壇	平安時代の遺構として、浅間B下に8.5×7m、8.5×3mほどの水田址が検出された。内堀、外堀があり、内堀北中央に「コ」の字形に溝をめぐらした一区域がある。掘立柱建遺構29棟、竪穴遺構10棟、井戸17基、土壇200基以上が検出された。遺物として古銭、かわらけ等出土。館址は大規模な火災にあっていない。	41a
40	北爪の磐跡	中世				環濠遺跡	矢島館跡の西南400mに北爪周防の磐跡がある。方200mの城址が認められた。	22
41	寺ノ内遺跡	古墳 中世	○	○		居館址	二ツ谷石厩を掘り込んで、東側にかまどを持つ住居が17軒発掘されている。水田は東西の緩急地形の谷状低地に営む。	47
42	御布呂遺跡	弥生 古墳 平安 中世	○ ○ ○			土壇 溝	浅間C下の水田、FA下の水田、FP下の水田、平安時代の住居、中世建物址、井戸、土壇墓、東山道と思われる道路状遺構等が確認されている。かわらけ、鐘鉢、内耳鍋、鳥の遺体、茶臼、風、磁石等出土。	41
43	鼻田貝戸遺跡	弥生 古墳 平安	○ ○			水路 畝状遺構 大溝 土壇・溝	浅間C下の水田36面。平均的面積は30㎡水田が多い。FA下水田、1,260枚以上。1枚は3㎡前後が多く、畝の目のように区画されている。浅間B下の水田は残りが悪く、形も不整である。平安時代の住居址1軒、掘立建物遺構は2間×2間で西側に庇を持つ。土壇墓及び、井戸(中世)等を確認。	42

3 周辺の遺跡

地図上の 番号	遺 跡 名	時 期	遺 構				遺 跡 の 概 要	文献
			住居	水田	墓地	井戸 その他		
44	北新波遺跡	平安	○	○		井戸・集石	平安時代の住居址2軒、水田址、土壇、井戸、集石遺構等を調査。遺物として羽釜、須恵器、瓦、古銭、羽釜伏部穿孔土器、灰輪陶器等を出土。水田址では石で構成された畦畔、水路が認められ注目される。	104
45	北新波の苔跡	中世					満静寺の西北に接している。75m四方の正方形で、単郭である。南面中央に雄渾い虎口が開き、土橋で郭外へ通じている。西南角が顕著な「角欠き」となっているのが浜川、矢島岡宮の場合と同一手法である。	22
46	菊地遺跡群	平安	○	○		土壇・掘立 柱建築遺構	浅間目下より水田址、住居址2軒、土壇1、掘立柱建築遺構1、溝1を検出。水田中に多くの足跡が検出されている。	69
47	稲荷山古墳	古墳			○	円 墳	径30m、高さ8mの円墳と思われる。墳頂に稲荷神社がある。古墳の北側と西側の周濠跡に水溜りがある。墳頂部に北向きの長大な横穴式石室が開口している。石室は自然石乱石積である。	23
48	小星山古墳	古墳			○	前方後円墳	全長80m、二段構築で周濠は水田である。これは周濠址かと思われる。	23
49	稲荷山古墳	古墳			○	前方後円墳	鳥川左岸河岸丘上の平地に位置している。主軸を東西に持つ。軸長100mの前方後円墳である。主体部に舟型石棺を持つ。埴輪片を出土している。	68
50	引間遺跡	弥生 古墳 奈・平	○ ○ ○	○ ○ ○		方形周溝墓 古墳、土壇、墓 品・井戸	弥生時代後期の住居址37軒、方形周溝墓、古墳時代の住居址25軒以上、古墳2基、土壇墓1基、溝、奈貝、平安時代の住居址70軒以上、浅間目におおわれていた竪穴遺構、井戸等を検出。遺物として弥生土器、土師器、磁石、紡輪車、須恵器、灰輪陶器、埴輪陶器、巡方、帯金具等を出土している。	49
51	浜尻遺跡	弥生 古墳	○ ○			溝・土壇	弥生時代中期の住居址3軒、住居址と思われる遺構4軒、古墳時代の住居址1軒、弥生時代中期の溝状遺構2条、弥生時代の土壇5基等を調査。1号住居址より多数の遺物を検出している。二条の溝状遺構は、いずれも強い「V」字状を呈し、ほぼ同一時期に形成された溝濠の一部の可能性が考えられている。	70
52	国府推定地	奈良 平安					総社神社をほぼ中心とした方八町の地域を推定。元総社小学校敷地内等地掘調査。群馬県最古の書簡城の一部はこの範囲内に含まれる。金坂清剛氏の説。	24
53	国府推定地II	奈良 平安					園分寺の東縁より6町東方に国府の西縁、南縁より5町南に国府の北縁がある。総社神社を含む6町四方の地域を想定する。松島栄治氏の説	20 29
54	上の2説以外の 国府推定地域部	奈良 平安						20 65 103
55	推定東山道						旧町村境。現況の地割、航空写真、地籍図及び御市呂遺跡での発掘結果等から推定。金坂氏の所見により地区上に復元。一部の見解を異にしたものに韓昇氏の論文あり。	24 41a 103

4 調査の方法

●第5・9図

調査の方法 遺構確認調査は、幅2mの試掘トレンチを延400mにわたって格子目状に配しておこなわれた。その結果、集落址を示す遺構の検出はなかったが、土層断面には多くのテフラ層が確認された。これらのテフラ層には、前橋台地では未検出であった榛名山二ツ岳の軽石流堆積物もみられた。さらに、4層にわたって確認されたテフラ層の直下あるいは中間には、水田耕作土と思われる黒色粘質土も同時に確認された。このうち、最上層の浅間B層下と最下層の浅間C層下には、それぞれ水田区画を示すアゼ状遺構が検出され、中間にある二枚の黒色粘質土層も水田址の可能性が高まった。しかし、耕作土としては、極めて薄い層厚をみせている点で連断することができなかった。このため、周辺で発掘調査が進行している保渡田、熊野堂両遺跡地内に土層観察のテストピットを設定し、同遺跡の土層堆積の理解を試みた。その結果、保渡田遺跡はローム層上に立地しているのに対して、熊野堂遺跡ではローム質の黄褐色土と黒色粘質土が互層をなしていた。すなわち、同道・熊野堂遺跡は、現状では周辺の微高地と同一表層をなしているが、かつては井野川の沖積地であったことが判明するとともに、その後の火山堆積物である各テフラ層の堆積によって地表レベルが上昇したことも理解された。遺構確認調査の結果、①調査対象地内は重層した埋没水田遺跡である。②この地域の地形は、たび重なる火山活動と井野川の侵食などによって極端な地形変化が生じている。この2点が摘出され、問題化された。



第5図 試掘トレンチとテストピットの配置

調査の視点 同道遺跡の発掘調査は、同一地点で四面の水田址が検出され、調査される可能性が高まった時点で、調査担当者間での調査における視点確立を目的として討議が開始された。調査の視点は、水田址の型式学的検討による「農業発達史」的アプローチと、火山灰地における火山活動と人間生活の対応を分析する「火山災害史」的視点にすえた。前者は、すでに発掘調査が終了していた高崎市大八木遺跡、日高遺跡に次ぐ本格的な水田遺跡の調査となるため、各遺跡間の総合的な検討を可能にするための視点であると

4 調査の方法

ともに、前橋市荒砥地区で実施されていた跡地整備事業に伴う遺跡研究と連動させる目的を有していた。荒砥地区での調査は、広範な地域での悉皆的な発掘調査が実施されており、ここでは「農業社会の集落論的分析」がアプローチされていた。また、後者の視点は完新世におけるテフラが重層して検出される地域特性を考古学的にどのように理解すべきかを目的としたもので、堆積しているテフラの時間軸（鍵層）としての利用のほかに、空間的視点を導入することによって得られる火山災害直前と直後の同一地面の変化を考古学的に分析することになった。なお、水田土壌のプラント・オパール分析も実施した。

調査後の分析 発掘調査は思わぬことに出くわすものである。今までは考えもつかなかった格子目状に配された極めて小区画の水田が現出した。同道遺跡の予備調査の一環で実施したテストピット調査により、熊野堂遺跡でもこの小区画水田が発見され、これと前後して井野川対岸では芦田貝戸遺跡、御布呂遺跡が発掘調査され、ここでも小区画水田が広範囲で検出された。この極めて特徴的な水田形態は「ミニ水田」と称されて、一躍全国的な興味をひくことになった。同道遺跡での分析は当初の方針である型式学的検討を4面の水田址に加え、その異質性、共通性を抽出して各水田面の変化の解釈を行なうこととした。

一方、火山災害史的な視点でのアプローチは、これらの水田が災害復旧として継続されていたのか、あるいは一旦放棄されたのちでの再開発であるのかの分析を加えていた。また、火山災害による地形の変化を中心に井野川の河床変化の分析を加えて、広域的な地形観察を実施した。各テフラの堆積による沖積地の高燥化のプロセスと、利根川の瀬替えと井野川への影響と踏査を中心に分析した。さらに、各テフラ層の降下堆積の時期についての再検討も試みた。これらの結果は、研究者間の意見交換を求めるために種々の方法で公表を繰り返すことになった。

(能登 健)

●能登・石坂・小島・徳江
：1983（文獻91）

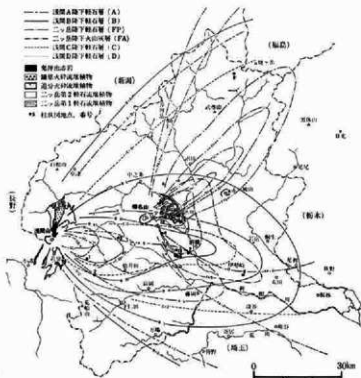
●●能登：1983（文獻105）

●●●能登：1983（文獻90
・92）

地層	テフラ名称	編年	噴出層	噴出年代
完新世	(1) 図 "A" 降下堆積層	A	浅間火山 (1400年)	A.D. 1743年(天明3年)
	(2) 図 "B" 降下堆積層	B	*	1388年(天仁元年)
	(3) 図 "C" 降下堆積層	FPF-2 FP	榛名火山 (1200年)	6世紀中期
	(4) 図 "D" 降下堆積層	FPF-1 FA	*	6世紀前期
	(5) 図 "C'" 降下堆積層	C	浅間火山 (1400年)	4世紀中期
	(6) 図 "D'" 降下堆積層	D	*	縄文時代(前期)
新石器時代	下志木大石山遺跡	Ah	電撃カルデラ	縄文時代(前期 A/B) 約 6,000 B.P.
	熊野堂彩色石室	yp	浅間火山	約 10,000 - 12,000 B.P.

第6図 各テフラ層の模式層序 (新井1979)

噴出年代については変更してある。

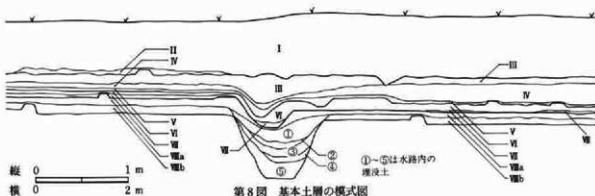


第7図 浅間山系、榛名山系テフラの分布等厚線 (新井1979)

5 遺跡の基本層序

本遺跡に堆積している土層は、浅間山や榛名山二ツ岳火山の噴出による4枚の降下テフラ層を含め11層に分層される。

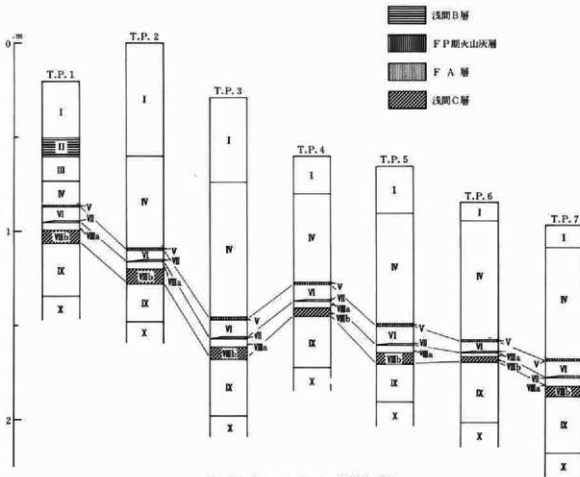
第I層は現在の畠や水田耕作土で黒褐色を呈するが、浅間Aおよび浅間Bの軽石を多く含み、約30~50cmの厚さをもつ。浅間Aの降下年代は天明3(1783)年である。第II層は浅間B降下軽石層で20~30cmの厚さで堆積している。浅間B層はスコリアと軽石の互層から成っているが、上半部はI層に動き込まれている。この降下年代は天仁元(1108)年と考えられる。第III層は20~30cmの黒灰色粘質土で、保水性の良好な土壌である。この上半部はIV期水田の耕作土であり、下部に鉄分、マンガンなどの沈積層が見られる。第IV層は榛名山二ツ岳の第2軽石流堆積物(FPF-2)で、前橋台地の河川流域に沿って流下堆積しているものである。遺跡内では、平均60cmほどの厚さをもつが、東側の井野川に近接した部分では1mほどの厚さで堆積している。また層中には直径50cm以上の円礫を呈した角閃石安山岩が少量に含まれている。第V層は1~2cmの厚さをもつ榛名山二ツ岳の火山灰であり、二ツ岳降下軽石(FP)期の火山灰として位置づけられる。FPの降下年代は、IV層を含めて6世紀中葉と考えられる。第VI層は5~10cmの灰褐色粘質土層で、III期水田の耕作土となっている。透水過度の土壌である。第VII層は3~8cmの榛名山二ツ岳降下火山灰層(FA)である。遺跡の南半部では極めて残存状態が悪く、部分的にしか検出されていない。FAの降下年代は、5世紀末から6世紀初頭と考えられる。第VIII層はVIIIaとVIIIbの2つに分層される。第VIIIa層は浅間C軽石層の上半部にあたり、黒色粘質土との混土層で5cmの厚さをもつ。II期水田の耕作土となっているが、浅間C軽石を多量に含むために透水過度の土壌である。第VIIIb層は5~10cmの浅間Cの純層である。浅間C層は、その上半部が攪乱されたVIIIa層と純層のVIIIb層とに分かれるが、降下堆積した時点の厚さはこの両層を合わせた10~20cmであったと考えられる。また浅間Cの降下年代は、古墳時代初頭の4世紀中葉あるいはそれに近接した頃と考えられる。第IX層は30~40cmの黒灰色粘質土層で、保水性の良好な土壌である。



この上半がI期水田の耕作土となっており、層中には鉄分、マンガンなどの沈積層が若干認められる。第X層は灰白色粘質土層となる。

以上が遺跡の基本層序である。この他に部分的な範囲にしか認められないが、有馬火山灰と榛名二ツ岳第1軽石流堆積物(F P F-1)がある。有馬火山灰はII期水田の水路内に堆積しており、層位的にはVIIa層中に位置づけられる。有馬火山灰については、本遺跡で確認された後、子持村黒井峰遺跡で検出されて注目を集めた。その後1982年に渋川市有馬遺跡で確認されたのを契機として、群馬大学の新井朋夫教授により命名された。この火山灰は、榛名山系火山を給源としてF Aと浅間C層との間に検出されるもので、その降下年代は5世紀代に位置づけられる。F P F-1は南調査区のみ認められ、第VII層の直上に堆積している。この地点はF P F-1の上半より土採りが行なわれているために、全体的な層位関係は把握できないが、周辺の熊野堂遺跡や御布呂遺跡などの例から見ると、VII層とVI層との間に位置づけられる。なお層中には、直径5 cmほどの軽石が多量に含まれている。

(石坂 茂・藤巻幸男)



第9図 各テストピットの柱状土層図

II 調査の内容

1 調査された遺構

●第3区

発掘調査は、本調査区9,200㎡と、本調査区の南にある南調査区170㎡が対象となった。検出された遺構は、4面の水田址と中世館址である。4面の水田は最下層から順次Ⅰ期、Ⅱ期、Ⅲ期、Ⅳ期水田と命名した。各期水田は、他の遺跡で検出されているものと同一時期の水田と、新発見の時期の水田がある。ここでは、4面の水田址の型式学的検討および年代観の再検討を目的として客観的な名称を与えた。以下、検討された内容の概要を記す。

同道Ⅰ期水田 4世紀中葉以降に降下した浅間C層の直下で検出した。大区画を有し、耕作土も良好な水田遺土である。各区画は大アゼによる区割り（土地区画）内に収められている。この大アゼの区割りはⅡ・Ⅲ期水田でも継承されている。大アゼに対する小アゼは、水田耕作の際の構造的アゼであり、地割りを示す大アゼとは性格上で区別される。南調査区でも検出された。

同道Ⅱ期水田 浅間C層上にあり、FA層で埋没している。大アゼの区割り内を格子目状の小アゼで小さく区画した水田である。小区画水田と命名した。火山災害直後に復旧された水田で、大アゼを基調として下位の水田を復元している。耕作土中には浅間C層が多量に働き込まれているため、極度の漏水田であったろう。水田面は、FA層が薄いために上層のⅢ期水田の耕作によって破壊されている部分が多い。南調査区でも検出されている。

同道Ⅲ期水田 FA層上にあり、F P期火山灰と同期の軽石流によって埋没している。Ⅱ期水田と同様に復旧型の水田で、漏水対策の小区画が良好に残っている。格子目状の小区画は大アゼに接している部分で、両者の関係が良く判る。Ⅰ期からⅢ期までの水田は、火山災害後の復旧によって耕作が継続されていた。

同道Ⅳ期水田 F P F-2の大量堆積ののちに造成された水田で、浅間B層で埋没している。調査区北東側部分のみに検出された。いわゆる条里期水田で、Ⅰ～Ⅲ期水田とは象徴的な差異をみせている。調査区内では条里区割りを示す規則性を見いだすことはできなかった。また、水田の耕作開始時期が不明であり、下位の水田との関連も把握されていない。

中世館址 浅間B層上で検出された。館址遺構の南部分約1/3の範囲が調査されている。本地域に分布する居館址の多くは、中世長野氏系のもと考えられ、本遺跡もその一連の館址と考えられる。発掘調査の期間的な問題から、調査はⅠ期水田終了後になってしまった。検出された遺構は、当初の検出面よりも約50cm下位のところでの作図であり、幅や深さの検討にはその点の考慮が必要となる。（石坂 茂）

2 同道 I 期水田

(1) 水田の地形

I 期水田は 4 時期の水田址の中でも最下層に位置し、地表面から約 1.5~2 m の深さにある。発掘調査された水田址の面積は、県道安中線沿いにある南調査区の 170m² を含め約 9,400m² である。水田址の広がりは台地沿辺で寸断されているが、これは井野川や周辺から湧出する流水で侵食されたものと思われる。営田当初の水田域は、井野川左岸における地形観察や水田耕作適土である黒灰色粘質土が発掘区域外の北側へ広がることなどを考え合わせると、検出面積の数倍となることが予測される。

水田面は、北東隅の標高 120.41m を最高点として、南西端の標高 118.50m 地点へ向って 1.4% の緩傾斜をなす。この南西端の約 100m 南東にある南調査区の標高は、これより 0.45m 低い 118.05m であり、南西方向へ 1.3% の勾配となる。アゼで区画された水田面 1 区画内でも高低差があり、地形勾配と同様に北東側が高く南西方向にやや傾斜している。

(2) アゼの走行と区画

緩勾配の傾斜面を階段状に整地することによって造られた個々の水田は、南北の帯状区画を基調としている。このアゼは、その大きさや走行のあり方の違いによって大アゼと小アゼの 2 種類に分けられるが、両者とも水田面の耕作土と同じ黒灰色粘質土を盛り上げて作られている。

a 大アゼの走行と区画

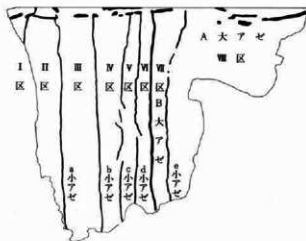
アゼの規模 大アゼは発掘区の北端を東西に走る A 大アゼと中央部を南北に走る B 大アゼの計 2 本が検出された。それぞれの大きさや形状は、A 大アゼが上幅 35~100cm、下幅 70~140cm、水田面との比高が 10~15cm であり、また B 大アゼは上幅 15~60cm、下幅 40~85cm、水田面との比高が 5~15cm で、両者とも断面がカマボコ形を呈する。A 大アゼの方が B 大アゼよりも規模が大きく、平均 20cm ほど幅広くになっている。

アゼの走行と区画 A 大アゼは水路に沿って設置されており、水路両側に検出されている。その走行は等高線にほぼ沿っているが、水流の関係からやや蛇行している。一方、B 大アゼは A 大アゼに直行しており N 1°W の方位をとる。すなわち、B 大アゼは等高線に直行するかたちをとっている。水路の設置が計画的なものであると考えられるため、これに沿った A 大アゼと、直行する B 大アゼは水田造成のための基本的な区割りを意味しているであろう。また、A 大アゼは数ヶ所で途

*第24回、付図1

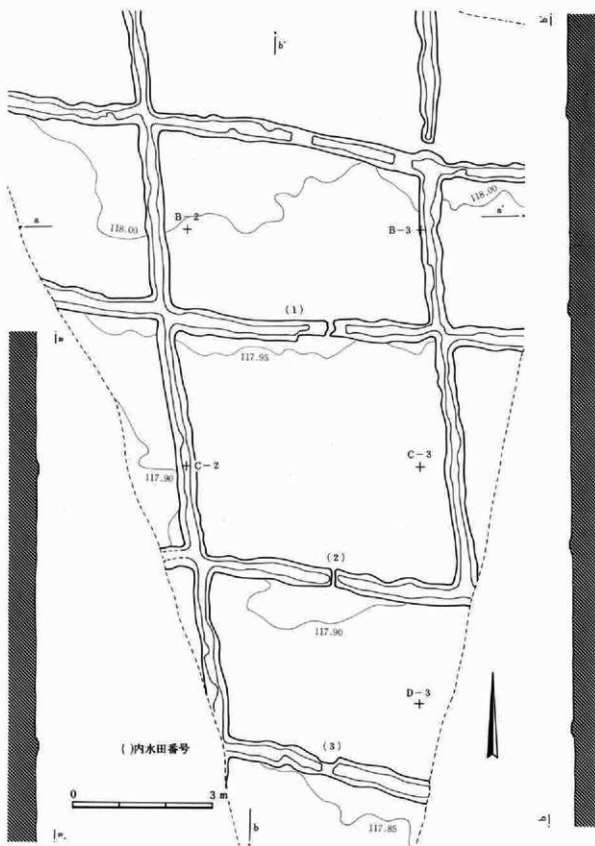
**第10回

***図版7



第10回 大アゼ・南北小アゼの区画模式図

I 発掘調査と遺跡の概要



第11図 I期水田・区画と水口のあり方 (南調査区)

切れて断続的な検出となっている。これは上層のII期水田の耕作によって大アゼの一部が削平されているためと思われる。

b 小アゼの走行と区画

アゼの規模 小アゼは、上幅が5～30cm、下幅が25～55cm、水田面との比高が3～10cmとなり、断面が台形およびカマボコ形を呈する。小アゼの下幅については、35～45cmとなるものが多い。また小アゼの高さについても、VIII区●第10回の北半では上層のII期水田の耕作が水田面にまで達しているために、小アゼが削平されて高まりをもたない箇所もある。これと同様に発掘区北端にも土壌攪乱をうけてアゼの検出できない部分がある。

アゼの走行と方位 南北小アゼの走行は、a・b・d・eの各小アゼのように直線的に走行するものと、c小アゼやVIII区●第10回の南北小アゼのように数箇所あるいは各区画ごとに途切れて連続しないものとの二つのタイプがある。またこれに対して、東西小アゼは2～3の区画にまたがって連続した走行にみえる箇所もあるが、南北小アゼのように各区画を貫ぬいて連続することはなく、各区画単位で途切れて連続しない箇所がほとんどである。東西小アゼが2～3区画で連続する例は、II・III・IV区やVIII区などで見られる。こうしたことは、水田面の造成において、南北のB大アゼを基調にしてこれに則した南北小アゼを設置し、帯状の区画を連続させるとともに、さらに各々の区画の中で水田面を整地するために東西小アゼを調整した結果とみることができる。いわば南北小アゼが主であるのに対し、東西小アゼは従の関係にある。なお、VIII区北半は傾斜角の問題から、基調の軸線を等高線に沿った東西小アゼにおいており、他の区画と異っている。

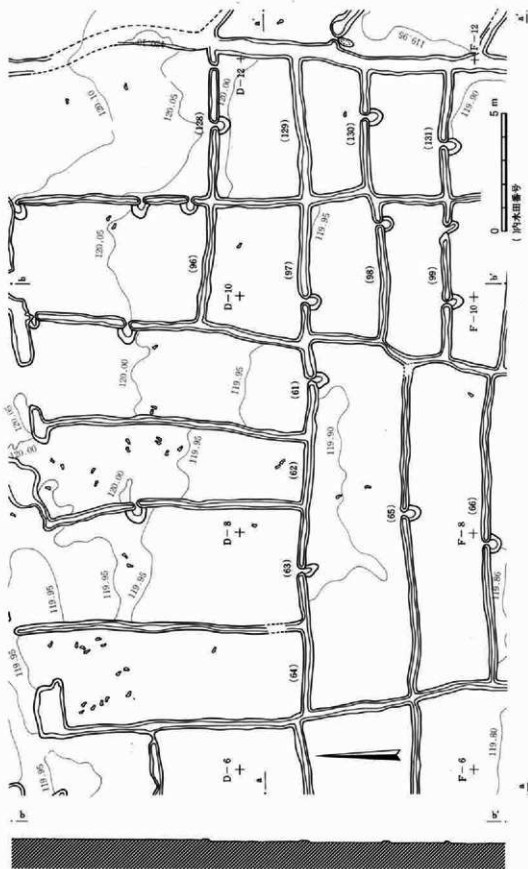
南北小アゼの走行間隔をみると、aとb小アゼが16～18.5mで比較的均一な間隔となっている。bとc小アゼは9～17.5mで北へいくにつれて序々に広がる傾向にある。cとd小アゼは中央部でやや乱れるが5～9mで、北へいくにつれて広がっている。この他、VIII区●第14回の南北小アゼは各区画で途切れて連続した走行となっていない。一方東西小アゼの走行間隔は一定していないが、II～VIII区にかけては3～4mとなるものが多く、VIII区●第14回のNo.215～248にかけては4～5mとなり、ここではやや広い間隔をもつ区画が集まっている。

直線的に走行するa・b・dの南北小アゼについてその方位をみると、a小アゼがN4°W、b小アゼがN4°W、d小アゼがN1°Wとなり、いずれもB大アゼと近似した数値となっている。

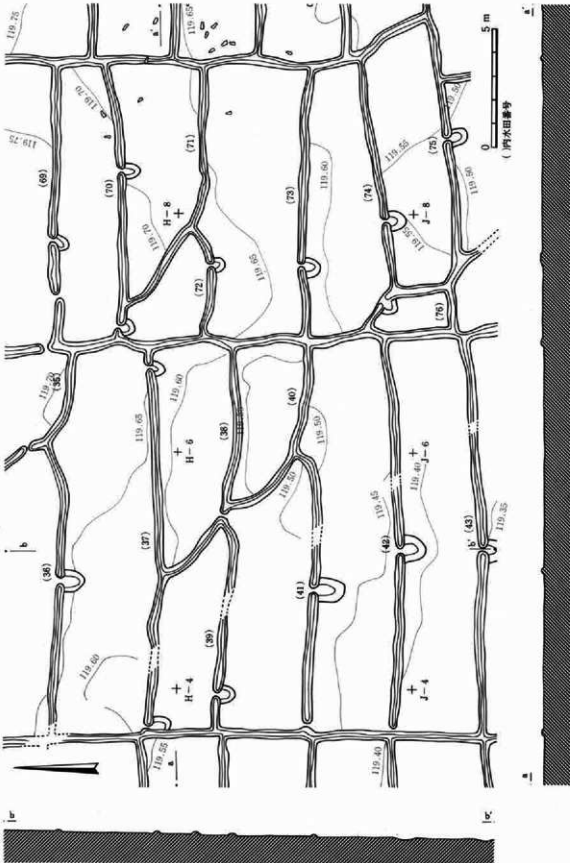
南調査区でのアゼの走行間隔は、南北小アゼが5～6m、東西小アゼが3～5mとなる。南北小アゼの走行方位は、N4°～7°Wである。

区画のあり方 各水田区画内は平坦でなく、わずかながら高低差が見られる。III区は3～6cm、IV区は3～5cm、V・VI区は1～3cm、VII区は2～3cm、VIII区は3～4cmの高低差がそれぞれ認められ、全体的に北東から南西へと傾斜している。高低差が最も大きいのはIII区であり、逆に少ないのはV・VI区である。こうしたこと

I 発掘調査と遺跡の概要

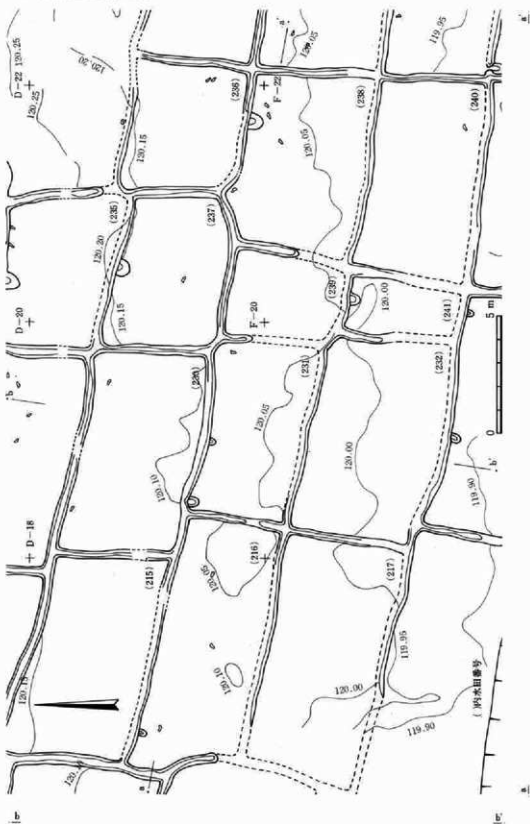


第12図 I期水田・方形区画の遺構



第13図 I 期水田・方形区画内の変則的区画

I 発掘調査と遺跡の概要



第14図 I 町水田・等高線に沿った方形区画

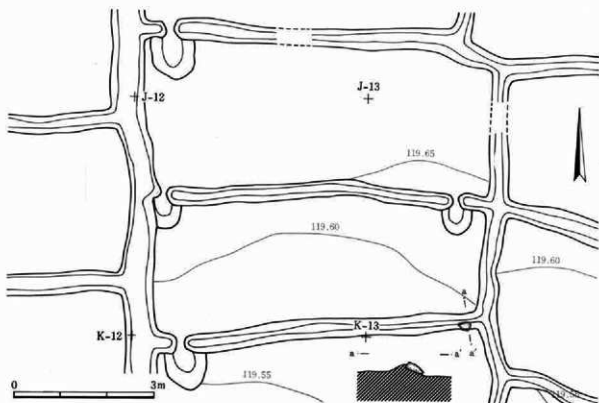
II 調査の内容

は、一区画の東西辺が長いところほどその高低差も大きいことを示しているが、Ⅷ区のように地形を考慮した区画となる場合は、比較的大きな区画であっても高低差が少ない結果となっている。

Ⅲ～Ⅷ区の帯状区画内における各水田相互の高低差は、いずれも5～10cm見られ、南へ向って階段状に低くなっている。また東西に隣接する水田区画相互間でも5cm内外の高低差が認められるが、Ⅱ区とⅢ区の水田間には平均10cmの大きな段差が認められる。こうした段差の存在は、各区画単位で土の切り盛り整地が行なわれたことを示すものであり、Ⅱ区とⅢ区の間では地形変化が大きいために、段差がより極だったものとなったのであろう。南調査区における水田一区画内の高低差は、1～3cmと少なく、南北に隣接する区画相互でも3～4cmのわずかな段差がつく程度である。また東西に隣接する区画相互では、1～2cmの高低差があるが、段差というよりむしろ自然地形の勾配に近い。

地形による規制 Ⅰ期水田の区画は、地形勾配を考慮しつつも方角を基本としており、全体的に計画性のある東西に長い長方形の大区画をなしている。しかし、Ⅲ～Ⅵ区の区画の中にはNo33・34、No38・39、No40・41、No71・72、No75・76、No79・80、No108・109、No112・113、などのように大きな方形区画の中にタスキ掛状に小アゼが挿入されて本来1区画となるべきところが2区画になったり、No142～145のように区画が乱れたりする箇所がある。また、Ⅶ～Ⅷ区のものNo156～163、No180～198、No214～248などのように、平行四辺形や台形、三角形といった変則的な区画となる

●第13・15図、図版5-2



第16図 Ⅰ期水田・小アゼ上の埋石

箇所も見られる。こうした箇所の東西小アゼは等高線の走行と並行しており、一定方向に小アゼを設置することや広い面積を一区画とすることが地形的に困難であったためと考えられるが、同時に水田造成における整地作業の中で、切り盛りによる土の移動を極力少なくするための省力化をも考慮したものであることが推察される。

c 小アゼ上の埋石

No165区画の南東コーナー近くの東西小アゼ上に、長さ25cm、厚さ10cmほどの河原石が埋められているのが確認された。この埋石は、南北、東西小アゼの交点よりも約40cmほど西へずれており、またやや南へ傾いた状態であった。

(3) 水田の面積

大・小アゼによって区画された水田は、完全な区画を呈していないものも含め、南調査区の13面を合わせて270面が検出された。各水田の面積は第2表と第3表に示した。

水田の面積は、No76の4.13㎡という小さなものからNo45の92.24㎡という大きなものまで様々な大きさが見られるが、全体的には南北小アゼで帯状に区画されたⅢ～Ⅷ区単位で、同規模の面積や形状がまとまっている。Ⅲ区では50～60㎡で長方形、Ⅳ区では20～45㎡で台形、Ⅴ～Ⅶ区は15～30㎡で同じく台形、Ⅷ区は25～40㎡で平行四辺形となるものが多い。南調査区では20㎡前後で、形状が平行四辺形となる。

第2表 1期水田の面積一覧

(単位: m)

番号	面積	長	辺	短	辺	形状	番号	面積	長	辺	短	辺	形状
1							25					2.8	
2				3.1			26					3.6	
3							27					4.1	
4	56.78	13.5	14.6	3.0	14.9	四辺形	28						
5	72.18		16.1		4.4	長方形	29	59.00		17.4		3.6	長方形
6	56.56		15.9		3.7	#	30	88.91		15.5		5.6	#
7					4.0		31	72.21		16.4		4.7	#
8					3.9		32	62.13		17.6		3.6	#
9					3.4		33						
10					3.8		34			7.9			三角形
11					3.3		35	40.43	12.1	7.8		4.3	台形
12					3.6		36	27.42	4.0	7.8		4.2	#
13					3.0		37	60.66		16.0		3.7	長方形
14					3.7		38	25.06	6.9	9.2		2.6	台形
15					4.2		39	19.24	6.4	8.5		2.6	#
16					4.6		40	15.12	6.4	4.5		2.9	#
17					3.9		41	44.77	11.4	9.2		3.4	#
18					4.5		42	53.98		16.4		3.4	長方形
19					2.6		43	51.84		16.6		3.1	#
20					3.8		44	41.23		16.6		2.8	#
21					3.5		45	92.24		16.9		5.4	#
22					4.2		46	62.03		17.8		2.8 4.0	台形
23					2.4		47	53.46		17.8		3.0	長方形
24					2.7		48	43.52		17.6		2.4	#

II 調査の内容

番号	面積	長	辺	短	辺	形状	番号	面積	長	辺	短	辺	形状
49	54.09	17.3		3.1		長方形	103	25.98	7.0		3.8		長方形
50	58.83	17.4		3.4		#	104	19.36	6.1		3.1		#
51	60.04	17.3		3.6		#	105	19.52	6.4		3.2		#
52	58.00	17.6		3.7		#	106	22.10	6.1		3.3		#
53	48.80	17.5		2.8		#	107	16.93	6.0	4.4	3.1		台形
54	70.19	17.8		4.1		#	108	7.49	3.1	2.8	2.8	1.7	四辺形
55	60.36	17.2		3.5		#	109	11.71	4.0		3.0		長方形
56	53.51	17.4		3.0		#	110	21.23	6.1		3.3		#
57	45.44	17.6		2.5		#	111	22.83	8.7	5.7	2.7		台形
58	58.28	17.3		3.2		#	112	14.82	6.4	2.9	5.5	1.8	四辺形
59	41.79	16.4		2.6		#	113	8.59	4.1		3.4		三角形
60							114	18.13	6.4		2.8		長方形
61	63.10	11.4		3.7		長方形	115	17.54	6.0	7.5	2.3		台形
62	34.18	10.9		3.1		#	116	19.05	8.2		2.4		長方形
63	54.40	10.2		4.9		#	117	22.51	8.7		2.0		#
64	38.64	10.3		4.0		#	118	28.84	6.6		4.3		#
65	59.98	15.5	14.0	4.0		台形	119	15.87	6.7		2.6		#
66	49.77	13.4		3.2		長方形	120	18.32	6.5		2.9		#
67		12.8				#	121	16.02	6.3		3.5		#
68		12.0				#	122	14.26	6.5		2.4		#
69	27.31	11.9		2.2		#	123	18.66	6.4		2.8		#
70	27.34	11.6		2.4		#	124	13.98	6.1		2.3		#
71	26.66	9.8	6.5	3.2		台形	125						2.3
72	9.66	4.3		3.4		三角形	126				1.6		
73	44.98	11.4		4.0		長方形	127						
74	31.26	11.1	9.4	3.9	1.9	四辺形	128	50.90	9.0	8.4	6.1	5.1	四辺形
75	44.98	11.4		4.0		長方形	129	20.18	6.0		3.5	3.0	台形
76	4.13	1.4		3.1	2.0	台形	130	12.35	5.6	4.6	2.5	2.2	四辺形
77	19.14	7.0		3.2		四辺形	131	15.49	5.1		3.1		長方形
78	9.28	3.8	1.9	2.9		台形	132	19.06	5.1		3.7		#
79	10.13	4.9	2.2	3.1		四辺形	133			5.1			#
80	17.94	8.0	5.2	3.1		#	134			5.4			#
81	22.29	8.3	10.9	2.3		台形	135	23.65	6.3		3.7		#
82	30.48	10.9		2.8		#	136	15.89	6.1		2.8	2.1	台形
83	37.10	10.5		3.4		#	137	13.45	6.3	5.4	2.8	2.0	四辺形
84	23.76	10.0	8.5	3.2		台形	138	22.10	6.1		3.3		長方形
85	26.98	9.2		3.3		#	139	16.56	6.2		2.8	2.3	台形
86	42.45	9.8	3.4	4.6		台形	140	35.06	6.4		5.8	5.3	#
87	36.48	9.2	4.8	2.9		#	141	20.48	5.1	4.0	4.8	3.9	四辺形
88	36.04	9.6		3.9		長方形	142	14.02	3.9		6.2		三角形
89	27.91	9.5		3.5		#	143	5.76	1.7		3.7		長方形
90	24.48	8.9		2.8		#	144	6.37	1.5		4.3	3.8	台形
91	26.14	9.0		2.8		#	145	11.48	4.2		5.1		三角形
92	22.01	8.6		2.5		#	146	14.57	4.2	6.1	2.7		台形
93	18.96	8.4		2.0		#	147	25.56	6.6		4.1		長方形
94	18.76	8.8	7.2	2.4		台形	148	26.20	7.7		3.9		#
95							149	15.27	6.9		2.2		#
96	37.31	8.1		4.7		長方形	150	16.11	7.0		2.2		#
97	19.90	5.2		3.7		#	151	16.15	7.3		2.6		#
98	16.32	5.6		3.0		#	152	21.74	7.3	7.9	2.6		台形
99	14.88	6.0		2.6		#	153			7.9			
100	16.59	6.8	2.0	3.0		台形	154	26.10	4.5		5.8		長方形
101	17.42	7.0		3.1	1.8	#	155	15.62	5.8		3.8		三角形
102	16.54	6.7		2.1	2.9	#	156	68.54	11.8	11.2	5.5		扇形

2 岡道1期水田

番号	面積	長	辺	短	辺	形状	番号	面積	長	辺	短	辺	形状
157	57.30	18.0	12.4	3.8		不定形	204	31.25	10.0		3.0		長方形
158	47.80	12.3	10.8	4.1		台形	205	17.78	5.1		3.6		#
159	42.56	10.7	8.6	4.1		#	206	10.74	5.1		2.1		#
160	33.80	9.3		5.8		三角形	207	10.67	5.1		2.0		#
161	24.60	8.0		3.2		平行四辺形	208				3.1		
162	25.82	7.9		3.1		#	209	20.58	5.5		3.8		長方形
163	29.28	7.0	5.7	2.5		台形	210				2.6		
164	21.55	7.4		3.0		長方形	211	9.86	4.1	3.7	2.5		台形
165	17.49	7.0		2.6		#	212						
166	32.35	6.9		4.7		#	213			3.8			
167	22.51	7.1		3.3		#	214	48.30	7.0		6.0	7.1	台形
168	23.55	7.2		3.3		#	215	41.28	8.5		4.6		平行四辺形
169	20.22	6.6		3.0		#	216	43.04	9.6	10.7	4.2		#
170	22.38	6.5	5.8	3.6		台形	217	47.60	9.7		5.0		#
171	23.18	7.0		2.8	3.5	#	218						
172	26.51	7.1		5.1	3.6	#	219						
173	22.64	7.0		3.2		長方形	220				4.4		
174	23.98	7.3		3.6	3.0	台形	221				2.9		
175	13.78	7.1		2.0		長方形	222				3.6		
176	21.22	7.0		3.3	2.6	台形	223				2.5		
177	19.66	7.4		2.7		長方形	229	71.84	9.0		7.5		平行四辺形
178	15.28	7.1		2.1		#	230	40.24	8.5		4.7		#
179							231	29.87	7.5		4.0		#
180		7.6					232	44.50	8.2		5.2		#
181	39.90	6.9		3.8	6.9	台形	233				9.3		
182	50.05	9.0		5.8		平行四辺形	234	47.80	10.4		4.3		平行四辺形
183	48.50	11.1		4.2		#	235	27.12	6.3		4.3		#
184				5.1			236	23.87	5.2		4.5		#
185				3.9			237	28.05	6.4		4.6		#
186							238	37.23	7.2		5.2		#
187	30.93	6.2		4.9		平行四辺形	239	15.73	4.6		3.4		長方形
188				2.8			240	36.82	8.5	7.8	4.4		台形
189				2.5			241	10.81	4.6		2.9		長方形
190	32.00	6.5		4.0	5.8	台形	242	39.55	8.8		4.4		平行四辺形
191	7.66	4.8		2.7		三角形	243		8.8				
192	45.54	8.1	9.9	4.1	5.5	四辺形	244				5.1		
193	19.49	5.8	5.0	2.5	4.3	#	245	24.10	5.0		4.7		長方形
194	38.14	8.5		3.6	6.6	台形	246	32.62	6.0	7.0	4.8		台形
195	21.60	6.1	7.4	3.0		#	247	30.67	7.1		4.3		平行四辺形
196	19.73	9.0		3.0		長方形	248	40.70	7.3		5.5		#
197	17.42	6.2	5.0	3.0		台形	249	27.95	7.5	5.4	3.7	5.3	四辺形
198	16.94	6.0		4.3		三角形	252	16.20	6.6		2.0	2.7	台形
199	40.14	12.3		3.1		長方形	253	5.98	3.0	2.2	2.3		#
200	40.70	11.4		3.5		#	254	11.31	5.7	3.9	2.2		#
201	54.11	10.0		5.3	3.0	台形	255	16.41	5.8		2.3	3.1	#
202	21.68	9.4		2.3		長方形	256	14.51	4.6		3.0		長方形
203	27.79	9.8		2.8		#	257	13.66	4.7		2.9		#

第3表 南調査区1期水田の面積一覧

番号	面積	長	辺	短	辺	形状
1	19.48	5.1		3.2		平行四辺形
2	26.18	5.5		5.2		#
3	20.3	5.7		3.4		#

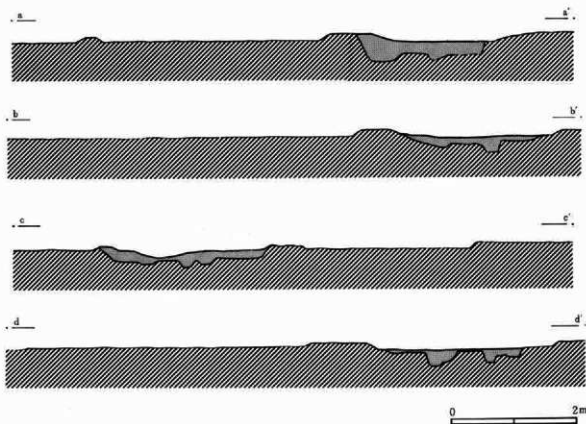
(4) 取配水方法

a 灌漑水路

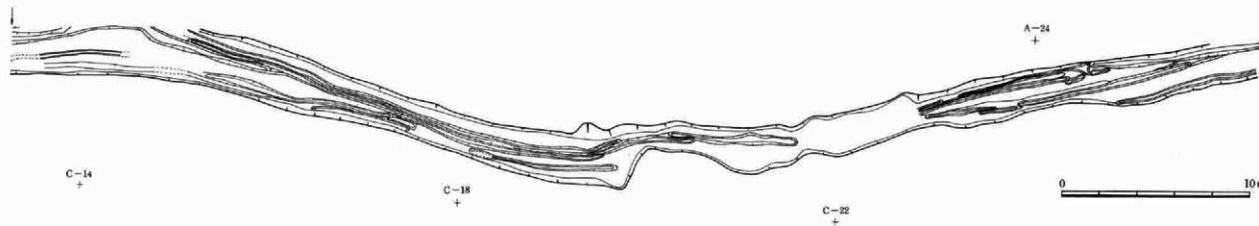
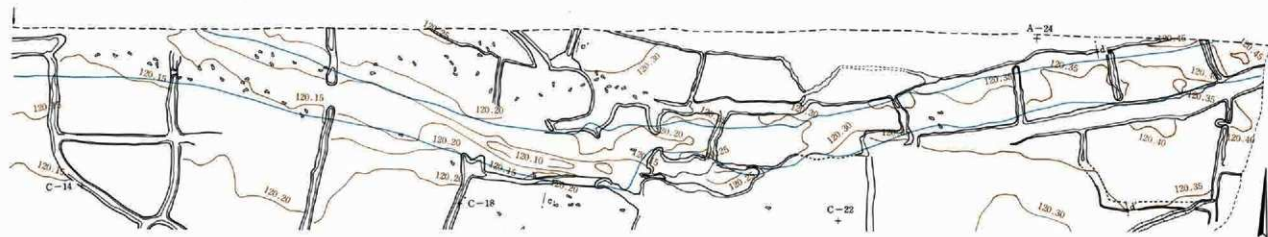
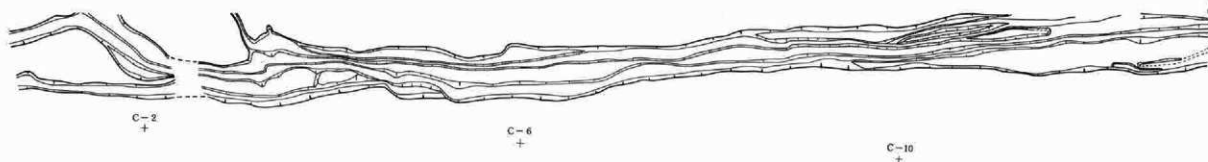
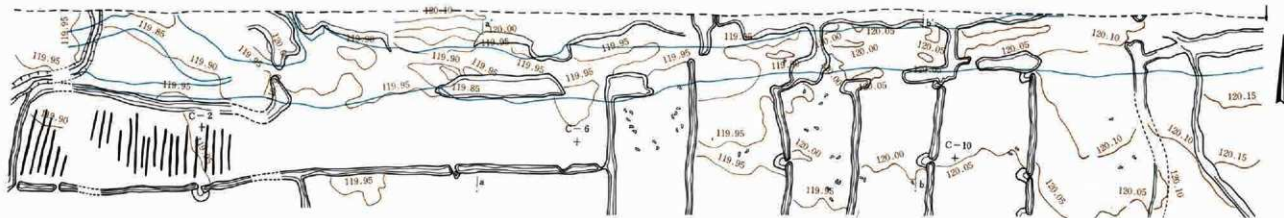
水田を灌漑するための取水は発掘区北東隅から行なわれている。この方向には河川はなく、相馬ヶ原扇状地末端から湧出する湧水の存在が想定される。浅間C降下時点での水路上は、北東隅のA大アゼに沿ってNo257区画から西へと延びる変則的な帯状水田になっていた。この帯状水田は2～4mの幅をもち、西端にまで達しているが、その平均勾配は0.3%で極めてゆるやかに西傾している。この帯状水田の下層には水路としての掘り込みがあり、この水路が通水に伴う褐色砂壤土の堆積によって埋没していく過程で水田化され、水路と水田との両方の機能を備えていたことがうかがえる。水路からの通水は、水持ちの良い水田へ向うため、最終的には帯状水田の造形による懸け流し状に変化したと考えられる。

水路の規模 この水路はI期水田の耕作土であるVII a層からX層上面にかけて掘り込まれている。その規模は、幅200～300cm、深さ20～30cmであり、上下流両端の底面標高差が40cm、底面の平均勾配0.3%のゆるやかな傾斜で西流している。また水路の底面には、幅30cmほどの小溝が水路の走行と並行して3～4条見られる。この小溝は断面がU字形を呈しており、詳細に観察するとキャタピラ状の痕跡が連続

● 第17・18図、図版7・
12-1



第17図 帯状水田下の水路断面



第18図 I期水田・帯状水田下の水路(上下つなぎ)

して溝を形成しているのが判る。これは水路の掘削が鋤によって行なわれた際に、その先端部の痕跡がキャタピラ状に残ったためと考えられる。

* 図版13・14-1

水路からの取配水 この帯状水田を流れる水は、A大アゼに沿うように西方向へ配水され、またそれと併行してA大アゼを切って設けられた取入口より、南側に隣接する各水田へと配水される。そして各水田へ落された水は、一旦区画内で湛水した後、東西アゼ上の水口より順次南方へと田越しに懸け流される。この配水は南北方向の大・小アゼで帯状に区画されたⅠ～Ⅷ区の各単位ごとに行なわれるもので、南北アゼを切って東西方向に配水されることはない。また水口は東西小アゼを幅10～20cmに切っただけの構造であり、各水田に一箇所設けられるのが一般的であるが、No42～44、No49、No57などの大区画の水田では、二箇所の水口を持っている。水口の位置は、東西小アゼの中央か南北小アゼとの交点に設置される場合が多い。B大アゼに隣接したⅦ区では、この交点に水口が設置されている例が多い。ほとんどの水田区画で水口が検出されているが、Ⅷ区の北半では小アゼが削平されているために検出されていない。

* * 図版11-2

(5) 耕作痕と足跡

耕作痕 アゼに囲まれた水田面には多数の足跡と思われる不明瞭な凹みのほかに細くかすかな浅い溝状の「すじ」がⅠ～Ⅴ区の南側を中心にみられた。この「すじ」は一定の間隔をおいて互いに平行に並び、しばしば水田区画ごとに走向が異なる。このような「すじ」をここでは水田耕作における何らかの作業の痕跡と考慮して、耕作痕と呼ぶことにする。

* * * 第19～21図、図版4

これらの耕作痕は、南端のNo50～60・86～95の水田区画を中心とした地区と、西北端のNo5を中心とした地区で非常に明確に見られる。この部分は井野川に近接した地点で、耕作痕自体の深さもやや深い。しかし、北ないし東側へいくほど不明瞭になり、中央では水田区画の一部に部分的に見られるのみで、Ⅷ区の北東では全く見られなくなってしまふ。南調査区では、不明瞭だが全体に耕作痕がみられる。

各耕作痕は幅が8cm程度でほぼ一定し、深さは水田面から1～2cmと非常に浅い。またその相互の間隔は30～40cmとなる。この耕作痕は各区画内でその様相が異なるが、区画に対する走行方向の違いによって大きくA、B、Cの3つに分類できる。A類には水田区画の長辺方向に平行なもの、B類はそれに直交するもの、C類はAとB類が同一水田区画に存在するものである。ただし、耕作痕の走行がはっきりしているものが比較的少なく、分類が確定できるものは全区画の内の約1/2である。

A類は三者の中で一番数が多く、No38～50・52～54・83～88・90・92・94・115～117・119～122・147・149～152・174～176と南調査区のNo1～3がこれにあたる。耕作痕がまばらのためやや不確実であるが、No202・211もA類であろう。また例外的ではあるが三角形区画のNo142も本類とする。

B類は、No4・5・55～57・89・118・123・148・170・171・201・209である。や

II 調査の内容

や不確実であるがNo164もB類となろう。

C類はNo7・14・18・19・20・22・51・58・90である。No196では東西方向の耕作痕は長辺に平行するのに対し、南北方向のものは短辺に平行していないが、これもC類とする。ほかに耕作痕の走行がずれるものとしてNo23があるが、これは向い合う二辺が平行でないためと考えC類に含めていない。またNo14・18・19・20・22は水田区画の半分ほどが残っていないが、C類として分類される。C類の場合、方向を異にする耕作痕は相互に入り乱れることなく、明瞭な境目をもって東と西とに分かれる。しかしNo58のように東西の耕作痕が南北の耕作痕に挟まれる例もある。

水田区画が長方形でなく、三角形に近いものはA、B、Cの三分類にあてはまらなかった。例えばNo145のように、北西・南東の方向に走向するアゼに平行なものは分類に入れていない。

耕作痕は明瞭であるにもかかわらず、水田区画の全域が残っていないために分類の不可能なものも多い。しかし残されている部分で見ると、そのほとんどがA、B、Cのどれかに分類できるものと思われる。A～C類の耕作痕をもつ水田区画はモザイク状に混在しているが、それぞれの分布の特徴について水田区画の形状、大きさと関連をみると次のようになる。3類の中で最も数少ないC類は、ややかたよった分布を示す。C類のうちNo196やNo90を除けば残りのすべてがII・III区の水田区画にある。これらの水田区画の中では、特定の場所にC類が集中する傾向はないが、C類が連続するものとして、No18・19・20がある。C類がII・III区に集中するのは、長辺が長く、面積が大きい区画となることと関連する可能性がある。

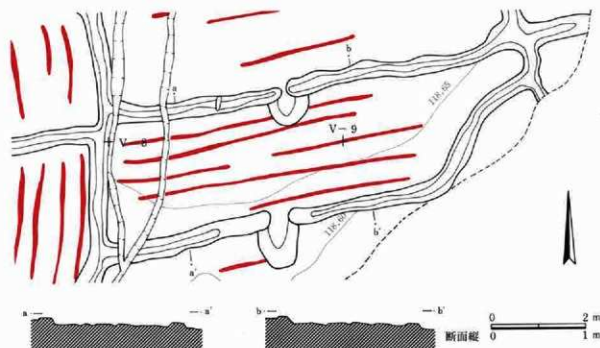
B類は特定の場所に集中する傾向を示さない。連続してB類があるものとしてNo55～57があり、他に2区画が隣接するものとしてNo170・171がある。東西方向に並ぶものとしては、No118・148がある。

A類は、B・C類を合わせた数の2倍弱もあり、3類の中でも最も多くみられる。集中・隣接のあり方については、B類と同様特定の傾向はなく、区画の大きさと

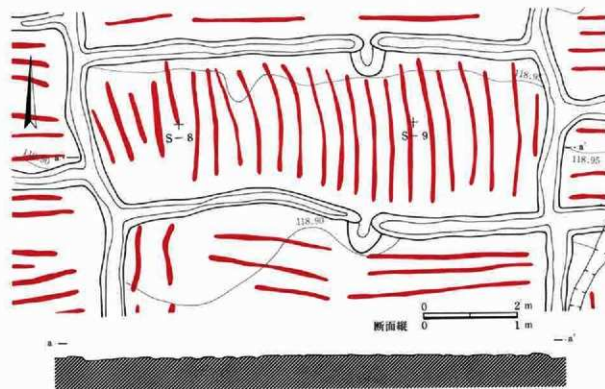
★第4表

第4表 耕作痕の分類別区画数

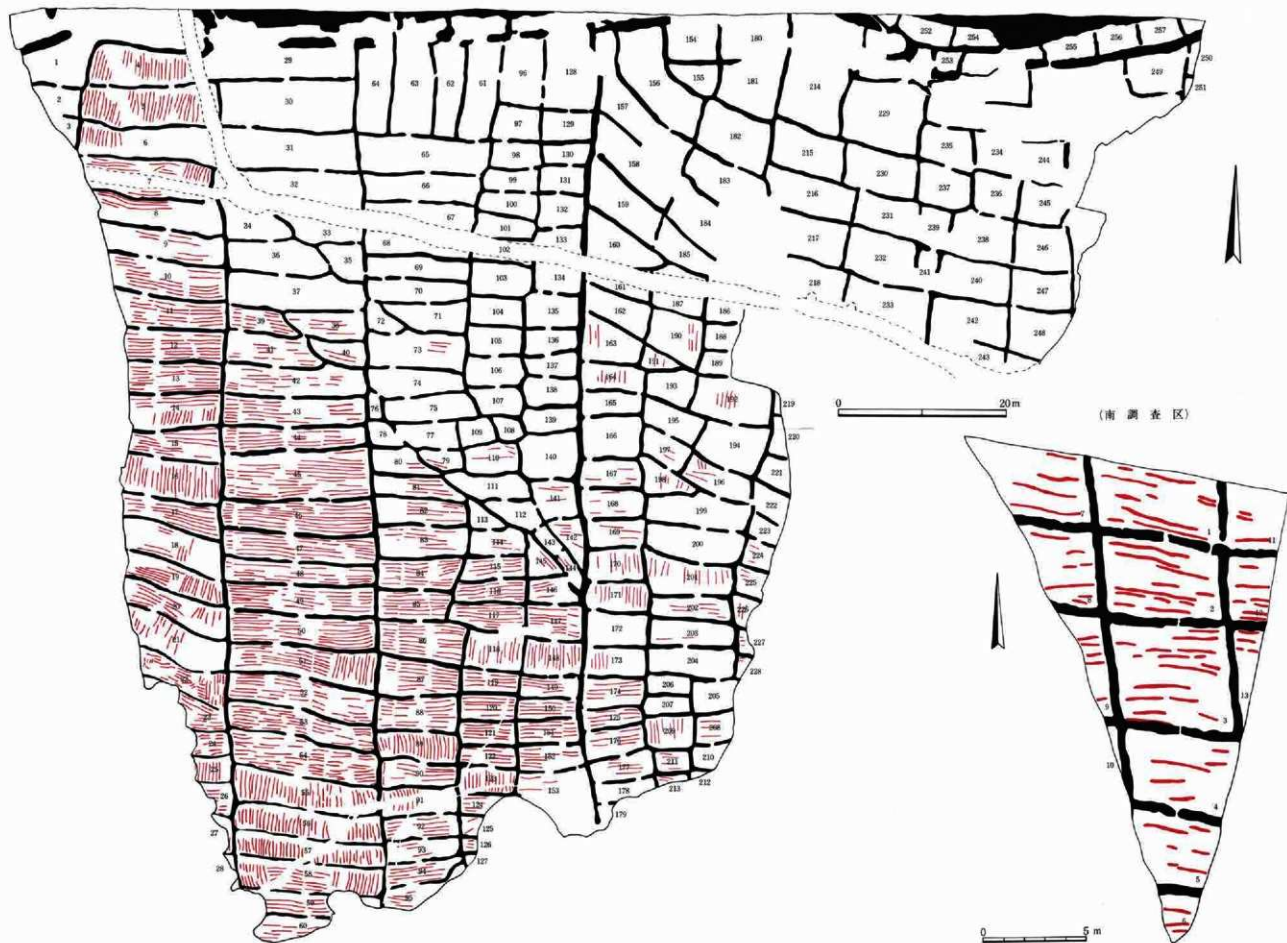
	A 類	B 類	C 類	分類不可能	耕作痕のある水田区画	全区画
I 区	0	0	0	0	0	3
II 区	0	2	6	15	23	25
III 区	16	3	2	2	23	32
IV 区	9	1	1	7	18	35
V 区	7	2	0	5	14	32
VI 区	6	1	0	5	12	26
VII 区	3	3	0	6	12	26
VIII 区	2	4	1	10	17	78
南調査区	3	0	0	9	12	13
総計	46	16	10	59	131	270



第19図 I期水田の耕作痕(部分)



第20図 I期水田の耕作痕(部分)



第21図 I期水田の耕作痕

関係もつかえない。

足跡 水田面に残されたもう一つの痕跡として人間の足跡がある。その大部分は不明瞭な凹みとしてしか残っていないが、一部ではかなり明瞭にみることができた。最も足跡が多く見られるのは、水路を兼ねたNo252～257などの帯状水田内及びA大アゼ上である。ここでは歩行単位を識別できないほどに無数の足跡が存在するが、その歩行は水路及び、A大アゼの走行に沿うように往復している。歩行単位がある程度つかめるものとして、南西端のNo59からNo153へと東に歩行しているものと、No95からNo120へと北東に歩行している足跡群の2つがある。前者はNo92でX字状に交差しているが、ともに小アゼを踏み壊して往復の歩行をしている。前者の足跡は、水田面下に5～15cmの深さで食い込んでおり、水田がかなりの湿った状態であったことと、連続した往復作業があったことがうかがえる。またB大アゼ上にも多くの足跡が見られる。これはA大アゼを含め、大アゼが作業道としての役割ももっていたことを示すものであろう。他に水田面上にも多くの足跡が検出されているが、その多くは散在しており、歩行を復元するまでに至らなかった。

● 図版7・10-2

● 図版9・10-1

(6) 遺物出土状況と内容

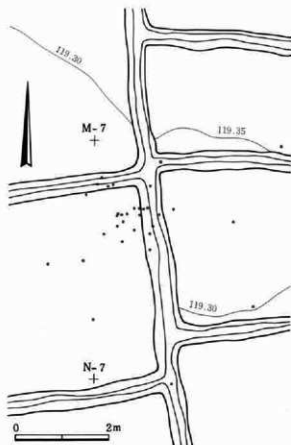
I期水田から出土した遺物は、土器のみであり、簞、蓆などの木製品は検出されなかった。また土器の量も少なく、小破片がほとんどである。

甕 (第23回1・5、図版38—h) No45、46、81、82の水田区画にまたがって散布する破片より復元した。破片の分布は水田面上だけでなく、水田耕作土中やアゼの盛土中にも認められた。ただし、第22図上にドットし得たのは浅間C直下の水田面上のもののみである。この土器は、b南北小アゼを中心に散布しており、そのあり方が注目される。土器は底部および口縁から頸部にかけてはほぼ完周するが、胴部に欠損があり、完形とならない。器形は胴部がやや強く丸みをもって張り出しており、頸部が軽くびれ直線的に外に開く。最大径はほぼ胴中央にある。口縁部は薄い折り返し口縁となっている。文様は口縁から胴上部に施されている。波状文が折り返し口縁上と頸部、胴部にそれぞれ1段、2段、4段に比較的整然と施されている。施文具は9本歯であり、また文様の継ぎ目は器面の荒れや欠損のため不明である。頸部にある簾状文は、右まわりに三連止めを推定6ヶ所で行なっている。施文具は9本歯であるが波状文のそれとは幅が異なる。器面が荒れていてははっきりしないが、内外面とも施文部を除いてヘラ磨きを行なっている。茶褐色で焼成は普通。砂粒を多く含む。推定器高33cm、最大径26.5cm、口径17cmである。

甕 (第23回2、図版38—d) 口縁から頸部にかけての小破片より図上復元した。短い波状文を乱雑にくり返しているが、文様が部分的にしか残っておらず施文具等はわからない。灰褐色で焼成はやや良好。推定口径は15cm。

小型台付甕 (第23回3、図版38—g) 帯状水田下の水路中より出土した。脚台部のみであるが、この部分では完周する。外面はていねいな縦方向のヘラ磨きを

II 調査の内容



第22図 I期水田・土器の出土状況

の間に波状文をかなり乱雑に施している。

甕(第23図7) 頸部から口縁にかけてやや強く外反し、口縁端は少し内湾する。口縁に波状文、頸部に右まわりの簾状文がある。灰褐色で焼成は普通である。

壺(第23図8) 胴上部の破片で波状文と平行線文が施されている。波状文は二段にわたってあり、上段一下段の施文順序になる。7本歯の施文具による。その下の平行線文も波状文と同一施文具によるものであろう。施文部以外の外面はヘラ磨きで、内面はヘラナデである。淡褐色で焼成はやや良好。

壺(第23図9、図版38-f) 胴上部から頸部にかけての破片で頸部に簾状文と思われる平行線文があり、胴上部に斜めの平行線文がある。施文具は6本歯。

甕(第23図10) ゆるくくびれた頸部近くの破片と思われる。縄文はRLの横位施文である。茶褐色で焼成は普通。

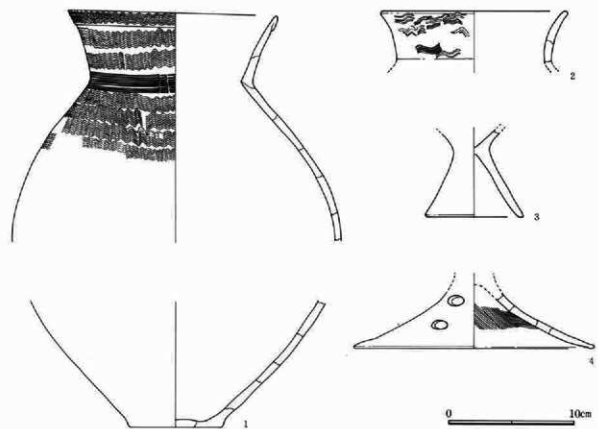
不明(第23図11) 縄文RLが横位に施されており、胴上部の破片と思われる。黄褐色を呈し、焼成はやや良好。

(茂木 由行)

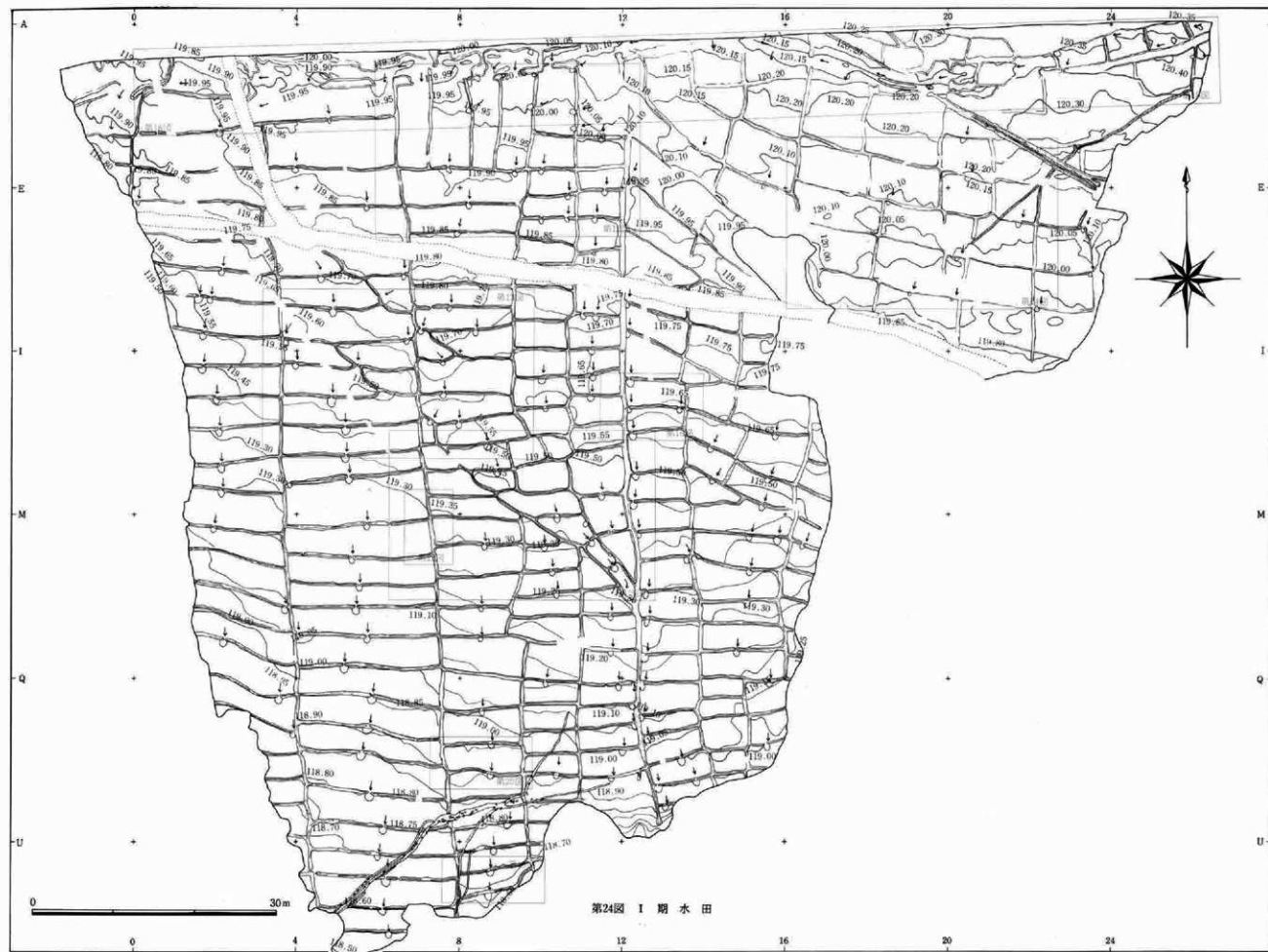
行なっている。色調は灰褐色で焼成はやや良好である。

器台(第23図4、図版38-c) 脚部のほぼ1/2周程の破片より復元した。下端に向かって強く開き、推定3ヶ所に縦2個づつの孔がある。内面にハケ目が残っており、他はナデ調整である。色調は黄褐色で焼成は良好である。

甕(第23図6、図版38-a) 帯状水田下の水路中より出土した。口縁から頸部にかけての小破片である。6本程度の歯をもった施文具で、口縁の段上と口縁から頸部



第23図 I期水田の出土遺物(土器)



第24図 I期水田

3 同道Ⅱ期水田

(1) 水田の地形

Ⅱ期水田はいわゆる“ミニ水田”と称される小区画水田に大きな特徴をもつもので、9,400㎡の範囲が発掘調査された。このうち水田址が明瞭に検出された範囲は、南調査区の170㎡を合わせて全調査面積の約1/3にあたる3,300㎡である。残りの%は上層のⅢ期水田の耕作によって擾乱をうけているために、畦畔の盛土部分を含めた水田面が削平されている。水田址の広がり台地沿辺で寸断されているが、発掘区域外の北側にも広がるのが予測される。

水田面は、北東隅の標高120.57mを最高点として、南西端の標高118.65m地点へ向って1.2%の緩傾斜をなす。南調査区の標高は、この南西端より0.5m低い118mであり、勾配は1.3%となる。こうした地形について、水路および大アゼによって仕切られる各区割りを便宜的にⅠ～Ⅳ区として詳細に検討してみると、各区内や各区相互の間に微妙な傾斜の相違が認められる。例えばL字形水路南側のⅠ～Ⅲ区の勾配はほぼ同一で1.2%であるが、Ⅳ区割はそれらよりも若干ゆるい1.0%となっている。こうした勾配の差異は、すでにⅠ期水田の同一地点の地形において看取されるもので、基本的にはⅠ期水田の地形に規制された結果である。またⅠ区の北側の標高119.80m地点では南北方向に約10cmの急激な段差をもつ箇所が見られる。これは段差の形成される地点の北側において、耕作土の厚さが10～15cmと他地点での厚さのほぼ2倍にもなっており、これが急激な段差を生じさせる原因となっている。この段差はⅠ期水田の同一地点に認められないことから、浅間C層の堆積以降本期に至るまでに、何らかの自然あるいは人為的な要因によって、この部分の耕作土がより厚く堆積しているものと考えられる。この部分は一部の水田下に有馬火山灰が検出されており、この火山灰の挟在が関連しているのかも知れない。

●第36図、付図Ⅱ

●●第25図

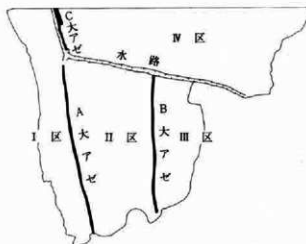
●●●第26図、図版16

(2) アゼの走行と区画

水田を区画するアゼには大アゼと小アゼの2種類があり、両者はその規模や走行のあり方の違いなどから区別される。

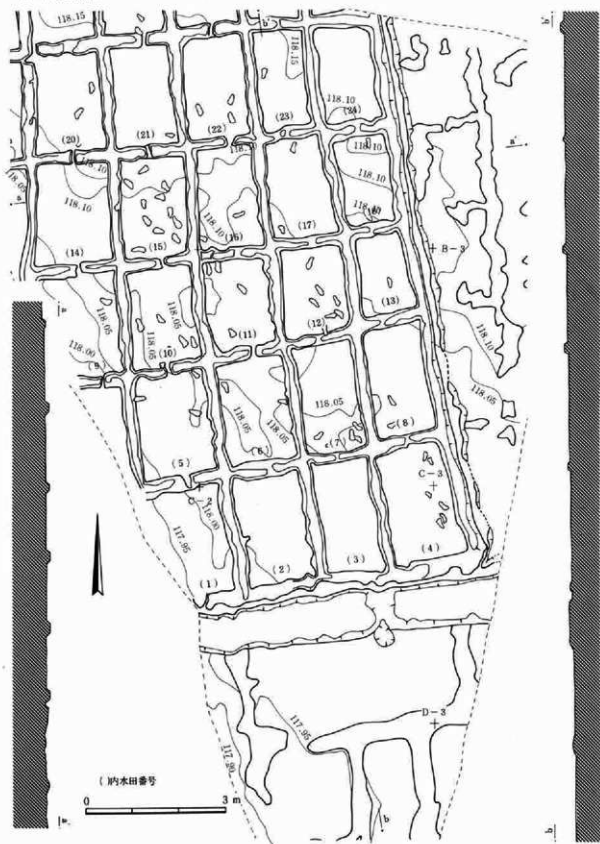
a 大アゼの走行と区画

アゼの規模 大アゼは中央部を南北に走るA・Bの2本と、水路に沿って南北に走るCの計3本が確認された。南調査区では東西に走る1本が確認されている。それぞれの大きさや形状は、Bは上幅10～25cm、下幅60～100cm、水田面との比高10～15cmで断面がカマボコ形を呈する。Aは幅60～100cmを計るが、高まりをほとんど持たず偏平化



第25図 大アゼによる区割り模式図

II 調査の内容



第26図 II期水田 (南調査区)

した状態となっている。A大アゼが高まりを持たないのは、上層のⅢ期水田の耕作による攪乱が本期水田址の上面にまで達して、アゼの盛土を削平しているためと考えられる。それはⅢ期水田の検出されない南調査区では、水田面を直接覆うFAの純層が見られるのに対し、水路南側ではほとんどFA層が検出されないことからもうかがえる。また同様にこの南側では小アゼによる区画もまったく不明瞭になっているが、これも上記理由によるものであろう。南調査区の東西大アゼは、その上幅が60～80cm、下幅が70～110cmと広く、水田面との比高が7～12cmである。

アゼの走行と区画 各大アゼの走行は若干蛇行、湾曲しているもののほぼ直線的であり、その走行方位はA大アゼがおおよそN12°W、B大アゼがN4°Wとなり、C大アゼはより西へ傾いてN17°Wとなる。またA・B両大アゼはほぼ並行関係にあるが、その走行間隔をみると、水路に突き当たる最北端では42.8mで、南末端では31mとなり、南方へゆくに従いその間隔が狭くなる傾向にある。

A～Cの3本の大アゼのうち、B大アゼはⅠ期水田の大アゼをトレースして同一位置に重複する関係にある。C・A大アゼは、Ⅰ期水田のa小アゼを意識していると思われるが、東側ではb小アゼの方向へずれている。また大アゼの走行と地形との関係を見ると、A・B・C大アゼともに等高線に対して直交するような走行を示す。

また南調査区の東西大アゼの走行方位は発掘範囲が狭いために明確ではないが、おおよそN84°Eとなろう。この東西大アゼの走行方位をA・B大アゼと比較した場合、前者はほぼ90°東に傾いた走行を示す。両者の地点は約100m離れ、その間は流水の侵食によって削り取られているために、具体的に両地点を関係づけることは困難であるが、こうした走行方位のあり方を見る限り、両地点の大アゼはほぼ直交するように走行していたことがうかがえる。

b 小アゼの走行と区画

アゼの規模 小アゼは東西および南北方向にほぼ規則的に走ることにより、格子目状の小区画を形成している。それぞれの小アゼの大きさや形状は、おおよそ上幅が10～25cm、下幅20～30cm、高さ3～5cmで、断面が台形を呈するものが多い。

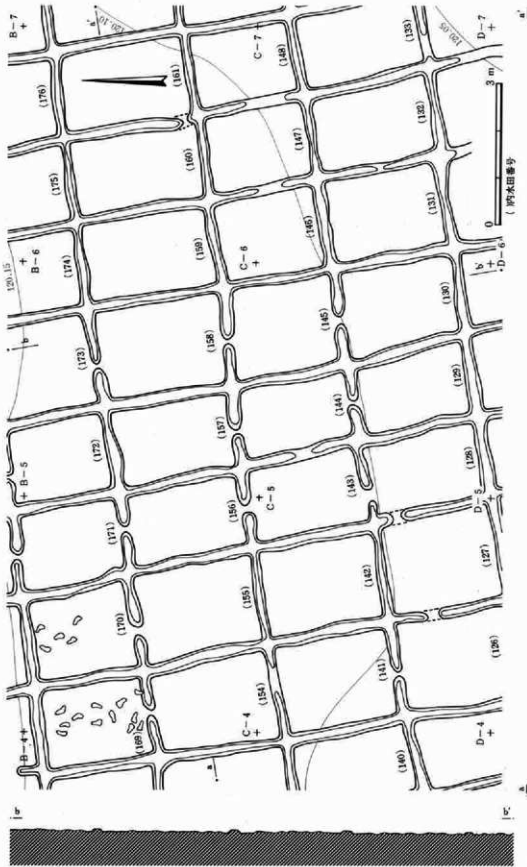
アゼの走行と区画 各小アゼの走行間隔はかなりの差異があるものの、南北方向は2.3～2.6m、東西方向では1.4～1.8mという間隔が多く見られ、これが一区画の平均的大きさとなっている。また各小アゼともに若干蛇行しているが、その走行方位は南北小アゼがN9～11°W、東西小アゼがN108～109°Wとなり、互いにほぼ直交に近い状態で走行している。南調査区の小アゼは保存状態が良く、その高さも10cm前後となっている。走行方位に関しては、南北小アゼがN5～8°W、東西小アゼがN96～100°Wとなり、両者は直交する状態にある。南調査区の小アゼの走行方位は、IV区に比べて約4°西へ傾いている。

南北方向に延びる小アゼは途中で切れることなく走行しているが、東西小アゼの場合、No23とNo197の間で途切れ、相互に連続してゆかない。この地点を境として、

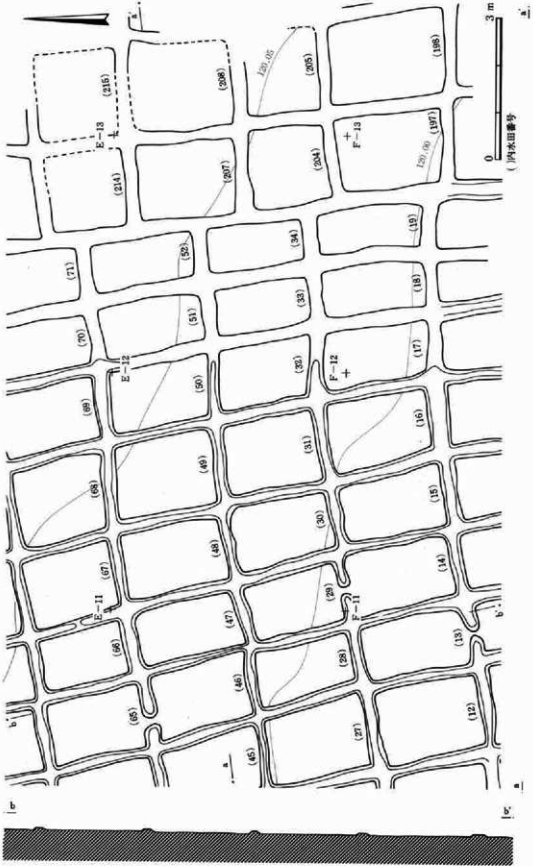
● 図版25-1
● ● 第10図

● ● ● 第28図

II 調査の内容



第27図 II 野水田・整然とした区画



第28図 II期水田・区画の変換部

II 調査の内容

その東と西とは小区画のあり方が変化しているが、地形的には両者間に大きな変化は認められない。これは小アゼの設置時における区切り＝作業単位を示すものと考えられる。つまり、小アゼの設置が連続した作業の中で行なわれず、いくつかの単位ごとに分割されて行なわれたことを物語るものであろう。またNo22やNo23の区画は、東西幅が1m前後と狭く、その西側の区画に比べかなり圧縮された区画となっている。こうした現象は、小アゼ設置時の作業単位としてある一定範囲に、西側より1.4～1.8mの間隔で南北小アゼを設置してきた結果、一区画とするには大きすぎる2.5mほどの間隔が生じたため、これを二分してNo22・23のような東西幅の狭い小区画としたものと推察される。

各小区画内は1～3cmの高低差があり、一区画内でも北側がやや高くなる。また隣接する小区画相互では、南北列の場合2～3cmの高低差があり、南方へと徐々に低くなるが、東西列はほとんどその差が見られない。こうした小区画内および小区画相互の比高のあり方は、原地形の勾配と一致しており、各小区画内において大きな土の移動等がなかったことも予測される。小アゼと大アゼとの走行関係は、I～III区で小アゼが検出されていないために不明な点が多い。南調査区では東西に延びる大アゼと小アゼが並行しており、これから考えると両者には何らかの相関性のあることがうかがえる。また小アゼを形成する土は、水田面の耕作土と同様に多量の浅間Cを含んでおり、小アゼは盛土によって形成されたものと考えられる。

(3) 水田の面積

小アゼに囲まれた小区画水田は、南調査区の24面を合わせて計319面が検出された。各小区画の面積は第5表と第6表に示した通りであるが、一見整然としている小区画も個別に見てゆくと、No6の1.22㎡といった小さなものからNo109の5.41㎡という大きなものまで様々な大きさが見られる。またいくつかの地点において、同じ大きさのものが比較的まとまりをもつ傾向がある。例えばNo12～20の南北列やNo197・198の南北列あるいは第26図、第27図といった箇所では、類似した形状、面積をもつ小区画が集中している。全体的には第27図に見られる区画が数量的に多く、その大きさはアゼの中心間の距離でみた場合、長辺2.3～2.6m×短辺1.4～1.8m、面積3.5～4.5㎡となる。南調査区でもほぼ同様の大きさとなる。

●第28図

第5表 日期水田の面積一覧

(単位: m)

番号	面積	長 辺	短 辺	補正面積	番号	面積	長 辺	短 辺	補正面積
1	3.09	2.0 (2.3)	1.6 (1.8)	4.14	9	1.94	1.5 (1.9)	1.3 (1.6)	3.04
2	2.30	1.8 (2.0)	1.2 (1.7)	3.40	10	1.83	1.7 (2.0)	1.2 (1.5)	3.00
3	1.70	1.7 ()	1.0 ()		11	2.02	2.0 (2.2)	1.1 (1.4)	3.08
4	1.90	1.7 ()	1.1 ()		12	3.42	2.2 (2.4)	1.6 (1.9)	4.56
5	1.54	1.5 ()	1.0 ()		13	2.59	2.2 (2.4)	1.2 (1.3)	3.12
6	1.22	1.2 ()	1.0 ()		14	2.83	2.2 (2.4)	1.3 (1.5)	3.60
7	2.08	1.8 (2.5)	1.2 (1.5)	3.75	15	2.72	2.2 (2.5)	1.2 (1.5)	3.75
8	1.84	1.5 (1.9)	1.2 (1.5)	2.93	16	2.96	2.2 (2.5)	1.4 (1.7)	4.34

3 両道日期水田

番号	面積	長 辺	短 辺	補正面積	番号	面積	長 辺	短 辺	補正面積
17	2.50	2.1 (2.5)	1.2 (1.4)	3.50	71	2.38	2.1 (2.4)	1.2 (1.4)	3.41
18	2.16	2.2 (2.5)	1.0 (1.3)	3.19	72	3.55	1.9 (2.2)	1.9 (2.0)	4.51
19	1.95	2.2 (2.5)	0.9 (1.2)	3.06	73	3.33	1.9 (2.1)	1.8 (2.1)	4.41
20	2.34	2.0 (2.2)	1.2 (1.4)	3.19	74	2.99	1.9 (2.2)	1.6 (1.8)	3.98
21	3.46	2.0 (2.3)	1.7 (2.0)	4.50	75	3.50	2.2 (2.5)	1.6 (1.8)	4.53
22	2.48	2.0 (2.3)	1.3 (1.6)	3.76	76	3.76	2.2 (2.4)	1.7 (1.9)	4.56
23	3.71	2.1 (2.4)	1.8 (2.0)	4.80	77	2.75	2.1 (2.4)	1.3 (1.6)	3.92
24	2.22	2.1 (2.4)	1.1 (1.4)	3.31	78	3.15	2.3 (2.5)	1.5 (1.5)	3.75
25	3.26	2.5 (2.7)	1.3 (1.6)	4.46	79	3.12	2.3 (2.6)	1.4 (1.6)	4.21
26	2.62	2.3 (2.6)	1.2 (1.4)	3.77	80	3.07	2.4 (2.5)	1.3 (1.6)	4.08
27	3.20	2.2 (2.4)	1.5 (1.8)	4.20	81	2.96	2.4 (2.6)	1.2 (1.5)	3.90
28	2.22	2.1 (2.3)	1.0 (1.4)	3.29	82	2.78	2.4 (2.6)	1.2 (1.5)	3.84
29	2.37	2.0 (2.3)	1.2 (1.5)	3.57	83	3.15	2.4 (2.6)	1.3 (1.6)	4.16
30	2.70	2.1 (2.3)	1.3 (1.5)	3.38	84	2.27	2.0 (2.2)	1.1 (1.5)	3.41
31	2.88	2.0 (2.2)	1.5 (1.8)	3.85	85	2.80	2.0 (2.3)	1.4 (1.6)	3.80
32	2.64	1.9 (2.3)	1.3 (1.5)	3.34	86	2.66	2.1 (2.3)	1.3 (1.5)	3.53
33	1.97	2.0 (2.4)	1.0 (1.3)	3.17	87	2.56	2.2 (2.4)	1.1 (1.4)	3.48
34	1.86	2.1 (2.3)	1.0 (1.2)	2.82	88	3.09	2.1 (2.4)	1.5 (1.8)	4.32
35	2.29	1.5 (1.9)	1.5 (1.8)	3.51	89	3.28	2.1 (2.4)	1.6 (1.7)	4.20
36	2.51	1.6 (2.0)	1.6 (1.9)	3.80	90	2.82	2.1 (2.4)	1.4 (1.6)	3.96
37	3.06	1.9 (2.0)	1.6 (1.8)	3.70	91	2.48	2.1 (2.4)	1.1 (1.3)	3.24
38	2.00	1.7 (2.0)	1.1 (1.3)	2.70	92	3.58	2.1 (2.2)	1.8 (2.1)	4.61
39	2.70	1.7 (2.0)	1.6 (1.9)	3.90	93	4.19	2.1 (2.3)	2.0 (2.2)	5.18
40	2.72	1.8 (2.1)	1.5 (1.7)	3.66	94	3.12	2.0 (2.2)	1.5 (1.9)	4.18
41	3.12	2.2 (2.4)	1.5 (1.6)	3.88	95	3.49	2.1 (2.2)	1.6 (1.9)	4.28
42	2.48	2.1 (2.4)	1.2 (1.4)	3.45	96	2.99	2.1 (2.3)	1.4 (1.7)	4.00
43	2.35	1.9 (2.3)	1.3 (1.6)	3.71	97	4.08	2.2 (2.4)	1.9 (2.2)	5.39
44	2.11	1.8 (2.1)	1.2 (1.5)	3.15	98	3.18	2.0 (2.4)	1.5 (1.8)	4.35
45	2.72	2.0 (2.3)	1.3 (1.5)	3.49	99	3.17	2.2 (2.5)	1.5 (1.7)	4.25
46	2.72	2.1 (2.4)	1.3 (1.5)	3.64	100	3.14	2.4 (2.6)	1.3 (1.5)	3.95
47	2.50	2.2 (2.4)	1.2 (1.4)	3.43	101	3.61	2.3 (2.6)	1.6 (1.7)	4.46
48	2.99	2.2 (2.4)	1.4 (1.7)	4.17	102	2.78	2.3 (2.5)	1.3 (1.5)	3.70
49	3.28	2.1 (2.4)	1.5 (1.8)	4.44	103	2.91	2.3 (2.6)	1.3 (1.5)	4.03
50	2.74	2.1 (2.4)	1.3 (1.4)	3.48	104	2.85	2.4 (2.6)	1.2 (1.5)	3.84
51	2.34	2.2 (2.4)	1.1 (1.3)	3.19	105	2.88	2.4 (2.6)	1.1 (1.4)	3.77
52	2.13	2.2 (2.5)	1.0 (1.3)	3.38	106	3.74	2.5 (2.6)	1.2 (1.4)	3.71
53	3.10	2.2 (2.3)	1.4 (1.7)	4.00	107	3.49	2.5 (2.7)	1.5 (1.8)	4.86
54	3.36	2.3 (2.4)	1.5 (1.8)	4.41	108	3.64	2.3 (2.6)	1.5 (1.7)	4.55
55	3.76	2.3 (2.5)	1.7 (1.9)	4.88	109	5.41	2.4 (2.6)	2.2 (2.4)	6.36
56	3.33	2.4 (2.7)	1.4 (1.7)	4.64	110	4.26	2.3 (2.4)	1.9 (2.1)	5.15
57	3.34	2.5 (2.7)	1.3 (1.4)	3.85	111	4.98	2.4 (2.6)	2.1 (2.3)	6.10
58	3.60	2.4 (2.7)	1.4 (1.8)	4.95	112	3.92	2.6 (2.8)	1.5 (1.8)	4.99
59	3.01	2.4 (2.6)	1.7 (1.6)	4.24	113	4.05	2.5 (2.8)	1.6 (1.7)	4.76
60	2.88	2.2 (2.5)	1.2 (1.5)	3.80	114	3.79	2.6 (2.8)	1.5 (1.8)	5.04
61	2.32	2.1 (2.3)	1.2 (1.4)	3.34	115	4.91	2.5 (2.7)	2.0 (2.1)	5.64
62	2.45	1.9 (2.2)	1.2 (1.6)	3.60	116	3.96	2.6 (2.8)	1.6 (1.9)	5.27
63	2.82	2.2 (2.5)	1.3 (1.5)	3.80	117	3.47	2.4 (2.7)	1.4 (1.7)	4.59
64	2.64	2.1 (2.3)	1.3 (1.6)	3.68	118	2.94	2.2 (2.5)	1.3 (1.6)	4.00
65	2.56	2.0 (2.2)	1.3 (1.5)	3.41	119	2.10	2.2 (2.5)	1.6 (1.8)	4.41
66	2.00	1.8 (2.1)	1.1 (1.4)	2.94	120	1.89	2.2 (2.4)	1.1 (1.3)	3.06
67	2.75	1.9 (2.2)	1.5 (1.7)	3.76	121	2.70	2.2 (2.5)	1.2 (1.5)	3.80
68	3.07	1.9 (2.2)	1.7 (1.8)	4.07	122	2.02	1.7 (2.1)	1.2 (1.3)	2.84
69	2.70	2.0 (2.3)	1.3 (1.6)	3.68	123	2.61	1.9 (2.3)	1.4 (1.5)	3.49
70	2.19	2.0 (2.3)	1.1 (1.3)	2.99	124	2.94	2.4 (2.7)	1.3 (1.5)	4.13

II 調査の内容

番号	面積	長	辺	短	辺	補正面積	番号	面積	長	辺	短	辺	補正面積
125	3.38	2.5	(2.7)	1.3	(1.4)	3.85	179	4.03	2.4	(2.9)	1.8	(2.0)	5.80
126	4.58	2.5	(2.7)	1.9	(2.1)	5.78	180	3.53	2.6	(2.9)	1.4	(1.6)	4.79
127	4.64	2.4	(2.6)	2.0	(2.2)	5.83	181	4.05	2.7	(2.9)	1.5	(1.9)	5.56
128	3.50	2.4	(2.7)	1.5	(1.7)	4.73	182	2.58	2.0	()	1.3	()	
129	3.33	2.4	(2.7)	1.4	(1.6)	4.37	183	2.02	1.5	()	1.4	()	
130	4.02	2.4	(2.7)	1.7	(2.0)	5.43	184	1.68	1.6	()	1.0	()	
131	4.07	2.3	(2.7)	1.8	(1.9)	5.17	185	2.19	1.8	()	1.2	()	
132	3.86	2.5	(2.7)	1.6	(1.9)	4.90	186	2.70	1.8	()	1.5	()	
133	3.73	2.5	(2.7)	1.5	(1.8)	4.64	187	1.87	1.8	()	1.1	()	
134	3.60	2.6	(2.7)	1.5	(1.7)	4.59	188	2.24	1.9	()	1.2	()	
135	4.24	2.5	(2.7)	1.7	(1.8)	5.00	189	2.18	1.8	()	1.2	()	
136	3.04	2.5	(2.7)	1.3	(1.4)	3.78	190	3.55	2.0	()	1.8	()	
137	2.77	2.4	(2.7)	1.2	(1.5)	4.05	191	2.26	2.0	()	1.2	()	
138	3.47	2.8	(3.0)	1.3	(1.7)	5.10	192	2.75	2.0	()	1.4	()	
139	3.20	2.7	(2.9)	1.2	(1.4)	4.21	193	2.88	2.1	()	1.4	()	
140	3.42	2.5	(2.7)	1.5	(1.6)	4.46	194	2.43	2.1	()	1.2	()	
141	3.60	2.3	(2.6)	1.8	(2.1)	5.43	195	2.19	2.1	()	1.0	()	
142	4.30	2.5	(2.6)	1.8	(2.1)	5.57	196	2.40	1.9	()	1.3	()	
143	3.58	2.3	(2.6)	1.5	(1.8)	4.68	197	3.49	2.2	(2.5)	1.6	(2.0)	5.00
144	3.18	2.3	(2.6)	1.3	(1.6)	4.21	198	4.35	2.4	(2.6)	1.8	(2.1)	5.46
145	3.28	2.2	(2.5)	1.9	(2.1)	5.25	199	2.96	2.3	()	1.3	()	
146	3.63	2.1	(2.4)	1.7	(1.9)	4.68	200	2.06	2.6	()	0.9	()	
147	3.36	2.1	(2.4)	1.6	(1.8)	4.35	201	3.12	2.3	()	1.4	()	
148	3.12	2.1	(2.4)	1.5	(1.8)	4.23	202	3.39	2.3	()	1.7	()	
149	3.10	2.1	(2.3)	1.5	(1.7)	4.00	203	2.75	2.4	()	1.2	()	
150	3.44	2.0	(2.3)	1.7	(1.9)	4.37	204	2.75	1.6	(2.0)	1.1	(1.9)	3.90
151	2.78	2.1	(2.3)	1.5	(1.5)	3.53	205	2.46	1.8	()	1.4	()	
152	2.50	2.1	(2.3)	1.2	(1.4)	3.29	206	2.45	2.0	()	1.2	()	
153	2.51	2.1	(2.4)	1.2	(1.5)	3.60	207	3.36	2.1	(2.4)	1.6	(2.0)	4.80
154	4.34	2.5	(2.6)	1.9	(1.9)	5.04	208	4.00	2.2	(2.4)	1.8	(2.1)	5.16
155	4.51	2.5	(2.6)	1.8	(2.1)	5.43	209	3.20	2.1	()	1.6	()	
156	3.49	2.4	(2.7)	1.5	(1.8)	4.86	210	3.49	2.2	()	1.6	()	
157	3.76	2.5	(2.7)	1.6	(1.8)	4.95	211	2.69	2.2	()	1.3	()	
158	4.96	2.7	(2.8)	1.9	(2.1)	5.99	212	3.81	1.7	()	1.3	()	
159	4.40	2.7	(2.9)	1.7	(1.9)	5.61	213	2.40	1.6	()	1.5	()	
160	4.16	2.7	(2.9)	1.5	(1.8)	5.37	214	4.30	1.7	(2.0)	1.6	(1.8)	3.70
161	4.35	2.7	(2.8)	1.6	(1.9)	5.42	215	3.12	1.8	(2.2)	1.7	(1.9)	4.18
162	3.63	2.6	(2.7)	1.4	(1.7)	4.54	216	2.50	1.8	()	1.4	()	
163	4.14	2.5	(2.7)	1.7	(1.9)	5.13	217	1.68	1.6	()	1.1	()	
164	3.44	2.4	(2.6)	1.5	(1.6)	4.29	218	2.30	1.6	()	1.4	()	
165	2.43	2.1	(2.5)	1.1	(1.2)	3.13	219	2.27	1.6	()	1.4	()	
166	2.64	2.1	(2.4)	1.2	(1.5)	3.68	220	1.71	1.4	()	1.3	()	
167	2.50	2.2	(2.3)	1.2	(1.5)	3.53	221	2.35	1.5	()	1.5	()	
168	2.48	2.0	(2.3)	1.3	(1.5)	3.53	222	2.24	1.7	()	1.3	()	
169	3.58	2.1	(2.4)	1.6	(1.7)	4.20	223	2.06	1.7	()	1.3	()	
170	3.50	2.1	(2.4)	1.8	(2.0)	4.80	224	2.21	1.5	()	1.5	()	
171	3.36	2.0	(2.4)	1.6	(1.8)	4.35	225	1.39	1.4	()	1.0	()	
172	3.22	2.0	(2.3)	1.6	(1.8)	4.14	226	2.59	1.7	()	1.6	()	
173	3.84	2.0	(2.2)	1.9	(2.2)	4.84	227	2.34	1.5	()	1.5	()	
174	3.26	2.1	(2.3)	1.6	(1.8)	4.16	228	2.19	1.6	()	1.4	()	
175	3.36	2.1	(2.3)	1.6	(1.8)	4.14	229	2.32	1.6	()	1.5	()	
176	3.66	2.1	(2.3)	1.7	(2.0)	4.70	230	1.76	1.6	()	1.1	()	
177	3.02	2.4	(2.4)	1.3	(1.6)	3.84	231	2.42	1.8	()	1.4	()	
178	4.75	2.7	(2.9)	1.9	(2.1)	6.09	232	2.27	1.5	()	1.5	()	

3 同道Ⅱ期水田

番号	面積	長 辺	短 辺	補正面積	番号	面積	長 辺	短 辺	補正面積
233	2.02	1.5 ()	1.4 ()		265	4.06	2.5 (2.8)	1.7 (2.0)	5.60
234	1.42	1.3 ()	1.2 ()		266	2.88	1.9 (2.2)	1.6 (1.6)	3.55
235	2.94	1.9 ()	1.6 ()		267	2.51	1.9 (2.2)	1.3 (1.6)	3.44
236	2.10	1.6 ()	1.3 ()		268	2.22	1.8 (2.2)	1.3 (1.7)	3.66
237	2.11	1.9 ()	1.2 ()		269	2.08	1.9 (2.1)	1.1 (1.2)	2.63
238	1.94	1.4 ()	1.4 ()		270	2.56	1.8 (2.1)	1.5 (1.7)	3.57
239	2.14	1.6 ()	1.4 ()		271	2.72	1.8 (2.2)	1.5 (1.9)	4.19
240	3.39	1.9 ()	1.7 ()		272	2.56	1.9 (2.2)	1.3 (1.6)	3.47
241	2.13	2.0 (2.2)	1.1 (1.4)	3.15	273	2.42	2.0 (2.3)	1.2 (1.5)	3.49
242	3.25	2.0 (2.3)	1.7 (1.8)	4.14	274	3.18	2.1 (2.4)	1.5 (1.9)	4.56
243	3.06	2.0 (2.3)	1.4 (1.8)	4.23	275	2.56	2.0 (2.5)	1.2 (1.5)	3.88
244	2.91	2.2 (2.3)	1.4 (1.7)	4.00	276	2.85	2.2 (2.5)	1.3 (1.7)	4.34
245	3.39	2.1 (2.5)	1.4 (1.8)	4.50	277	2.70	2.1 (2.4)	1.3 (1.5)	3.72
246	2.32	2.3 (2.5)	1.1 (1.4)	3.50	278	2.11	2.4 (2.5)	0.9 (1.2)	3.06
247	3.09	2.0 (2.5)	1.6 (1.7)	4.29	279	3.44	2.3 (2.6)	1.5 (1.8)	4.68
248	3.02	2.2 (2.5)	1.4 (1.7)	4.25	280	3.78	2.3 (2.6)	1.7 (2.0)	5.20
249	3.30	2.3 (2.5)	1.5 (1.8)	4.50	281	2.70	2.2 (2.6)	1.2 (1.6)	4.24
250	2.24	2.1 (2.5)	1.1 (1.4)	3.50	282	2.98	2.3 (2.6)	1.4 (1.5)	4.03
251	3.36	2.0 (2.3)	1.6 (2.0)	4.60	283	2.93	2.3 (2.6)	1.3 (1.5)	3.98
252	3.20	1.9 (2.3)	1.6 (1.9)	4.49	284	2.69	2.5 (2.8)	1.1 (1.5)	4.28
253	2.45	1.9 (2.3)	1.2 (1.6)	3.71	285	2.62	2.5 (2.8)	1.1 (1.4)	3.85
254	2.34	2.0 (2.4)	1.2 (1.5)	3.53	286	3.58	2.4 (2.8)	1.5 (1.8)	5.18
255	3.41	2.0 (2.4)	1.7 (1.9)	4.58	287	2.51	1.7 (2.1)	1.5 (1.7)	3.68
256	3.04	2.1 (2.4)	1.5 (1.7)	4.20	288	3.84	2.1 (2.4)	1.8 (2.0)	4.92
257	2.78	2.1 (2.4)	1.3 (1.7)	4.17	289	2.66	2.2 (2.4)	1.2 (1.5)	3.72
258	2.64	2.0 (2.3)	1.3 (1.7)	4.00	290	2.56	1.8 (2.0)	1.5 (1.7)	3.50
259	2.61	2.1 (2.3)	1.3 (1.4)	3.17	291	3.10	1.8 (2.0)	1.7 (2.0)	4.00
260	3.18	2.3 (2.5)	1.4 (1.6)	4.13	292	2.37	1.7 (1.9)	1.4 (1.7)	3.32
261	3.42	2.3 (2.5)	1.5 (1.8)	4.63	293	2.56	1.9 (2.2)	1.3 (1.6)	3.60
262	3.01	2.2 (2.6)	1.4 (1.7)	4.46	294	3.26	2.0 (2.2)	1.7 (1.9)	4.29
263	2.78	2.3 (2.5)	1.2 (1.5)	3.75	295	2.86	2.0 (2.2)	1.5 (1.7)	3.85
264	3.79	2.3 (2.7)	1.6 (1.9)	5.23					

第6表 南調査区Ⅱ期水田の面積一覧

(単位: m)

番号	面積	長 辺	短 辺	補正面積	番号	面積	長 辺	短 辺	補正面積
1	3.46	2.2 (2.5)	1.6 (1.8)	4.71	13	1.76	1.7 (1.9)	1.1 (1.4)	2.61
2	3.12	2.2 (2.6)	1.5 (1.7)	4.42	14	3.33	2.1 (2.3)	1.6 (1.8)	4.27
3	2.78	2.3 (2.6)	1.2 (1.5)	3.93	15	2.88	2.1 (2.3)	1.4 (1.6)	3.74
4	3.47	2.3 (2.7)	1.6 (1.7)	4.59	16	2.67	2.1 (2.3)	1.3 (1.6)	3.62
5	3.26	2.1 (2.4)	1.5 (1.8)	4.32	17	2.69	2.1 (2.3)	1.3 (1.5)	3.54
6	3.10	2.2 (2.5)	1.4 (1.7)	4.08	18	1.94	1.8 (2.2)	1.1 (1.4)	2.94
7	2.83	2.3 (2.5)	1.2 (1.6)	3.93	19	2.97	2.1 (2.3)	1.4 (1.7)	3.91
8	2.80	2.3 (2.6)	1.2 (1.5)	3.79	20	2.93	2.1 (2.3)	1.4 (1.7)	3.94
9	3.78	2.1 (2.4)	1.8 (2.0)	4.80	21	2.66	2.1 (2.4)	1.2 (1.7)	3.96
10	2.63	2.0 (2.3)	1.4 (1.7)	3.75	22	2.77	2.1 (2.4)	1.3 (1.5)	3.62
11	2.48	1.8 (2.1)	1.4 (1.6)	3.51	23	2.14	2.0 (2.3)	1.0 (1.3)	3.14
12	2.48	1.8 (2.0)	1.4 (1.6)	3.28	24	2.24	2.0 (2.4)	1.2 (1.4)	3.43

II 調査の内容

(4) 取配水方法

a 灌漑水路

水路の規模 II期水田に付属する灌漑施設としての水路は、中央部北側で検出されたL字形の水路がそれに該当する。この水路がFAによって埋没する時点の規模は、上幅80～200cm、底面幅25～65cm、深さ30～50cmであり、上下流両端の底面標高差36cm、平均勾配0.4%のきわめてゆるやかな傾斜で東流している。L字形コーナーより東へ延びる部分の水路は、標高119.95mの等高線に沿うように走行している。水路内にはFAの純層が最高10cmの厚さでレンズ状の堆積をしており、その下部には水性堆積の砂礫層がある。

●第30図、図版20

この水路は、掘削当初においてはL字形コーナーより西側にも延びており、この時点では上幅150～240cm、底面幅20～90cm、深さ60～90cm、上下流両端の底面標高差47cm、平均勾配0.4%で、FA降下による廃絶時の規模をはるかに上回っている。その後、FA降下直前までの間に西側部分は流水による砂礫などの自然堆積土で完全に埋没してしまい、東側部分でも過半部の深さまで土砂が堆積する状況となる。堆積土層の断面を見る限り、この埋没過程においては再掘削されたような形跡はなく、少なくともFA降下時に至ると西側水路が当初もっていた水路としての機能は完全に失われている。水路の開削時期については、第30図a-a'の土層断面からみて掘り込み面が浅間C直上にあることや、底面より石田川式土器の破片が出土していることなどから、浅間C降下によってI期水田が埋没した後、長い時間経過をまたずに掘削されたことを示している。またb-b'の断面では、FAの下に間層を挟んで有馬火山灰層が確認されている。

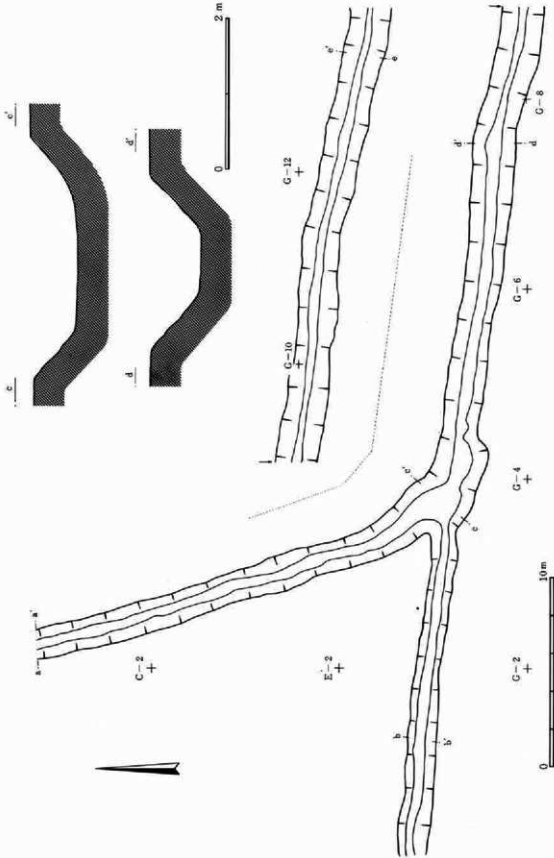
●第28図、図版19-1

L字形水路からの給水範囲は、この水路コーナーより南側のI・II・III区が想定される。IV区はこの水路からの取入口が検出されていないことから、北側の未発掘区域に取入口が存在するか、あるいは別の水利施設が存在するものと思われる。またI区の水路コーナーより北側でも、IV区と同様のことが予測される。

堰状遺構 また水路に付属する施設として、堰状の遺構が検出されている。第31図q-q'、r-r'がその断面図で、径20cmほどの河原石が盛土中に1箇埋置されていた。この堰状の盛土は、その頂点の高さが水路底面から10～15cm(標高119.66m)あり、これを堰と考えるには少なくとも上記取入口のうち最東端に位置するホ取入口(標高119.85m)よりも高くなくてはならないし、あるいはB大アゼの近辺より取水したとしても、その標高119.82mよりも高くなくてはその機能を発揮し得ない。しかし、自然条件的に遺存が不可能な杭や板材等の木製構造物の存在をこの上に仮定した場合、堰としての可能性も残っている。

●第31図

水路からの取水 L字形水路から水田への取水は、FAによる埋没直前では第31図に示したように水路コーナーの南側に設置された幅2mの大きな取入口と、4.4～7.6mの間隔で設けられたイ～ホの5箇の小さな取入口と思われる箇所から行な



第29図 II期水田・開削時の水路

II 調査の内容

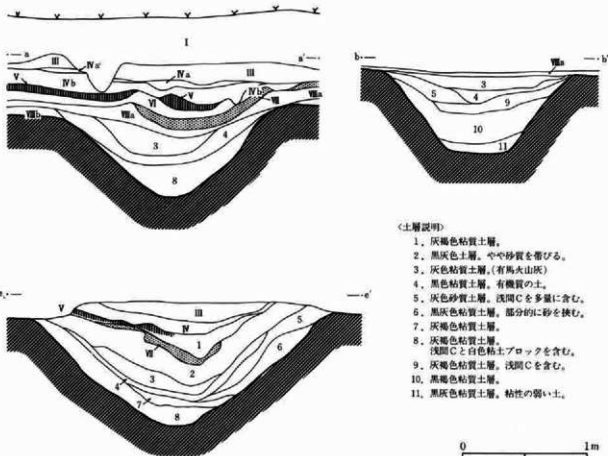
われている。水路コーナーの北側に幅80cmの凹みが張り出しているが、これはIV区のC大アゼの東隣を流下してきた水を、この水路に落すための排水口と考えられる。IV区では、水路に隣接する部分のアゼの遺存状況が悪く、その他の排水口は判明していない。以上のことから、この水路は取排水の両機能を有していることが判る。

b 小区画水田の配水

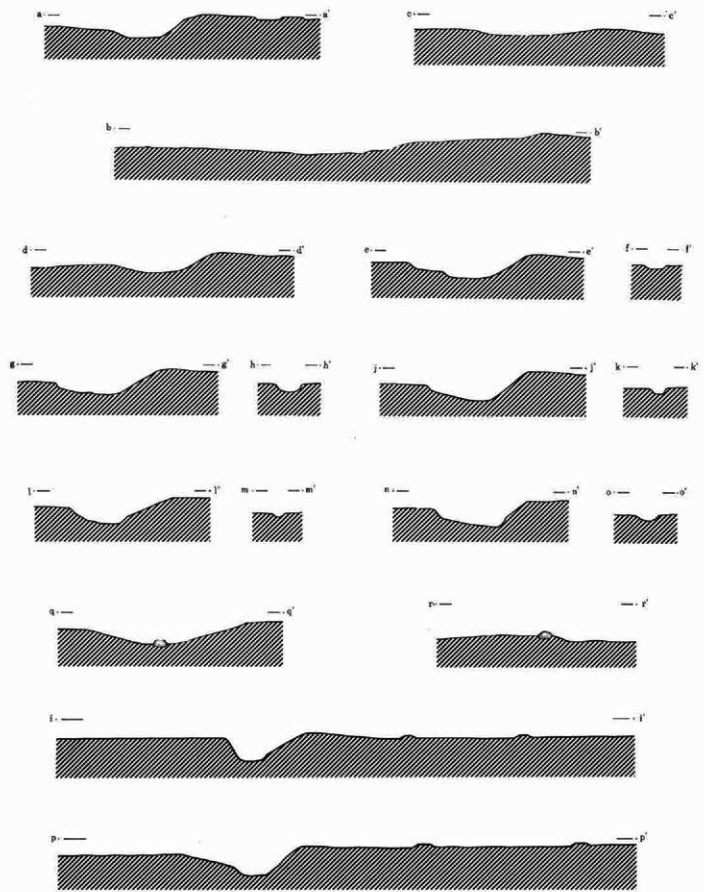
小区画内の配水方法は、I～III区では小区画そのものが消滅しているために判明しないが、IV区の場合、東西方向の小アゼを少し削り取って水口を作り、この水口を通じて各南北列ごとに北から南へ向い順次田越しに懸け流して配水している。

南調査区ではL字形水路に相当するような水路は検出されていないが、小区画内の配水はIV区と全く同様の方法をとっている。No 1～4に北方から懸け流されてきた用水は、その南側の大アゼとの間につくられている幅10～20cmの小溝に集められ、更に大アゼ上の水口より南側へと配水される。

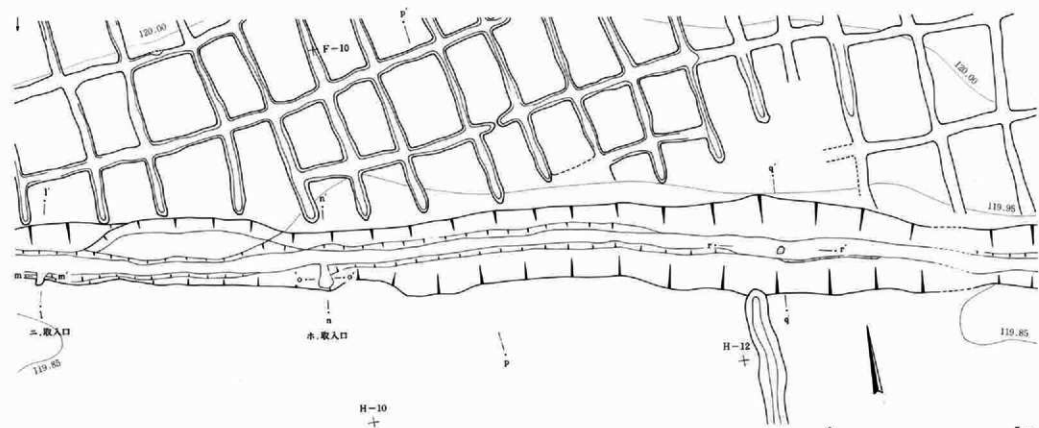
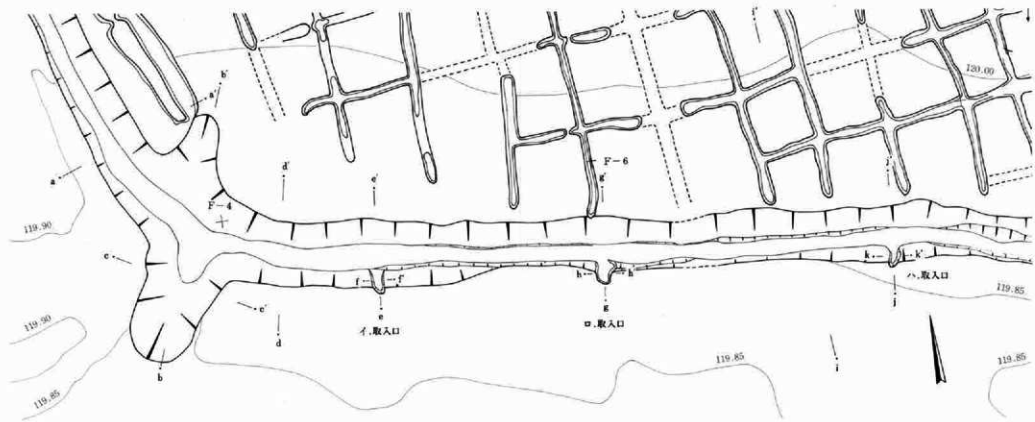
小アゼ上の水口を遺存良好な南調査区で観察すると、小アゼを幅約10～20cm、深さ約3～4cm削り取って作られている。これは水田面からの高さが5～6cmあり、小アゼで囲まれた小区画内で湛水可能な構造を有している。また水口は、いずれも東西アゼ上に設置されるもので、極めて計画的な配水方法を取っていることが判る。



第30図 II期水田水路・埋没土層の断面



0 2 m



第31図 二期水田の水路 (上下つなぎ)

0 5 m

(5) 足 跡

人間の足跡は、水田面やアゼ上に多数認められ、その中には足の指先まで一本づつ数えられるものも見られる。しかしその多くは形状が崩れて不明瞭であるために凹凸を残すだけになっており、足跡の走行が複雑に入り乱れて一定の方向をとらないことも原因となって、個々の足跡の走行を復元することは困難であった。

南調査区はFA層の堆積が厚く足跡の保存も良好であり、判別可能なものは第26図に記入した。また明瞭な足跡は水田面下に2~3cm程のくぼみをもつが、それらの走行を復元するまでには至らなかった。また東側の小アゼが不明瞭な箇所では、水田面の凹凸が激しく荒れた状態を呈するが、これは水田面上で歩行が繰り返行なわれた結果生じたものと考えられる。

足跡の走行状況を見ると、主に大アゼ上に多数認められることから、大アゼが作業道としての役割をもっていたことがうかがえる。また小区画内にみられる足跡の方向は、小アゼの走行方向に規制されておらず、自由に歩き回っているような状況を呈している。その中には小アゼを無視して踏破している足跡も少なからず見られ、小アゼの役割を考える上で注目される。その他にL字形水路の底面上より多数の足跡が検出されているが、その歩行方向は水路の走行に即している。水田面上の耕作痕については、I期水田で検出された筋状の稲株痕などを含め、まったく検出されなかった。

(石坂 茂)

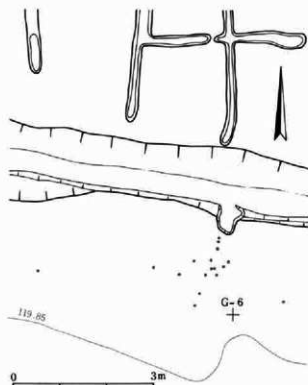
●第32図、図版21-1

●第35図、図版21-2

(6) 遺物出土状況と内容

II期水田に伴う遺物として土器が19個体出土した。それらの遺物の多くは水田耕作土面またはこの水田址に付属するL字形水路の埋土中よりの出土である。1の壺はG-6グリッドに位置し、水路より水田へ水を引き入れる水口周辺の耕作土表面に散在して出土したものである。7の坏は水路底面より約20cmほど上の地点より、五つの破片として出土した。この坏は水路中のFA堆積層より下から出土しているものであり、II期水田の時期に属するものと考えられる。破片としての出土であるが、集中して出土しており、接合によりほぼ1個体となった。

壺(第33図1、図版39-1) 水路より水田に水を引くための口水口付近の水田面に散在して出土した。口径15.4cm、底径8cm、器高21cm、最大径20.6cm、頸部径12cmである。色調は褐色。胎土



第32図 II期水田・水路付近の土器出土状況

II 調査の内容

は密で焼成は堅緻に行なわれている。底部外側の中央にくぼみが認められる。胴部は丸く、口縁部はくの字状に外反する。直立状に立ち上がる鋭い口唇部をもつ。胴部と口縁部の接合は、胴部の上に口縁部をのせて接合し、接合内面側は口縁部内側の粘土を胴部に折り返すように貼り付けて接合している。口縁部内側はその後ヘラ削りにより直線的に整形している。外側は胴部と口縁部との境が鋭角に整形されている。これは、接合後ヘラ削りにより胴部、口縁部を整形していることを示す。胴部表面はヘラ研磨により丁寧に整形されており、内側はナデにより整形されている。

壺（第33図2、図版39-8） II期水田の耕作面より出土した。小さな破片であり全体像をつかむことはできないが、壺の口縁部と考えられる。口径約22.2cmである。色調は赤褐色。胎土は密で、焼成は良好である。口縁部は複合口縁となる。

壺（第33図3・4、図版39-P・O） II期水田の耕作面より出土した。3は壺の肩部から頸部にかけての破片で、4も壺の破片と思われる。色調は淡い褐色。胎土は細砂を含み、焼成は堅緻である。3は頸部に横方向のハケ目が認められる。

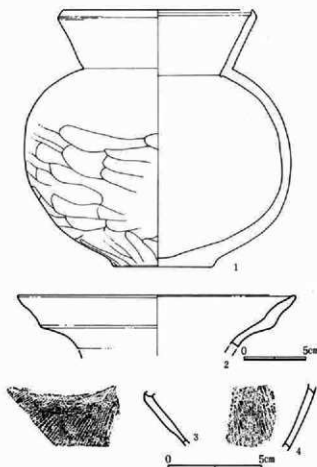
環（第34図5、図版39-a） 水路埋土より出土した内屈素縁口縁の環である。約 $\frac{1}{2}$ の残存。口径12cm。器高5cm。色調は赤褐色。胎土は密で、焼成は堅緻である。

口縁部内側に底部から口縁部に向かう左方向のヘラ磨きによる放射状の暗文が認められる。底部外面はヘラによる整形がなされている。

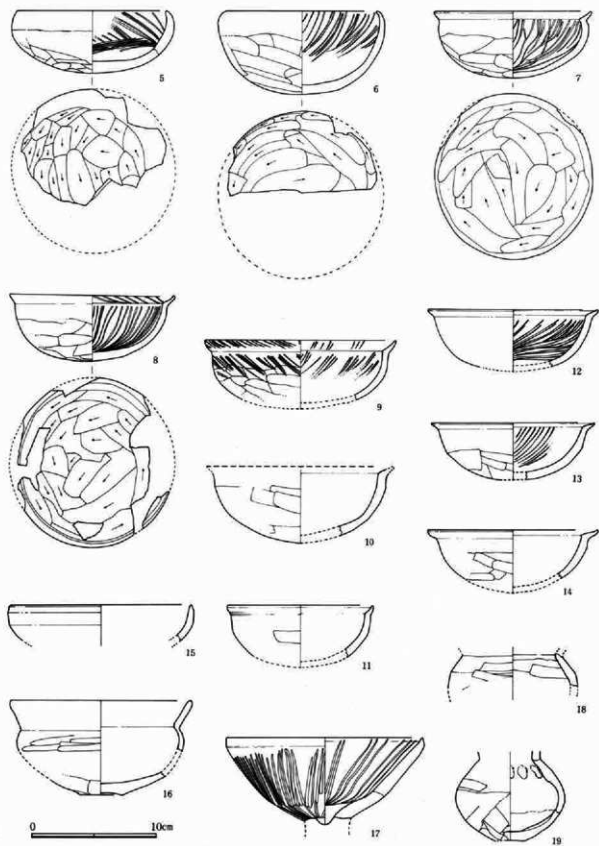
環（第34図6、図版39-b） 水路埋土より出土した内屈素縁口縁の環である。約 $\frac{1}{2}$ の残存。口径12.3cm。器高6.6cm。色調は赤褐色。胎土は密で、焼成は堅緻である。口縁部内面は横ナデ整形後右上方向に多くのヘラ磨きによる放射状暗文があり、口唇部内側は暗文の上からヘラ削り整形がみられる。

環（第34図7、図版39-c） 水路埋土中より出土した内斜口縁の環である。ほぼ完形で、口径12.8cm、器高5.4cmである。色調は褐色。胎土は密で、焼成は堅緻である。環内面底部から口縁部に向かうヘラ磨きによる放射状暗文が認められる。外面は右回転方向にヘラ削りによる整形が認められる。

環（第34図8、図版39-d） B大アゼ盛土中より出土した内斜口縁の環である。ほぼ完形。口径13.4cm。器高5.2cm。色調は赤褐色。胎土は密で、焼成は堅緻である。内面にヘラ



第33図 II期水田の出土遺物（土器）



第34図 II期水田の出土遺物(土器)

II 調査の内容

磨きによる放射状暗文。口縁部内面にも方向の異なる暗文が認められる。

環(第34図9、図版39-e) 水田耕作土中より出土した内斜口縁の坏である。約 $\frac{1}{2}$ が残存。口径15.4cm。器高5.4cm。色調は赤褐色。胎土は密で、焼成は堅緻である。内面に暗文、外面にヘラ研磨が認められ、ともに口縁部内外面までおよぶ。

環(第34図10、図版39-i) 水田耕作土面より出土した内斜口縁の坏である。約 $\frac{1}{2}$ が残存。口径約15.2cm。色調赤褐色。胎土密。焼成は堅緻である。

環(第34図11、図版39-f) 水路埋土中より出土した内斜口縁の坏である。約 $\frac{1}{2}$ が残存。口径12cm。色調は赤褐色。胎土は密で、焼成は堅緻である。口縁内外面に横ナデ、やや立ち上がる口唇部の端部はヘラ削りで調整されている。

環(第34図12) 水田耕作面より出土した内斜口縁の坏である。約 $\frac{1}{2}$ が残存。口径13.6cm。色調は赤褐色。胎土は密で、焼成は堅緻である。内面にヘラ研磨による放射状の暗文が認められる。9と同様に比較的口径の大きい坏である。

環(第34図13、図版39-h) 水路埋土中より出土した内斜口縁の坏である。約 $\frac{1}{2}$ が残存。口径約13.2cm。色調は赤褐色。胎土は密で、焼成は堅緻である。内面は横ナデの後で、右上りや斜方向のヘラ磨きによる暗文が認められる。

環(第34図14) 水田耕作面より出土した内斜口縁の坏である。約 $\frac{1}{2}$ が残存。口径約13.6cm。色調は赤褐色。胎土は密で、焼成は堅緻である。体部外面ヘラ削り。

環(第34図15、図版39-j) 水路埋土の下層より出土した内屈素縁口縁の坏の口縁部。約 $\frac{1}{2}$ が残存。口径約14.8cm。色調は赤褐色。胎土は密で、焼成は堅緻である。器面の磨減が激しい。口縁部内外面は横ナデ、外面体部はヘラ削りの調整。

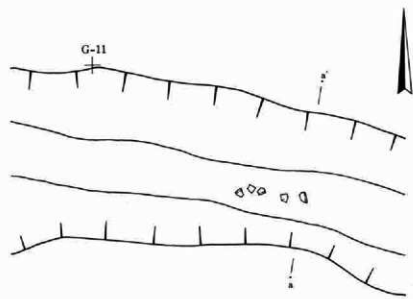
埴(第34図16、図版39-g) 水田耕作面より出土した埴の破片で、約 $\frac{1}{2}$ が残存。口径約14.6cm。色調は赤褐色。胎土は密で、焼成は堅緻である。口縁部が長くまた底部中央がやや凹状になり平底に近い形を呈している。口縁部、胴上半部の内外面および口唇部にヘラ磨き、内側胴下半部から底部にかけてヘラ磨き、外側胴下半部にヘラ削り調整が行なわれている。

高坏(第34図17、図版39-k) 水田耕作面および水路埋土中より出土した高坏の坏部である。坏部のみが残存。口径15.8cm。色調は褐色。胎土は密で、焼成は堅緻である。坏底部で脚部との接合面には「ホゾ」がそっくり残存している。この割れ方は坏部と脚部が別々に作られ、その後「ホゾ」を持つ坏底部を脚部の穴に差し込み、周囲を整形して接合したことを示す。坏の内外面ともヘラ磨きを施す。

埴(第34図18、図版39-m) 水田耕作面より出土した埴形の土器である。頸部から胴上部にかけて一部のみ残存している。色調は褐色。胎土は密で、焼成は堅緻。

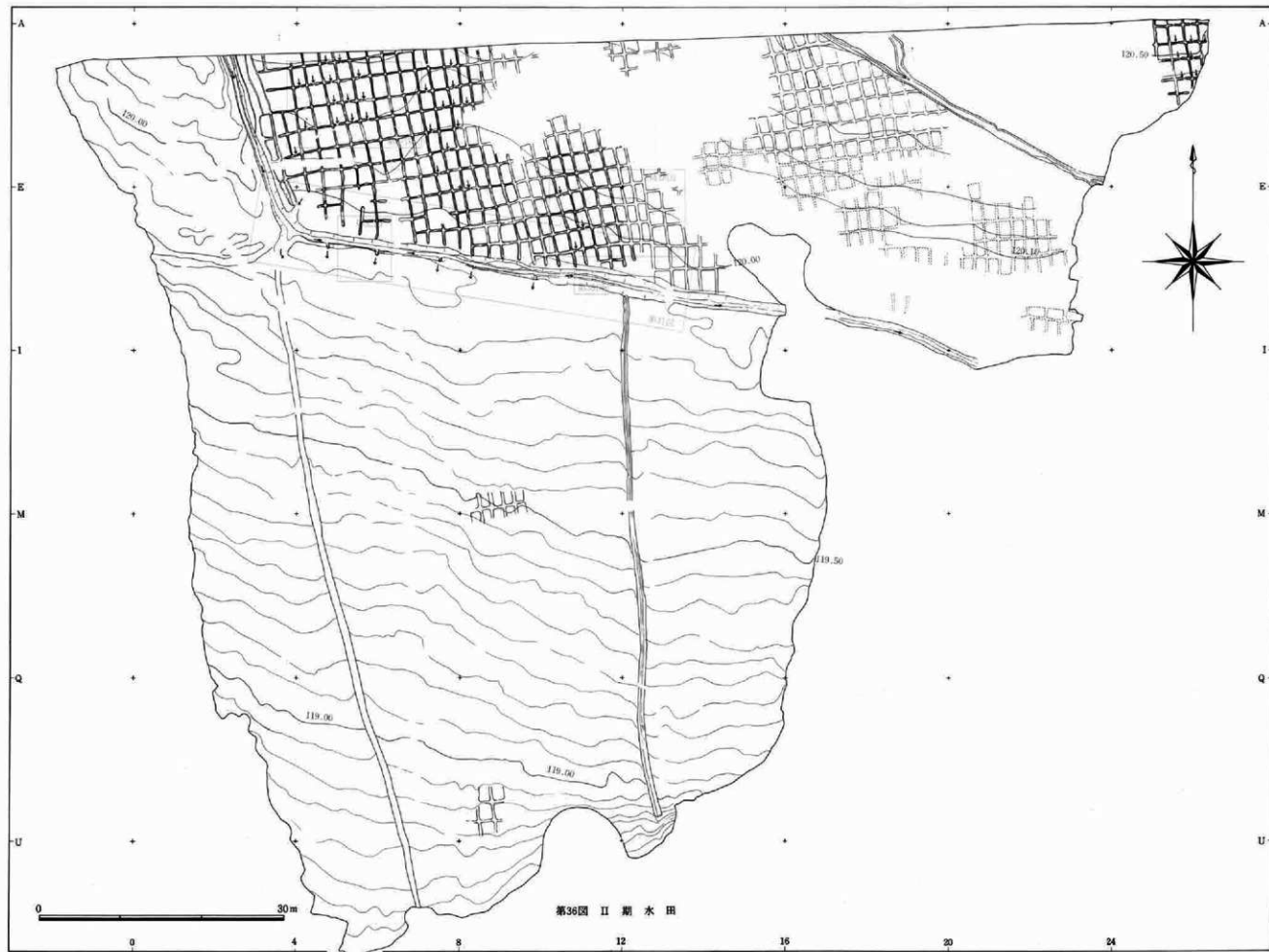
埴(第34図19、図版39-n) 水田耕作面より出土した埴形の土器である。口縁部欠損。最大径8.8cm。色調は淡褐色。胎土は1~3mmの砂粒を含む。焼成は堅緻である。外面は肩部以下ヘラ削り、内面肩部に指頭痕があり、底部中央はやや凹状になる。器面は塗彩されている。

(中沢 悟)



0 2m

第35図 II期水田・水路中の土器出土状況



第36図 II期水田

4 同道Ⅲ期水田

(1) 水田の地形

Ⅲ期水田はⅡ期水田と全く同様の小区画水田で、免掘総面積の約%にあたる6,200㎡にわたって検出された。この面積はⅠ・Ⅱ期水田に比べ約%減少しており、中央部のL字形水路の北側には水田址は存在していない。南調査区では、FPF-1の上面の土が削られており本期水田址は確認できなかった。

●●第49図、付図Ⅲ

水田面は北西隅が最高位の標高120.2mで、南端部はそれよりも1.5m低い標高118.7mとなる。全体的な地形は北東から南西へ向って傾斜しており、その勾配は1.4%である。また大アゼによって仕切られたⅠ、Ⅱ、Ⅲの各区内の地形を検討すると、Ⅱ～Ⅲ区内では大きな変化なく平均1.4%の傾斜となるが、Ⅰ区の標高119.90mの等高線を挟んだ南と北とは約10cmほどの段差がある。これは、Ⅱ期水田で認められた耕作土の厚さの違いによる地形変化が、Ⅲ期水田にそのまま継続されているためと考えられる。またこのことは、Ⅲ期水田の造成がⅡ期水田時の地形に規制され、新たな地形改変を伴っていないことを示している。Ⅰ～Ⅲ区の地形のあり方はⅡ期水田とほぼ同様であり、大アゼを隔てて隣接する各区相互間でも大きな段差等の地形変化は見られない。

(2) アゼの走行と区画

水田を区画するアゼには、大アゼと小アゼの2種類がある。

a 大アゼの走行と区画

アゼの規模 大アゼは南北に走行するA、Bの2本と、L字形水路が東方に直線的に延びる部分に並行するC大アゼの計3本が検出されている。このうちA大アゼはB大アゼと並行し、B大アゼはC大アゼとT字状に交差している。それぞれの規模と形状は、A大アゼが上幅20～60cm、下幅80～100cm、水田面との比高5～12cmで、B大アゼは上幅30～90cm、下幅90～140cm、水田面との比高10～15cmとなり、B大アゼの方がA大アゼよりもやや規模が大きい。C大アゼは上幅40～110cm、下幅100～180cmと広い幅をもち、水田面との比高が5～10cmとなる。いずれの大アゼも盛土によって形成され、その形状はやや偏平なカマボコ形を呈する。

●●第37図

アゼの走行と区画 大アゼの走行のあり方は、C大アゼがほぼ直線的であるのに対し、A・B大アゼはともに南半部でやや蛇行している。またA大アゼは水路に沿うように北側へと、C大アゼはB大アゼを越えて水路に沿って東側へと延びている可能性があるが、これらの箇所は土圧による地形変化をきたしているためにその全容は不明である。A大アゼとB大アゼの走行関係を見ると、



第37図 大アゼによる区割り模式図

II 調査の内容

● 図版25
●● 第38図

相互の間隔は最北部で43m、南末端では31mとなり、南方にゆくにつれてその間隔が狭くなる傾向にある。それぞれの大アゼの走行方位は、やや蛇行しているために正確ではないが、A大アゼがN13°W、BがN4°Wであり、CがN84°Wとなる。

A・Bの両大アゼは、II期水田のA・B大アゼとほぼ同一位置に重複する関係にある。このうちB大アゼについて、グリットの東西Nラインで立ち割ってみると、I・II期を通じてIII期に至るまでB大アゼが全く同一位置に重複している状態が判る。この三時期の中でもIII期のB大アゼが最大規模であり、I・II期のB大アゼはともに類似した規模であるがIII期になるとより太いアゼになっている。またA大アゼについても、II期水田のA大アゼよりその規模が大きくなっている。

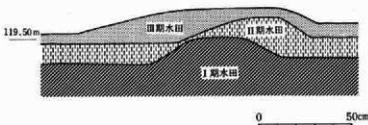
大アゼの走行と地形との関係を見ると、A・B大アゼが等高線に対して直交するように走行し、C大アゼが等高線と平行するように走行する。A、B、Cの各大アゼは水田区割りの一単位を示しており、このうち、A・B大アゼは傾斜地を等分割する目的がみられ、水田耕作の構造的な色彩は薄い。また、C大アゼは水路に沿っており、これに規制されている。ともに、水田区割りを目的としていよう。

b 小アゼの走行と区画

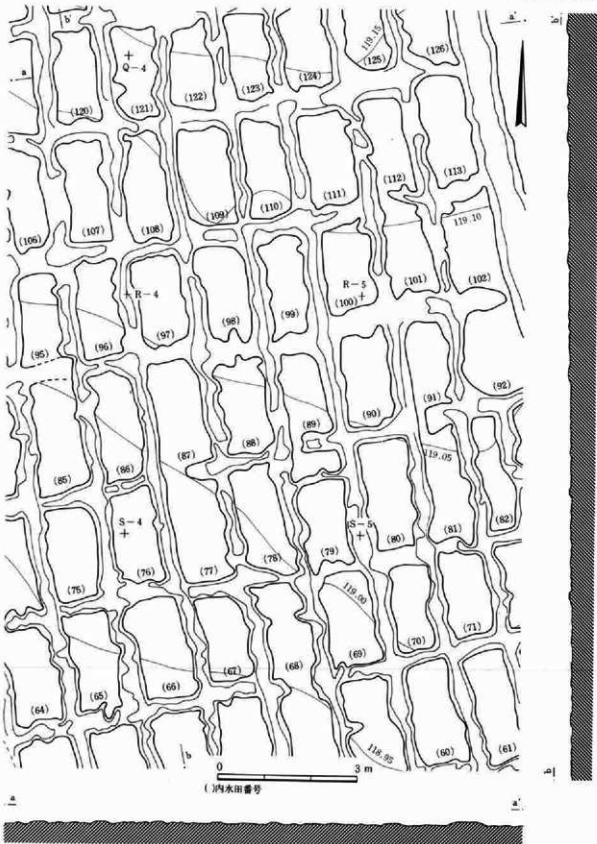
アゼの規模 小アゼは東西および南北方向にはほぼ規則的に走行することにより、格子目状の小区画を形成している。検出された小アゼはその大半に土圧による選平化の現象がみられ、その規模等の面で正確な計測を行なうことがかなり難しかった。しかし、遺存状態の良好なNo288区画以北の小アゼは、上幅10~15cm、下幅25~35cm、水田面との比高5~10cmで、断面が台形を呈している。

アゼの走行と区画 小アゼの走行方位は、各区割り単位で若干の差が見られる。南北小アゼの方位を中心に見るとI区ではN5~12°Wとなり、II区ではN1~5°W、III区ではN0~4°Eとなる。このように各区内の単位で方位が異なるのは、小アゼがA・B大アゼの走行方位と一定の関係の有しているためと考えられる。例えばそれは、I区の南北小アゼがA大アゼと、II区の南北小アゼがB大アゼとそれぞれ近似した方位をとることからもうかがえる。更に第44図において、A大アゼの両側に並行するI・II区の小アゼのあり方を検討すると、II区の南北小アゼの走行はA大アゼに突き当たって途中で寸断され、台地南端まで延びてゆかない地点が4箇所も認められる。これに対してI区の場合は、A大アゼと全く同じ走行を示して南端まで達しており、途中で寸断されている箇所も認められない。また同様にB大アゼには

II区の南北小アゼが沿うように走行しているのに対し、III区の小アゼは2箇所寸断されている。こうしたことは、各区内の小アゼの設置が大アゼによって規制されていることを示しており、I区はA大アゼに、II区はB大アゼにそれぞれ規制される関係にある。つま

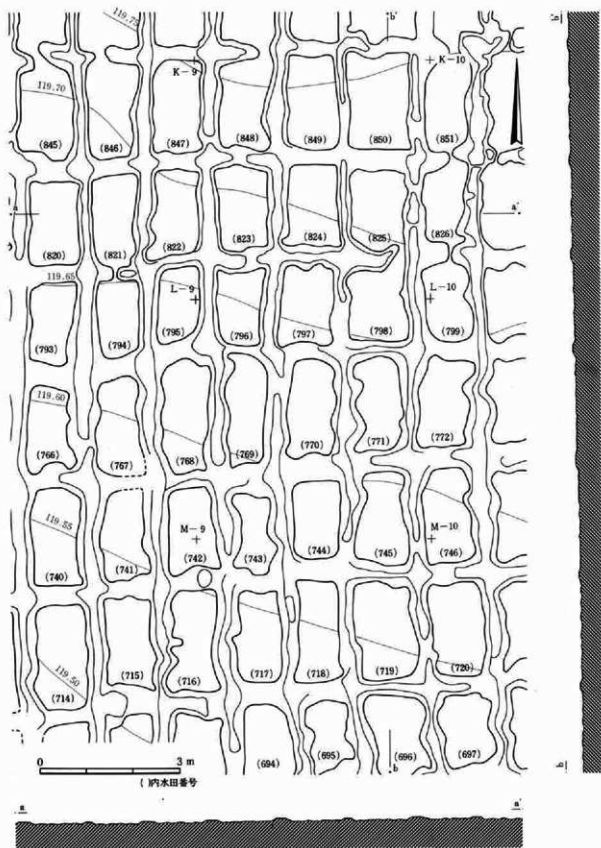


第38図 I~III期水田のB大アゼの重複状況(Nラインの断面)



第39図 III期水田・平均的な大きさの区画

II 調査の内容



第40図 田圃水田・平均より小さな区画

り、小アゼの設置は、大アゼによって大きく囲まれるように区割りされた中を、各区ごとに行なわれていると言えよう。

各小アゼの走行間隔をアゼ幅の中心間の距離で計測すると、南北方向は2.3~2.5mで東西方向は1.5~1.7mの間隔が多い。こうした小アゼの規模や走行間隔は、II期水田の小アゼの場合とほぼ類似している。また東西・南北小アゼは、各区区内では直線的に走行しているが、南北小アゼの場合はその走行が途中で不連続となる地点が数箇所で見られる。例えば、No288~293列の南側やNo189~195列の南側、およびNo858~862列の北側などの地点である。これらの南北小アゼの変換点を境としてその南・北では、東西小アゼの走行間隔が変則的となっている。No281~286はその間隔が1.8~2.3mと他の区画よりも約0.5mほど狭くなり、同様にNo178~185も狭くなっているが、その北側のNo189~198は3.2~3.4mと逆に他の区画よりも約0.8mほど広がっている。地形的にはこれらの変換点の前後に大きな変化は認められない。このように変換点の前後で区画が圧縮あるいは間延びした状態となるのは、II期水田でも見られた現象であるが、これは変換点の小アゼ設置の際の作業単位としてあり、その作業単位内にある程度均等に東西アゼを設置してゆく過程で、最後の区画にそのひずみが集中したためと考えられる。

上記の例とはやや異なるが、C大アゼの南側に隣接したNo1028~1040の区画では、他の小アゼを押しよけるように走行する東西小アゼが見られる。この地点の小区画は、L字形水路からの取配水と密接に関連した区画であり、これが他の小区画に優先した状態となっている。また地形変化に影響されたと考えられる区画としては、南北小アゼの間隔が0.8~1mと極めて狭いNo299、300、303、307などの小区画や逆にその間隔が2.8~4.4mと広いNo883~887以北の比較的大きな区画がある。前者は約10cmの急激な地形変化のある地点であり、これに対応するために他よりも小さな区画となったことが考えられる。この部分の地形変化はすでにII期水田の段階で生じている。またII期水田時には水路である部分がIII期水田では水田化されている。

後者は地形勾配がややゆるやかとなる地点であり、これが大きな区画を可能にしていると思われる。なお例外的ではあるが、第41図のNo309~315以北のように東西小アゼが不連続となっている地点もある。

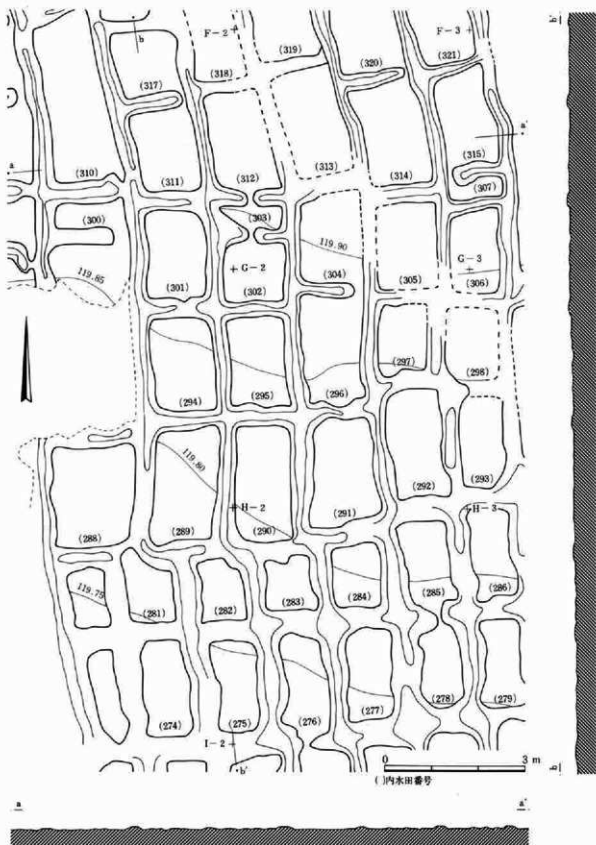
小区画のあり方と地形との関係を見ると、小区画の長辺は等高線の走行に対し直交するように配置されている。これは土の切り盛り整地作業を行なう場合、短辺を等高線に直交させるように配置するのに比べ余分な労力を必要とするものであり、不合理な区画といえる。しかし各小区画内をみると1~3cmの高低差があり、一区内でも北側がやや高くなる。また隣接する小区画相互では、南北列の場合2~3cmの高低差があり、南方へと徐々に低くなるが、東西列ではほとんどその差が見られない。そのあり方は原地形の自然勾配とまったく一致している。こうしたことは各小区画水田内で切り盛り整地が行なわれていないことを暗示するものであり、本期水田の造成が原地形に小アゼを格子目状に設置しただけで完了している可能性も

● 第41図

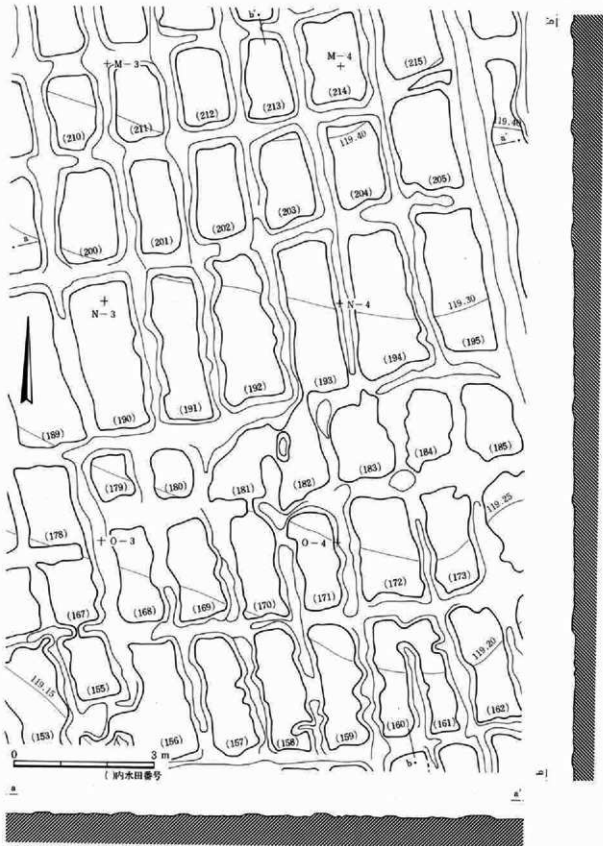
●● 第42図

●●● 第43図

II 調査の内容

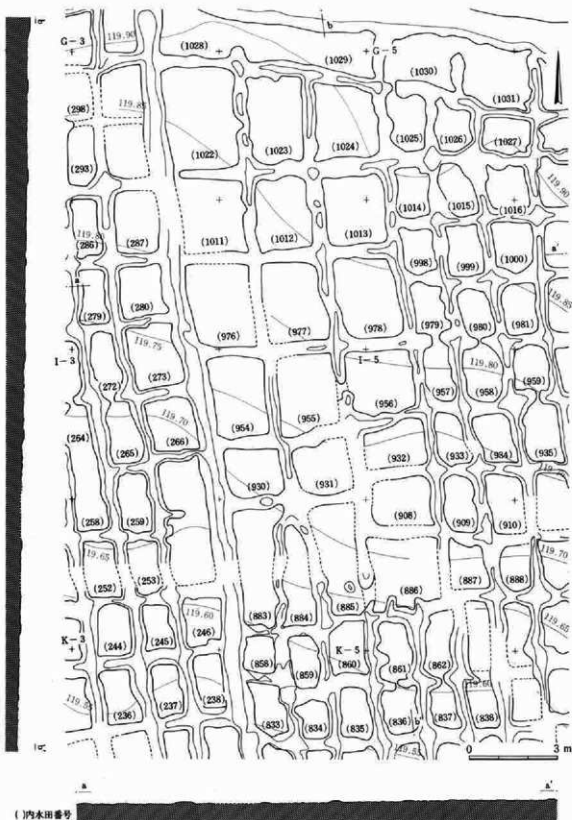


第41図 田期水田・区画の変換部



第42図 田期水田・区画の変換部

II 調査の内容



第43図 田期水田・各種の小区画

ある。このような地形勾配に即した水田区画のあり方は、基本的にⅠ期水田における省力化を考慮した造田技術を継承したものであると言えよう。しかし、Ⅱ・Ⅲ期水田では東西にならぶ小區画間に高低差がないにもかかわらず、約1.5m間隔で南北小アゼを配して小區画をつくっている。こうしたことは、単に造田技術としての観点だけでは理解することができない。つまり、一區画内の湛水レベルを保つために等高線に並行して東西小アゼを設置したならば、それに直交する南北小アゼの設置間隔は少なくとも10mくらいまで広げることが可能である。水田を区画する小アゼをⅠ期水田と同様の観点で湛水構造の面から考えた場合、南北小アゼは不必要、無意味なものとなる。

Ⅲ期水田の小アゼの全水田面積に占める割合は約30%に達するが、それはⅠ期水田においては約15%であるのに対し、ほぼその2倍に及ぶものである。小アゼを増やすことによって生じる作業負担の増加や作付面積の減少などを考えると、小區画水田が極めて不合理な水田であることが判る。しかし、上記したように小區画水田内の切り盛り整地を行わずに済むとすれば、整地作業面での省力化は認めることができよう。この切り盛り整地の存否については、小區画水田の湛水構造とも関係するので、取配水方法の項で再度検討したい。

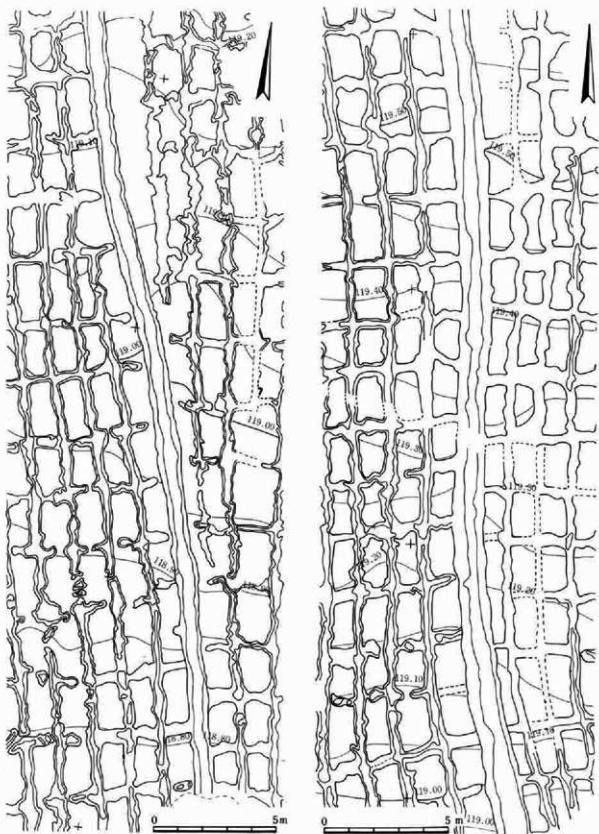
一方、L字形水路の北側のⅣ区には小區画による造田が見られない。この部分はF期の火山灰が約2cmほど堆積しているが、その直下には水田耕作土となるⅥ層の灰褐色土が約1cm以内しか堆積していない。またⅠ～Ⅲ区の小區画水田は、耕作によって下位のFAをすき込みⅡ期水田面をも破壊しているが、Ⅳ区ではⅢ期の小區画水田がないかわりに、下位のFAおよびⅡ期水田の遺存は良好であった。これらのことを総合すると、Ⅳ区内ではFAの降下以降、水田の復旧がなされなかった可能性が強い。

(3) 水田の面積

格子目状に形成された小區画水田は、1292面が確認された。小區画水田の面積は、No281～286やNo179・180のような2.6m²といった小さなものから、No883～886などのように6m²を超える大きなものもあり、その面積は一定していない。他の区画に比べて極端に大きいあるいは小さい区画となるもの多くは、区画変換点に集中している。第39区や第40区の小區画は、全体的に最も多く見られる大きさで、その規模は南北辺2.1～2.5m×東西辺1.2～1.6m、面積3～4m²前後となる。このような面積のばら付きは、水田の小區画造成時のバラエティーとしてとらえることができる。すなわち各区割りに規制された小區画は、区割り内で一気に造られたものではなく、1区割り内を更に数単位に分けたブロック毎の作業が考えられるからである。小區画の面積差はそのまま、各ブロックを示すことにもなる。またこの小區画は、恒常的な区画ではなく、毎年造りかえられる可能性があり、その際の耕作者の違いによって上記のようなばらつきが生じていることも考えられる。

★第41図
★★第42図
★★★第43図

II 調査の内容



第44図 Ⅲ期水田・大アセと小区画の溝接部の変化

第7表 田圃水田の面積一覧

(単位: m)

番号	面積	長	短	辺	形状	番号	面積	長	短	辺	形状
1	2.81	2.2	1.3		長方形	53	2.73	2.1	1.3		長方形
2	3.60	2.2	1.6		#	54	2.31	2.1	1.1		#
3	2.65	2.3	1.5		#	55	3.78	2.7	1.4		#
4	3.91	2.3	1.7		#	56	3.78	2.7	1.4		#
5	2.76	2.3	1.2		#	57	3.65	2.7	1.3		#
6	2.93	2.2	1.3		#	58	3.71	2.6	1.4		#
7	3.06	2.5	1.2		#	59	3.58	2.6	1.4		#
8	3.75	2.5	1.5		#	60	3.38	2.6	1.3		#
9	3.50	2.5	1.4		#	61	3.51	2.6	1.3		#
10	3.50	2.5	1.4		#	62	3.19	2.5	1.3		#
11	3.19	2.4	1.3		#	63	2.93	2.5	1.2		#
12	3.31	2.4	1.4		#	64	3.38	2.5	1.3		#
13	2.94	2.4	1.2		#	65	3.43	2.4	1.4		#
14	3.36	2.4	1.4		#	66	3.48	2.4	1.4		#
15	3.06	2.3	1.3		#	67	3.17	2.4	1.3		#
16	3.06	2.3	1.3		#	68	2.97	2.2	1.3		#
17	3.29	2.3	1.4		#	69	2.94	2.1	1.4		#
18	3.29	2.3	1.4		#	70	2.56	2.1	1.2		#
19	3.22	2.3	1.4		#	71	2.60	2.0	1.3		#
20	3.15	2.2	1.4		#	72	2.30	2.0	1.1		#
21	3.51	2.7	1.3		#	73	2.40	2.0	1.2		#
22	3.78	2.7	1.4		#	74	3.11	2.3	1.3		#
23	3.51	2.7	1.3		#	75	3.22	2.3	1.4		#
24	3.92	2.7	1.4		#	76	3.29	2.3	1.4		#
25	3.65	2.7	1.3		#	77	3.24	2.4	1.3		#
26	3.92	2.7	1.4		#	78	3.51	2.6	1.3		#
27	4.20	2.8	1.5		#	79	3.85	2.7	1.4		#
28	2.40	2.4	1.0		#	80	3.78	2.8	1.3		#
29	3.24	2.4	1.3		#	81	3.08	2.8	1.1		#
30	3.29	2.3	1.4		#	82	3.08	2.8	1.1		#
31	3.48	2.4	1.4		#	83	2.80	2.8	1.0		#
32	3.60	2.4	1.5		#	84	3.50	2.5	1.4		#
33	3.24	2.4	1.3		#	85	3.38	2.5	1.3		#
34	3.60	2.4	1.5		#	86	3.25	2.5	1.3		#
35	3.72	2.4	1.5		#	87	3.43	2.4	1.4		#
36	2.35	2.3	1.0		#	88	3.12	2.4	1.3		#
37	2.90	2.2	1.3		#	89	3.29	2.3	1.4		#
38	2.84	2.1	1.3		#	90	3.11	2.3	1.3		#
39	3.01	2.1	1.4		#	91	2.86	2.2	1.3		#
40	2.86	2.2	1.3		#	92	3.01	2.1	1.4		#
41	3.08	2.2	1.4		#	93	2.94	2.8	1.0		#
42	3.08	2.2	1.4		#	94	3.92	2.7	1.4		#
43	3.19	2.2	1.4		#	95	3.13	2.5	1.2		#
44	3.15	2.2	1.4		#	96	3.25	2.5	1.3		#
45	2.42	2.3	1.0		#	97	3.55	2.5	1.4		#
46	2.94	2.1	1.4		#	98	3.19	2.4	1.3		#
47	2.84	2.1	1.3		#	99	3.12	2.4	1.3		#
48	2.94	2.1	1.4		#	100	3.17	2.4	1.3		#
49	2.73	2.1	1.3		#	101	2.99	2.3	1.3		#
50	2.73	2.1	1.3		#	102	2.76	2.3	1.2		#
51	2.94	2.1	1.4		#	103	3.38	2.2	1.5		#
52	2.94	2.1	1.4		#	104	2.59	2.2	1.2		#

II 調査の内容

番号	面積	長辺	短辺	形状	番号	面積	長辺	短辺	形状
105	3.22	2.3	1.4	長方形	159	3.71	2.8	1.3	長方形
106	2.70	2.2	1.2	#	160	2.85	2.8	1.0	#
107	2.99	2.3	1.3	#	161	2.85	2.8	1.0	#
108	3.17	2.3	1.4	#	162	3.42	2.8	1.2	#
109	3.06	2.3	1.3	#	163	3.42	2.8	1.2	#
110	2.94	2.3	1.3	#	164	2.21	1.7	1.3	#
111	3.17	2.3	1.3	#	165	2.19	1.7	1.3	#
112	2.94	2.3	1.3	#	166	2.79	1.8	1.5	#
113	2.76	2.4	1.1	#	167	2.68	1.8	1.5	#
114	2.65	2.7	1.3	#	168	3.06	2.4	1.3	#
115	3.71	2.6	1.4	#	169	3.19	2.4	1.3	#
116	3.38	2.6	1.3	#	170	2.94	2.4	1.2	#
117	2.75	2.5	1.1	#	171	3.25	2.5	1.3	#
118	3.48	2.4	1.4	#	172	4.34	2.5	1.7	#
119	2.88	2.4	1.2	#	173	3.32	2.5	1.3	#
120	2.88	2.3	1.2	#	174	2.86	2.6	1.1	#
121	2.64	2.2	1.2	#	175	3.00	2.5	1.2	#
122	2.69	2.2	1.2	#	176	2.88	2.5	1.1	#
123	2.46	2.0	1.2	#	177	3.63	2.5	1.4	#
124	2.77	2.1	1.3	#	178	3.70	2.5	1.5	#
125	2.58	2.1	1.2	#	179	2.50	2.0	1.2	#
126	2.53	2.3	1.1	#	180	2.70	2.0	1.3	#
127	3.63	2.5	1.4	#	181	2.50	2.0	1.2	#
128	3.19	2.4	1.3	#	182	2.77	2.1	1.3	#
129	3.06	2.4	1.3	#	183	3.26	2.1	1.5	#
130	3.55	2.4	1.5	#	184	2.84	2.1	1.3	#
131	2.76	2.4	1.1	#	185	2.58	2.1	1.2	#
132	2.88	2.4	1.2	#	186	4.46	3.3	1.3	#
133	2.88	2.4	1.2	#	187	5.28	3.3	1.6	#
134	2.82	2.3	1.2	#	188	5.53	3.2	1.7	#
135	2.59	2.3	1.1	#	189	5.28	3.2	1.6	#
136	3.15	2.2	1.4	#	190	5.28	3.2	1.6	#
137	2.37	2.1	1.1	#	191	4.16	3.2	1.3	#
138	2.42	2.1	1.1	#	192	4.73	3.1	1.5	#
139	3.17	2.4	1.3	#	193	5.12	3.3	1.5	#
140	3.12	2.4	1.3	#	194	5.28	3.3	1.6	#
141	3.12	2.4	1.3	#	195	4.76	3.4	1.4	#
142	3.55	2.4	1.5	#	196	2.75	2.2	1.2	#
143	3.00	2.5	1.2	#	197	3.38	2.2	1.5	#
144	3.13	2.5	1.2	#	198	3.71	2.3	1.6	#
145	2.81	2.5	1.1	#	199	3.80	2.3	1.6	#
146	3.44	2.6	1.3	#	200	3.57	2.3	1.5	#
147	2.60	2.6	1.0	#	201	3.18	2.3	1.4	#
148	2.99	2.6	1.1	#	202	3.53	2.3	1.5	#
149	3.12	2.6	1.2	#	203	3.19	2.2	1.4	#
150	3.12	2.4	1.2	#	204	3.49	2.3	1.5	#
151	3.77	2.9	1.3	#	205	2.94	2.3	1.3	#
152	3.77	2.9	1.3	#	206	2.64	2.2	1.2	#
153	3.77	2.9	1.3	#	207	3.30	2.2	1.5	#
154	2.10	1.5	1.4	#	208	3.41	2.2	1.5	#
155	2.03	1.4	1.4	#	209	3.55	2.2	1.6	#
156	3.42	2.8	1.2	#	210	3.23	2.2	1.5	#
157	3.42	2.8	1.2	#	211	2.84	2.1	1.3	#
158	3.14	2.8	1.1	#	212	3.15	2.1	1.5	#

4 同道田期水田

番号	面積	長	辺	短	辺	形状	番号	面積	長	辺	短	辺	形状
213	2.73	2.1	1.3	長	方形	267	3.08	2.2	1.4	長	方形		
214	3.36	2.1	1.6	#		268	3.15	2.2	1.4	#			
215	2.90	2.2	1.3	#		269	3.45	2.3	1.5	#			
216	2.53	2.2	1.1	#		270	3.45	2.3	1.5	#			
217	3.19	2.2	1.4	#		271	3.36	2.4	1.4	#			
218	3.41	2.2	1.5	#		272	3.19	2.4	1.3	#			
219	3.83	2.2	1.7	#		273	4.25	2.5	1.7	#			
220	3.11	2.3	1.3	#		274	3.68	2.4	1.5	#			
221	3.22	2.3	1.4	#		275	3.60	2.4	1.5	#			
222	3.53	2.3	1.5	#		276	3.60	2.4	1.5	#			
223	3.17	2.3	1.4	#		277	3.41	2.4	1.4	#			
224	3.30	2.2	1.5	#		278	3.34	2.3	1.4	#			
225	2.80	2.0	1.4	#		279	3.15	2.2	1.4	#			
226	3.57	2.5	1.4	#		280	3.30	2.2	1.5	#			
227	3.83	2.5	1.5	#		281	2.78	1.8	1.5	#			
228	3.75	2.5	1.5	#		282	2.93	1.9	1.5	#			
229	3.43	2.4	1.4	#		283	2.97	2.1	1.4	#			
230	3.68	2.4	1.5	#		284	3.23	2.1	1.5	#			
231	3.36	2.4	1.4	#		285	3.30	2.2	1.5	#			
232	3.41	2.4	1.4	#		286	3.11	2.3	1.3	#			
233	3.53	2.4	1.5	#		287	4.20	2.4	1.7	#			
234	3.45	2.3	1.5	#		288	5.54	2.7	2.0	#			
235	3.15	2.1	1.5	#		289	4.55	2.6	1.7	#			
236	2.94	2.1	1.4	#		290	4.04	2.5	1.6	#			
237	3.45	2.3	1.5	#		291	4.20	2.4	1.7	#			
238	2.76	2.3	1.2	#		292	3.53	2.3	1.5	#			
239	2.93	1.9	1.5	#		293	2.99	2.3	1.3	#			
240	2.34	1.9	1.2	#		294	4.11	2.4	1.7	#			
241	2.63	1.9	1.4	#		295	3.57	2.3	1.5	#			
242	2.73	1.9	1.4	#		296	4.25	2.5	1.7	#			
243	3.32	1.9	1.7	#		297	3.08	2.0	1.5	#			
244	3.02	1.9	1.6	#		298	2.70	2.0	1.3	#			
245	2.83	1.9	1.5	#		299	2.86	2.2	1.3	#			
246	2.80	2.0	1.4	#		300	1.95	1.9	1.0	#			
247	3.80	2.5	1.5	#		301	4.00	2.3	1.7	#			
248	3.12	2.4	1.3	#		302	2.48	1.6	1.5	#			
249	3.29	2.3	1.4	#		303	1.45	1.7	0.8	#			
250	3.53	2.3	1.5	#		304	3.20	2.0	1.6	#			
251	4.00	2.3	1.7	#		305	3.60	2.2	1.6	#			
252	3.53	2.3	1.5	#		306	2.57	1.9	1.3	#			
253	2.94	2.1	1.4	#		307	1.20	1.5	0.8	#			
254	3.31	2.4	1.4	#		308	2.88	2.3	1.2	#			
255	3.29	2.3	1.4	#		309	4.92	2.4	2.0	#			
256	3.49	2.3	1.5	#		310	6.24	3.9	1.6	#			
257	3.60	2.3	1.6	#		311	3.47	2.1	1.6	#			
258	3.15	2.1	1.5	#		312	3.75	2.5	1.5	#			
259	3.15	2.2	1.4	#		313	4.40	2.7	1.6	#			
260	2.87	2.0	1.4	#		314	4.13	2.5	1.6	#			
261	2.87	2.0	1.4	#		315	3.01	2.1	1.4	#			
262	3.36	2.1	1.6	#		316	2.61	1.8	1.4	#			
263	3.15	2.1	1.5	#		317	2.89	1.7	1.7	正	方形		
264	3.23	2.1	1.5	#		318	4.76	3.4	1.4	長	方形		
265	2.86	2.2	1.3	#		319	4.29	2.6	1.6	#			
266	3.70	2.0	1.8	#		320	3.68	2.3	1.6	#			

II 調査の内容

番号	面 積	長 辺	短 辺	形 状	番号	面 積	長 辺	短 辺	形 状
321	3.41	2.2	1.5	長 方 形	375	4.32	2.7	1.6	長 方 形
322	3.24	1.8	1.8	正 方 形	376	2.90	2.0	1.4	#
323	2.56	1.8	1.6	長 方 形	377	3.20	2.0	1.6	#
324	2.90	2.2	1.3	#	378	2.80	2.0	1.4	#
325	3.18	2.1	1.5	#	379	2.47	2.3	1.1	#
326	3.02	1.9	1.6	#	380	4.37	2.3	1.9	#
327	4.03	2.6	1.6	#	381	2.64	2.2	1.2	#
328	2.64	1.7	1.6	#	382	2.64	2.2	1.2	#
329	1.86	1.6	1.2	#	383	2.97	2.2	1.3	#
330	3.02	1.9	1.6	#	384	2.94	2.1	1.4	#
331	5.45	3.3	1.6	#	385	3.01	2.1	1.4	#
332	3.88	2.5	1.5	#	386	2.80	2.1	1.3	#
333	3.10	2.0	1.5	#	387	2.77	2.1	1.3	#
334	2.51	2.0	1.2	#	388	2.56	2.1	1.2	#
335	2.50	2.0	1.2	#	389	3.08	2.1	1.5	#
336	2.60	2.0	1.3	#	390	3.30	2.0	1.6	#
337	2.63	2.1	1.2	#	391	3.15	2.1	1.5	#
338	3.05	2.1	1.4	#	392	3.66	2.1	1.7	#
339	2.63	2.1	1.2	#	393	2.94	2.1	1.4	#
340	3.23	2.1	1.5	#	394	3.05	2.6	1.2	#
341	2.90	2.1	1.4	#	395	5.20	2.6	2.0	#
342	2.63	2.1	1.2	#	396	2.93	2.5	1.2	#
343	2.84	2.1	1.3	#	397	3.25	2.5	1.3	#
344	2.94	2.1	1.4	#	398	3.31	2.4	1.4	#
345	2.42	2.1	1.1	#	399	3.43	2.4	1.4	#
346	3.12	2.1	1.5	#	400	3.24	2.4	1.3	#
347	2.80	2.1	1.3	#	401	3.22	2.3	1.4	#
348	3.12	2.1	1.5	#	402	2.94	2.3	1.3	#
349	2.80	2.1	1.3	#	403	3.24	2.4	1.3	#
350	2.90	2.1	1.4	#	404	3.75	2.5	1.5	#
351	2.90	2.1	1.4	#	405	2.83	2.5	1.5	#
352	3.85	2.2	1.7	#	406	3.51	2.7	1.3	#
353	2.13	1.7	1.2	#	407	3.65	2.7	1.3	#
354	2.79	1.8	1.5	#	408	3.45	2.6	1.3	#
355	2.50	1.8	1.4	#	409	4.08	2.5	1.6	#
356	2.22	1.8	1.2	#	410	3.06	2.5	1.2	#
357	2.63	1.9	1.4	#	411	3.75	2.5	1.5	#
358	2.20	2.0	1.4	#	412	3.36	2.4	1.4	#
359	2.70	2.0	1.3	#	413	3.72	2.4	1.5	#
360	2.56	2.1	1.2	#	414	3.34	2.3	1.4	#
361	3.01	2.1	1.4	#	415	3.04	2.3	1.3	#
362	3.11	2.3	1.3	#	416	2.70	2.3	1.2	#
363	4.59	2.7	1.7	#	417	2.86	2.2	1.3	#
364	3.50	2.5	1.4	#	418	2.86	2.2	1.3	#
365	4.25	2.5	1.7	#	419	3.08	2.2	1.4	#
366	3.38	2.5	1.3	#	420	2.97	2.2	1.3	#
367	2.88	2.5	1.1	#	421	3.08	2.2	1.4	#
368	3.32	2.5	1.3	#	422	2.86	2.2	1.3	#
369	3.51	2.6	1.3	#	423	2.86	2.2	1.3	#
370	3.78	2.7	1.4	#	424	3.15	2.1	1.5	#
371	3.65	2.7	1.3	#	425	3.05	2.1	1.4	#
372	3.78	2.7	1.4	#	426	2.67	2.0	1.3	#
373	3.12	2.6	1.2	#	427	3.00	2.0	1.5	#
374	4.20	2.8	1.5	#	428	2.54	1.9	1.3	#

4 同進田水田

番号	面積	長辺	短辺	形状	番号	面積	長辺	短辺	形状
429	2.76	1.9	1.4	長方形	483	3.19	2.4	1.3	長方形
430	2.42	1.8	1.3	#	484	3.00	2.4	1.2	#
431	2.59	1.8	1.4	#	485	2.88	2.4	1.2	#
432	2.34	1.8	1.3	#	486	3.06	2.3	1.3	#
433	2.70	1.8	1.5	#	487	3.17	2.3	1.4	#
434	2.63	1.7	1.5	#	488	3.34	2.3	1.4	#
435	3.50	2.5	1.4	#	489	3.45	2.3	1.5	#
436	2.63	2.5	1.0	#	490	3.15	2.2	1.4	#
437	3.13	2.5	1.2	#	491	3.15	2.2	1.4	#
438	3.13	2.5	1.2	#	492	3.08	2.2	1.4	#
439	3.13	2.5	1.2	#	493	3.08	2.2	1.4	#
440	3.25	2.5	1.3	#	494	3.01	2.1	1.4	#
441	3.50	2.5	1.4	#	495	3.15	2.1	1.5	#
442	3.43	2.4	1.4	#	496	2.84	2.1	1.3	#
443	3.31	2.4	1.4	#	497	3.18	2.1	1.5	#
444	3.19	2.4	1.3	#	498	2.67	2.1	1.3	#
445	3.19	2.4	1.3	#	491	2.67	2.1	1.3	#
446	3.68	2.4	1.5	#	500	2.77	2.1	1.3	#
447	3.43	2.4	1.4	#	501	2.70	2.0	1.3	#
448	3.50	2.5	1.4	#	502	2.26	2.1	1.1	#
449	3.75	2.5	1.5	#	503	3.19	2.4	1.3	#
450	3.43	2.4	1.4	#	504	3.43	2.4	1.4	#
451	3.31	2.4	1.4	#	505	3.36	2.4	1.4	#
452	3.48	2.4	1.4	#	506	3.12	2.4	1.3	#
453	2.99	2.3	1.3	#	507	3.12	2.4	1.3	#
454	3.04	2.3	1.3	#	508	3.00	2.4	1.3	#
455	3.19	2.2	1.4	#	509	3.12	2.4	1.3	#
456	2.86	2.2	1.3	#	510	3.41	2.3	1.5	#
457	2.92	2.6	1.1	#	511	3.29	2.3	1.4	#
458	3.78	2.7	1.4	#	512	3.76	2.3	1.6	#
459	3.38	2.7	1.2	#	513	3.06	2.3	1.3	#
460	3.38	2.7	1.2	#	514	3.68	2.3	1.6	#
461	3.56	2.7	1.3	#	515	3.04	2.3	1.3	#
462	3.36	2.8	1.2	#	516	3.15	2.3	1.4	#
463	3.64	2.8	1.3	#	517	3.15	2.3	1.4	#
464	3.99	2.8	1.4	#	518	3.26	2.3	1.4	#
465	4.06	2.9	1.4	#	519	3.75	2.2	1.2	#
466	4.21	2.9	1.4	#	520	3.52	2.2	1.6	#
467	3.92	2.9	1.3	#	521	3.08	2.2	1.4	#
468	3.64	2.8	1.3	#	522	2.86	2.2	1.3	#
469	3.99	2.7	1.5	#	523	3.12	2.2	1.4	#
470	3.84	2.6	1.5	#	524	3.01	2.2	1.4	#
471	3.77	2.6	1.5	#	525	2.19	1.9	1.1	#
472	3.75	2.5	1.5	#	526	2.60	2.0	1.3	#
473	3.50	2.5	1.4	#	527	2.80	2.0	1.4	#
474	3.55	2.4	1.5	#	528	2.80	2.0	1.4	#
475	3.36	2.4	1.4	#	529	2.60	2.0	1.3	#
476	3.36	2.4	1.4	#	530	2.80	2.0	1.4	#
477	3.06	2.3	1.3	#	531	2.60	2.0	1.3	#
478	3.22	2.3	1.4	#	532	2.60	2.0	1.3	#
479	2.53	2.3	1.1	#	533	3.00	2.0	1.5	#
480	3.00	2.5	1.2	#	534	2.80	2.0	1.4	#
481	3.50	2.5	1.4	#	535	3.10	2.0	1.5	#
482	3.38	2.5	1.3	#	536	2.60	2.0	1.3	#

II 調査の内容

番号	面積	長 辺	短 辺	形 状	番号	面積	長 辺	短 辺	形 状
537	3.10	2.0	1.5	長 方 形	591	3.24	2.4	1.3	長 方 形
538	2.80	2.0	1.4	#	592	3.84	2.4	1.6	#
539	2.80	2.0	1.4	#	593	3.29	2.3	1.4	#
540	3.00	2.0	1.5	#	594	3.29	2.3	1.4	#
541	3.00	2.0	1.5	#	595	4.77	2.6	1.8	#
542	2.40	2.0	1.2	#	596	4.51	2.6	1.7	#
543	3.00	2.0	1.5	#	597	2.81	2.5	1.1	#
544	2.90	2.0	1.4	#	598	3.57	2.5	1.4	#
545	2.60	2.0	1.3	#	599	3.32	2.5	1.3	#
546	3.10	2.0	1.5	#	600	3.32	2.5	1.3	#
547	2.60	2.0	1.3	#	601	3.83	2.5	1.5	#
548	2.40	2.0	1.2	#	602	3.70	2.5	1.5	#
549	3.60	2.4	1.5	#	603	3.70	2.5	1.5	#
550	3.24	2.4	1.3	#	604	3.44	2.5	1.4	#
551	3.17	2.3	1.4	#	605	3.83	2.5	1.5	#
552	2.94	2.3	1.3	#	606	3.57	2.5	1.4	#
553	3.34	2.3	1.4	#	607	4.34	2.5	1.7	#
554	2.99	2.3	1.3	#	608	3.57	2.5	1.4	#
555	3.15	2.2	1.4	#	609	3.95	2.5	1.6	#
556	3.38	2.2	1.5	#	610	3.25	2.5	1.3	#
557	3.15	2.2	1.4	#	611	3.75	2.5	1.5	#
558	3.26	2.2	1.5	#	612	3.44	2.5	1.4	#
559	3.15	2.2	1.4	#	613	3.83	2.5	1.5	#
560	3.41	2.2	1.5	#	614	4.08	2.5	1.6	#
561	3.19	2.2	1.4	#	615	4.08	2.5	1.6	#
562	3.19	2.2	1.4	#	616	3.75	2.5	1.5	#
563	3.12	2.1	1.4	#	617	3.75	2.5	1.5	#
564	3.33	2.1	1.5	#	618	3.25	2.5	1.3	#
565	2.47	2.1	1.1	#	619	2.65	2.6	1.0	#
566	3.23	2.1	1.5	#	620	2.60	2.6	1.0	#
567	3.15	2.1	1.5	#	621	2.88	2.5	1.1	#
568	3.89	2.1	1.8	#	622	2.75	2.5	1.1	#
569	3.36	2.1	1.6	#	623	2.94	2.4	1.2	#
570	2.73	2.1	1.3	#	624	3.36	2.4	1.4	#
571	2.73	2.1	1.3	#	625	2.82	2.3	1.2	#
572	4.11	2.6	1.6	#	626	3.45	2.3	1.5	#
573	3.38	2.6	1.3	#	627	3.38	2.2	1.5	#
574	3.57	2.5	1.4	#	628	3.30	2.2	1.5	#
575	3.19	2.5	1.3	#	629	2.80	2.1	1.3	#
576	3.57	2.5	1.4	#	630	3.23	2.1	1.5	#
577	3.57	2.5	1.4	#	631	3.01	2.1	1.4	#
578	3.63	2.5	1.4	#	632	3.66	2.1	1.7	#
579	3.75	2.5	1.5	#	633	3.08	2.2	1.4	#
580	3.38	2.5	1.3	#	634	2.86	2.2	1.3	#
581	3.75	2.5	1.5	#	635	2.97	2.2	1.3	#
582	3.75	2.5	1.5	#	636	3.74	2.2	1.7	#
583	4.13	2.5	1.6	#	637	2.86	2.2	1.3	#
584	3.68	2.4	1.5	#	638	3.60	2.2	1.6	#
585	3.55	2.4	1.5	#	639	3.38	2.2	1.5	#
586	3.19	2.4	1.3	#	640	3.83	2.2	1.7	#
587	3.92	2.4	1.6	#	641	3.68	2.3	1.6	#
588	3.12	2.4	1.3	#	642	3.34	2.3	1.4	#
589	3.36	2.4	1.4	#	643	2.82	2.3	1.2	#
590	3.72	2.4	1.5	#	644	2.47	2.3	1.1	#

4 阿道田期水田

番号	面積	長 辺	短 辺	形 状	番号	面積	長 辺	短 辺	形 状
645	2.88	2.4	1.2	長 方 形	699	3.00	2.0	1.5	長 方 形
646	2.82	2.4	1.2	#	700	3.18	2.1	1.5	#
647	2.88	2.5	1.2	#	701	3.38	2.1	1.6	#
648	3.25	2.5	1.3	#	702	3.44	2.1	1.6	#
649	3.26	2.3	1.4	#	703	2.75	2.2	1.2	#
650	3.34	2.3	1.4	#	704	2.97	2.2	1.3	#
651	3.60	2.4	1.5	#	705	2.81	2.2	1.3	#
652	3.31	2.4	1.4	#	706	2.93	2.2	1.3	#
653	3.75	2.5	1.5	#	707	2.70	2.2	1.2	#
654	3.38	2.5	1.3	#	708	3.04	2.2	1.4	#
655	4.00	2.5	1.6	#	709	3.15	2.2	1.4	#
656	3.50	2.5	1.4	#	710	3.06	2.3	1.3	#
657	4.00	2.5	1.6	#	711	3.53	2.3	1.5	#
658	3.68	2.4	1.5	#	712	3.29	2.3	1.4	#
659	4.17	2.4	1.7	#	713	3.60	2.4	1.5	#
660	3.96	2.4	1.6	#	714	3.60	2.4	1.5	#
661	3.41	2.4	1.4	#	715	3.24	2.4	1.3	#
662	2.99	2.3	1.3	#	716	3.60	2.4	1.5	#
663	3.25	2.5	1.3	#	717	2.82	2.3	1.2	#
664	2.75	2.5	1.1	#	718	3.17	2.3	1.4	#
665	2.94	2.4	1.2	#	719	3.68	2.3	1.6	#
666	2.88	2.5	1.1	#	720	3.45	2.3	1.5	#
667	3.13	2.5	1.2	#	721	3.38	2.2	1.5	#
668	3.00	2.5	1.2	#	722	3.26	2.1	1.5	#
669	4.20	2.8	1.5	#	723	3.15	2.1	1.5	#
670	3.78	2.7	1.4	#	724	3.36	2.1	1.6	#
671	3.64	2.6	1.4	#	725	3.00	2.0	1.5	#
672	3.75	2.5	1.5	#	726	2.87	2.0	1.4	#
673	3.36	2.4	1.4	#	727	2.52	2.1	1.2	#
674	2.59	2.3	1.4	#	728	2.94	2.1	1.4	#
675	3.53	2.3	1.5	#	729	2.73	2.1	1.3	#
676	3.53	2.3	1.5	#	730	2.80	2.1	1.3	#
677	3.84	2.3	1.6	#	731	2.69	2.1	1.3	#
678	3.45	2.3	1.5	#	732	2.97	2.2	1.3	#
679	3.80	2.3	1.6	#	733	2.86	2.2	1.3	#
680	3.80	2.3	1.6	#	734	3.30	2.2	1.5	#
681	3.60	2.2	1.6	#	735	2.75	2.2	1.2	#
682	2.93	2.2	1.3	#	736	3.22	2.3	1.4	#
683	2.80	2.1	1.3	#	737	3.24	2.4	1.3	#
684	2.58	2.1	1.2	#	738	3.22	2.3	1.4	#
685	2.56	2.1	1.2	#	739	3.11	2.3	1.3	#
686	2.36	2.1	1.1	#	740	3.84	2.4	1.6	#
687	2.60	2.0	1.3	#	741	3.08	2.2	1.4	#
688	2.34	1.9	1.2	#	742	3.19	2.2	1.4	#
689	2.40	2.0	1.2	#	743	2.64	2.2	1.2	#
690	3.12	1.9	1.6	#	744	3.08	2.2	1.4	#
691	2.59	1.8	1.4	#	745	3.45	2.3	1.5	#
692	2.50	1.8	1.4	#	746	3.30	2.2	1.5	#
693	2.85	1.9	1.6	#	747	3.41	2.2	1.5	#
694	2.25	1.8	1.2	#	748	3.30	2.2	1.5	#
695	2.59	1.8	1.4	#	749	3.41	2.2	1.5	#
696	2.70	1.8	1.5	#	750	3.41	2.2	1.5	#
697	2.93	1.9	1.5	#	751	3.30	2.2	1.5	#
698	3.00	2.0	1.5	#	752	3.08	2.2	1.4	#

II 調査の内容

番号	面積	長辺	短辺	形状	番号	面積	長辺	短辺	形状
753	3.24	2.7	1.2	長方形	807	2.60	2.0	1.3	長方形
754	3.71	2.6	1.4	#	808	3.08	2.0	1.5	#
755	3.64	2.6	1.4	#	809	3.23	2.1	1.5	#
756	3.19	2.5	1.3	#	810	3.01	2.1	1.4	#
757	3.32	2.5	1.3	#	811	2.86	2.2	1.3	#
758	3.57	2.5	1.4	#	812	3.15	2.2	1.4	#
759	3.25	2.5	1.3	#	813	3.25	2.5	1.3	#
760	3.75	2.5	1.5	#	814	3.75	2.5	1.5	#
761	3.43	2.4	1.4	#	815	3.68	2.4	1.5	#
762	3.12	2.4	1.3	#	816	3.43	2.4	1.4	#
763	3.36	2.4	1.4	#	817	3.24	2.4	1.3	#
764	3.17	2.3	1.4	#	818	3.17	2.4	1.3	#
765	2.99	2.3	1.3	#	819	3.41	2.4	1.4	#
766	3.68	2.3	1.6	#	820	3.22	2.3	1.4	#
767	3.11	2.3	1.3	#	821	3.22	2.3	1.4	#
768	3.71	2.6	1.4	#	822	2.69	2.2	1.2	#
769	3.25	2.6	1.2	#	823	3.12	2.2	1.4	#
770	3.75	2.5	1.5	#	824	2.94	2.1	1.4	#
771	3.68	2.4	1.5	#	825	3.36	2.1	1.6	#
772	3.43	2.4	1.4	#	826	2.46	2.0	1.2	#
773	3.60	2.4	1.5	#	827	2.80	2.0	1.4	#
774	3.45	2.3	1.5	#	828	3.20	2.0	1.6	#
775	3.60	2.2	1.6	#	829	2.80	2.0	1.4	#
776	3.33	2.2	1.5	#	830	2.63	1.9	1.4	#
777	3.36	2.1	1.6	#	831	3.12	1.9	1.6	#
778	2.67	2.0	1.3	#	832	2.28	1.9	1.2	#
779	2.30	2.0	1.1	#	833	2.99	2.3	1.3	#
780	2.60	2.0	1.3	#	834	2.36	1.7	1.4	#
781	3.00	2.0	1.5	#	835	2.71	1.7	1.6	#
782	3.00	2.0	1.5	#	836	2.70	1.8	1.5	#
783	2.70	2.0	1.3	#	837	2.66	1.9	1.4	#
784	2.67	2.0	1.3	#	838	2.94	2.1	1.4	#
785	2.87	2.0	1.4	#	839	3.05	2.1	1.4	#
786	2.46	2.0	1.2	#	840	3.15	2.1	1.5	#
787	3.08	2.0	1.5	#	841	2.94	2.1	1.4	#
788	3.08	2.0	1.5	#	842	3.23	2.1	1.5	#
789	2.67	2.0	1.3	#	843	3.23	2.1	1.5	#
790	2.94	2.1	1.4	#	844	3.19	2.2	1.4	#
791	2.73	2.1	1.3	#	845	3.08	2.2	1.4	#
792	3.01	2.1	1.4	#	846	3.08	2.2	1.4	#
793	3.23	2.1	1.5	#	847	3.08	2.2	1.4	#
794	2.87	2.0	1.4	#	848	3.19	2.2	1.4	#
795	2.41	1.8	1.3	#	849	3.15	2.2	1.4	#
796	2.59	1.8	1.4	#	850	3.80	2.3	1.6	#
797	2.66	1.9	1.4	#	851	2.76	2.3	1.2	#
798	2.85	1.9	1.5	#	852	3.45	2.3	1.5	#
799	2.40	2.0	1.2	#	853	3.22	2.3	1.4	#
800	3.00	2.0	1.5	#	854	4.37	2.3	1.9	#
801	3.00	2.0	1.5	#	855	3.12	2.4	1.3	#
802	3.50	2.0	1.7	#	856	3.24	2.4	1.3	#
803	2.97	2.1	1.4	#	857	2.88	2.4	1.2	#
804	3.57	2.1	1.7	#	858	2.08	1.6	1.3	#
805	2.73	2.1	1.3	#	859	3.08	2.2	1.4	#
806	2.40	2.0	1.2	#	860	3.52	2.2	1.6	#

4 同道田期水田

番号	面積	長	短	形状	番号	面積	長	短	形状
861	3.30	2.2	1.5	長方形	915	3.41	1.9	1.8	長方形
862	2.86	2.2	1.3	#	916	3.32	1.9	1.7	#
863	3.23	2.1	1.5	#	917	2.73	1.9	1.4	#
864	3.36	2.4	1.4	#	918	3.02	1.9	1.6	#
865	3.63	2.5	1.4	#	919	2.73	1.9	1.4	#
866	3.00	2.5	1.2	#	920	3.12	1.9	1.6	#
867	4.25	2.5	1.7	#	921	3.12	1.9	1.6	#
868	4.00	2.5	1.6	#	922	2.59	1.8	1.4	#
869	3.50	2.5	1.4	#	923	2.97	1.8	1.6	#
870	3.25	2.5	1.3	#	924	2.79	1.8	1.5	#
871	3.75	2.5	1.5	#	925	3.05	1.8	1.7	#
872	3.75	2.5	1.5	#	926	2.95	1.9	1.5	#
873	3.63	2.5	1.4	#	927	3.51	1.9	1.8	#
874	3.12	2.4	1.3	#	928	3.41	1.9	1.8	#
875	4.17	2.4	1.7	#	929	2.54	1.9	1.3	#
876	3.60	2.4	1.5	#	930	4.31	2.1	2.0	#
877	3.68	2.4	1.5	#	931	5.04	2.4	2.1	#
878	3.36	2.4	1.4	#	932	4.50	2.5	1.8	#
879	4.32	2.4	1.8	#	933	2.73	2.1	1.3	#
880	3.12	2.4	1.3	#	934	3.36	2.1	1.6	#
881	2.76	2.4	1.1	#	935	3.15	2.1	1.5	#
882	3.25	2.5	1.3	#	936	2.97	2.2	1.3	#
883	6.72	4.2	1.2	台形	937	3.30	2.2	1.5	#
884	3.52	4.2	1.6	三角形	938	2.86	2.2	1.3	#
885	7.92	4.4	1.5	台形	939	3.38	2.2	1.5	#
886	7.56	2.9	2.8	長方形	940	4.16	2.2	1.9	#
887	5.04	2.8	1.5	#	941	3.15	2.2	1.4	#
888	3.36	2.4	1.4	#	942	3.68	2.3	1.6	#
889	3.45	2.3	1.5	#	943	3.45	2.3	1.5	#
890	3.36	2.1	1.6	#	944	3.45	2.3	1.5	#
891	2.34	1.8	1.3	#	945	3.76	2.3	1.6	#
892	2.52	1.8	1.4	#	946	3.34	2.3	1.4	#
893	2.16	1.8	1.2	#	947	3.30	2.2	1.5	#
894	3.15	1.8	1.7	#	948	3.47	2.1	1.6	#
895	3.23	1.9	1.7	#	949	3.30	2.0	1.6	#
896	2.57	1.9	1.3	#	950	3.32	1.9	1.7	#
897	3.02	1.9	1.6	#	951	3.42	1.9	1.8	#
898	2.54	1.9	1.3	#	952	2.97	1.8	1.6	#
899	3.20	2.0	1.6	#	953	2.28	1.7	1.3	#
900	3.30	2.0	1.6	#	954	5.88	2.8	2.1	#
901	2.80	2.2	1.3	#	955	6.48	2.7	2.4	#
902	3.55	2.2	1.6	#	956	6.50	2.6	2.5	#
903	3.33	2.2	1.5	#	957	2.77	2.1	1.3	#
904	2.37	2.2	1.5	#	958	3.20	2.0	1.6	#
905	3.12	2.2	1.4	#	959	2.97	2.1	1.4	#
906	3.87	2.2	1.8	#	960	2.77	2.1	1.3	#
907	4.41	2.1	2.1	台形	961	2.90	2.0	1.4	#
908	2.70	2.0	1.3	長方形	962	3.59	2.1	1.7	#
909	2.73	2.1	1.3	#	963	2.87	2.1	1.4	#
910	3.36	2.1	1.6	#	964	3.59	2.1	1.7	#
911	3.26	2.1	1.5	#	965	3.28	2.1	1.6	#
912	2.73	2.1	1.3	#	966	3.18	2.1	1.5	#
913	2.97	2.1	1.4	#	967	3.22	1.9	1.7	#
914	2.50	2.0	1.2	#	968	2.83	1.9	1.5	#

II 調査の内容

番号	面積	長 辺	短 辺	形 状	番号	面積	長 辺	短 辺	形 状
969	3.41	1.9	1.8	長 方 形	1023	7.48	3.6	2.2	台 形
970	3.02	1.9	1.6	#	1024	7.00	3.2	2.5	#
971	3.14	1.9	1.6	#	1025	3.92	2.6	1.6	#
972	3.33	1.9	1.7	#	1026	3.15	2.3	1.5	#
973	3.23	1.9	1.7	#	1027	3.40	1.9	2.0	#
974	2.95	1.9	1.5	#	1028	4.59	2.7	1.4	#
975	2.00	1.9	1.0	#	1029	7.26	4.4	1.4	#
976	7.44	3.1	2.4	#	1030	5.67	2.7	1.9	#
977	7.29	3.1	2.3	#	1031	5.50	2.5	2.3	平行四辺形
978	8.06	3.1	2.6	#	1032	8.16	3.2	2.4	台 形
979	2.97	2.2	1.3	#	1033	7.97	3.3	2.7	#
980	3.44	2.1	1.6	#	1034	10.08	3.6	2.7	#
981	3.05	2.1	1.4	#	1035	10.07	3.8	2.5	#
982	3.15	2.1	1.5	#	1036	7.56	3.3	2.8	#
983	3.15	2.1	1.5	#	1037	5.04	2.8	1.5	#
984	3.36	2.1	1.6	#	1038	4.03	2.6	1.4	#
985	3.08	2.0	1.5	#	1039	7.02	2.6	2.4	#
986	3.49	2.0	1.7	#	1040	4.70	2.6	2.0	#
987	3.59	2.0	1.8	#	1041	1.58	2.1	0.7	長 方 形
988	2.95	1.9	1.5	#	1042	2.21	2.1	1.0	#
989	3.06	1.8	1.7	#	1043	2.58	2.1	1.2	#
990	2.68	1.8	1.5	#	1044	2.64	2.2	1.2	#
991	3.06	1.8	1.7	#	1045	2.59	2.2	1.2	#
992	2.71	1.8	1.5	#	1046	1.83	3.0	0.6	#
993	2.89	1.7	1.7	正 方 形	1047	3.32	2.5	1.3	#
994	3.06	1.8	1.7	長 方 形	1048	2.94	2.4	1.2	#
995	2.89	1.7	1.7	正 方 形	1049	2.99	2.3	1.3	#
996	2.48	1.6	1.5	長 方 形	1050	3.25	2.1	1.5	#
997	2.57	1.9	1.3	#	1051	2.80	2.1	1.3	#
998	3.20	2.0	1.6	#	1052	2.94	2.1	1.4	#
999	3.20	2.0	1.6	#	1053	2.93	2.2	1.3	#
1000	3.47	2.1	1.6	#	1054	2.93	2.2	1.3	#
1001	3.00	2.0	1.5	#	1055	2.81	2.2	1.3	#
1002	3.02	1.9	1.6	#	1056	2.48	2.2	1.1	#
1003	2.87	1.8	1.6	#	1057	2.73	2.1	1.3	#
1004	2.79	1.8	1.6	#	1058	2.10	2.1	1.0	#
1005	2.79	1.8	1.5	#	1059	2.47	2.1	1.2	#
1006	3.49	2.0	1.7	#	1060	2.80	2.1	1.3	#
1007	3.36	2.1	1.6	#	1061	3.34	2.3	1.4	#
1008	2.89	1.7	1.7	正 方 形	1062	2.99	2.3	1.3	#
1009	3.49	2.1	1.7	長 方 形	1063	3.45	2.3	1.5	#
1010	3.79	2.1	1.8	#	1064	2.99	2.3	1.3	#
1011	7.25	2.9	2.5	#	1065	3.57	2.3	1.5	#
1012	6.41	2.8	2.3	#	1066	2.75	2.2	1.2	#
1013	6.86	2.8	2.4	#	1067	3.08	2.2	1.4	#
1014	3.28	2.0	1.6	#	1068	2.75	2.2	1.2	#
1015	2.80	2.0	1.4	#	1069	2.86	2.2	1.3	#
1016	3.51	1.9	1.8	#	1070	3.30	2.2	1.5	#
1017	4.00	2.6	1.6	台 形	1071	3.22	2.3	1.4	#
1018	3.15	2.4	1.4	#	1072	3.48	2.4	1.4	#
1019	3.32	2.1	1.7	#	1073	3.17	2.3	1.4	#
1020	2.72	1.8	1.6	#	1074	3.57	2.3	1.5	#
1021	2.32	1.6	1.6	#	1075	2.34	1.8	1.3	#
1022	11.02	3.9	2.9	#	1076	2.66	1.9	1.4	#

4 同道田期水田

番号	面積	長	短	辺	辺	形状	番号	面積	長	短	辺	辺	形状
1077	2.34	1.9	1.2	#	#	1131	2.82	2.3	1.2	1.2	長方形		
1078	3.18	2.1	1.5	#	#	1132	2.94	2.3	1.3	#	#		
1079	2.94	2.1	1.4	#	#	1133	2.82	2.3	1.2	#	#		
1080	3.10	2.0	1.5	#	#	1134	2.82	2.3	1.2	#	#		
1081	2.85	1.9	1.5	#	#	1135	3.29	2.3	1.4	#	#		
1082	2.47	1.9	1.3	#	#	1136	3.64	2.3	1.6	#	#		
1083	3.12	1.9	1.6	#	#	1137	3.36	2.4	1.4	#	#		
1084	2.95	2.0	1.0	#	#	1138	3.48	2.4	1.4	#	#		
1085	2.86	2.2	1.3	#	#	1139	3.60	2.4	1.5	#	#		
1086	2.86	2.2	1.3	#	#	1140	2.67	2.2	1.2	#	#		
1087	2.58	2.1	1.2	#	#	1141	2.47	2.2	1.1	#	#		
1088	2.80	2.1	1.3	#	#	1142	2.80	2.2	1.3	#	#		
1089	2.80	2.1	1.3	#	#	1143	2.52	2.1	1.2	#	#		
1090	3.60	2.2	1.6	#	#	1144	2.73	2.1	1.3	#	#		
1091	3.26	2.2	1.5	#	#	1145	2.52	2.1	1.2	#	#		
1092	3.29	2.3	1.4	#	#	1146	3.05	2.1	1.4	#	#		
1073	3.80	2.5	1.5	#	#	1147	3.08	2.1	1.5	#	#		
1094	2.45	2.5	1.0	#	#	1148	2.77	2.1	1.3	#	#		
1095	2.82	2.5	1.1	#	#	1149	2.97	2.1	1.4	#	#		
1096	3.19	2.5	1.3	#	#	1150	3.18	2.1	1.5	#	#		
1097	3.12	2.4	1.3	#	#	1151	3.01	2.1	1.4	#	#		
1098	2.88	2.4	1.2	#	#	1152	2.37	2.1	1.1	#	#		
1099	2.82	2.3	1.2	#	#	1153	2.46	2.0	1.2	#	#		
1100	5.75	2.3	2.0	#	#	1154	2.77	2.1	1.3	#	#		
1101	2.99	2.3	1.3	#	#	1155	2.73	2.1	1.3	#	#		
1102	3.60	2.2	1.6	#	#	1156	3.15	2.1	1.5	#	#		
1103	3.08	2.2	1.4	#	#	1157	3.30	2.2	1.5	#	#		
1104	3.08	2.2	1.4	#	#	1158	2.86	2.2	1.3	#	#		
1105	3.23	2.1	1.5	#	#	1159	3.08	2.2	1.4	#	#		
1106	2.52	2.7	0.9	#	#	1160	3.63	2.2	1.6	#	#		
1107	3.06	2.5	1.2	#	#	1161	3.57	2.3	1.5	#	#		
1108	3.00	2.5	1.2	#	#	1162	3.38	2.2	1.5	#	#		
1109	2.94	2.3	1.3	#	#	1163	2.36	2.2	1.1	#	#		
1110	3.26	2.1	1.5	#	#	1164	3.06	2.3	1.3	#	#		
1111	3.12	2.1	1.5	#	#	1165	3.06	2.3	1.3	#	#		
1112	3.05	2.1	1.5	#	#	1166	3.45	2.3	1.5	#	#		
1113	3.23	2.1	1.5	#	#	1167	3.45	2.3	1.5	#	#		
1114	2.37	2.1	1.1	#	#	1168	3.45	2.3	1.5	#	#		
1115	2.42	2.2	1.1	#	#	1169	2.93	2.2	1.3	#	#		
1116	2.65	2.3	1.1	#	#	1170	3.38	2.2	1.5	#	#		
1117	3.00	2.4	1.2	#	#	1171	3.49	2.2	1.6	#	#		
1118	2.76	2.4	1.1	#	#	1172	3.52	2.2	1.6	#	#		
1119	3.19	2.4	1.3	#	#	1173	2.63	2.1	1.2	#	#		
1120	2.64	2.4	1.1	#	#	1174	2.94	2.1	1.4	#	#		
1121	3.82	2.3	1.2	#	#	1175	2.73	2.1	1.3	#	#		
1122	3.22	2.3	1.4	#	#	1176	2.42	2.1	1.1	#	#		
1123	3.49	2.3	1.5	#	#	1177	2.70	2.0	1.3	#	#		
1124	3.08	2.2	1.4	#	#	1178	2.60	2.0	1.3	#	#		
1125	3.15	2.1	1.5	#	#	1179	3.10	2.0	1.5	#	#		
1126	2.97	2.1	1.4	#	#	1180	3.00	2.0	1.5	#	#		
1127	2.59	2.2	1.2	#	#	1181	3.20	2.0	1.6	#	#		
1128	2.76	2.3	1.2	#	#	1182	2.60	2.0	1.3	#	#		
1129	2.65	2.3	1.1	#	#	1183	3.12	1.9	1.6	#	#		
1130	2.82	2.3	1.2	#	#	1184	2.93	1.9	1.5	#	#		

II 調査の内容

番号	面 積	長 辺	短 辺	形 状	番号	面 積	長 辺	短 辺	形 状
1185	3.32	1.9	1.7	長方形	1239	3.38	2.2	1.5	長方形
1186	2.73	2.1	1.3	#	1240	3.45	2.3	1.5	#
1187	2.84	2.1	1.3	#	1241	3.53	2.3	1.5	#
1188	2.46	2.0	1.2	#	1242	2.10	2.1	1.0	#
1189	2.46	2.0	1.2	#	1243	3.26	2.1	1.5	#
1190	2.60	2.0	1.3	#	1244	2.80	2.1	1.3	#
1191	2.60	2.0	1.3	#	1245	3.60	2.2	1.6	#
1192	2.83	1.9	1.5	#	1246	2.80	2.0	1.4	#
1193	3.14	1.9	1.6	#	1247	2.83	1.9	1.5	#
1194	2.85	1.9	1.5	#	1248	2.47	1.9	1.3	#
1195	2.41	1.8	1.3	#	1249	2.70	1.8	1.5	#
1196	2.87	1.8	1.6	#	1250	2.54	1.9	1.3	#
1197	2.78	1.8	1.5	#	1251	2.67	2.0	1.3	#
1198	3.04	1.9	1.6	#	1252	3.55	2.2	1.6	#
1199	2.99	2.3	1.3	#	1253	3.11	2.3	1.3	#
1200	3.22	2.3	1.4	#	1254	3.38	2.2	1.5	#
1201	2.93	2.2	1.3	#	1255	3.30	2.2	1.5	#
1202	3.74	2.2	1.7	#	1256	3.19	2.2	1.4	#
1203	3.23	2.1	1.5	#	1257	3.80	2.3	1.6	#
1204	2.73	2.1	1.3	#	1258	3.08	2.2	1.4	#
1205	3.15	2.1	1.5	#	1259	3.70	2.0	1.8	#
1206	3.00	2.5	1.2	#	1260	2.99	2.3	1.3	#
1207	3.75	2.5	1.5	#	1261	3.91	2.1	1.4	#
1208	3.12	2.4	1.3	#	1262	3.30	2.2	1.5	#
1209	4.00	2.3	1.7	#	1263	3.11	2.3	1.3	#
1210	3.45	2.3	1.5	#	1264	3.76	2.3	1.6	#
1211	3.08	2.2	1.4	#	1265	3.12	2.4	1.3	#
1212	3.08	2.2	1.4	#	1266	3.92	2.4	1.6	#
1213	1.76	2.2	0.8	#	1267	3.83	2.5	1.5	#
1214	2.00	2.3	0.8	#	1268	2.56	1.6	1.6	正方形
1215	3.53	2.3	1.5	#	1269	2.48	1.6	1.5	長方形
1216	3.22	2.3	1.4	#	1270	3.06	1.8	1.7	#
1217	3.19	2.2	1.4	#	1271	3.90	3.0	1.3	#
1218	2.52	2.1	1.2	#	1272	4.48	2.8	1.6	#
1219	2.60	2.0	1.3	#	1273	4.37	2.7	1.6	#
1220	2.66	1.9	1.4	#	1274	4.00	2.5	1.6	#
1221	2.34	1.8	1.3	#	1275	2.48	1.6	1.5	#
1222	3.05	1.8	1.7	#	1276	3.06	1.8	1.7	#
1223	2.76	1.9	1.4	#	1277	2.87	1.8	1.6	#
1224	2.83	1.9	1.5	#	1278	2.85	1.9	1.5	#
1225	2.83	1.9	1.5	#	1279	3.10	2.0	1.5	#
1226	3.92	1.9	1.6	#	1280	2.72	1.7	1.6	#
1227	2.78	1.8	1.5	#	1281	2.48	1.6	1.5	#
1228	1.85	2.0	0.9	#	1282	1.60	1.6	1.0	#
1229	3.10	2.0	1.5	#	1283	3.08	2.0	1.5	#
1230	2.87	2.0	1.4	#	1284	2.85	1.9	1.5	#
1231	3.12	2.2	1.4	#	1285	2.89	1.7	1.7	台形
1232	2.64	2.2	1.2	#	1286	2.48	1.6	1.5	長方形
1233	3.38	2.2	1.5	#	1287	2.25	1.5	1.5	台形
1234	2.99	2.3	1.3	#	1288	2.02	1.5	1.3	長方形
1235	2.99	2.3	1.3	#	1289	4.29	2.6	1.6	#
1236	3.80	2.3	1.6	#	1290	3.18	2.1	1.5	#
1237	3.08	2.2	1.4	#	1291	3.18	2.1	1.5	#
1238	3.19	2.2	1.4	#	1292	2.40	2.0	1.2	#

(4) 取配水方法

a 灌漑水路

水路の規模 Ⅲ期水田の灌漑施設としての水路は、北西端よりL字形に曲折して東側へと抜けるものが一条検出された。この水路がF P期火山灰で廃絶される時点での規模は、上幅70～250cm、下幅10～60cm、深さが15～30cmであり、上下流両端の底面標高差46cm、平均勾配0.5%で東流している。L字コーナーより東側部分では、標高120mの等高線に沿うように走行している。この水路はⅡ期水田の水路を全くトレースしており、F A層の上に約8cmの黒色粘質土を挟んでF P期火山灰が5cm堆積している。水路の規模はⅡ期水田時よりも1回り小さく、F A降下以降、F P期火山灰で埋没するまでの間に、再掘削された痕跡は認められない。これはⅡ期水田の水路が、F Aの降下によっても完全に埋没することなく、その形状をとどめて水路としての機能を保持していたため、そのまま再利用されたことがうかがえる。Ⅱ期水田時に見られたL字コーナー以外の取入口や堰状遺構は検出されなかった。

● 第308図、図版20

水路の給水範囲 このL字形水路からの給水範囲は、地形勾配からみて水路よりも低位にあるⅡ・Ⅲ区に限定される。Ⅰ区については、より高位にあることや大・小アゼの設置のあり方が、この水路から取水できる構造となっていない。おそらく発掘区域外に何らかの取入口があるか、あるいは他の灌漑施設が存在するものと予測される。またこの水路は、Ⅱ期水田時の水路と同様北西方向から延びてきており、周辺の地形から判断してその水源を井野川支流の沢水に求めていると思われる。

b 小区画水田の取配水

Ⅱ区における水路からの取配水方法は、第46図に示したようにL字形に折れ曲ったコーナー南側に幅1mの取入口があり、まずここから取水される。そして更にNo1028～1040へと東方向に送水され、それと併行して南側に隣接するNo1022～1027などに逐次配水されて、南北小アゼで帯状に仕切られた各区単位に小区画水田を灌漑する方法をとっている。各区画に配された水は、方向を変えて他の列に流入することはなく、東西小アゼの一部を切って設置された水口より、田越しに南方へと懸け流されてゆく。小区画水田の水口の位置や規模は、小アゼが扁平化しているためそのほとんどが確認できていない。しかし、わずかながら検出された水口が東西小アゼ上に位置することや、北から南方への地形勾配などから考えると、少なくとも東西辺の小アゼ上に設置されるとみて間違ないだろう。またこのことは、水路や大・小アゼ、地形等の面でⅡ期水田と全く同じ構造を有する点からも推察される。小アゼの遺存状態が比較的良好なⅠ区の北半部では、第41図のように水口は小アゼの交差する東西辺コーナーに設置されており、Ⅱ期水田のような東西辺の中央部に設置される場合とそ様の相を異にしている。しかし、Ⅲ期水田にもNo302・303などのように東西アゼの中央部に水口の設置される例もあり、両者が併用されていたものと思われる。Ⅲ区に関しては、水路に隣接した部分の大・小アゼの扁平化が著し

● 図版22-1

II 調査の内容

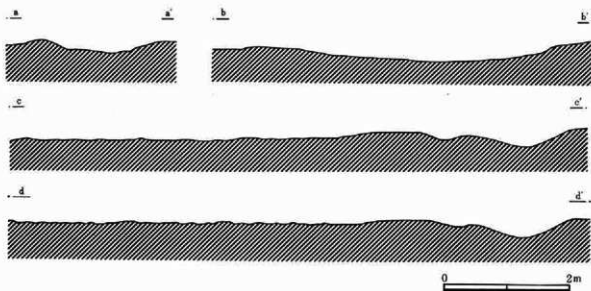
くこの水路からの取水経路も判然としな。わずかな痕跡ではあるが、C大アゼと水路との間に幅10～40cm、深さ5～10cmで、C大アゼに沿って東へ延びる小溝が検出されている。この小溝はB大アゼの手前でその痕跡が不鮮明となるが、その位置からみてし字形コーナーよりⅢ区へ送水する支水路の可能性はある。I・Ⅲ区内の各小区画水田の配水は、Ⅱ区と同様各区画ごとに北から南へ向かって順次田越しに懸け流す方法をとっている。

Ⅱ期及びⅢ期の小アゼで囲まれた小区画水田は、各々その区画内で湛水できる構造となっている。仮りに土の切り盛り整地をせずに勾配1.4%の原地形をそのまま利用して2.4m(南北小アゼ)×1.3m(東西小アゼ)の平均的規模の区画内で湛水できるようにするためには、南北小アゼ2.4mに対し南側の東西小アゼの高さが、 $2.4\text{m} \times 1.4\% \div 100 = 0.034\text{m}$ 必要となる。つまり4cmあれば計算上は充分となる。これに対し、遺存良好なNo310等の小アゼ高を見ると、約10cmあり、水口の高さを考慮しても湛水が可能な高さとなっている。Ⅱ・Ⅲ期水田を造成する際に切り盛り整地をしたか否かは別としても、前記のことは、小区画水田が原地形の勾配を改変せずに造成された場合でも充分に湛水できる構造を有していることを示している。

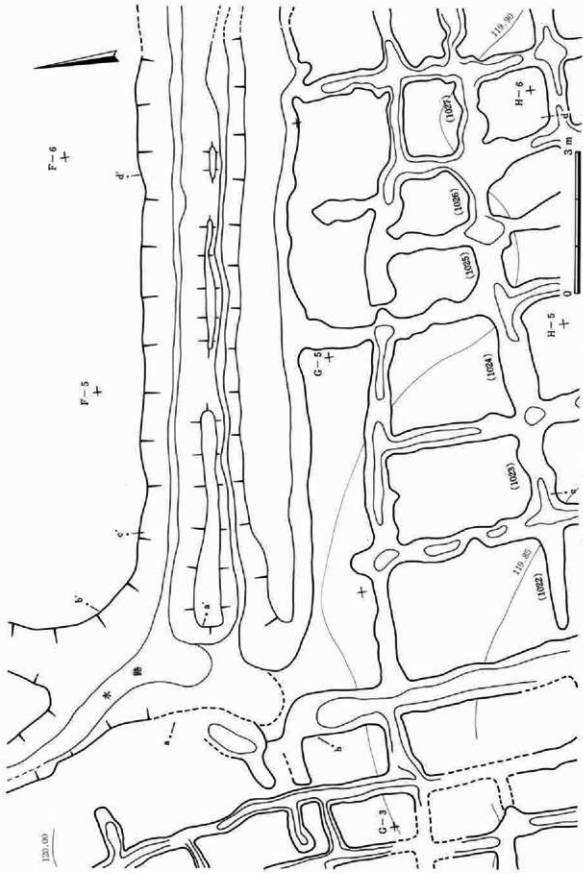
(5) 足 跡

小区画水田内には5cmほどの高さの凹凸が無数に認められ、水田面が荒れた状態を呈している。これが人間の歩行によるものか、あるいは他の原因によるものかは不明であるが、この凹凸により水田面上での足跡の検出が困難であった。大アゼ上には不鮮明ながらも多数の足跡が認められた。その歩行の方向は、大アゼの走行に沿ってなされており、大アゼが作業道としての役割も持っていたことがうかがえる。

(石坂 茂)



第45図 Ⅲ期水田・水路の横断面



第40図 田圃水田・水路からの取水と配水

II 調査の内容

(6) 遺物出土状況と内容

Ⅲ期水田に伴なうと考えられる遺物として、3個体の土師器の出土があった。それらはいずれも耕作土中や大アゼの中からの出土であり、水田址の表面から出土したものではない。

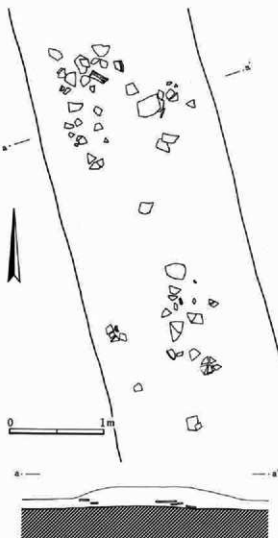
坏(第48図1、図版40-1a) Ⅲ期水田の耕作土中より出土した。小さな破片であり、口縁部から稜線を持つ胴上部まで約 $\frac{1}{2}$ の破片である。口径12.3cm。色調は赤褐色を呈しており、焼成は堅緻である。胎土は密で良く選択されている。器面の整形は内外面横ナデ、口縁部内側はその後に左上方向へ向かうヘラによる暗文整形が行なわれている。

埴(第48図2、版40-1b) Ⅲ期水田に伴う水路埋土中より出土した。口縁部の一部のみの小さな破片であるが、この時期に伴う遺物は数が少ないため非常に重要な遺物のひとつである。色調は赤褐色を呈しており、堅くていねいに焼かれている。

胎土は密で良く選択されている。器面の整形は内外とも横ナデ、口縁部外側は縦方向に研磨がなされている。

壺(第48図3、図版40-1c) Ⅲ期水田には南北方向に走る大アゼが2本検出された。その中で西側に位置しているA大アゼの中よりこの壺は出土した。出土位置はQ・P-5グリッド内である。第47図の平面図および断面図に示したように、多くの破片として散乱していた。これらの破片を接合した結果ほぼ1個体の壺に復元できた。色調は褐色を呈しており、焼成は堅緻である。胎土は1mm内外の砂を多量に含み、器面は荒い。この事は前出の坏、埴とは大きく異なっている。器高36.7cm。口径20.2cm。頸部15.2cm。最大径を胴中央部に持つが、口縁部径も大きくその数値に近い。胴部はなだらかな曲線を持ち弧を描く。口縁部は比較的幅広くゆるやかに外反する。口唇部はやや外側に折り返しがあり厚くなる。底部周辺から頸部に向かい直線状にヘラ削りがなされている。底部内側は中央が最も深く、なだらかに胴部へ移行する。底部と胴部との境は認められない。底部外側はほぼ平底であり、胴部との境は明瞭である。やや丸味を持つ底部にハケ目状の整形痕が認められる。底部に近い胴下半部にハケ目状整形痕、胴部はその上にヘラ削りによる整形、口縁部は横ナデによる整形である。(中沢 悟)

●図版26



第47図 Ⅲ期水田・A大アゼ下の土器出土状況

5 同道IV期水田

(1) 水田の地形

IV期水田は、4面の水田址のうち最上層に位置する。検出された水田址は、調査面積の約1/5にあたる2,900m²で、遺跡の北半部に限定されている^{*}。その面積は下層の3面の水田址に比べ、最も少ない。

水田面は、北東隅の標高120.75mを最高点として、中央部の標高120.15mへ向って約0.8%の勾配で傾斜している。南側で等高線の間隔が狭くなるのは、後世の擾乱によって耕作土が削平され、地形勾配が変化しているためである。

*第56図、付図IV、図版27

(2) アゼの走行と区画

水田を区画するアゼは、発掘区域内では小アゼしか認められず、I～III期水田でみられた幅1mにおよぶ大アゼは検出されなかった。

a 小アゼの走行と区画

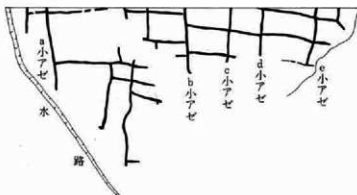
規模と形状 小アゼは上幅20～30cm、下幅40～60cm、水田面との比高5～15cmで断面がカマボコ形を呈する。平均的な小アゼの下幅は50cmであるが、b小アゼのように60cm前後の広いアゼもある。アゼは水田耕作土と同様の土を盛り上げて作られるが、矢板や杭などで補強された痕跡は認められなかった。

**第50図

アゼの走行と区画 小アゼはほぼ直線的に走行するが、蛇行するものも少なからず見られる。比較的直線的なaからdの南北小アゼの走行方向をみると、a小アゼはN10°30'W、b小アゼはN5°30'W、c小アゼはN2°E、d小アゼはN1°30'Eとなる。当遺跡における真北方位は座標北よりN0°32'20"Eとやや東へ傾くが、これを考慮するとc・d小アゼは真北方向に近似した走行方向となる。

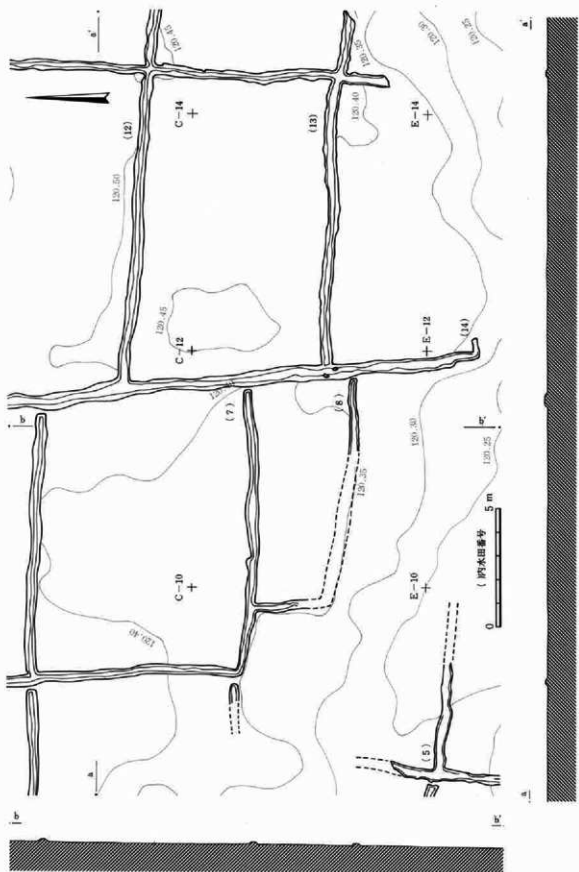
東西および南北方向に走行する小アゼは、全区画にまたがる様に連続するものはなく、多くの場合2～3区画の連続にとどまっている。また個々の水田区画は方形を基調とするが、b小アゼを境としてその東・西とで異なったあり方を示す。b小アゼの東側ではかなり整然とした方形区画をもち、東西・南北方向にも相互に連続して帯状の水田区画となっている。これに対してb小アゼの西側では、蛇行する小アゼが多く、区画も大小のものが入り乱れて雑然としている。

各水田面はほぼ平坦で、一区画内の比高差も約5cm内外におさまる。また隣接する区画相互の比高差は5～10cmであり、若干の段差をもちながら地形勾配と同様に南方へ向って低下している。

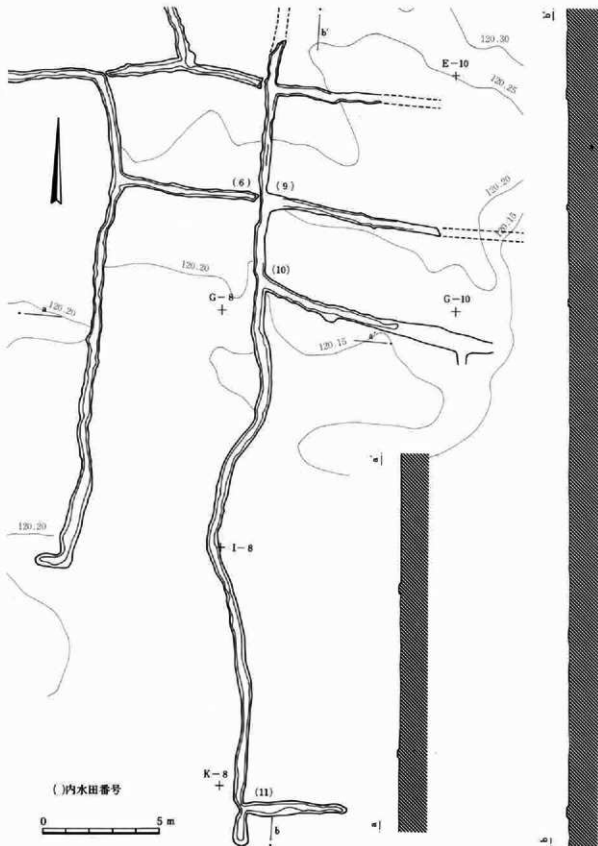


第50図 小アゼによる区画模式図

II 調査の内容

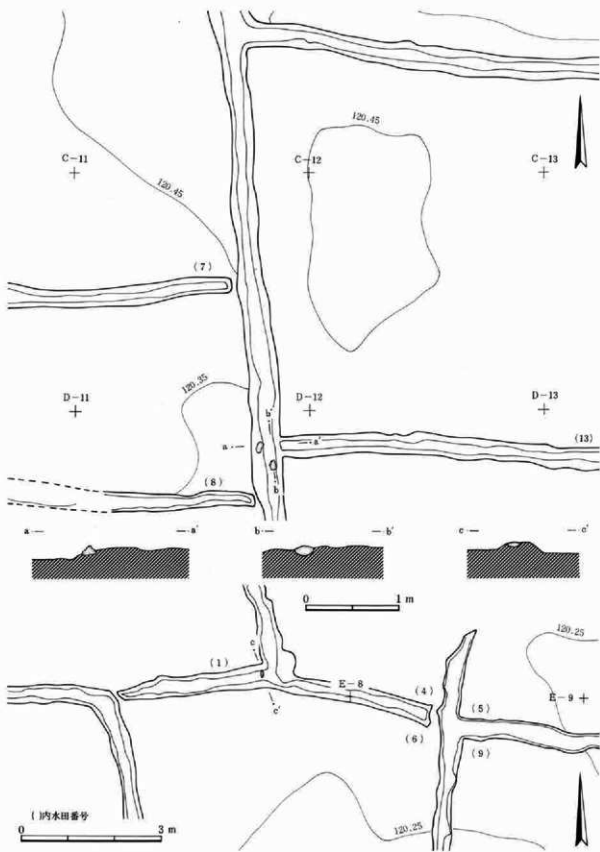


第51図 IV期水田・灌漑的な区画



第52図 IV期水田・湾曲した南北アゼ

II 調査の内容



第53図 IV期水田・アゼ上の埋石

小アゼおよび水田区画と地形との関係を見ると、南北小アゼは等高線の走行に対してほぼ直交し、東西小アゼは等高線と並行するように走行している。

水田区画は、地形勾配がやや急になる地点にはNo.4・6・8などのように小さな区画が見られ、逆にゆるい勾配となる地点にはNo.1・2などのように大きな区画がみられる。こうしたことは、アゼや区画の設置が地形勾配に即して行なわれていることを物語るものであろう。また水田区画の長辺は等高線と並行するように設置されているが、これは水田面の切り盛り整地に伴う労働の省力化を考慮した区画方法と言える。

b アゼの交点と埋石

アゼの上に直径5cm、厚さ5～10cmほどの河原石を埋めた例(埋石)が3箇所確認されている。そのうち、2箇所は他の小アゼよりも10cm前後広い幅をもつb小アゼ上であり、No.12・13区画の南西コーナーの小アゼ交点にあたる。もう1箇所はNo.4区画の同じく南西コーナーの小アゼ交点にある。河原石はその径の半分あるいは全部が小アゼに埋まり、動かないように固定された状態であった。

b小アゼ上の埋石の場合、東側から延びてくる小アゼとの交点にその位置が限定され、西側的小アゼとの交点には埋置されていない。西側小アゼとの交点には水口が設置されており、こうしたことと埋石のなされないことが何らかの関係をもつことも推測される。いずれにしても、b小アゼではその東側から延びてくるアゼとの交点に埋石がなされる傾向が見られ、No.4区画の場合とは異なったあり方を示すものであろう。こうした埋石が小アゼ交点の全てには行なわれていないことと、埋石のある箇所がアゼの交点に限定されていることからみて、埋石がアゼの補強としてではなく、水田区画の境界的な目印としてあったものと考えられる。

(3) 水田の面積

IV期水田は、区画の一部しか検出できないものも含めて29面が確認された。そのうち、完全な区画となるものやアゼの復元によってある程度区画が判読できるものは18面にとどまった。各水田の面積は、No.1のような363.8㎡という大きなものからNo.6の28.92㎡という小さなものまで、かなりの較差が見られる。またb小アゼを境とした東・西では、その様相もかなり異なっている。例えば、西側では先述のNo.1やNo.6のように大小様々な面積をもつ水田区画が入り組んでいるが、東側では約70～110㎡の範囲で比較的面積、形状ともまとまりをみせている。

*第51・52面

**第53面

第8表 IV期水田の面積一覧

(単位:m)

番号	面積	長	辺	短	辺	形状
1	363.8	23.4	20.5	15.7	17.3	四辺形
2	297.5	19.4	19.9	16.9	13.1	#
3	55.8	8.1	6.7	7.7		台形
4	38.1	7.6	8.0	4.5	3.0	#
5	65.6	15.2	17.4	8.3	9.4	不定形
6	28.92	6.7	5.9	4.1		台形
7	100.85	11.1	11.9	8.5		#
8	34.00	9.2	2.8	4.3		#
9	79.2	17.0	17.8	4.2	4.8	四辺形
10	71.8	17.7	18.2	2.9	4.3	#
11	183.8	21.5	19.9	8.6	9.2	#
12	107.8	17.8	12.9	8.1		台形
13	95.13	12.9	12.1	7.6		#
14	69.3	11.9	10.9	6.0		#
15	77.28	9.6	8.2			平行四辺形
16	69.63	9.4	10.5	7.6		台形
17	109.49	16.2	7.4	7.2		四辺形
18	121.02	16.2	16.5	7.6	6.8	#

II 調査の内容

(4) 取配水方法

a 灌漑水路

● 図版30-1

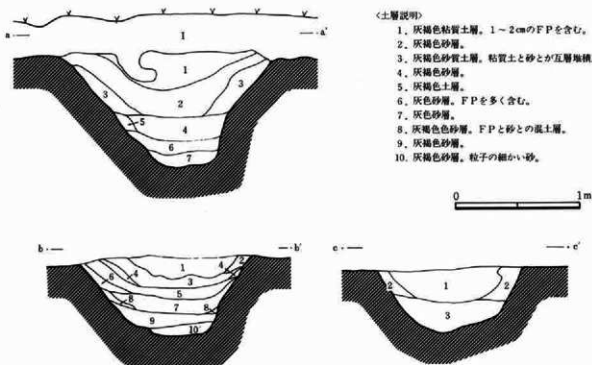
IV期水田の灌漑施設としての水路は、西側で南北方向に走るものが1条検出されている。この水路の埋土中には、水田を直接覆っている浅間Bの純層が検出されていないために、層的にみて確実に水田址に伴う水路と断定することは難しい。しかし、水路底面より国分式土器が数点出土しており、これにより水田址に伴う水路との判断を下している。

●● 第54図、図版30-2

水路の規模 水路の大きさは、上幅150~170cm、底面幅40~60cm、深さ70~90cm、上下流両端の底面横高差40cm、平均勾配20.4%で南東方向に流れている。また断面形はV字形を呈している。水路内の埋土は砂礫が互層をなして堆積しており、かなり多くの流量があったことを示している。

また、この水路は北西方向から延びてきており、周辺の地形から判断して、その水源を井野川支流の沢水に求めていると思われる。

水路からの取水 この水路は、水田検出区域の中でも地形的に低位にある西側に位置しており、取水路ではなく排水路として機能していた可能性がうかがえる。ただし、発掘区域以外の水路上流に堰が設置された場合には、一部の水田区画への取水も可能であったと思われる。いずれにしても水路等の灌漑施設からの取水は、発



第54図 IV期水田水路・埋設土層の断面

掘区域外の北側より行なわれたことが推察される。

水路と水田区画との隣接部には、後世の土壌攪乱が入っているために排水口等は検出されていない。

b 各水田の配水

北側の発掘区域外より取入れられた水は、東西小アゼ上に設けられた水口より順次田越しに南方へと懸け流される。水口が検出された水田区画は、No1・4・6～8のみで、他の区画では検出されなかった。水口はそのほとんどが区画の南東コーナーに設置され、東西小アゼの一部を幅20～30cmほど切り取って作られている。また南北小アゼ上に水口が設置されることはなく、このため水の流れは常に南北小アゼの走行に規制されて北から南へ向って流れ下る。

●図版29-2

実際に判明している配水経路は、No1→6、No3→4→6、No7→8→5のみであるが、No6の区画には2箇所別の区画より配水されている。b小アゼより東側のNo12～18の区画では水口が検出されていないが、これは水口が閉ざされているためと考えられる。しかし、水口の位置は地形からみて先例と同じく東西小アゼのコーナーに付くものであろう。No17・18では南西コーナーに設置されている可能性が高い。

IV期水田では、I期水田で見られたような、流水が水口を落下する際の侵食によってできる凹みは認められなかった。

(5) 足 跡

水田面には、I期水田で見られたような明瞭な人間の足跡は検出されなかったが、獣足跡を思わせる直径5cmほどの円形状の浅い凹みが、不規則な状態で無数に認められた。またこの痕跡は小アゼ上にも若干見ることができた。これらの凹みが人や獣等の足跡ではなく、稲の株跡の可能性もあるが、どちらにしても断定できるまでに至らなかった。

(石坂 茂)

(6) 遺物出土状況と内容

IV期水田に伴う土器群として12個体がある。それらの土器群は須恵器環、羽釜、埴、陶器の皿、灰釉陶器の瓶と思われるものなどである。これらの出土場所は2・3・9・12の4個体が水路中より、1・5～8・10・11の7個体がIV期水田耕作土のⅢ層中よりの出土である。以下にそれぞれの遺物について記述した。なお時代の推定可能と思われる遺物の年代観については、「IV成果と問題点」の中で触れる。

環(第55図1、図版40-2a) 水田耕作土中より出土した須恵器の環である。約1/2が残存。口径12.4cm、器高3.1cm。色調は灰白色。胎土は密であり、少量の黒雲母を含む。焼成は還元焰により、堅緻に焼締められている。底部不定方向手持ヘラ削り。削りの単位により多少の凹凸を持つ。底部中央がやや外側へ張り出している。口径に対して器高の低い環である。

環(第55図2) 水路埋土中より出土した須恵器の環である。約1/2残存。口径約

II 調査の内容

11.4cm。色調は灰褐色。胎土は密。焼成はやや酸化焙焼成気味である。

環(第55図3) 水路埋土中より出土した須恵器の環。約 $\frac{1}{2}$ が残存。口径約9.7cm。色調は灰褐色。胎土は密で、焼成はやや酸化焙焼成気味であり、堅緻である。やや丸味を帯びているが、平底の底部を持つ。底部は手持へら削りによりていねいに整形されている。底部周辺には回転へら削りがなされている。

環(第55図4) 水田耕作土攪乱層中の施軸陶器の皿である。中近世以降の焼物と思われ、後世の混入品である。約 $\frac{1}{2}$ が残存。口径約10.4cm。器高1.9cm。底径約4cm。素地の色調は灰白色・軸葉の色調は茶色である。ロクロ水挽きによる整形であり、内側全面と口縁部外側まで施軸されている。

環(第55図5) 耕作土下部出土の須恵器環底部である。 $\frac{1}{2}$ が残存。色調は灰白色。胎土は密。焼成は還元焰であり堅緻である。底部に右回転糸切痕が残る。

塊(第55図6) 耕作土下部出土の須恵器塊の一部である。色調は灰白色。焼成は還元焰であり焼締られている。胎土は密である。高台部内側に回転糸切痕を明瞭に残す。高台はていねいに貼り付けてある。

塊(第55図7、図版40-2d) 耕作土中より出土した須恵器の塊である。口縁部の一部と底部の $\frac{1}{2}$ が残存。底径約8.6cm。色調は灰白色。焼成は還元焙焼成である。胎土は密である。高台部内側回転ナデ、高台はていねいに整形される。

環(第55図8、図版40-2h) 水田耕作土下層より出土した土質土器塊である。約 $\frac{1}{2}$ が残存。底径6.6cm。色調は黄褐色。焼成は酸化焰である。胎土は密であり、器表が粉状を呈する。底部は糸切後の付高台と思われるが、高台部内側は回転ナデによりていねいに整形されているため糸切痕は残っていない。高台の作り方や貼り付け方をはじめとして全体にていねいな作りの塊である。

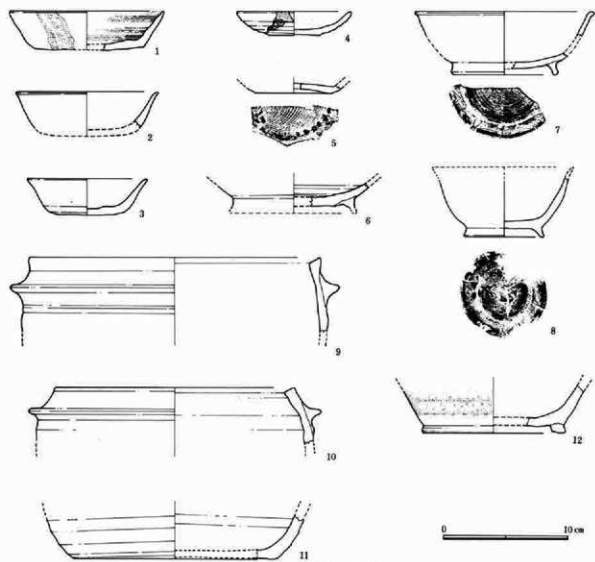
羽釜(第55図9、図版40-2j) 水路埋土中出土の羽釜である。口縁部から胴上部にかけて $\frac{1}{2}$ が残存。口径約23.4cm。色調は灰褐色。焼成は還元焰に近い酸化焙焼成である。胎土は砂粒を含む。短い口縁部がやや内彎。断面三角形の鐙を持つ。

羽釜(第55図10) 水路中より出土した羽釜の一部である。約 $\frac{1}{2}$ が残存。口径約19.2cm。色調は灰白色。焼成は還元焰である。胎土は金雲母粒や砂粒を含む。短い口縁部が内彎している。細長い鐙がていねいに貼り付けられている。口縁部の形や鐙の形、整形方法、焼成方法からみて県内でも古い羽釜の1つである。

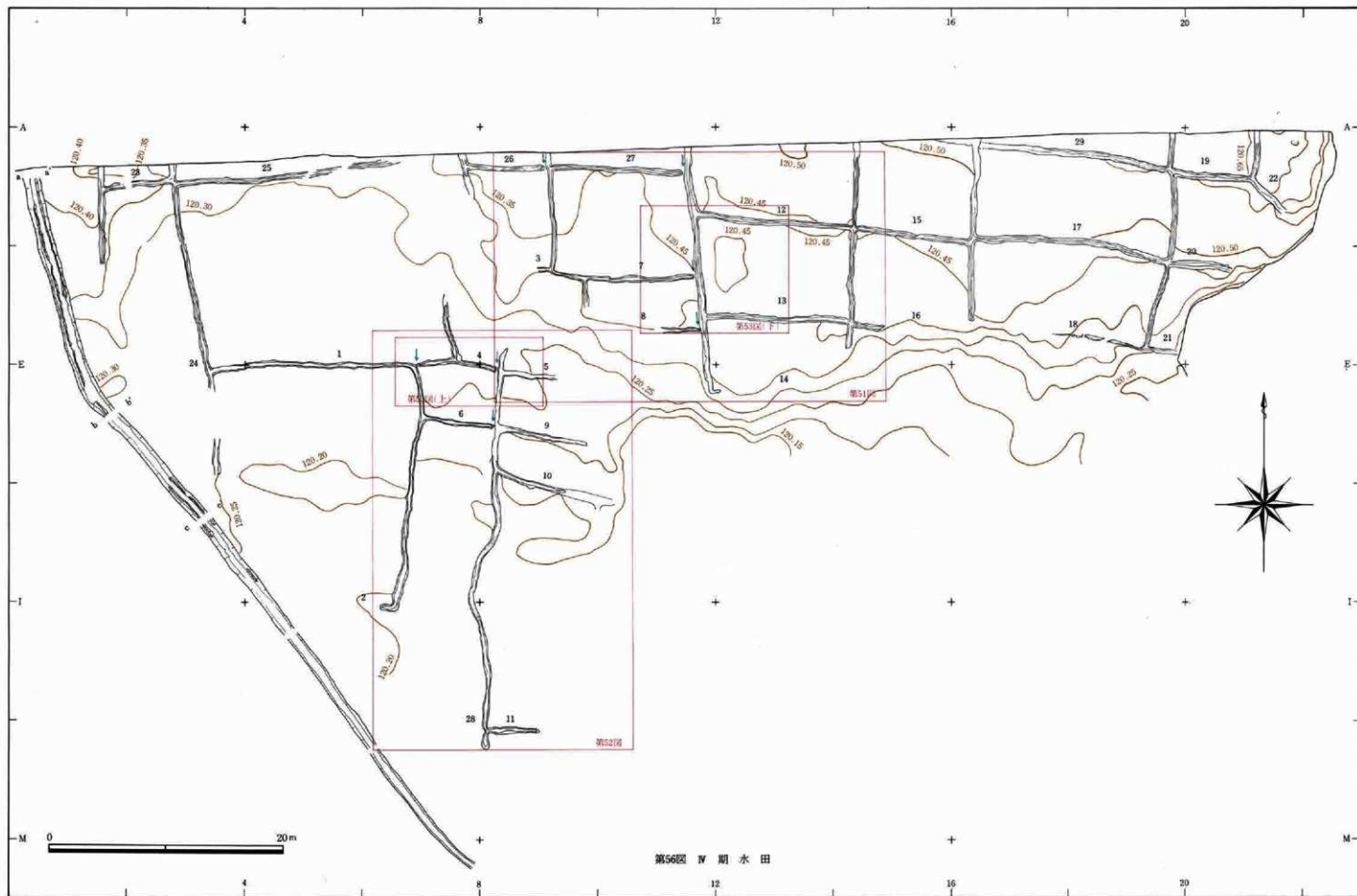
器形不明(第55図11) 水路の埋土中出土の須恵器である。底部と思われる一部分のみが残存。色調は灰白色。焼成は還元焰である。胎土に砂粒を含む。

甗(第55図12、図版40-2t) 水路の埋土中出土の灰軸陶器の甗の一部と思われる。胴下半～底部にかけて一部が残存。底径約11.4cm。断面四角形の高台が貼り付けられている。胴下半部及び外側底面中央部には淡い緑色を呈した灰軸がハケにより横方向に施軸されている。

(中沢 悟)



第55図 IV期水田の出土遺物（土器）



第56図 IV期水田

6 中世館址

(1) 遺構の状況

遺跡の北側中央付近においてIV期水田調査段階で、中世掘立柱建築遺構、井戸、堀と思われる遺構群が確認された。調査当初における調査期間は非常に短く、これらの遺構まで調査できる可能性は低かった。調査が進むなかで原因者との調整が行なわれ、これらの遺構調査を行なった。そのためこれらの遺構は、IV・III・II・I期水田の調査終了後に調査を行なったものである。

*第69図、図版31-1

(2) 掘立柱建築遺構

柱穴は遺構面の周辺に多く検出されたが、検出された柱穴の数に対して規格性を持つものが少なく、掘立柱建築遺構とみられるものは4棟のみであった。その多くは、東西方向に長軸を持つ建物として建てられている。それらの向きはほぼ同一であり、何らかの基準をもってこれらの建物が建てられたことを示唆している。1号掘立柱建築遺構は東西約6.4m、南北4mで東西方向に長い長方形を呈する。2間×3間の建物であり、柱穴幅は掘り方の底部で20~40cmほどである。深さは確認面より12~22cmほどである。2号掘立柱建築遺構は東西約3.9m、南北約3.9mのほぼ正方形を呈している2間×2間の建物であり、柱穴幅は掘り方の底部で60cm前後でほぼ一定している。深さは確認面より10~13cmほどである。1号掘立柱建築遺構より規模、柱穴幅も小さいことを示す。3号掘立柱建築遺構は東西約5.3m、南北約3.4mの2間×3間の東西方向に長い長方形を呈している建物である。柱穴幅は掘り方の底部で60~80cmほどであり、深さは確認面より10~15cmほどである。4号掘立柱建築遺構は東西約4.4m、南北約3.3mの2間×3間の建物であり、柱穴幅は掘り方の底部で10~15cmほどである。深さは確認面より10~18cmほどである。1号掘立柱建築遺構の東西規模は最大であり、それに伴う柱穴も大きい。しかし柱穴の確認面からの深さはほぼ一定しており、同一方向に建てられていること等とあわせて考えると、いずれも近い時期にこれらの4棟は存在していたものと考えたい。

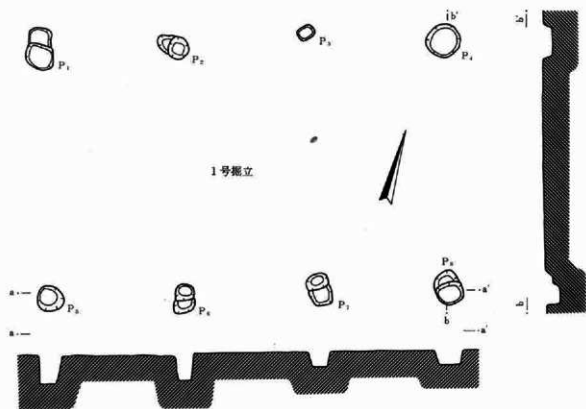
*第57・58図、図版31-2・32

(3) 井戸

掘立柱建築遺構の周辺に10基の井戸が検出された。* * * * * の中で遺物を出土した井戸は1・2・3・5・6号井戸である。1号井戸は1・2号掘立柱建築遺構の南に位置している。東西幅2.32m、南北幅2mで隅丸方形のくずれたような平面形を呈している。深さは確認面より2.5mまで確認している。それ以下は周壁に亀裂がはいり危険となったので中止した。井戸中より内耳鍋出土。2号井戸は3号掘立柱建築遺構の南に位置し、東西幅2.22m、南北幅1.92mの楕円形を呈する。深さは確認面より2.2mまで確認している。それ以下は1号井戸同様の理由で発掘を中止した。この井戸より出土した遺物群は多く、それらは堀及び柱穴中の出土のものとともに本

* * * * * 第59図・60図、図版34・35

II 調査の内容

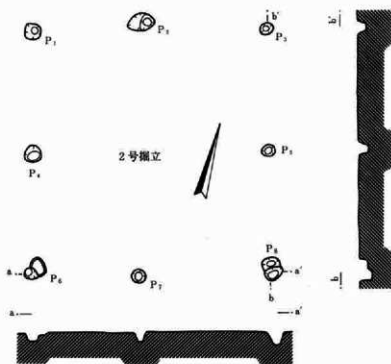


第9表 1号掘立柱間一覧

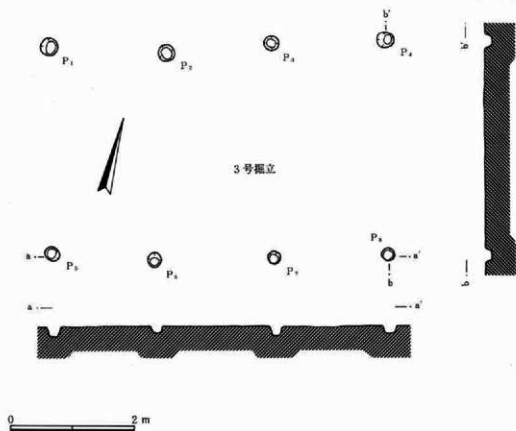
柱 間	間隔 (m)
$P_1 \sim P_2$	2.22
$P_2 \sim P_3$	2.02
$P_3 \sim P_4$	2.22
$P_5 \sim P_6$	2.20
$P_6 \sim P_7$	2.20
$P_7 \sim P_8$	2.10
$P_1 \sim P_5$	4.00
$P_4 \sim P_8$	4.02

第10表 2号掘立柱間一覧

柱 間	間隔 (m)
$P_1 \sim P_2$	1.80
$P_2 \sim P_3$	1.90
$P_6 \sim P_7$	1.78
$P_7 \sim P_8$	2.16
$P_1 \sim P_6$	1.96
$P_2 \sim P_8$	1.92
$P_2 \sim P_3$	1.94
$P_6 \sim P_8$	1.94

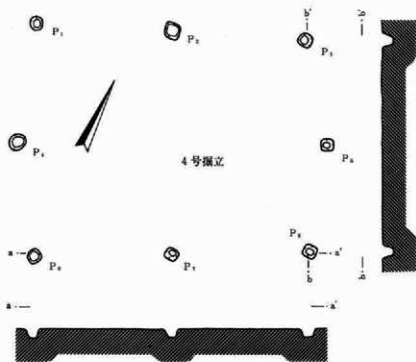


第57図 中野館址・掘立柱建築遺構 (1・2号)



第11表 3号獨立柱間一覽

柱 間	間 隔 (m)
P ₁ ~ P ₂	1.88
P ₂ ~ P ₃	1.80
P ₃ ~ P ₄	1.86
P ₄ ~ P ₅	1.70
P ₅ ~ P ₆	1.90
P ₆ ~ P ₇	1.84
P ₁ ~ P ₅	3.30
P ₄ ~ P ₈	3.40

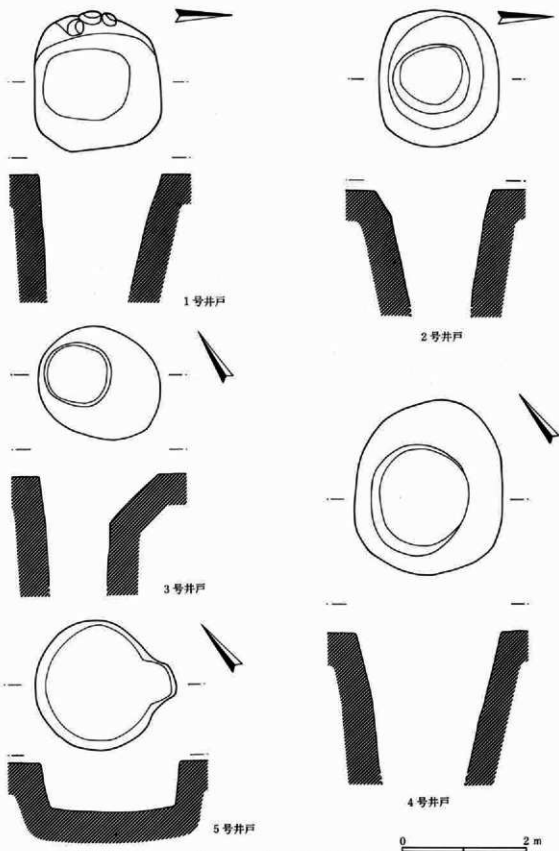


第12表 4号獨立柱間一覽

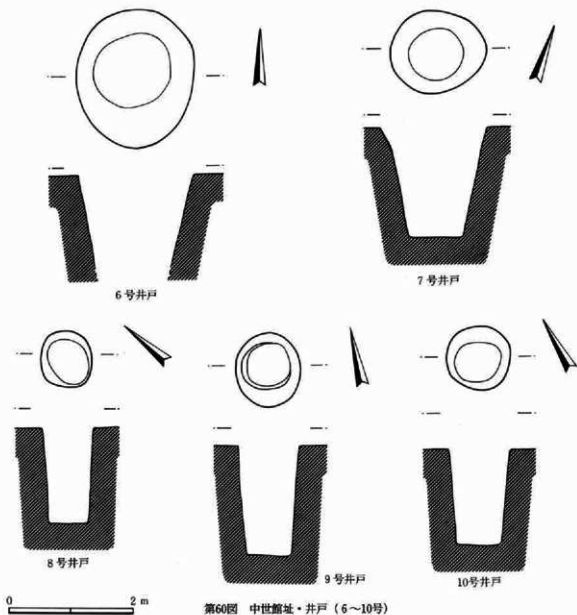
柱 間	間 隔 (m)
P ₁ ~ P ₂	2.20
P ₂ ~ P ₃	2.16
P ₄ ~ P ₅	2.22
P ₅ ~ P ₆	2.22
P ₁ ~ P ₄	1.86
P ₄ ~ P ₆	1.84
P ₅ ~ P ₇	1.68
P ₅ ~ P ₈	1.70

第58圖 中世館址・獨立柱建築遺構 (3・4号)

II 調査の内容



第59図 中世館址・井戸 (1~5号)



第13表 井戸の規模一覧 (単位:m)

No.	長径	短径	深さ
1	2.32	2.00	不明
2	1.92	2.22	#
3	1.10	1.00	#
4	2.78	2.34	#
5	2.06	1.96	0.78
6	2.18	1.88	不明
7	1.54	1.30	1.72
8	0.82	0.96	1.50
9	1.04	1.18	1.74
10	1.04	1.00	1.52

II 調査の内容

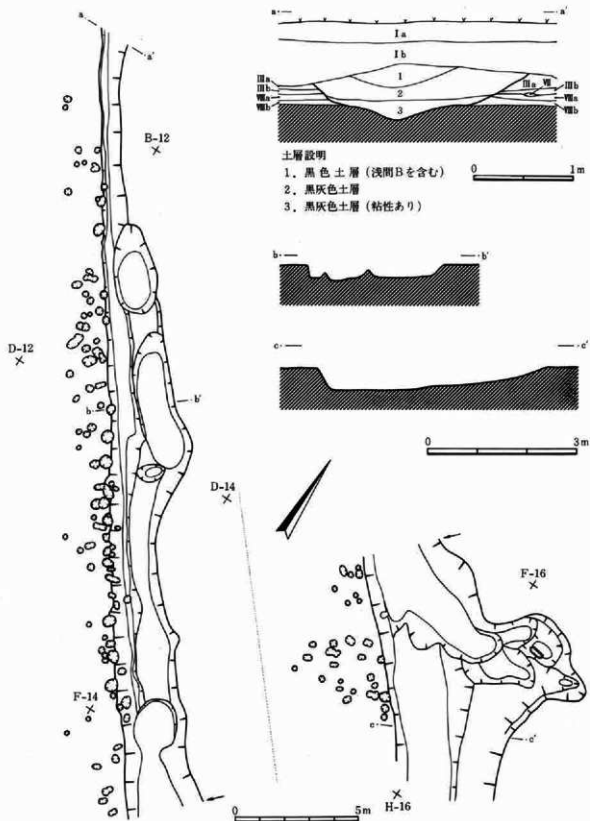
遺構の年代決定の重要な位置を占めている。出土品として中世土師質土器の皿形土器3点、内耳4点、埴鉢1点、茶茶壺1点の計9点である。3号井戸は4号掘立柱建築遺構の南に位置し、掘立柱建築遺構、井戸群中最も東南に位置している。東西幅は井戸中央部で1.1m、南北幅は同位置で1.0mのほぼ円形を呈する。深さは約1.7mまで確認している。それ以下は1号井戸同様の理由で発掘を中止した。井戸中より出土した遺物は軟質陶器の埴鉢1点である。4号井戸は1号掘立柱建築遺構の南西にある。東西幅2.34m、南北幅2.78mのほぼ円形を呈しており、深さは確認面より2.25mまで確認している。それ以下は未掘。出土品なし。5号井戸は1号掘立柱建築遺構の北西に位置する。東西幅1.96m、南北幅2.06mのほぼ円形を呈する。深さは確認面より0.78mである。これは底部までの完掘である。浅いことや南東隅に張り出しのあることからみて疑問ではあるが、ここでは井戸として扱う。井戸中より土師質土器皿1点出土。6号井戸は5号井戸の西に近接している。東西幅1.88m、南北幅2.18mの楕円形を呈している。深さは確認面より1.7mまで確認している。それ以下は未掘。出土遺物として軟質陶器の埴鉢がある。7号井戸は1号掘立柱建築遺構の南に位置する。東西幅1.54m、南北幅1.3mのほぼ円形を呈する。深さは確認面より底部まで1.72mであり、完掘している。出土品なし。8号井戸は7号井戸の北西に近接している。東西幅0.82m、南北幅0.96mのほぼ円形を呈する。深さは底部まで1.5mであり完掘している。出土品なし。9号井戸は3号掘立柱建築遺構及び2号井戸の南に位置する。東西幅1.04m、南北幅1.18mの楕円形を呈している。深さは底部まで1.74mあり完掘している。出土品なし。10号井戸は4号井戸の南東に位置し、東西幅1.04mのほぼ円形を呈する。深さは底部まで1.52mあり完掘している。出土品なし。これらの10基の井戸群中、7～10号井戸はほぼ同じ深さであり、水位が同じ頃の井戸である可能性を示す。1～3・5・6号井戸は、出土遺物からみて近接した時期のものであることを示す。

(4) 堀

●第61図、図解31-1

遺構の東側を北西から南東方向へ走る堀がある。この堀はIV期水田検出中からその存在が明確に確認できた。井戸や掘立柱建築遺構群とともにこの堀はさらに北西方向へ延びる可能性がある。発掘区域内での全長約40m、幅は2～3mである。堀は今日の耕作土下の浅間Bまじりの黒褐色土層から切り込み、底部はI期水田の耕作土を掘り込んでいる。

堀の西縁には、柵列と思われる柱穴が存在している。堀中より常滑焼の埴鉢、須恵器坏、天竜寺青磁風の軸の片口又は鉢の破片、土師質土器の皿を出土している。常滑焼の埴鉢は時代決定の大きな指標になり得る。



第61図 中世館址の堀と標列

II 調査の内容

(5) 土 塚 墓

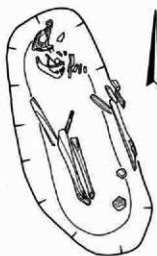
発掘区域北西部に位置した所で、浅間B層の上からIV期水田耕作土を掘り込んだ土塚墓が検出された。土塚墓の規模は南北2m、東西0.9mである。土塚内より人骨が検出されたが、伴出遺物は認められなかった。

出土人骨は1個体分で、321]及び6]または7]の残る上顎骨片である。下顎骨は下顎体を中心に12346]が残存する。脱落歯は切歯1本、臼歯4本である。なお歯牙の咬耗度はMartinの4度である。4×3cmの頭蓋骨らしき扁平骨片、約8cm脛骨様の長骨片、長さ約4cmの指骨様の短骨片やその他部位不明の骨片30点が出土している。被葬者は大腿骨の太さ、下顎の張り工合、3][3]の冠長計測値から男性、また下顎角から老年期と思われる。

このほかに、板碑を伴った土塚が堀の南東部で一基検出されている。この土塚は、西側を堀と接しているためにその規模は明確でないが、検出面から底面までの深さが約30cmである。この土塚と堀との新旧関係は不明であるが、埋土は堀を埋めている砂質の黒灰色土とほぼ同じである。板碑は緑泥片岩で作られており、土塚底面より約5cm浮いた状態で出土している。またこれ以外の遺物は出土していない。人骨が検出されていないために断定はできないが、板碑の伴出状態などからみて、土塚墓の可能性はある。

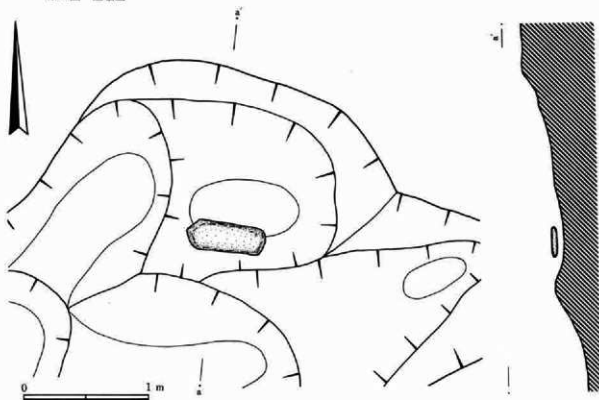
● 図版33-1

● 図版33-2



0 1m

第62図 土塚墓



第63図 板碑の出土状況

(6) 出土遺物

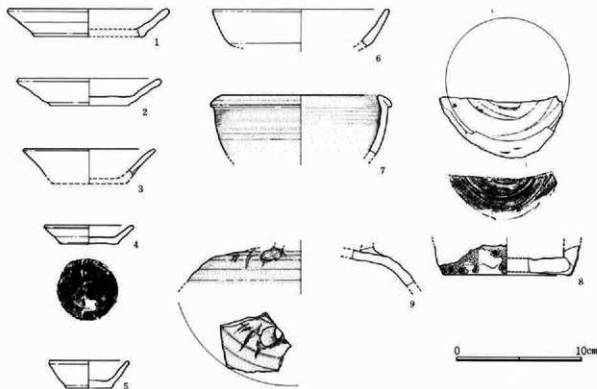
中世館址に伴うと思われる出土遺物として土師質土器、陶磁器、軟質陶器、石臼、板碑等がある。多くの種類に分かれているが、数は少なく遺構からまとまって出土したものは少ない。しかしこれらの遺物を詳しく検討していくと、時代的に一定の幅に集中していることが判る。以下にそれぞれの遺物について説明を加え、「IV成果と問題点」の項で年代観を含め遺物総体について記述したい。

皿型土器 (第64図1、図版41-a) 2号井戸埋土中より出土。約 $\frac{1}{4}$ が残存。口径13cm、器高2.2cm、底径約8.6cm。色調は橙色。胎土は密で、ごく少量の酸化鉄粒子を含む。焼成は堅緻である。底部と体部の境に弱い段を持つ。

皿型土器 (第64図2、図版41-b) 2号井戸埋土中より出土。約 $\frac{3}{8}$ が残存。口径約11.6cm、器高2.2cm、底径約6.2cm。色調は橙色。胎土は密で、ごく少量の酸化鉄粒子を含む。底部に糸切痕を残すが残存が悪く回転方向は不明。

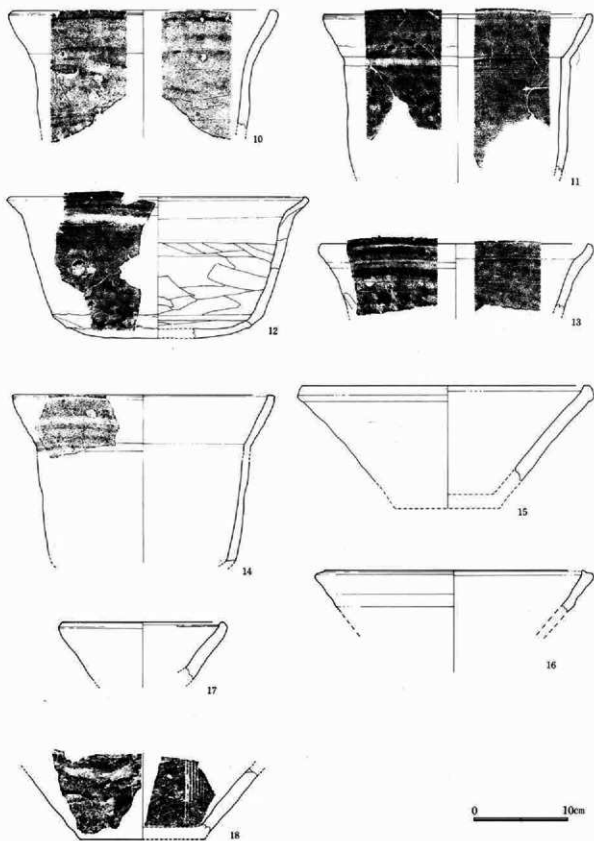
皿型土器 (第64図3) 2号井戸埋土中より出土。口縁部の一部のみ残存。口径約10.6cm。色調は橙色。胎土は密で、酸化鉄の粒子は含まない。焼成は堅緻で砂粒の動きにより左回転クワロにより整形されていることを示す。

皿型土器 (第64図4、図版41-c) 5号井戸埋土中より出土。口縁部は $\frac{1}{2}$ 、底部は全面が残存。口径7.2cm、器高1.5cm、底径4.6cm。胎土は密で酸化鉄の粒子を含む。底部左回転糸切痕。体部内外面横ナデ。底部の大きさに比して器高が低い。



第64図 中世館址の出土遺物(土器)

II 調査の内容



第65図 中世館址の出土遺物（土器）

皿型土器(第64図5、図版41-d) 掘埋土中より出土。約1/2が残存。口径6.7cm、器高2.2cm、底径3.8cm。胎土は密で酸化鉄の粒子を含む。底部に未切痕が残るが磨滅している。体部と底部との境に明瞭な段が認められる。

環(第64図6、図版41-f) 掘埋土中より出土。須恵器環である。口縁部は1/2残存。色調は内外面とも灰白色。胎土は密で黒雲母を含む。焼成は還元焼締である。

鉢(第64図7、図版41-g) 掘埋土中より出土。青磁。片口の破片と思われる。約1/2が残存。口径13.6cm、頸部径15cm。色調は外面に薄い緑色、内面には黄緑色の青磁釉が施釉されている。胎土は密で、内傾する折り返し口縁を持つ。

梅瓶(第64図8) 3号井戸西側の柱穴中より出土。古瀬戸梅瓶の底部と思われる。底部1/2が残存。底径約10.3cm。底部と胴部の接合面が明瞭に残る。粘土巻上成形によると思われる。底部と胴部を接合後、回転により内面を整形している。底面外側に明瞭な整形痕は認められない。釉薬は0.1~0.2cmの厚さで認められ、その1部は底部まで流れ出している。灰釉が長石分を増して安定した淡緑色を呈している。素地の胎土は密で砂粒を全く含まない淡黄色を呈している。

壺(第64図9、図版41-h) 2号井戸埋土中より出土した葉茶壺の破片と思われる。耳の付け根部分と胴部の一部が残存。内外面とも安定した薄い鉄釉が施釉されている。素地の胎土は密で灰色を呈する。焼成は堅緻である。舶来品と思われる。

内耳鍋(第65図10、図版41-1) 1号井戸埋土中より出土。口縁部1/2と胴部の一部残存。口径28.8cm、口縁部長4cm。胎土密。焼成堅緻。色調は灰白色。胴部外面は凹凸が帯状に認められる。その上に弱い横ナデ、胴部に輪積痕が残る。

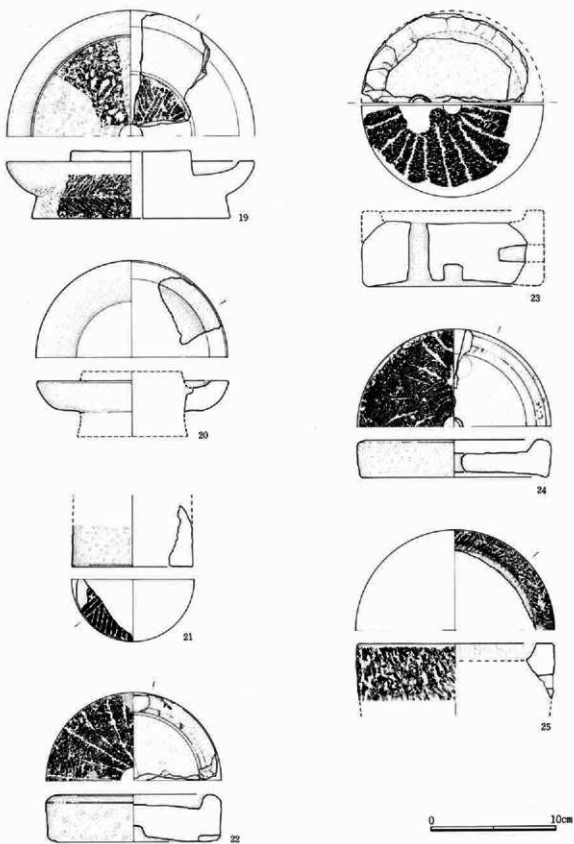
内耳鍋(第65図11、図版41-k) 2号井戸埋土中より出土。口縁部1/2と胴部の一部残存。口径28.8cm、頸部24.2cm、口縁部長5.5cm。胎土密で少量の酸化鉄を含む。色調は内面が灰色で、外面灰黒色。胴部には煤が付着している。整形は口縁部横ナデ、胴部内面は弱い横ナデ、外面は弱い横ナデ。胴部外側に輪積痕及び指頭による整形痕と思われる凹凸の状態が残る。

内耳鍋(第65図12、図版41-m) 2号井戸および掘埋土中より出土。約1/2が残存。口径32.6cm、頸部径29.4cm、底径19.5cm、口縁部長2.5cm。胎土密で焼成は軟質還元。色調は内側が灰白色、外側は炭素の吸着が多く黒色を呈している。底部は灰褐色を呈し、炭素の吸着は認められない。口縁部と胴部との境は明瞭である。整形は口縁部内外面横ナデ、胴部および底部内面は不定方向のナデ、口縁部を省く外面は簡単なナデが認められるが、全体的に雑な整形であり、凹凸が器面に残る。断面に輪積痕が認められる。底部は胴部整形後倒立して付けているようである。

内耳鍋(第65図13、図版41-n) 2号井戸埋土中より出土。口縁部約1/2残存。口径29.4cm、頸部径26.9cm、口縁部長2.3cm。胎土は密で、焼成は軟質還元。色調は内外面とも灰色を呈している。胴部外面には多くの指頭圧痕が残り、煤が付着している。

内耳鍋(第65図14) 2号井戸および掘埋土中より出土。口径28.8cm、頸部径22.

II 調査の内容



第66図 中世館址の出土遺物（石臼）

9cm、口縁部長6cm。胎土0.5mm前後の砂粒及び金雲母を含む。焼成は軟質還元。色調は内面灰褐色で外面は黒色。胴部外面に指頭圧痕が残る。

捏鉢 (第65図15) 2号井戸埋土中より出土。口径31.5cm。胎土は密で、焼成は軟質還元。色調は表面灰色、断面褐色。胴部外面に幅3.5cmの輪横痕が残る。底部から胴下半部にかけて捏鉢として使用されており、器面は磨滅し平滑である。

捏鉢 (第65図16) 畑埋土中より出土。口縁部約 $\frac{1}{2}$ が残存。口径約30cm。胎土密で焼成は堅緻。色調は外面赤褐色で、長石と思われる白い斑点(0.1~0.3cm)が多く認められる。断面は灰白色である。口唇部は内側に突帯を持つ。この突帯は口唇部外側より高く作られている。常滑古窯跡群の製品と思われる。

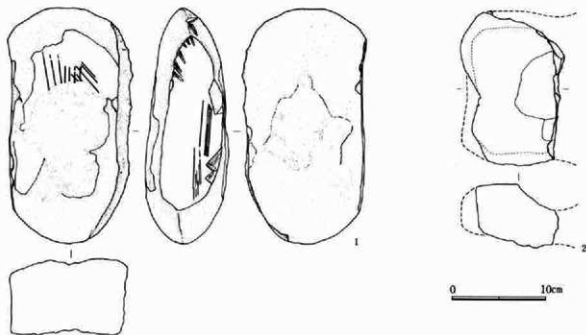
捏鉢 (第65図17) 3号井戸埋土中より出土。約 $\frac{1}{2}$ が残存。口径約18cm。胎土密で黒雲母の細砂を含む。色調は淡黄色を呈する。焼成はやや軟質。口唇部は内側が高い。胴下半部は捏鉢として使用されており、器面は磨滅し平滑である。

摺鉢 (第65図18、図版41-q) 6号井戸埋土中出土。胴下半部から底部にかけて約 $\frac{1}{2}$ が残存。胎土は0.3cmほどの砂を含む。焼成はやや軟質。色調は内側が灰白色、外側は黒色を呈する。7本の筋目が底部から口縁部に向かい刻まれている。

茶臼 (第66図19、図版42-a) 2号井戸埋土中より出土した茶臼の下臼である。約 $\frac{1}{2}$ が残存。受皿最大径約40cm。臼部幅約19.3cm。溝は10分面6溝式でV形をなし、溝幅約0.15cmである。台部に一定方向の刻目整形痕が認められる。

茶臼 (第66図20、図版42-c) 2号井戸埋土中より出土した茶臼の下臼である。受皿のごく一部残存。受皿部の最大径約31cm。内面及び周縁は平滑である。

茶臼 (第66図21) 2号井戸埋土中より出土した茶臼の上臼である。径約19.4cm。



第67図 中世館址の出土遺物(磁石、不明遺物)

II 調査の内容

溝は8分面8溝式で断面V形を呈し、溝幅0.15~0.2cmである。溝は一定の規格性を持ち、溝間の幅は約0.8cmである。現状で「ふくみ」は0.05cm認められる。

白(第66図22、図版42-d) 表採。粉挽白の上白である。約 $\frac{1}{4}$ が残存。径28cm。上縁の高さ2.7cm。上縁はほぼ丸く作られている。溝の在り穴は24に似ている。胴部に幅1.7cm、深さ3.5cmの横打式挽手穴が認められる。芯棒受穴の一端に「すべりどめ」用の穴と思われる掘り込みが認められる。

白(第66図23、図版42-b) 表採。粉挽きの上白である。約 $\frac{1}{4}$ が残存。径約30cm。溝は放射状に近い形で刻まれている。挽き木は側方打込式であり、幅2.6cmの挽き穴がある。下面中央に幅約3cm、深さ3.5cmの芯穴、接して供給口がある。

白(第66図24、図版42-e) 2号井戸埋土中出土。粉挽き白の上白である。約 $\frac{1}{4}$ が残存。径約31cm。上縁の高さ約2.3cm。溝はほとんど磨滅しており、数本のみが認められる。芯棒の穴は白が薄いため上まで貫通している。

白(第66図25、図版42-f) 2号井戸埋土中出土の粉挽白の上白である。径約31.6cm、上縁の高さ約2.7cm。上縁は直線を基調に作られている。上縁内側にノミ痕が認められる。胴部に径約2.3cmの打込式挽手の穴の一部が残存している。あまり使用されていない段階での破片と思われる。

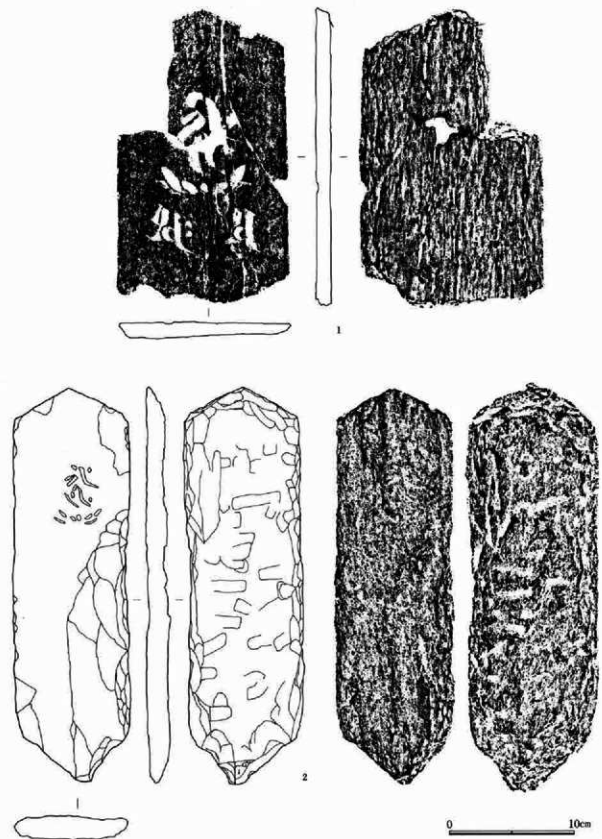
砥石(第67図26、図版42-g) 表採。長径25cm、短径13.5cm、厚さ9cm。砂質である。小判形の自然石を利用している。平らな両側面中央に8×11cmの範囲で、沈線が多く認められる。1部の沈線に煤の付着が認められる。幅の狭い側面の一方は打ち欠いて平らにし、他方は砥石として利用している。幅の広い面に認められる沈線および数ヶ所に認められる煤の付着等から砥石以外の用途も考えられる。

石(第67図27、図版42-h) 表採。用途不明。破片であり大きさは現状で長径16cm、短径11cm、厚さ6.8cm。角閃石安山岩製である。全体像は不明であるが、おそらく正方形に近く、中央に凹穴を持つ形であろう。中央の凹みは径7cm程であるが、穴の表面は荒く、磨耗の痕跡はない。

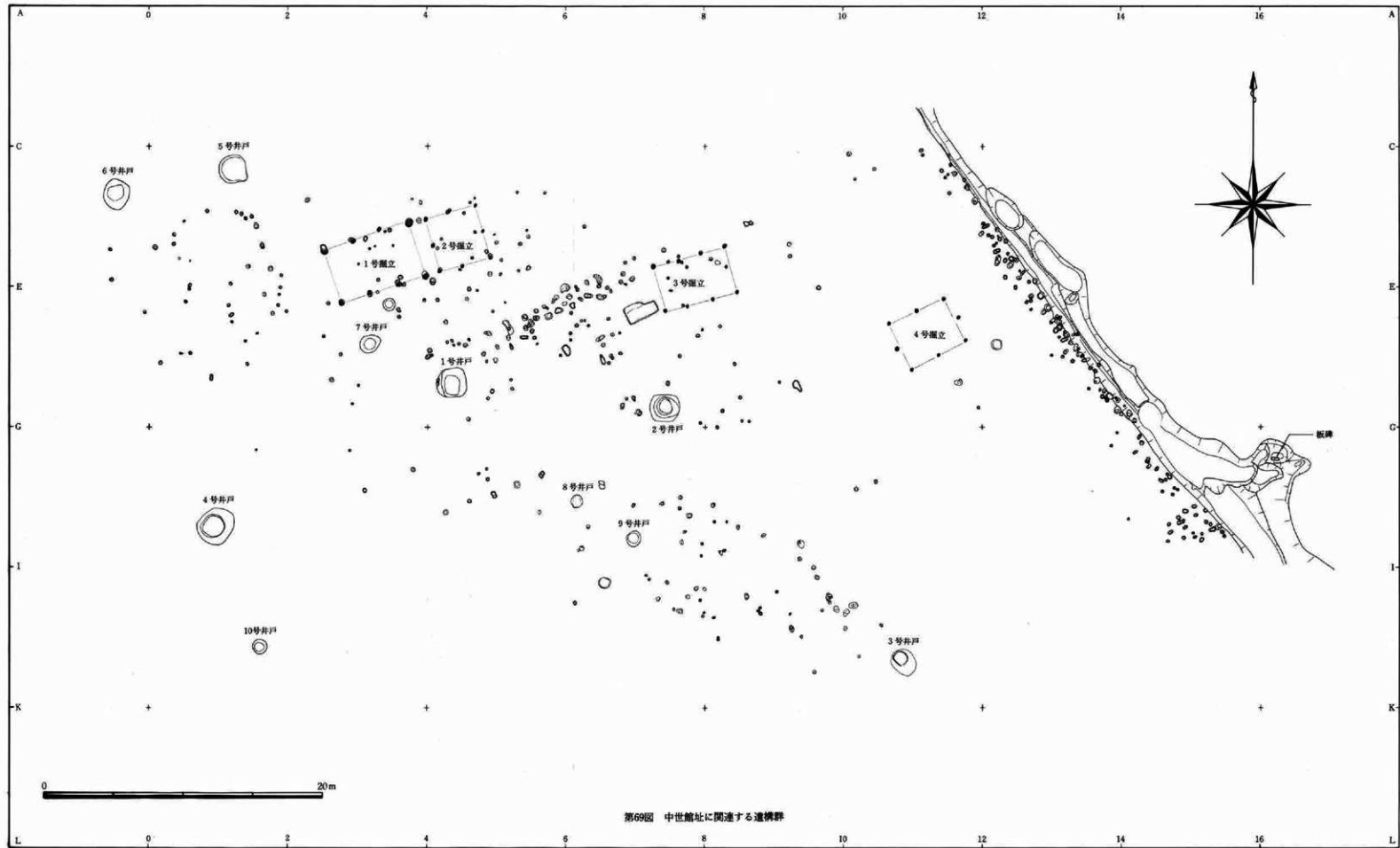
板碑(第68図28、図版44-a) 2号井戸埋土中出土。青石卒塔婆である。下半部と左上の1部を欠落。現存の高さ47cm、幅27cm、厚さ2.5cm。残存部も表面が多く剝離しており、刻字は判読しにくい。横の二条線は認められない。種子はキリーク、サ、サクの3尊が認められる。キリークには蓮座がつく。蓮座の左右蓮弁がやや開くように立ち上がる。いづれも彫りは浅く、「U」状を呈している。天蓋、月輪等の装飾は認められない。「サ」「サク」に蓮台(座)はない。以上の特徴より室町期のものと思われる。裏面には整形痕は認められない。

板碑(第68図29、図版44-b) 掘埋土中出土。青石卒塔婆である。頂部から底部の基礎突起まで残存。高さ62cm、幅18cm、厚さ3.5cm。表面の多くが剝離しており、種子はキリークであるが、痕跡しか残っていない。キリークには蓮台が付き、全体的に28の板碑より細長くなる。裏面はほとんど剝離せず工具痕が多く残る。

(中沢 悟)



第68図 中世館址の出土遺物 (板碑)



第69図 中世館址に関連する遺構群

7 その他の出土遺物

表土採集の土器群として27個体ある。時代や器種、器形等様々であるが、それらの特色と年代観については、文末で簡単に触れた。

砥石 (第70図1、図版43-u) 2号井戸埋土中出土。残存部で長さ14.2cm、幅6cm、厚さ4.5cmである。砥石として2面使用されている。平面形は一定の規格性を持たない。側面に凹凸および整形痕が認められる。

砥石 (第70図2、図版43-v) 表採。残存部で長さ14.2cm、幅3.9cm、厚さ3.1cmである。砥石として幅の狭い両側面が使用されている。原形を留める上下両端および砥石として使用されていない側面はお互いに平行である。規格化された製品。

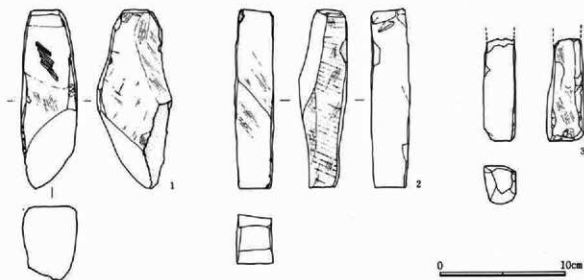
砥石 (第70図3、図版43-w) 表採。残存部で長さ8.1cm、幅3cm、厚さ2.5cmである。多く使用されており磨滅している。砥石として2面使用されている。

坏 (第71図4、図版43-b) 表採。須惠器坏である。口縁部の一部約 $\frac{1}{2}$ 残存。口径約14cm。胎土密。還元焼締焼成。色調は灰色でロクロ整形痕が認められる。

坏 (第71図5、図版43-a) 表採。須惠器の坏である。約 $\frac{1}{2}$ 残存。口径約13cm。胎土密。還元焼締焼成。色調灰色。ロクロ整形痕が認められる。

皿 (71図6、図版43-d) 表採。志野軸風の長石軸の施軸されている皿である。約 $\frac{1}{2}$ 残存、口径約12cm、器高約2.2cm、底径約7.9cm、削り出し高台である。高台部の外側は胴部との境に切り込みを入れており、それによって高台部を削り出している。胎土密。色調淡黄色。焼成堅緻。軸は底部の内側以外全面にかかっている。軸の色調は灰白色で貫入が多く認められる。軸の薄くなっている口唇部、口縁部と胴部との境及び高台部底に酸化による褐色が認められる。

皿 (第71図7、図版43-n) 表採。口径約12.8cm。約 $\frac{1}{2}$ 残存。削り出し高台の



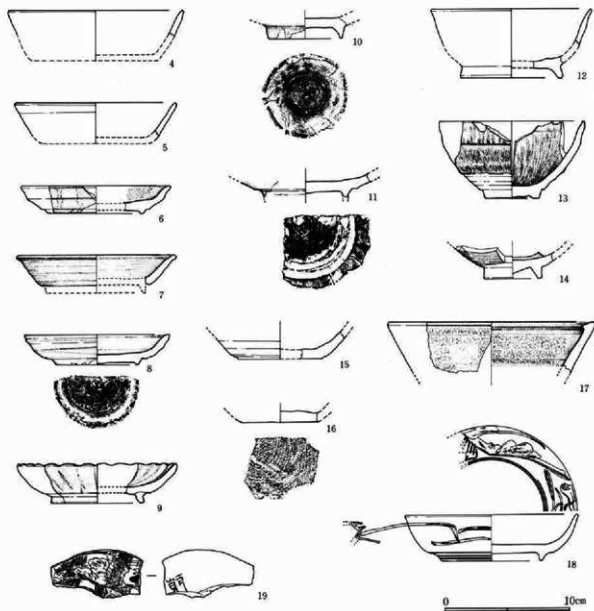
第70図 表土層中の出土遺物 (砥石)

II 調査の内容

皿と思われる。胎土密。色調灰白色。軸は灰軸で残存部全面にかけられている。軸の色調は灰白色で、素地より黄色を帯びている。細かい買入が全面に認められる。

皿(第71図8、図版43-0) 表採。志野焼の皿。器高2.4cm。口径11.6cm。底径8cm。約1/2残存。削り出し高台であり、高台の作り方は6とほぼ同じである。高台を削り出した後に高台部から口縁に向かってヘラ等により削って仕上げている。軸は高台の底と高台部内側以外は全面に施されている。軸のない部分は1度施軸された後に削り取られたものと思われる。胎土密。素地の色調淡黄色。軸の色調は素地より白色を帯びている。軸には全体に細かい買入が入る。

菊皿(第71図9、図版43-e) 表採。美濃焼の菊皿である。器高3.2cm、口径12.



第71図 表土層中の出土遺物(土器)

8cm。底径7.4cm。約 $\frac{1}{6}$ 残存。付け高台であり、高台部は底部から直に下に付き、すぐに外反している。胴部外側の花卉の刻目はU字状に入るが、花卉と花卉の境から少しずれる。口唇部の刻目は左右対称でなく、すべて外側から見て左方向への削りが深い。花卉の幅は約1.5cmである。素地の胎土は密。素地の色調は淡黄色。釉の色調は素地より明るい淡黄色である。釉には全体に細かい貫入が入る。口唇部の釉の薄くなっている部分が酸化による褐色を呈している。内面底部に陶枕の痕が認められる。樽崎彰一氏の「美濃古陶のながれ」の中の編年表によれば、菊皿の出現を16世紀前半とし、16世紀における菊皿は高台の低い削り出し高台を図示している。それに対し17世紀前半～中頃の菊皿は高い高台の付付け高台を図示している。この基準によれば、この菊皿は17世紀前半～中頃の製品と考えられる。

器形不明(第71図10、図版43-i) 表探。高台付の底部のみで、器形は皿と思われるが不明である。底径6cm。高台部は断面三角形を呈する。高台内側の底部はナデにより整形されている。釉の色調は淡黄色であり、細かい貫入が全面に入る。

菊皿(第71図11、図版43-m) 表探。底径(高台部径)6.8cm。付け高台である。口縁、胴部が欠けているため花卉、刻目等ほとんど不明。内面に径5.8cmの刻文が1周しており、その外側に花卉の刻目と思われるものが数本認められる。素地の胎土、色調、釉のかけ方も9に同じ。細かい貫入が全面に認められる。

壺(第71図12) 表探。土師質土器壺である。底部 $\frac{1}{2}$ 、口縁部 $\frac{1}{6}$ 残存。胎土密。焼成還元軟質。色調は灰白色。器表全面が磨減している。

壺(第71図13、図版43-1) 表探。天目茶壺である。約 $\frac{1}{6}$ 残存。器高6.1cm。口径11.6cm。底径4.4cm。削り出し高台であり、高台の底部に糸切痕が残る。高台外側の胴部との境には高台削り出し時のV字状の掘り込みが1周している。この掘り込みは6、7、8の削り出し高台の技法と共通している。素地の胎土密。色調灰白色。釉の色調は黒色。釉は天目釉が赤変して上部表面より流れ落ちる間に下層の黒色釉と縦縞をつくってできた糸目を呈するが、流れ落ちる量と縦縞の幅は小さい。

壺(第71図14) 表探。底部全面が残存。底径4.6cm。削り出し高台と思われる。釉は高台部以外全面にかけられており、内面底部には陶枕の痕が認められる。素地の胎土は密。色調は淡黄色。釉の色調はオリーブ色を呈する。

坏(第71図15) 表探。須恵器坏の破片。底径約6.6cm。胎土は細粒を多く含む。色調灰色。右回転によるロクロ糸切り痕が残る。

坏(第71図16) 表探。須恵器坏の底部と思われる。底部のみ $\frac{1}{6}$ 残存。底径約6cm。胎土密。色調淡褐色。底部に回転糸切痕が残る。

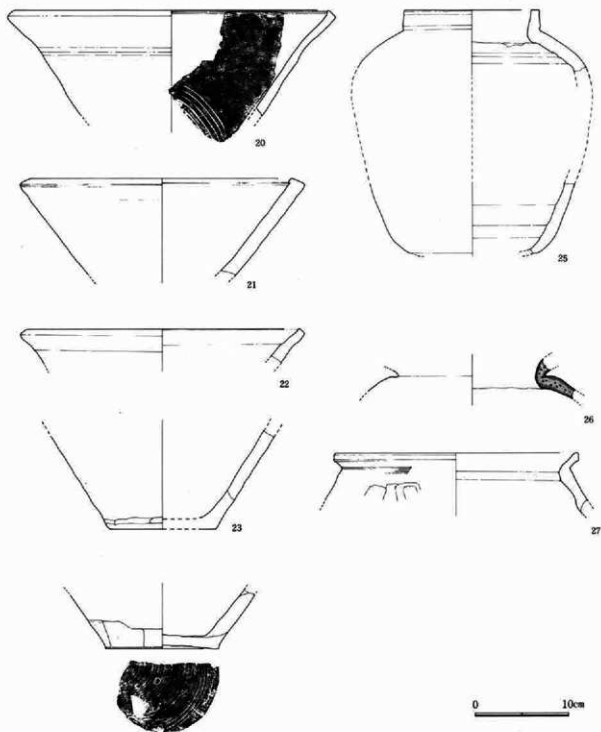
器形不明(第66図17、図版43-g) 表探。口縁と胴部の一部残存。口径約16.6cm。胎土が全面に施釉されている。貫入が全面に入る。素地の胎土密。色調淡黄色。

皿(第71図18、図版43-n) 表探。伊万里焼の皿。約 $\frac{1}{6}$ 残存。器高4.7cm。口径14cm。底径約8.2cm。削り出し高台である。胎土密。素地の色調は白。釉は素地の上に呉須による緑灰色の絵を描き、その上に透明釉をかけている。

II 調査の内容

皿（第71図19） 表採。伊万里焼の皿の破片と思われる。胎土密。素地の色調は白。軸は18にほぼ同じ。底部外面に文字が書かれている。

摺鉢（第72図20） 表採。約 $\frac{1}{3}$ 残存。口径35cm。胴内側下半部に弧状におろしスジ目が刻まれている。それは現存部で5本確認できる。底部に近いおろしスジ目は



第72図 表土層中の出土遺物（土器）

使用により磨耗し、器内の胎土が露出している。胎土は密。色調は灰赤色。整形は口縁部横ナデ、胴部外側は指頭により粘土帯の凹凸を整形しており、凸面には指頭圧痕が残る。口唇部の形がやや異なるが、これらの技法は内耳鍋とほとんど共通しており、内耳鍋作成者がほぼ同一技法で擂鉢をも作成していることを暗示する。

擂鉢 (第72図21) 表採。約 $\frac{1}{2}$ 残存。口径約30.4cm。口唇部は厚く内側に丸い突起を持つ。胎土密。色調灰褐色。焼成は還元軟質。外側の口縁部以外の整形は、内耳鍋および20の擂鉢と同様な整形で凹凸面を持っている。内面で底部に近い部分は撞られたことにより磨耗している。特に下半部の磨耗が多い。

内耳鍋 (第72図22、図版43-s) 表採。約 $\frac{1}{2}$ 残存。内耳鍋の口縁部の破片と思われる。口径約30.4cm。残存部はすべて横ナデによる整形。胎土密。色調は内外面とも灰白色。断面内側褐色。還元軟質焼成。胴部外側に煤の付着が認められる。

擂鉢 (第72図23) 表採。約 $\frac{1}{2}$ 残存。底径約11.4cm。胎土中に0.2~0.4mmの砂粒を含む。焼成は軟質還元である。色調は内外面とも灰褐色。残存内側胴部中央から底部にかけて程鉢として使用された磨耗痕が認められる。

器形不明 (第72図24、図版43-o) 表採。壺または鉢の破片と思われる。胴下半~底部約 $\frac{1}{2}$ 残存。底径約12cm。底部に右回転糸切痕残る。胴下半に2~4mmの砂粒含む。色調は灰褐色。胴部内外面とも丁寧な横ナデが認められる。胴部内側に程鉢で認められた磨耗痕なし。整形、使用痕の特色からみて壺の破片と思われる。

壺 (第72図25、図版43-p) 表採。口縁部から胴部にかけての一部分及び胴下部の一部分残存。口径14.4cm。直立気味の短い口縁及び水平な口唇部より蓋の存在が推定できる。胎土密。色調は内面灰白色。外面灰色。焼成は還元軟質焼成。成形は輪轆みによると思われ、胴下半部の内面に幅2.5~3cmの凸帯が数箇所認められ、その上から丁寧な横ナデ整形がなされている。

器形不明 (第72図26) 表採。壺の頸部の破片と思われる。外面は黒色を呈し、内面は灰白色を呈している。断面でみると、両側と中央部とでは器内が異なる。両側は密であるが、中央部は気泡化している。

甕 (第72図27、図版43-r) 表採。口縁部から胴部にかけて一部残存。口径約26cmで外反する短い口縁部を持つ。胎土中に2~3mmの砂粒を含む。色調はふい灰褐色。焼成は還元軟質焼成である。器内は口縁部が特に薄くなっている。

次に遺物の特色と年代観について考えたい。第70図1~3は磁石である。2、3は1と異なり規格化されたものである。第71図4、5、15、16は8~9世紀代の須恵器坏である。6~8は削り出し高台の皿で、6、8が志野釉、7が灰釉である。16~17世紀代の東濃産の製品と思われる。9、11は美濃の菊皿であり、付高台を持つ17世紀中頃ののものと思われる。12は土師質土器で10世紀後半代のものであろう。13は禾目風の天目茶碗、14は鉄釉の碗である。18、19も鉄釉の碗である。21の埋鉢と22の内耳は2号井戸出土のものと共通しており、15~16世紀代のものと考えられる。20、23~27は21、22と同様に中世末の地方窯生産による軟質陶器と考えられる。

II 調査の内容

出土貨幣(第73図、図版43—x—c) 表土中より10枚、土壇中より1枚、計11枚の貨幣が出土した。8世紀代の唐銭1枚、11世紀代の宋銭8枚、江戸時代の寛永通宝1枚、判別不明のもの1枚である。本遺跡では遺構に伴う例がほとんどないが、大部分は中世館址との関連が考えられる。

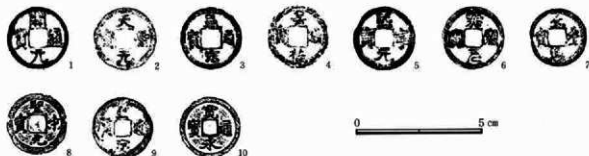
円筒地輪(第74図1～6、図版44—2) ここに図示した地輪は、八幡塚古墳内の畑地より採集したものである。6個体とも胎土および焼成が共通しており、外面整形はすべて縦ハケによっている。ハケ目痕は1と2がやや荒く、3以降がやや荒いものと細かいものの2種が認められる。透孔はほぼ円形を呈しており、いずれもたが間の孔数は2個である。1と3のほぼ同じ位置に「×」状の沈線が認められる。以下1～6のそれぞれの地輪について説明を加える。

1. 現存最大径29cm、丸い透孔をたがの間に2個持つ。透孔は2段をなし、下段は上段と直交する位置にある。たがは2本残存。外面調整は6本1組の縦ハケである。内面調整は、左上がり及び垂直方向のハケ調整が認められる。上部のたがと口縁部との間に「×」状の沈線が認められる。たがは断面三角形でその突出度は低い。胎土は2～4mmの砂粒及び酸化鉄の粒子を多く含む。この胎土は、同道遺跡出土の土師質土器皿に以ている。

2. 現存最大径26cm、外面調整は縦ハケである。ハケ目は6本で1.5～2cmの幅を

第14表 古銭一覧

No.	銭名	法量 (cm)		鑄造年代	備考
		径	孔径		
1	開元通寶	2.4	0.7	唐 713年	表 採
2	天聖元寶	2.45	0.7	北宋 1023年	#
3	皇宋通寶	2.45	0.7	北宋 1039年	#
4	嘉祐通寶	2.5	0.75	北宋 1056年	#
5	熙寧元寶	2.5	0.65	北宋 1068年	#
6	熙寧元寶	2.5	0.65	北宋 1068年	#
7	元豐通寶	2.3	0.65	北宋 1078年	#
8	聖宋通寶	2.45	0.65	北宋	#
9	聖宋通寶	2.4	0.6	北宋	#
10	寛永通寶	2.4	0.5	日本 1624年	#



第73図 表土層出土の古銭拓本

もつ。内面調整は口縁部に近い部分に左上方向の斜ハケが、胴内部に数本の縦方向の指によるナデが認められる。透孔、焼成、胎土、色調等は1にほぼ同じ。

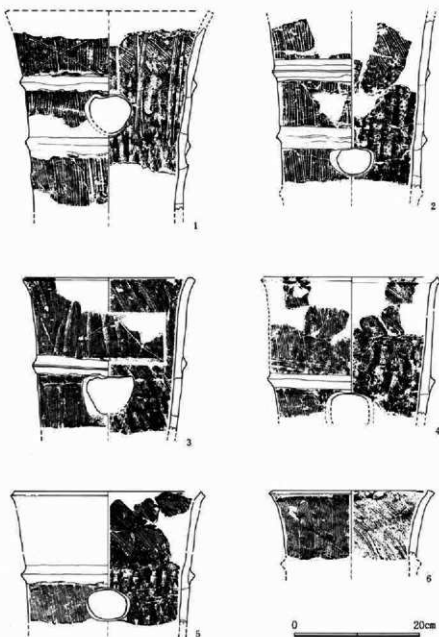
3. 現存最大径28cm。外面調整は縦ハケである。ハケ目は荒いものと細かいものの2種類が認められる。荒いものは6本で幅約1.2cm、細かいものは6本で幅約0.8cmである。内面調整は左上方向に2種類のハケ目が認められ、その後、指頭によると思われる垂直方向のナデが口縁部に少し、それ以下に多く認められる。上部のたがと口縁部との間に1に似た「×」状の沈線が認められる。たがは断面三角形で突出度は低い。透孔は2個で上方が平らな半円形を呈する。焼成、色調等1にほぼ共

通している。口唇部は外反し少し丸くなる。

4. 現存最大径28.6cm。外面調整は縦ハケである。ハケ目は荒いものと細かいものの2種類認められる。内面調整は3によく似ている。口縁部は外反し、内側に稜を持つ。

5. 推定現存最大径28.5cm。外面調整は縦ハケである。内面調整はナデとハケ目の順序が3と逆で、ナデの後に左上方向のハケ目調整が行なわれている。タガの断面は三角形で低い。

6. 推定現存最大径27cm。外面調整は縦ハケである。内部調整は左上がりハケ目調整である。その後で縦方向のナデが認められる。口縁部は外反し、口唇部手前で外側に凹帯を持つ。(中沢 悟)



第74図 八輪塚古墳表探の埴輪

III 関連調査と結果

1 同道遺跡におけるプラント・オパール分析

宮崎大学農学部助教授 藤原宏志

最近群馬・前橋台地であいついで発掘された水田址様遺構群は、古代における稲作様式を考察する上で興味深い事実を提供している。

これらの水田址様遺構群は、時期を前後して発掘された他の地域における水田址群（福岡：板付遺跡、滋賀：服部遺跡、三重：北堀池遺跡、岡山：百間川遺跡）とは明らかに様相を異にしている。

前橋台地に位置する水田址様遺構群の特徴は、①火山灰の堆積した台地上に立地し、火山灰を耕土にしていること。②畦畔様遺構に区切られた区画が極めて小さく、その数が多いことである。他の地域における水田址遺構が平野部に立地し、典型的な水田の祖型を示しているのに対して、これらの水田址様遺構は対称的でさえある。一般に火山灰台地は透水性に富み、湛水には不適な土壌物理的特性を有している。したがって、多くの火山灰台地は後代まで畑作地帯であり、水田造成が行われていたのは灌漑技術の進歩をみた近年以降という場合が通例である。

当該遺跡には、平安時代および古墳時代に比定される水田址様遺構が検出されている。このうち、平安時代の遺構は整然と区画された大型水田址であり、大型の畦畔を伴ったものである。これに対して、古墳時代の遺構は極めて小型(約3m)であり、畦畔も細く低いがその配列は格子目状に整然としたものである。

本稿では、これらの水田址様遺構土壌のプラント・オパール定量分析を行ない、稲作の有無を調べるとともに、それらの水田址様遺構で生産されたイネの総量、生産雑草総量を推定した結果について述べる。また、上述の分析結果に基づき、これらの水田址様遺構の性格について若干の検討を加えようと思う。

(1) 分析法および試料

プラント・オパール分析法はイネ科植物を対象とした古代植生分析法である。イネ科植物の葉身には、機動細胞珪酸体と呼ばれる厚いガラス質で覆われた特殊な細胞がある。この機動細胞珪酸体は植物種によりその断面形状が異なり、植物種判別のkeyになる。また、厚いガラス層でできているため、植物体が土中で酸化分解した後もその形状は変わらず土粒子の一種として長期間残留する。このような植物に起源する土粒子は、プラント・オパールと総称されている。プラント・オパール分析は、遺跡土壌に含まれる機動細胞プラント・オパールを

土層 (cm)	
I a	耕土(現水田面)
I b	耕 作 土
I c	耕 作 土
II	浅間日輪石層(天仁元年)
III	W期水田址(平安時代)
IV	
IV a	I期水田址(古墳時代)
IV b	黒灰色粘質土
V	灰白色粘土(洪積層)

第75図 遺跡の土層断面 (A地点)

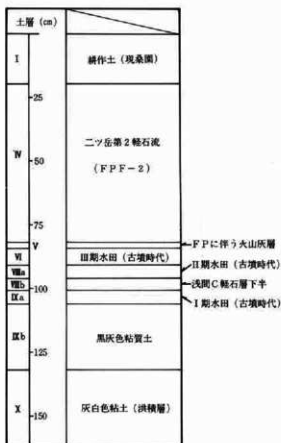
検出し、当時のイネ科植物の種類・生産量を推定するものである。

分析過程は第77図のダイアグラムで示したとおりである。分析試料はA・B地点で定性用試料6点、定量用試料14点を採取した。試料は100cc採土円筒を土層に垂直に打ち込み採取し、後日仮比重を計測した。なお、試料採取にあたっては異物の混入や汚染の生じないよう可能な配慮を施した。試料採取地点の土柱図は、第75・76図に示したとおりである。

(2) 分析結果

定性分析の結果、一時期に堆積したとみられる火山灰層を除く各層に、イネ科植物の機動細胞プラント・オパールが風化の影響の少ない状態で残留していた。とくに、水田址様遺構の確認されたA地点III層（同道IV期水田）およびB地点VI層（同道III期水田）、VII a層（同道II期水田）、IX a層（同道I期水田）と現地地表傍土層からイネ機動細胞プラント・オパールとともに、ヨシ、タケ（ササ類）、ススキ、チガヤおよびマコモの機動細胞プラント・オパールが含まれていた。

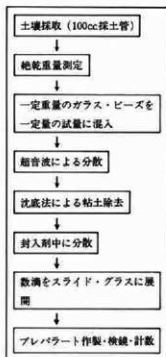
二ツ岳軽石層に伴うIV層は一時期に堆積したとみられる土層である。したがってイネ科植物が生育繁茂できる堆積状態ではなく、プラント・オパールも全く検出されなかった。上層に堆積したプラント・オパールが重力や地下水の上下動で降下移動するのではないかと疑問が出されることがある。かりにVI層以下のプラント・オパールがI層から降下したものであれば、IV層に少量なりともプラント・オパールが含まれているはずである。IV層にプラント・オパールが含まれていないことは、プラント・オパールの降下移動がほとんど無視できることを示している。



第76図 遺跡の土層断面 (B地点)

第15表 機動細胞珪酸体1個に対する植物体各部乾重

	葉身重(g)	地上部全重(g)	種実重(g)
イネ (Oryza sativa)	2.65×10^{-4}	13.46×10^{-4}	6.25×10^{-4}
ヨシ (Phragmites communis)	1.27×10^{-3}	6.93×10^{-3}	
ヒエ (Echinochloa Crus-galli)	5.6×10^{-3}	4.3×10^{-3}	1.93×10^{-3}
チガヤ (Bambusaceae)	2.43×10^{-3}	4.8×10^{-3}	
ススキ (Miscanthus sinensis)	1.86×10^{-3}	3.58×10^{-3}	



第77図 プラントオパール定量分析法 (ガラス・ビーズ法)

III 関連調査と結果

各土層のプラント・オパール密度と土壌仮比重および植物体における機動細胞珪酸密度のデータから、単位容積土壌に埋没した植物体量を計算した。ここでは主要作物であるイネ地上部乾重と、その粉量および優占植物種としてヨシおよびタケ類の地上部乾物重を面積10a・土層1cmあたりkgで表わした結果を図に示した。

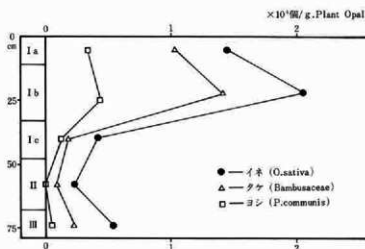
計算の結果、II期水田におけるイネ粉生産量は5.48 t / 10 a、III期水田における同生産量は3.72 t / 10 aとなった。またI期水田 (IX a層) もIX b層に少しかかってお

り、両層のイネ粉生産量を加えた値 3.48 t / 10 aが同水田の生産量として推定される。

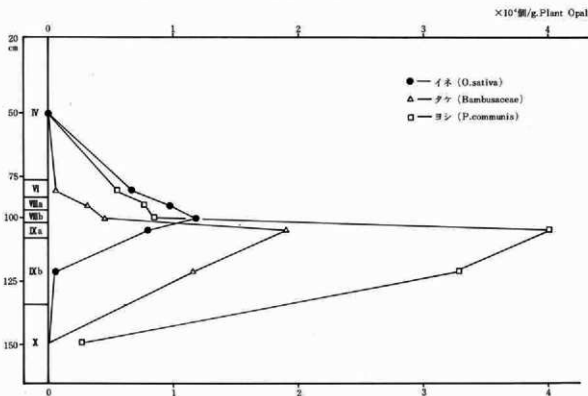
(3) 考察および結論

a Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ期水田におけるイネ粉生産量の推定

VI層およびVII a層で古墳時代水田址が検出されている。分析結果を示した粉量kg/10 a・cmの値にそれぞれの層厚(cm)を乗じて得られる値がその層における生産量を示すことにな



第78図 土1gあたりのプラント・オパール数 (A地点)

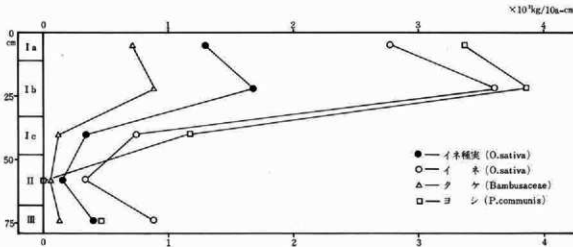


第79図 土1gあたりのプラント・オパール数 (B地点)

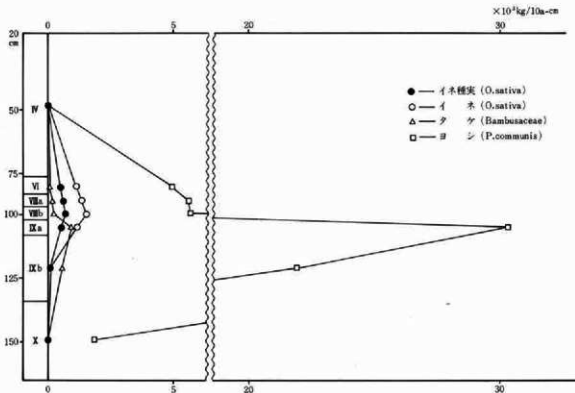
1 同道遺跡におけるプラント・オパール分析

る。ただし、Ⅷa層は層厚が薄いため、Ⅷb層までイネのプラント・オパールが入っている。したがって、Ⅱ期水田における籾生産量はⅧa層とⅧb層の籾生産量を加えた値になる。

計算の結果、Ⅱ期水田におけるイネ籾生産量は5.48 t / 10 a、Ⅲ期水田における同生産量は3.72 t / 10 aとなった。またⅠ期水田(Ⅸa層)もⅨb層に少しかかっており、両層のイネ籾生産量を加えた値3.48 t / 10 aが、同水田の生産量として推定され



第80図 イネおよびイネ科雑草の乾物重 (A地点)



第81図 イネおよびイネ科雑草の乾物重 (B地点)

る。

これらの値は一年あたり収量ではなく、その水田で生産された稲の総量である。したがって、一年あたり収量はその水田が活用された年数に関するデータがあれば計算しうることになる。さらに、この初生産推定値は収穫が随分遅く行なわれ、堆肥などの形でイネワラが還元されることはなかったとした場合の値である。

b、ヨシの生育・繁茂

各層におけるヨシの植物体埋没量の推定値をみると、I～III水田における値が大きく、とくにI期水田のそれはIXa層だけで151.5 t/10aにも達している。この現象は当該遺跡に限られるものではなく、最近各地で検出された水田遺跡に共通してみられる傾向である。このような結果から次の三例が考えられる。①ヨシが水田雑草として大量に繁茂していた。当時の農具から判断して、40cm深にも達するヨシの地下茎を除去することが技術的に困難であったためである。②何らかの理由で水田耕作が中断され、その間にヨシが繁茂した。現在の休耕作田でも3～4年休耕し放置されるとヨシが大量に繁茂する。③もともとヨシが繁茂する原野であったところに水田を開いた。これらのいずれであるかは現在のところ判断のしようがない。

C、いわゆる“ミニ水田”について

当該遺跡における水田址様遺構は極めて小型であり、“ミニ水田”などと呼ばれている。このように整然と小方形に区画されている理由について、栽培技術的立場から若干の考察を加えてみたい。本来、火山灰台地は透水性が大きく、そこに開かれた水田は漏水が激しく、水管理が難しいのが通例である。プラント・オパール分析の結果からみると、この遺構が稲作に関連するものであることは明らかである。降雨量がとくに多い地域ではないこの地方で、イネを栽培するには用水量をできるだけ少なくする工夫がどうしても必要である。圃場用水量は地下浸透量、蒸発量および蒸散量の和で表わされているが、前述のとおり火山灰台地では地下浸透量が圧倒的に多い。地下浸透量を少なくするためには圃場土層に不透水層を造る必要があり、栽培技術的には代掻き（シロカキ）作業がこれにあたる。代掻き作業を行なうためにはどうしても一旦湛水する必要があり、通常これに要する水を代掻き水と呼んでいる。代掻き作業による代掻き層の形成されていない圃場に水を入れるには、大量の用水が必要である。圃場が小型であれば大型圃場に比べ湛水に必要な水は少なくてすむので、代掻き水も少量で足りることになる。したがって、小区圃場にして代掻きを行ない、代掻き層が造られると次の区画に送るという作業の繰返しで大面積全体の代掻き層を形成したことが考えられる。

しかし、代掻き層を充分形成させ得たとしても、火山灰の透水性は相当大きく、おそらく100mm/day前後の漏水田になり、常時湛水することは不可能だったと思われる。このように考えると、この水田址様遺構はいわゆる水田というより、むしろ畑に近い状態を想定する方が妥当ということになる。 (1980年3月脱稿)

2 花城寺館と元井出館

城郭研究家 山 崎 一

群馬郡群馬町井出の街村は、齊藤惣治郎氏所蔵文化五年八月の文書によれば「本屋輔ト申名所有之此所ヨリ元和年中（1620頃）ヨリ年々今之居村之引越寛永二年（1625）迄二不残引越候」とあって、近世初頭に元井出（本屋輔）から現在地に移ったのだという。その誘因は勿論、下小島一柏木沢路線の開通と新田の開発によるのであろうが、元井出に元集落が存在したことは、中世の治安不良に対応し、この適地が選ばれたものと推定する。即ち、井野川と嵯峨の河崖にはさまれた自然の要害が、元井出集落を発生させたと考えて差支えあるまい。

嵯峨あるいは八坂井出と呼ばれるこの地隙は、榛名山裾野の末端の湧水が造った自然地形で、広さ10乃至5m、深さ3m前後あり、両岸は急崖となった格好な外壕である。

井野川の河崖も高さ4～5m、元井出地域は北に明神山の古墳（現存しない）をひかえ、その外側には保護田の道心沢堰末端の貯水池があって防塞になった。この堰は今、井野川に排水しているが、中世には二子山、明神山両古墳の間を通過して嵯峨を流れ、井野川に注いでいたと推定する。この一連の遺跡は明らかに追求することができる。それだけの水量がなければ嵯峨の現地形を形成することは不可能である。安政三年（1856）、この水路を堰き止めて二子山南側を流し、井出一帯を灌漑したのが「除ヶ堰」である。二子山の南から大円寺に向う道路の南に添って空堀痕が断続するのが、堀の旧水路であろう。

嵯峨の一部に直角に屈折する部分があり、その不自然さには人為的な改変が考えられ、そこに花城寺の環壕遺構がある。南北75m、東西65m、南面に掘り残し土橋跡が見られる。土橋から東につづく道は、明治末年以後に造られたもので、その以前は一旦嵯峨の底に下ってから土橋の南50mの所で岸にのぼり西に向った。今もその道路跡がある。土橋から南につづく道は、この館に通じる道だった。

花城寺除地と呼ぶのは、そこに花城寺と呼ぶ寺があったためであろうが、「城」の字は寺城になる以前、ここは館城であったと推定させる（1249～1255番地）。

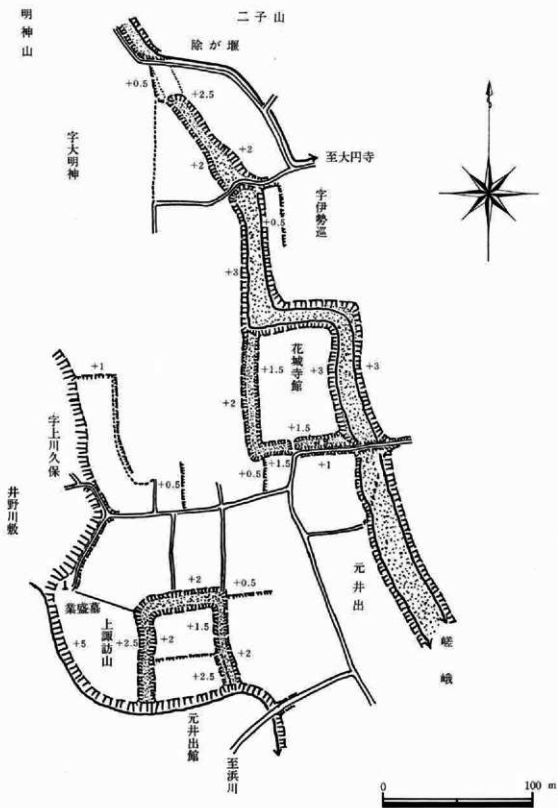
* 第82図

また井野川の崖端突出部に、南面を崖に依託して南北65m、東西60mの環壕遺構がある。花城寺館との距離は100mにすぎない（1272～1276番地）。江戸初期、両者ともおそらく寄居で、元井出の人々は有事の際にこの堡塁に立寄り、集落を防衛しようとしたのであろう。

元井出館址の西北50mには、最後の箕輪城主長野業盛（氏業）の墓と伝えられる五輪塔があり、元井出は長野氏浜川館の東の防塞となっていたのではあるまいか。

（1979年5月脱稿）

III 関連調査と結果



第82図 花城寺館および元井出館 (作図：山崎、1979、5)

IV 成果と問題点

同道遺跡の発掘調査は、すでに予備調査の段階で4期の水田遺構が同一地点に埋没していることが想定されていた。このような遺跡の調査は担当者にとって未だ経験のないことであり、遺跡の重要度からみて事前に十分な討議を必要とした。

本調査に先立って得られた調査方針は、4面の水田址の全面調査とともに各期水田の時期決定および水田立地、水田耕作の技術的・社会的な変遷をたどることを目的とした。また、これらの視点は、考古学の第一義的な方法である型式学的方法の中で獲得されるものであろうとして、水田遺構の調査方法の確立をも眼前の目的に加えておいた。このような分析視点の統一したテーマは、「群馬県地域における農業発達史」とした。さらに、これらの方法・目的をチェックするものとして、全く異質なテーマである「考古学における火山災害史」的視点を加えて、両テーマを交差させる方向を採用した。つまり、発掘調査において得られた諸々の遺物・遺構についての歴史的方向性を理解するための、地域特性の抽出を根拠にすえることとしたものである。以上の観点から次の成果と問題点を得ることができた。(能登 健)

1 出土土器からみた各期水田の年代観

ここでは、各期水田より出土した土器の型式分類を通じて、各期水田の時間的な断続状況を分析してみたい。

I期水田 出土した土器は、弥生時代後期から古墳時代初頭にかけてのものである。その中で弥生時代後期樽式に位置づけられるものとして、1(=5)・2・6があるが、1は頸部の波状文や籠状文の止め方などからみて樽式でも新しい要素をもっている。10・11は縄文施文のあり方からみて赤井戸式の可能性があり、3・7・9も弥生時代後期の土器であろう。また4は古墳時代前期の石田川式に比定されよう。なお、I期水田下には遺物の包含層や遺構は存在していない。

*第23図

II期水田 出土した土器は、古墳時代初頭から後期にかけてのものであるが、型式別にみると石田川式、和泉式、鬼高I式の3型式にまたがっている。石田川式に該当するのは、2・3・4で、3は頸部下に横方向のハケ目がめぐることから石田川式でもやや古手のものと思われる。和泉式は2・6の2点であるが、1・17~19は、和泉式の新しい部分か鬼高I式に比定されよう。他の坯はいずれも鬼高I式である。

**第33・34図

III期水田 出土した土器は3点のみで、古墳時代後期に位置づけられる。1・2は鬼高I式と思われるが、7はI式の中でもより新しい位置づけられる。3は器形やヘラ削りのあり方などからみて、鬼高II式の要素をもっている。

***第48図

IV期水田 出土した土器は小破片のものが多く、また住居址にみられるような良

好きなセットとして出土したものではないことから、これらに正確な年代を与えることはやや難点がある。大まかなところとしてその年代を考えるならば、1と3は8～9世紀に、4を除いて他は10～11世紀に比定されよう。

各期水田から出土した土器について、一応の型式と年代を付与した。しかし、これらが各期水田の年代を反映していると考えられるためには、一つの前提が必要となる。つまり、各期水田からの出土土器が当時の水田耕作を行っていた人々によって持ち込まれたものであって、流水などで前代の土器がまぎれ込んだものではないと言うことである。これを証明する手段としては、土器の出土状況や磨滅の状態を観察することしか残されていない。そこで、土器の出土状況から当時の人々によって持ち込まれたものを判定すると、I期水田では耕作土中やその表面に集中して分布していた1の土器や浅間C直下に一括出土した4の土器がある。またII期水田では、水路の取入口に集中して分布していた1の土器や、水路内から集中して出土している7・17およびB大アゼ中から一括して出土している8の土器がある。III期水田ではA大アゼ中に集中して分布していた3の土器がある。その他の出土土器も、浅間C、FA、FP、浅間Bによって覆われていたものであり、上層から他時期のものが混入することはまず考えられない。また、各土器片の断面を観察した限りでは、流水でローリングをうけたような磨滅は認められない。

以上のことから、各期水田より出土している土器は、当時の人々によって持ち込まれたものであると判断できよう。こうした前提に立って、各期水田の耕作開始から中断までの年代観について述べてみたい。

I期水田は弥生時代後期の樽式土器から古墳時代初頭の石田川式土器まで出土している。このことは、I期水田の耕作が少なくとも弥生時代後期に開始され、浅間C降下によって埋没する時点、つまり古墳時代初頭まで継続していたことを意味している。II期水田は古墳時代の石田川式をはじめ、和泉式、鬼高I式土器を出土している。これは、水田耕作が石田川式期から鬼高I式期まで連続していたことを物語っている。また、石田川式土器について考えると、I期水田の4の土器からも明らかのように、浅間Cを挟んでその上下に石田川式土器が出土しているのに気付く。これまでFA下の水田（II期水田）については、その下層の水田（I期水田）が浅間Cによって埋没した後、水田耕作地としては一旦放棄され、ある程度の期間を置いてから水田耕作が再開（＝再開発）されたと考えられていた。しかし、出土土器でみる限りI期水田とII期水田の間には、一型式を超えるような時間的断絶は認められない。こうした事実は、II期水田の造成が浅間Cによって埋没したI期水田に対して、一定期間を置いて再開発されたのではなく、短期間に復旧されたものであるとする考え方の一つの裏付けとなろう。III期水田は鬼高I式と同II式土器を出土しているが、ここでの鬼高I式はII期水田出土の同I式よりも新しい要素もっている。出土土器が少なく、水田の継続年代を判断する材料としてはやや不安な面もあるが、II期水田は鬼高I式から同II式の間を通じて営まれたものと考えた

い。またII期水田がFAによって埋没した後にIII期水田の耕作が開始されるまでの間には、1型式を超えるような時間的断絶はないとみてさしつかえないだろう。IV期水田は出土土器からみて、8～9世紀頃に耕作が開始され、浅間B降下時まで継続していたと考えられる。

同道遺跡における水田耕作は弥生時代後期に始まり、古墳時代に入ってから2回の火山災害に見舞われて、一時中断されることはあったとしても長期間放棄されるようなことはなく、耕作が継続されていった。その後6世紀中葉のFP期の降灰とFPF-2によって1m以上に及ぶ火山噴出物が堆積することにより、8～9世紀に入るまで水田耕作が放棄されている。そして8～9世紀になると再び水田地帯として開発され、浅間Bで埋没するまで水田耕作が継続されていたことが判る。

(石坂 茂)

2 出土土器からみた各テフラの降下年代

各期水田を覆っているテフラ層の降下年代については、最近の考古学的成果をとり入れた年代同定によってほぼ判明してきている。このうち、浅間Bについては中右記の記録より、天仁元(1108)年と考えられるが、ここでは古文書に記録されていない浅間CやFA・FPについて、前項で検討した出土土器を通じてその噴出年代を考えてみたい。

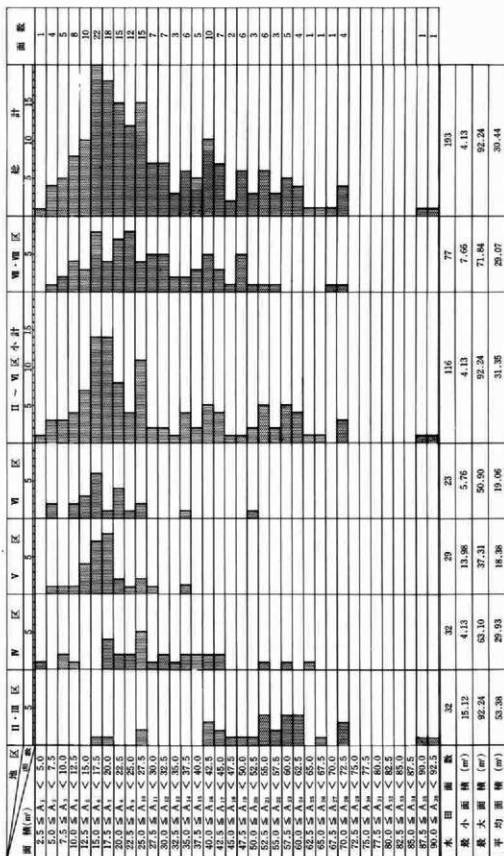
浅間C層は、その上・下層から石田川式土器が出土している。下層から出土する石田川式土器は、濃尾平野一帯に分布するS字状口縁台付壺の編年と比較すると、明らかに古墳時代に入ってから土器に該当する。このことから、浅間Cの降下は石田川式土器の存続時期とされる4世紀代ということになる。ここではその年代を4世紀中葉と考えておきたい。すなわち、浅間C層に直接覆われた水田面は、古墳時代初頭の水田面を意味している。

FA層の下層からは、鬼高I式土器の古手が出土している。FA層に埋もれた寺内遺跡・島神戸遺跡・保渡田遺跡の住居内出土土器や他遺跡例でも同様な結果が得られている。こうしたことから、その降下年代を6世紀前葉と考えたい。

石川正之助・井上唯雄・梅沢重昭・松本浩一の四氏編集による「特集・火山堆積物と遺跡Ⅰ」では、FP層下からの鬼高II式土器の出土は明確でなかった。同道遺跡ではFP下層から同II式が出土しており、県内の近年における諸調査例からみてもFP層は鬼高II式土器を使用している時間内で降下したことを物語っている。鬼高II式土器の年代的な位置づけは、およそ6世紀後半と想定されている。すなわちFP層はその中葉の降下ということになろう。ここではFP降下期を6世紀中葉としたが、このことは鬼高式土器に伴出する須恵器の年代観を重視した結果であり、最終的な結論は土器編年研究の進捗を待ちたい。

(石坂 茂)

IV 成果と問題点



第83図 I 附水田・水田区画面積のヒストグラム

3 I～III期水田における水田面積の統計学的検討

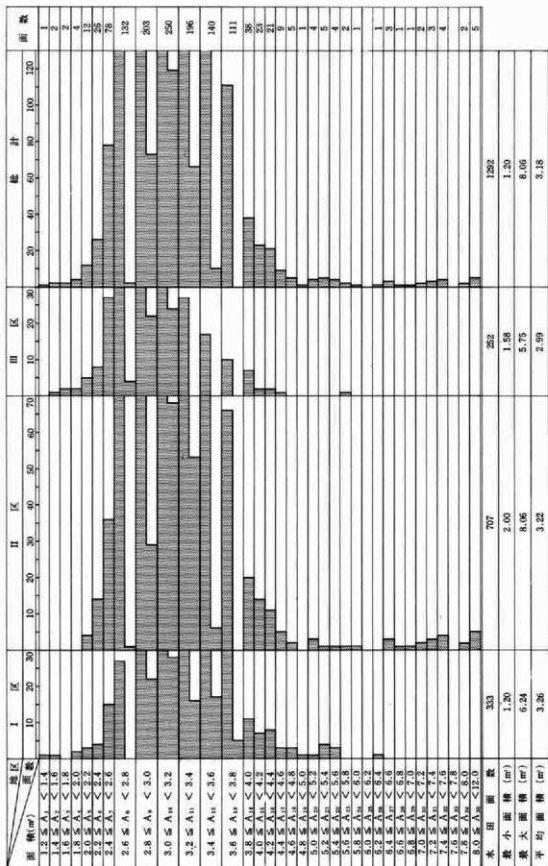
検出した水田址の区画別面積を算出して統計処理したのが第83～86図である。統計処理には検出した全区画を対象としたが、統計的検討を行う場合、取り扱う資料がサンプル量として妥当で、かつサンプル量は母集団を代表するような資料であることが前提となる。この意味では対象とした1,751面の水田区画が妥当なサンプル量であるか否かという疑問は残るが、例えば県内に埋蔵された古代水田の全量(母集団)が永遠に未知の存在であるのと同一レベルで、これらの資料がサンプル量として妥当であるか否かという判断はできない。従って、この統計学的検討は母集団に対するものではなく、検出した時期別の水田址に関する相対的な比較の資料である。

ヒストグラムについて 算出した面積を機械的に分割した面積別の頻度を示したのが第83～85図のヒストグラムである。これをみるとI期水田の面積は15～20.0m²に最大の頻度をもつが平均値は30.31m²を示し、最大の頻度と平均値が一致していない。これは最大の頻度が各区で異なるため、例えばII・III区からVI区までを比較すると、II・III区では最大の頻度が60m²前後にあるのに対して、IV区では20～40m²にかけて偏在し、V・VI区では20m²付近である。このように各区で面積が異なるのは、直線的な南北のアゼによって带状に区画された範囲で水田が造成されており、南北アゼ相互の間隔が一定していないために、一区画が大小様々なものとなっているためである。II期水田は最大の頻度を3.4～4.4m²にもち、平均値は4.12m²、同様にIII期水田は3.4～4.4m²に最大の頻度をもち、平均は3.25m²を示す。II・III期水田は最大の頻度と平均値が一致し、各区別でも同様な傾向を示している。

地区 面積 (m ²) 道数	IV 区 (西)				IV 区 (東)		南東全区	総 計					面 数		
	5	10	15	20	5	10	5	5	10	15	20	25		30	35
2.6 ≦ A ₁ < 2.8															3
2.8 ≦ A ₂ < 3.0															6
3.0 ≦ A ₃ < 3.2															16
3.2 ≦ A ₄ < 3.4															10
3.4 ≦ A ₅ < 3.6															29
3.6 ≦ A ₆ < 3.8															33
3.8 ≦ A ₇ < 4.0															28
4.0 ≦ A ₈ < 4.2															26
4.2 ≦ A ₉ < 4.4															28
4.4 ≦ A ₁₀ < 4.6															24
4.6 ≦ A ₁₁ < 4.8															13
4.8 ≦ A ₁₂ < 5.0															13
5.0 ≦ A ₁₃ < 5.2															11
5.2 ≦ A ₁₄ < 5.4															6
5.4 ≦ A ₁₅ < 5.6															7
5.6 ≦ A ₁₆ < 5.8															4
5.8 ≦ A ₁₇ < 6.0															3
6.0 ≦ A ₁₈ < 6.2															2
6.2 ≦ A ₁₉ < 6.4															1
水 田 面 数	173				66		24	263							
最 小 面 積 (m ²)	2.70				2.63		2.61	2.61							
最 大 面 積 (m ²)	6.36				6.09		4.80	6.36							
平 均 面 積 (m ²)	4.13				4.19		3.82	4.12							

第84図 II期水田・小区画水田面積のヒストグラム

IV 成果と問題点



第85図 田圃水田・小区圃水田面積のヒストグラム

3 I～III期水田における水田面積の統計学的検討

正規分布について 検出した全区画の時期別面積を、正規分布関数に代入して描いたグラフが第86図の正規分布曲線である。これによると各時期にバラツキの差があることが明瞭に読み取れる。すなわち、II・III期水田は標準偏差が0.7～0.8であるのに対して、I期水田は17.16と極めて大きな値を示し、I期水田はII・III期に比較してバラツキの幅が著しく大きいことがわかる。また、正規分布曲線を積分して得られる累積正規分布によると、平均値からプラス・マイナス(±)20%の面積に含まれる水田区画の割合は、II期(3.30～4.94m²)が75%、III期(2.60～3.90m²)が58%で、多数の水田区画が平均値から±20%のなかに含まれるのに対して、I期(24.25～36.37m²)は27%しかない。また±30%にいたってはII期(2.88～5.36m²)が91%、III期(2.28～4.23m²)が78%にも及ぶのに対して、I期(21.22～39.40m²)は40%にしかすぎない。つまり、II・III期水田の場合は、大半の水田区画が平均値から±30%の範囲に納まる面積を示しているが、I期はデータのバラツキが大きいために、平均値付近の値を示す水田区画の割合が極めて少ないということが言える。

以上の統計資料にみる限り、I期水田は各別で同規模の区画が集中するものの、全体では標準偏差の大きい、広いバラツキをもった数値を示している。これに対してII・III期の小区画水田は、特定の面積あるいは特定の規格を指向した可能性が示唆され、この結果がバラツキの小さい正規分布曲線に表われたものと考えられる。こうした規格性が政治的な土地制度に基づくものであるのか、または水田造成時における工法あるいは耕作技術に関係するものなのかが問題となろう。(石坂 茂)

正規分布関数

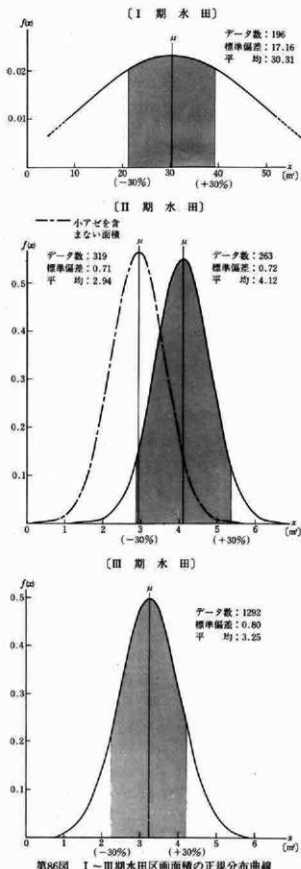
$$f(x) = \frac{1}{\sqrt{2\pi}\sigma} e^{-\frac{(x-\mu)^2}{2\sigma^2}}$$

$$\sigma: \text{標準偏差} = \sqrt{\frac{1}{n-1} \sum_{i=1}^n \frac{O_i x_i^2}{n}}$$

$$\mu: \text{平均値}$$

$$\Phi(x) = \int_{-\infty}^x \frac{1}{\sqrt{2\pi}} e^{-\frac{t^2}{2}} \cdot dt$$

$$n = \frac{x-\mu}{\sigma}$$



第86図 I～III期水田区画面積の正規分布曲線

本稿は能登：1983（文献90・92）ですべてに発表してあるものの概要である。

4 同道遺跡の小区画水田

同道遺跡は、同一地点に4面の水田址が重層して検出された点で重要である。そして、これらの各期水田に詳細な検討を加えることにより、それぞれの共通点や異質な点を看取することができた。大きく分けると、I～III期水田はより共通点を有しており、これに対してIV期水田は条里期水田として他の3期の水田と象徴的な差異を示していた。

I～III期水田は、I期水田の上にそれぞれII・III期水田が火山災害の直後に復旧されている。このことは、火山災害後に復旧された水田がそれぞれ下層の水田と基本になる大アゼが一致している点で明確である。災害後に土地（＝地味）の自然回復を待っての再開発では、旧地割である下層水田の大アゼをそっくりそのまま踏襲することは有り得ない。このことはさらに、大アゼの基本地割りが少なくとも4世紀中葉から6世紀代までの200年間にわたって変化のなかったことも意味することになる。これに対して、小アゼの変化は極端な差異をみせている。

I期水田の小アゼは大区画を呈しているにもかかわらず、II・III期水田になると極めて小さな小区画に変化する。このII・III期水田の小区画は、大アゼに規制されて格子目状につくられているとともに、大アゼに接する部分の一部では変則的な形状を呈している。このことは、小区画が地割りを示すものではないことを意味している。むしろ、制度的というよりも、水田耕作技術に伴う構造的な機能を有しているものと考えられる。南北小アゼを境として東西方向に連なる小区画同志は勾配差がなく、この南北小アゼは不必要・無意味なものとなっている。にもかかわらず、これが存在するという事は、小アゼの区画と関連して特殊な意味を想定せざるを得ない。極めて小さな小区画は、火山災害の復旧の過程で成立したものと考えたい。同道遺跡のI～III期水田は、大アゼによる地割りの継続からみて、火山災害の後に直ちに復旧に入ったことが判る。この際の最大の眼目は、浅間C層対策にある。地域一帯に降下した軽石層の除去作業は行なわれていない。この軽石層上に新しい水田を短時間で復旧することになった。復旧対策は、まさに「砂上の水田」経営を可能にするための漏水対策に主眼が置かれた。以下、その対策を列挙する。

- ①灌漑方法を湧水灌漑から河川灌漑に変更し、大量の用水確保を図った。
- ②一用水系の給水範囲を%に縮小するとともに、大アゼ間の小アゼの一部を大アゼ化し、部分的な水田の大きさを縮小もした。
- ③一水田内の配水がまんべんなくゆきとどくために、水路に接する水口を改良し、一番水の区画を大きくして用水の均等配分を考慮した。
- ④小アゼを小区画化し、水の移動・亡失をくいとめるとともに、代掻きなどによる床土づくりの合理化と水の均等配分を図った。

このようにして、火山災害の復旧による特異な水田形態が成立したものである。

（能登 健）

5 井野川周辺の水田開発

井野川流域には、同道遺跡をはじめとして御布呂、芦田貝戸、熊野堂などの埋没水田遺構が集中して分布している。この井野川は、榛名山麓の相馬ヶ原火山山麓性扇状地に源を発し、前橋台地を群馬町・高崎市と流下しながら烏川に合川する総延長約26kmの河川である。河川勾配は平均0.9%で利根川の第3次支川になる。

水田遺跡の分布する中流域付近は、比高5m前後の崖線を形成しており、兩岸の地形は一見すると洪積台地状を呈している。しかし、その縁辺は断面に沖積土を介在しており、かつて兩岸には帯状の沖積地（＝水田適地）が存在したことが理解できる。現在では、この沖積地は度重なる火山噴出物の堆積で埋没しており、地表面は周辺の台地・微高地などと同一レベルになっている。このことは、かつて水田経営が盛んに行われていた井野川流域の沖積地帯は、火山災害により高燥化し最終的には島地化したことをも物語っている。さらに、その後の井野川の侵食はこのことを一層助長し、旧地形の復元をより困難なものにしている。

井野川の侵食が悠久な時間のうちに助々に行われたものでないことは、同道遺跡最上面で検出された中世居館址のあり方で判明している。この居館址は15世紀後葉から16世紀初頭にかけてのもので、それぞれ5ヶ所づつの浅井戸と深井戸を有している。滞水層のあり方から、これらの井戸が同時に使用されていたとは考え難く、何らかの変化によって浅井戸から深井戸へ切り替えられたと考えられる。そして、この変化は利根川の変流に関連させて分析することにより理解が可能となる。

現利根川は、前橋市大手町のさちの池あたりから群馬県庁の西側を、いきなり洪積台地を貫流するという極めて不自然な流路をとっている。旧利根川は現広瀬川流域を流下していたと考えられ、いつの日にか何らかの原因をもって現流路に変流したとしか考えられない。おそらく、現利根川は井野川と同様に榛名山麓から流下する八幡川の下流域の流路を争奪したものと考えられる。八幡川は、人工堀（農業用水）である天狗岩用水と現在では接続されているが、かつては群馬県庁の西側で大きく流路を変えつつ現利根川すじを流下していたのであろう。この八幡川の蛇行で侵食されていた地点へ利根川の側方侵食が到達し、その結果利根川による八幡川の河川争奪が行われたと考えられる。流路を変えた利根川は、一気にこの地域を侵食しつつ烏川との合流点を短縮し、第3次支川である井野川をもその影響下においたものであろう。井野川の急激な侵食はこの一連の出来事であり、その時期は同道遺跡の浅井戸、深井戸の切り替え時期である15世紀後葉から16世紀初頭の頃と考えられる。以上のことから、盛んに水田が耕作された4～6世紀における井野川周辺は、群馬県地域における水田耕作の最良適地であったことがうかがわれる。すなわち、井野川をはじめとする前橋台地一帯は、初期水田耕作としての伝統的な地域とすることができる。相馬ヶ原扇状地末端湧水を水源とする日高遺跡では、弥生時代中期の土器も出土しており、これを裏付けている。

（能登 健）

本稿は能登：1983（文献105）ですでに発表してあるものの概要である。

＊第2回

6 同道遺跡のⅣ期水田について

同道遺跡のⅣ期水田は、浅間B層によって埋没している。浅間Bは天仁元(1108)年の降下と考えられ、これに埋没した水田は条里期の水田としてとらえられる。前橋台地では、数多くの遺跡で検出され、高崎市教育委員会を中心に総合的な研究が行なわれている。同道遺跡では、発掘範囲およびその中での検出面積が狭いために、当遺跡単独では詳細な考察は不可能である。

同道遺跡では、Ⅲ期水田にFP期火山灰が降下した後には大量の同期の軽石流が堆積し、水田耕作は完全に不可能となっている。Ⅳ期水田はその上層にあり、いつの時点で再度水田耕作が開始されたのが問題となる。Ⅳ期水田の水田土壌中には、各期の遺物が散在して出土しているが、このうち最古のものは8世紀頃のものである。これを根拠にした場合、同期を再開期とすることもできる。このことは、同時期に県内の条里水田が施行されたものなのか、それともこの時期に同道遺跡の地点が新しく開墾されたものかの二つの大きな問題を提起している。県内では8世紀以降に水田開発の画期がうかがわれつつあり、注目される事象と言えよう。総合的な判断を待って、Ⅳ期水田の性格付けを行ないたい。

(能登 健)

●横倉・中村・西川：1982
(文献36頁)

7 中世館址の年代観

(1) 遺構について

掘立柱建築遺構群は、やや南東方向を向いた形で4棟とも同方向に建てられている。堀は井戸や掘立柱群の南西に位置して、北西方向から南西方向に走っている。堀より東側に遺構は認められない。遺構より出土した遺物およびこの地域の歴史的背景からみて、これらの遺構は15～16世紀代のものと考えたい。

井戸はその深さの違いにより、2つのグループに分けられる。①グループは1.7m以上の深さをもち、直径が1.2m以上のもので、1～4・6号井戸がこれにあたる。4号井戸以外は遺物を出土している。②グループは深さが1.5～1.7m、直径1.2m以下のものであり、7～10号井戸がこれにあたる。遺物は出土していない。5号井戸はどちらにも属さないものであり、井戸ではない可能性もある。①と②グループの先後関係は、②グループが遺物を出土していないために明確でない。ただ、井戸の深さは当時の滞水層の深さを示しており、この地域では中世以降において井野川の河床低下に合わせて滞水層の水位が下がる傾向にあったことが考えられる。こうしたことから、まず②グループの井戸が掘られ、その後水位の低下に合わせてより深い①グループの井戸が掘られたものと推察される。

(2) 出土遺物について

土器 中世館址に関連すると思われる出土土器群として18個体ある。1・2・4・5は胎土が密で粉状を呈する中世土師質土器皿である。多くはロクロ左回転の糸切痕を伴う。6は須恵器坏であり、7は天龍寺青磁の鉢、8は古瀬戸梅瓶の底部、9は葉茶壺の破片と思われる。内耳鍋も多く出土しており、その中には10・11・14にみられるように口縁部の長いものと12・13のように短いものがある。12の内耳鍋は丸い底部を伴う。これらの内耳はいずれもいぶし焼成による軟質陶器である。15・17は軟質陶器の捏鉢、16は常骨焼の捏鉢口縁部と思われる。18は軟質陶器の摺鉢で、筋目はほぼ直線に刻まれている。これらの遺物のうち、1～3・9・11～15が2号井戸、4が5号井戸、5～7・16が堀、8が掘立柱柱穴中、10が2号井戸、17が3号井戸、18が6号井戸よりそれぞれ出土している。これらの遺構に伴う遺物群は、多くの器種に分かれるが、一定の時代に限定されることが考えられる。その中で8と16についてはほぼ年代観が与えられる。

8の古瀬戸瓶は、底部と胴部が別に作られており、接合部分が区別できる。軸は現存の底部に近い胴部に0.1～0.2cmの厚さでかけてある。軸は灰軸が長石分を増して安定し、淡緑色を呈している。成形技法からみると古瀬戸第3段階以降であり、軸の様子からは第4段階と思われる。この梅瓶に15世紀代の年代が考えられる。

16の捏鉢は、口縁部に突帯を施しており、蓋受け状に成形している。常滑第V期に近い製品と思われ、15世紀後半から16世紀前半の年代観が与えられる。他の遺物

*第64・65図

についての年代観は明確でないが、伴出遺物及び周辺遺跡出土の遺物との比較により、ほぼ前記の年代観が考えられる。これらを出土した遺構の年代観も、その中で考えることが可能になると思われる。

●第66図

石臼 当遺跡出土の石臼は、2号井戸埋土中より出土したものが5個体で、他の2個体が耕作土中より出土しており、総数で7個体を数える。しかしいずれも大半が欠けており、臼の一部分が残存しているのみである。その中で茶臼の上臼が2個体、下臼が1個体認められ、他の4個体はすべて粉引臼の上臼である。茶臼の上臼の溝は8分画8溝式で丁寧に溝が切られているが、下臼は10分画6溝式で、溝が雑に切られている。そのため一組の茶臼とは認められない。19と20の臼の整形技法は似ているが、受皿の深さが違い別個体である。粉引臼で溝のわかるものは22・23・24である。いずれも製作当時の整然とした溝は認められず、放射状に近い溝となっている。また23以外は薄くなるまで使用されている事、22の横打込挽穴が「すり合せ部」に接触するまで臼が薄くなっている事、24においては横打込挽穴があったとしても、臼本体が薄くなりすぎて、上臼としての機能は著しく低下していたものと思われる。このようなことから、臼は相当長期に亘り使用されており、溝も数多く切り直しが行なわれていることを示している。上臼の上縁の形に23の丸いものと、25の直線的なものがある。23は上縁部が全て欠けており、25は上縁部と胴部の一部が欠け落ちたものである。23は口縁部が欠け落ちた後の肌肌が磨耗していることにより、他への転用が考えられる。25は一部分の残存であるが、残存部の観察から、臼が薄くないことや、臼製作時の整形痕が明瞭に残存していることより、長期間使用されることなく廃棄されたものと思われる。

●●三輪：1978（文献98）

●●●関口・田村・金井・古原：1979（文献41a）

以上の特徴より臼の年代観について考えてみたい。茶臼は南北朝時代の「基福絵詞」「酒飯論絵詞」等の中に絵で描かれており、日本でも南北朝時代には使用されていたことが知られる。粉引臼は天正13年に全滅した福島県中村館跡、天正元年に滅亡した福井県一乗谷朝倉氏遺跡等から出土しており、県内においては当遺跡に隣接した矢島館跡から発掘されている。館は長野氏との関係や遺物との比較検討により、15～16世紀代に属するものと考えられる。また年代観を導く方法として、2号井戸より出土した石臼について共伴する土器に与えられる年代観からその石臼に年代観を与えることが考えられる。2号井戸から内耳4個体、中世土師質土器3片、茶壺1片、捏鉢1片が出土している。内耳は掘出土の破片と接合している。堀の埋土中より15世紀後半から16世紀前半の常滑の捏鉢が出土している。これらの遺物全体からみて、この井戸を15世紀後半から16世紀前半の約100年の間に置くことが考えられる。以上他の遺跡例や、当遺跡出土の伴出遺物に与えられた年代観より、2号井戸出土の石臼の年代は15世紀中頃から16世紀前半の中に考えたい。（中沢 悟）

参 考 文 献

- 1 a 「山王塔址」 『群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告』第1輯 1929 (昭和4年)
- b 尾崎喜左雄 「在地豪族の權威を示す山王廟寺」 『前橋市史』第1巻 1971 (昭和46)年
- c 松島栄治・相沢貞順・石川克博・中村富夫・宮沢敏弘・飯塚 誠 「山王廟寺跡第2～5次発掘調査概報」 前橋市教育委員会 1976～1979 (昭和51～54)年
- 2 a 岩沢正作・古沢澄浩 「保護田八幡塚(古墳番号第2号)外周発掘概報」 『上毛及上毛人』第146号 1929 (昭和4)年
- b 福島武雄 「八幡塚古墳」 『群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告』第2輯 1932 (昭和7)年
- c 石塚久則 「特集・火山堆積物と遺跡—八幡塚古墳—」 『考古学ジャーナル』№157 1979 (昭和54)年
- 3 田沢金五 「上野国総社二子山古墳の調査」 『日本古文化研究報告』第4 1937 (昭和12)年
- 4 a 山崎義男 「上野国横野村大字宮田先史遺跡」 『古代文化』12の11 1941 (昭和16)年
- b 山本良知 「古野畔畦遺構調査概報」 『時報』第25号 1961 (昭和36)年
- 5 a 太田静六・浜田正一 「上野国分寺伽藍の研究」 『建築学会論文集』第22号 1942 (昭和17)年
- b 井上唯雄・大江正行 「上野国分寺域縁辺の調査」 群馬町教育委員会 1975 (昭和50)年
- 6 後藤守一 「上野国愛宕塚」 『考古学雑誌』第39巻第1号 1953 (昭和28)年
- 7 尾崎喜左雄 「上代及び中世」 『中川村誌』 1957 (昭和32)年
- 8 新井房夫 「関東盆地北西部地域の第四紀編年」 『群馬大学紀要自然科学編』第10巻第4号 1962 (昭和37)年
- 9 関東ローム研究グループ 「関東ローム」 1965 (昭和40)年
- 10 石川正之助 「庚申B号古墳(群馬県の遺跡895)発掘調査概報」 『群馬大学教育学部尾崎研究室・研究調査報告』第1輯 1966 (昭和41)年
- 11 大森義一 「弥生式土器から土師器へ」 『名古屋大学文学部研究論集』(史学)47号 1968 (昭和43)年
- 12 八賀 晋 「古代における水田開発—その土壌的環境—」 『日本史研究』第96号 1968 (昭和43)年
- 13 尾崎喜左雄・梅沢重昭・松島栄治 「上野国分尼寺跡発掘調査報告」 群馬県教育委員会 1969 (昭和44)年
- 14 松島栄治・平野進一・大江正行 「上野国分尼寺跡発掘調査報告」 群馬県教育委員会 1970 (昭和45)年
- 15 『高崎市史』第1巻 1969 (昭和44)年
- 16 山本良知 「群馬県における神積層中の軽石層の年代について」 『第四紀研究』第10巻第1号 1971 (昭和46)年
- 17 郷原保夏 「火山灰編年法」 『第四紀』 1971 (昭和46)年
- 18 尾崎喜左雄 「火山噴出物堆積と遺跡」 『一志茂樹博士書寿記念論集』 1971 (昭和46)年
- 19 尾崎喜左雄 「上野国分寺遺跡」 『上野国分寺遺跡を守る会』 1971 (昭和46)年
- 20 尾崎喜左雄 「国府跡推定地の発掘調査」 『前橋市史』第1巻 1971 (昭和46)年
- 21 尾崎喜左雄 「豪族の支配と古墳の構造」 『前橋市史』第1巻 1971 (昭和46)年
- 22 山崎 一 「群馬県古城址の研究」上巻 1971 (昭和46)年
- 23 「群馬県遺跡台帳」II 群馬県教育委員会 1974 (昭和49)年
- 24 金坂清則 「上野国府とその付近の東山道及び群馬佐位駅家について」 『歴史地理学紀要』16 1974 (昭和49)年
- 25 山本良知 「前橋周辺にみられる黒土中の軽石層について」 『まえあし』第18号 1975 (昭和50)年
- 26 a 石川正之助・長谷部達雄・能登 健 「22地区」 『上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査報告概報』I 群馬県教育委員会 1975 (昭和50)年
- b 田島桂男・上原啓己 「特集・火山堆積物と遺跡I—大八木遺跡—」 『考古学ジャーナル』№157 1979 (昭和54)年
- c 田島桂男・上原啓己・飯塚恵子・田口一郎 「大八木水田遺跡—高崎市北部第三地区土地区画整理事業に伴う調査報告」 高崎市教育委員会 1979 (昭和54)年
- 27 石川正之助・長谷部達雄・前沢和之・飯塚卓二・佐藤明人 「融通寺遺跡」 『上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査報告』II 群馬県教育委員会 1975 (昭和50)年
- 28 a 長谷部達雄・清水和夫 「熊野堂遺跡(26地区)」 『上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査報告』II 群馬県教育委員会 1975 (昭和50)年

- b 細野雅男 「高崎市熊野堂遺跡の水田址」 【月刊 文化財】第181号 1978 (昭和53) 年
- c 細野雅男 「特業・火山堆積物と遺跡Ⅰ—熊野堂遺跡—」 【考古学ジャーナル】No.157 1979 (昭和54) 年
- 29 松島栄治 「上野国府」 【歴史公論】通巻66号 1976 (昭和51) 年
- 30 石塚久剛・大江正行 「歌舞伎B遺跡」 【上武国史地域埋蔵文化財発掘調査概報】Ⅲ 群馬県教育委員会 1976 (昭和51) 年
- 31 町田 洋・新井房夫 「広域に分布する火山灰」 【科学】第46巻第6号 1976 (昭和51) 年
- 32 町田 洋 「火山灰は語る」 1977 (昭和52) 年
- 33 川合 巧 「宝塔山古墳」 【群馬総社古墳群】 (財) 観光資源保護財団 1977 (昭和52) 年
- 34 川合 巧 「愛宕山古墳」 【群馬総社古墳群】 (財) 観光資源保護財団 1977 (昭和52) 年
- 35 a 松本浩一 「中尾遺跡」 【関越自動車道(新海線) 地域埋蔵文化財発掘調査概報】Ⅳ・Ⅴ 1978・1979 (昭和53・54) 年
- b 松本浩一・都丸 肇・前原 豊・坂口 一 「中尾(遺構Ⅲ)」 1983 (昭和58) 年
- 36 a 平野進一・大江正行・中沢 悟 「群馬県高崎市日高遺跡の調査」 【考古学ジャーナル】No.152 1978 (昭和53) 年
- b 平野進一・大江正行 「高崎市日高遺跡の水田址」 【月刊 文化財】第181号 1978 (昭和53) 年
- c 平野進一・大江正行 「特業・火山堆積物と遺跡Ⅰ—日高遺跡—」 【考古学ジャーナル】No.157 1979 (昭和54) 年
- d 横倉典一・平野進一・反町正巳 「日高遺跡(Ⅰ) 遺跡範囲確認調査」 高崎市教育委員会 1979 (昭和54) 年
- e 平野進一 「日高遺跡」 【関越自動車道(新海線) 埋蔵文化財発掘調査概報】Ⅴ 1979 (昭和54) 年
- f 横倉典一・白石修・清水幸男 「日高遺跡Ⅱ—昭和54年度園場整備事業に伴う発掘調査」 高崎市教育委員会 1980 (昭和55) 年
- g 横倉典一・中村昌人・西川正道 「日高遺跡Ⅳ」 高崎市教育委員会 1982 (昭和57) 年
- 37 a 佐藤明人 「日高とならぶ貴重な遺跡 新保遺跡」 【月刊 東職労】No.570 群馬県庁職員労働組合 1978 (昭和53) 年
- b 佐藤明人・真下高幸・平野進一・大江正行 「群馬県高崎市新保遺跡の調査」 【考古学ジャーナル】No.154 1978 (昭和53) 年
- c 市 隆之 「新保遺跡」 【関越自動車道(新海線) 地域埋蔵文化財発掘調査概報】Ⅴ 群馬県教育委員会1979 (昭和54) 年
- 38 a 正岡睦夫・柳瀬昭彦 「岡山市百間川遺跡の水田址」 【月刊 文化財】第181号 1978 (昭和53) 年
- b 「百間川兼基遺跡Ⅰ」 岡山県教育委員会 1982 (昭和57) 年
- 39 能登 健 「浅間山大噴火・標名山爆轟—考古学に見る北関東の火山災害—」 『どるめん』19号 1978 (昭和53) 年
- 40 a 「北堀池遺跡発掘調査概要Ⅰ」 三重県教育委員会 1978 (昭和53) 年
- b 吉水康夫・駒田利治・山田 猛 「三重県上野市北堀池遺跡の水田址」 【月刊 文化財】第181号 1978 (昭和53) 年
- c 「北堀池遺跡発掘調査概報Ⅱ」 三重県教育委員会 1979 (昭和54) 年
- d 「北堀池遺跡発掘調査報告」第1分冊 三重県教育委員会 1981 (昭和56) 年
- 41 a 関口 修・田村 孝・金井潤子・古屋真美 「矢島遺跡・御布呂遺跡—園場整備事業に伴う沢川遺跡群の調査報告(Ⅰ)—」 高崎市教育委員会 1979 (昭和54) 年
- b 神戸聖語・関口 修・高橋政子 「御布呂遺跡—沢川運動公園建設に伴う古代水田址の調査概報」 高崎市教育委員会 1980 (昭和55) 年
- 42 a 関口 修・田村 孝・金井潤子・古屋真美 「芦田貝戸遺跡—高崎市立女子高校建設に伴う調査報告(Ⅰ)—」 高崎市教育委員会 1979 (昭和54) 年
- b 田村 孝・小野和之・金井潤子 「芦田貝戸遺跡Ⅱ—火山灰に埋没した古代水田址と畝状遺構の調査概報—」 高崎市教育委員会 1980 (昭和55) 年
- 43 五十嵐 至・五十嵐 信・白石 修 「元島名遺跡—園場整備事業に伴う元島名遺跡群の調査報告(2)—」 高崎市教育委員会 1979 (昭和54) 年
- 44 a 横倉典一・小野和之 「小八木遺跡調査報告書(Ⅰ)—園場整備事業にともなう埋蔵文化財調査—」 高崎市教育委員会 1979 (昭和54) 年
- b 飯塚恵子・中村昌人・坂井 孝 「小八木遺跡(Ⅱ)—小八木地区土地改良事業に伴う発掘調査概報—」 高崎市教育委員会 1980 (昭和55) 年

- 45 a 大江正行・石守 晃・谷藤保彦 『鳥羽遺跡』 №1～19 (パンフレット) 群馬県教育委員会 1979～1981 (昭和54～56) 年
- b 松本浩一 『鳥羽遺跡』 『開越自動車道(新高線)地域埋蔵文化財発掘調査概報』 VI 群馬県教育委員会 1980 (昭和55) 年
- c 市 隆之 『鳥羽川遺跡』 『年報』 I (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982 (昭和57) 年
- 46 a 井上唯雄・都丸 肇 『特集・火山堆積物と遺跡Ⅰ—保渡田遺跡—』 『考古学ジャーナル』 №157 1979 (昭和54) 年
- b 須田 茂 『保渡田遺跡』 『上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報』 VI 群馬県教育委員会 1980 (昭和55) 年
- 47 神戸聖語・関口 修・佐々木恵子 『寺ノ内遺跡—園場整備事業に伴う浜川遺跡群の調査概報(2)—』 高崎市教育委員会 1979 (昭和54) 年
- 48 a 飯塚恵子・久保泰博・高野 学・田口一郎 『正観寺遺跡群(Ⅰ)』 高崎市教育委員会 1979 (昭和54) 年
- b 今井敏彦・五十嵐 信・他 『正観寺遺跡群(Ⅱ)—小八木町宮廻り・正観寺町村前・村東・村北・八本木・前久保・天神久保・宮東・万蔵地区の調査略報—』 高崎市教育委員会 1980 (昭和55) 年
- c 五十嵐 信・神戸聖語・久保泰博・他 『正観寺遺跡群(Ⅲ)—小八木町宮廻り・志々貝戸・権現塚・正観寺町弁弁・西原地区の調査略報—』 高崎市教育委員会 1981 (昭和56) 年
- 49 神戸聖語・今井敏彦・佐々木恵子 『引間遺跡』 高崎市教育委員会 1979 (昭和54) 年
- 50 『上郊村誌』 1979 (昭和54) 年
- 51 a 辻 広志・国松千夏・大田智鶴 『守山市服部遺跡の弥生前期水田址』 『滋賀文化財だより』 №23 (財)滋賀県文化財保護協会 1979 (昭和54) 年
- b 辻 広志 『前期水田址』 『服部遺跡発掘調査概報』 滋賀県教育委員会 1979 (昭和54) 年
- 52 石川正之助・井上唯雄・梅沢重昭・松本浩一編 『特集・火山堆積物と遺跡』 『考古学ジャーナル』 №157 1979 (昭和54) 年
- 53 新井朋夫 『関東地方北西部の縄文時代以降の示標ナフラ層』 『考古学ジャーナル』 №157 1979 (昭和54) 年
- 54 八賀 晋 『登呂水田の問題点』 『歴史と人物』 1979 (昭和54) 年
- 55 八賀 晋 『水田区画にみる水稲耕作技術』 『日本の黎明展図録』 京都国立博物館 1979 (昭和54) 年
- 56 a 前原 豊・古郡正志 『小野地区遺構群—平安時代水田址と住居』 藤岡市教育委員会 1980 (昭和55) 年
- b 前原 豊・古郡正志 『小野地区遺跡群 C₁』 藤岡市教育委員会 1981 (昭和56) 年
- 57 能登 健・石坂 茂 『同遺跡』 『日本考古学年報』 31 (1978年度版) 1980 (昭和55) 年
- 58 中東耕志 『中里天神塚古墳』 『上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報』 VI 群馬県教育委員会 1980 (昭和55) 年
- 59 都丸 肇 『三ツ寺田遺跡』 『上越新幹線地域埋蔵文化財発掘調査概報』 VI 群馬県教育委員会 1980 (昭和55) 年
- 60 a 松下 勝・水口富夫・高橋 学 『淡路・志知川沖田南遺跡』 唐津市教育委員会 1980 (昭和55) 年
- b 松下 勝・高橋 学 『洪水で埋もれた五つの水田址—兵庫県淡路島志知川沖田南遺跡—』 『地理』 Vol.28 1983 (昭和58) 年
- 61 八賀 晋 『古代の交通と生産』 『岐阜市史』 通史編原始・古代・中世 1980 (昭和55) 年
- 62 『発掘された古代の水田』 群馬県立歴史博物館編 1980 (昭和55) 年
- 63 乙益重隆 『古代水田区画考』 『鏡山盛先生古希記念古文化論叢』 1980 (昭和55) 年
- 64 石野博信 『古墳時代の農耕』 『ゼミナール—日本古代史』 下巻 1980 (昭和55) 年
- 65 川原喜久治 『推定上野国府跡地質入書き試み Ⅰ』 『鳥羽遺跡』 №16 (パンフレット) 群馬県教育委員会 1980 (昭和55) 年
- 66 『下之城桑里遺構の調査』 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1981 (昭和56) 年
- 67 五十嵐 信 『小八木荘貝戸遺跡』 高崎市教育委員会 1981 (昭和56) 年
- 68 白石 修・渡辺義泰 『矢中遺跡群(Ⅰ)—矢中地区園場整備事業に先行する遺跡範囲確認調査報告—』 高崎市教育委員会 1981 (昭和56) 年
- 69 白石 修・渡辺義泰・坂井 衛・青木いずみ 『菊池遺跡群(Ⅱ)』 高崎市教育委員会 1982 (昭和57) 年
- 70 坂井 孝・中村昌人 『浜尻遺跡』 高崎市教育委員会 1981 (昭和56) 年
- 71 坂井秀弥 『水田址からみた初期の稲作技術について—不定形小区画水田の一考察—』 『関西学院考古』 第7号 1981 (昭和56) 年

- 72 峰岸純夫・能登 健 「赤城山南麓の開発と遺構<女堀>」 『アーバンクボタ』19号 1981 (昭和56) 年
- 73 高谷好一・前田成文・古川久雄 「スマトラの小区画水田」
- 74 八賀 晋 「コメント1 古代の水田と区画」
- 75 渡辺忠世 「コメント2 古代の水田と区画」
- 76 a 下城 正・女屋和志雄・新井順二 「群馬県三ツ寺I遺跡調査概要」 『考古学雑誌』第67巻第4号 1982 (昭和57) 年
- b 下城 正 「三ツ寺I遺跡」
- 77 長谷部達雄・女屋和志雄 「三ツ寺II遺跡」
- 78 水津博明 「国分寺中間地域I遺跡」
- 79 石井克巳・徳江秀夫・板岡正信・黒沢はるみ・間庭 稔 「国分寺中間地域II遺跡」
- 80 長谷部達雄 「熊野堂A調査区・雨倉遺跡」
- 81 坂井 隆 「東下井出遺跡」
- 82 八賀 晋 「古代の埋没水田遺構」 『糸里制の諸問題I—糸里制研究会記録1—』 奈良国立文化財研究所 1982 (昭和57) 年
- 83 八賀 晋 「古代の稲作—最近の水田遺構の調査—」 『月刊 歴史教育』4—3 1983 (昭和57) 年
- 84 平野達一 「北関東西部における弥生から古墳時代の水田遺構について」 『考古学研究』第28巻第4号 1982 (昭和57) 年
- 85 高谷好一 「ふたつの小区画水田」 『季刊民族学』第19号 1982 (昭和57) 年
- 86 a 「垂柳遺跡発掘調査概報」 青森県教育委員会 1983 (昭和58) 年
- b 村越 潔 「弥生期最北の水田址—青森県垂柳遺跡—」 『地理』第28巻第10号 1983 (昭和58) 年
- 87 鬼形芳夫・依田治雄 「北原遺跡」 群馬町教育委員会 1983 (昭和58) 年
- 88 大塚昌彦・小林良光 『有馬糸里遺跡』 渋川市教育委員会 1983 (昭和58) 年
- 89 都出比呂志 「古代水田の二つの型」 『異望 アジアの考古学—樋口敏康教授退官記念論集』 1983 (昭和58) 年
- 90 能登 健 「群馬県下における埋没田畠調査の現状と課題」 『群馬県史研究』第17号 1983 (昭和58) 年
- 91 能登 健・石坂 茂・小島敦子・徳江秀夫 「赤城山南麓における遺跡群研究」 『信濃』第35巻第4号 1983 (昭和58) 年
- 92 能登 健 「小区画水田の調査とその意義—群馬県同遺跡—」
- 93 井関弘太郎 「弥生時代—古代における稲作の地形環境」
- 94 八賀 晋 「発掘調査からみた古代水田の土壌環境」
- 95 工業普通 「水田遺構発掘の経過と現状」
- 96 『年報』2 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983 (昭和58) 年
- 97 山崎 一氏の御教示による。
- 98 三輪茂雄 『白』 1978 (昭和53) 年
- 99 井上唯雄・大江正行・中沢 悟・西田健彦・藤巻幸男・他 『清里・陣馬遺跡』 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982 (昭和57) 年
- 100 『群馬県の遺跡』 群馬県教育委員会 1963 (昭和38) 年
- 101 江原 清・相沢貞順・中村富夫・松島榮治 『蛇穴山古墳調査概報』 前橋市教育委員会 1976 (昭和51) 年
- 102 『年報』1 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1982 (昭和57) 年
- 103 峰岸純夫 「東道—東山道の復元—」 『群馬県佐波郡東村誌』 1979 (昭和54) 年
- 104 青木いづみ・飯塚恵子・田村 孝 『北新渡遺跡』 高崎市教育委員会 1982 (昭和57) 年
- 105 能登 健 「利根川の瀬替えと遺跡の立地」 『地理』第28巻第12号 1983 (昭和58) 年
- 106 右島和夫 「群馬県における初期横穴式石室」 『古文化談叢』第12集 1983 (昭和58) 年

写 真 图 版



遺跡の地形（後方遺跡、手前受后塚古墳——北方より）



遺跡の地形（手前遺跡、左井野川——南方より）



1 遺跡の遠景（発掘前——南方より）



2 遺跡の遠景（発掘中——西方より）





1 I期水田の全景（東方より）



2 変形的なI期水田の小アゼ（中央部北方より）



1 I期水田・B大アゼと小アゼによる区画



2 I期水田の検出状況



I期水田・A大アゼと水路上帯状水田の状況



1 I期水田 (南調査区—北方より)



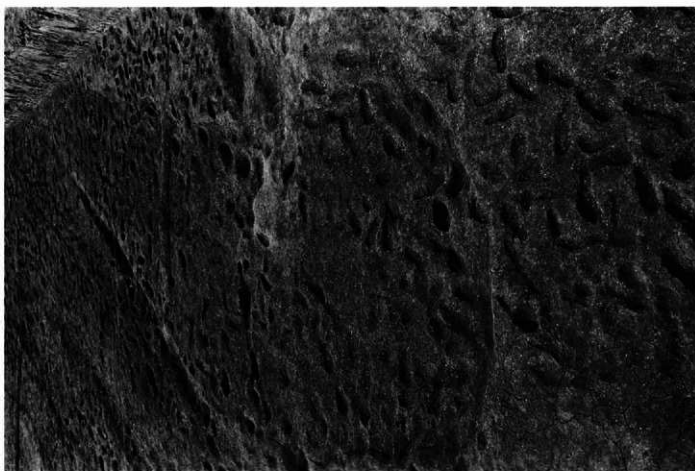
2 I期水田 (南調査区—東方より)



1 期水田・歩行方向を示す足跡



1 上野水田・歩行方向を示す足跡 (部分)



2 上野水田・水田田に踏まれた不規則な足跡



1 一階水田のA大アゲと水口 (空撮)



2 一階水田のB大アゲと水口 (空撮)



1 1期水田・北側帯状水田の区画



2 1期水田・小アゼ上の埋石



I期水田・帯状水田下の水路



1 I 期水田・帯状水田下水路内の跡跡



2 I 期水田・帯状水田下水路内の土層中様相



II期水田・区画の状況（後方同期水田のB大アゼ）



旧期水田・区画の状況（南調査区——北方より）



1 二期水田・区画の状況



2 二期水田・区画の状況(南調査区)



1 日野水田の水口



2 日野水田の水口 (西側表区)



1 II期水田・掘削当初の水路（水田面はI期水田）



2 II期水田・FA 降下時の水路



1 II～III期水田の水路の
土層断面
(a-a'断面)



2 同 上
(d-d'断面)



3 同 上
(b-b'断面)



1 日置米田・土蔵の出土状況（口取入口付近）



2 日置米田・土蔵の出土状況（本館内）



1 田期水田・水路からの取入口



2 田期水田・A大アゼと小アゼの状況



1 I・II期水田の検出状況（手前II期、後方I期）



2 II・III期水田の検出状況（手前II期、後方III期）



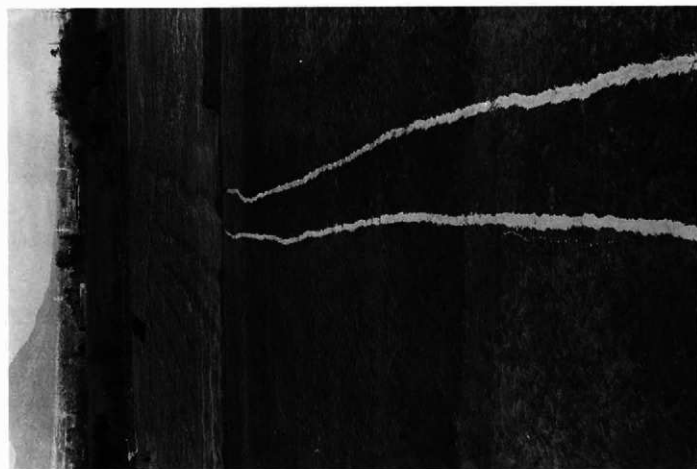
1 II期水田の水路（左）とIV期水田の水路（右）



2 III期水田の水路（左）とIV期水田の水路（右）



1 I 期水田とII期水田のB大入りの重灌状況(手前II期、後方I期)



2 II期水田とIII期水田のA大アゼの重灌状況(手前II期、後方III期)



1 田期水田・A大アゼ内の土器出土状況



2 同 上 (拡大)



IV期水田全景（東方より）



IV期水田全景（南方より）



1 IV期水田の区画



2 IV期水田の水口



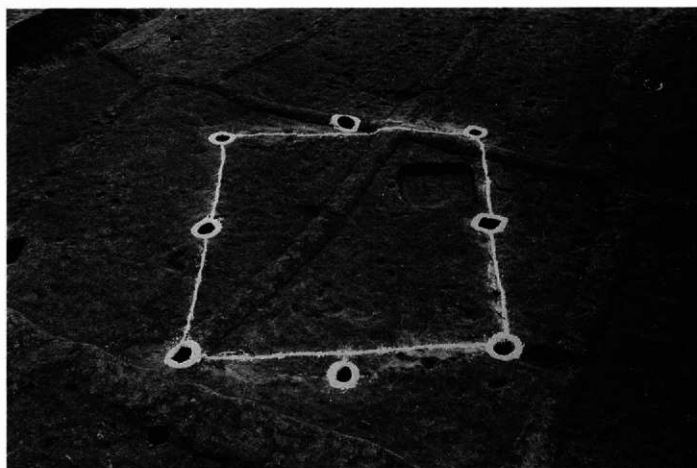
1 IV期水田の水路



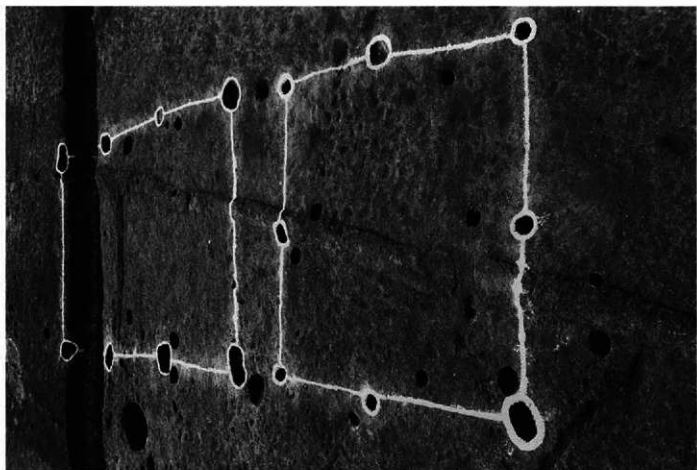
2 同 上(土層断面)



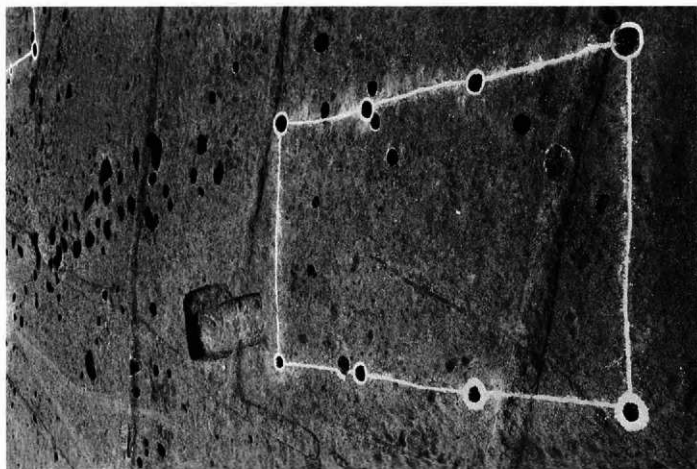
1 中世館址・獨立柱建築遺構と堀



2 中世館址・4号獨立柱建築遺構



1 中世窟址・1・2号掘立出跡線図



2 中世窟址・3号掘立出跡線図



1 土塚墓



2 中世館址・板碑の出土状況

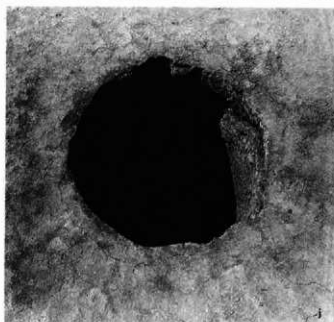
- a 1号井戸 b 2号井戸 c 3号井戸
d 4号井戸 e 5号井戸



中世館址・井戸

f 6号井戸 g 7号井戸 h 8号井戸

i 9号井戸 j 10号井戸



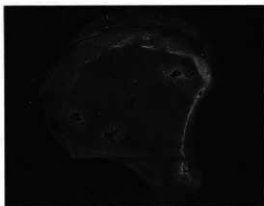


1 各期水田址のプラント・オパール資料の採取（A地点）



2 IV期水田の透水実験

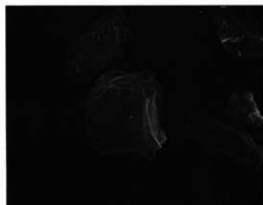
- 1 I期水田耕作土中のイネ (*O. sativa*) 機動細胞プラント・オパール
(×1000)



- 2 I期水田耕作土中のヨシ (*P. communis*) 機動細胞プラント・オパール
(×500)



- 3 II期水田耕作土中のイネ (*O. sativa*) 機動細胞プラント・オパール
(×500)



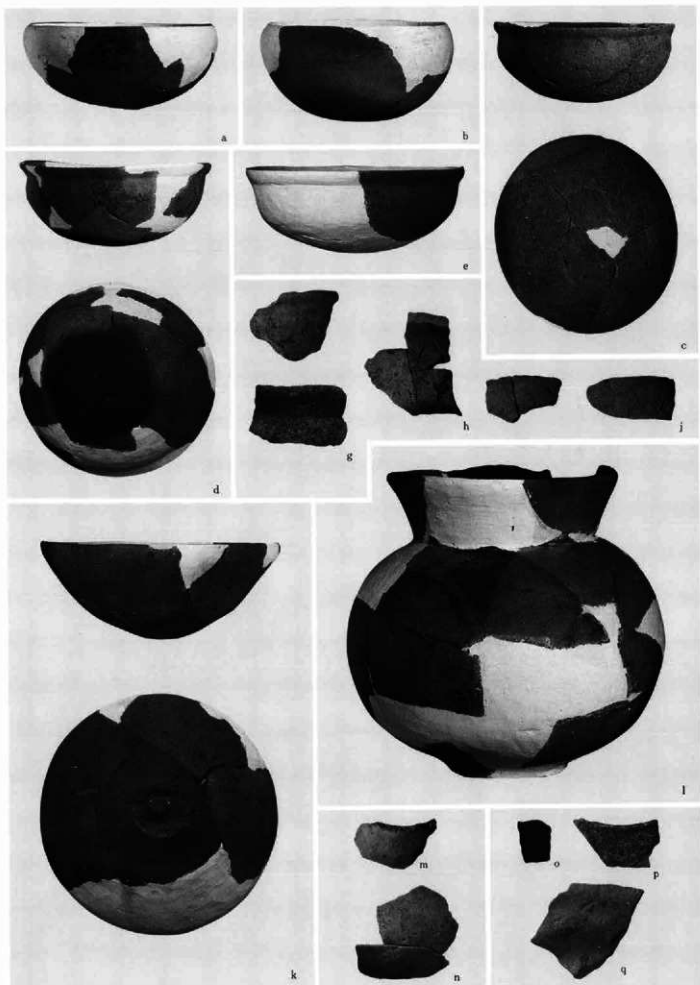
- 4 同 上

(×1000)





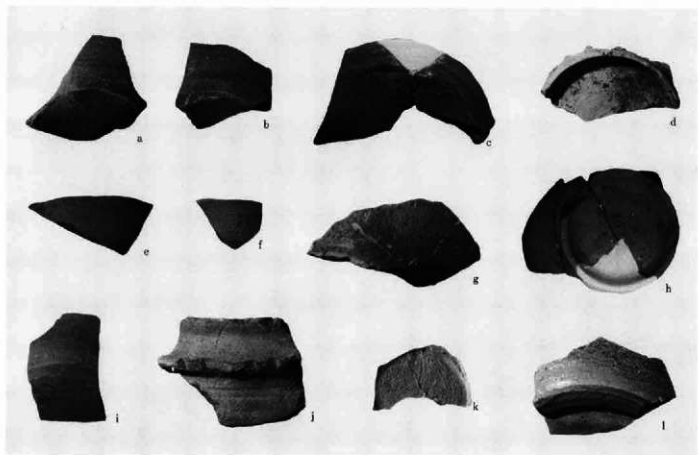
I期水田の出土遺物（土器）

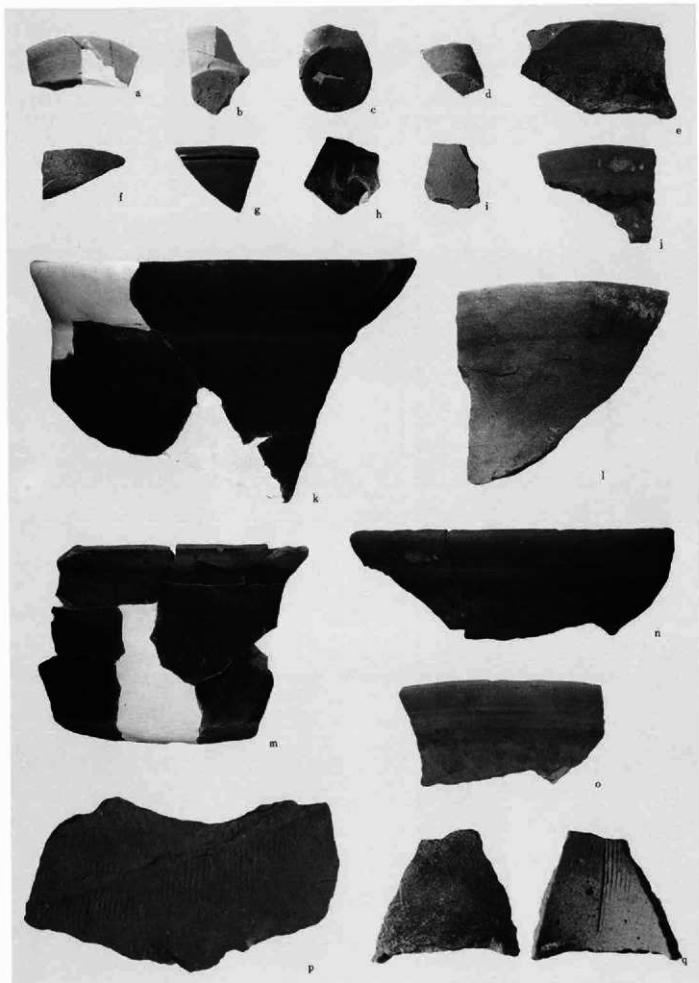


II期水田の出土遺物（土器）

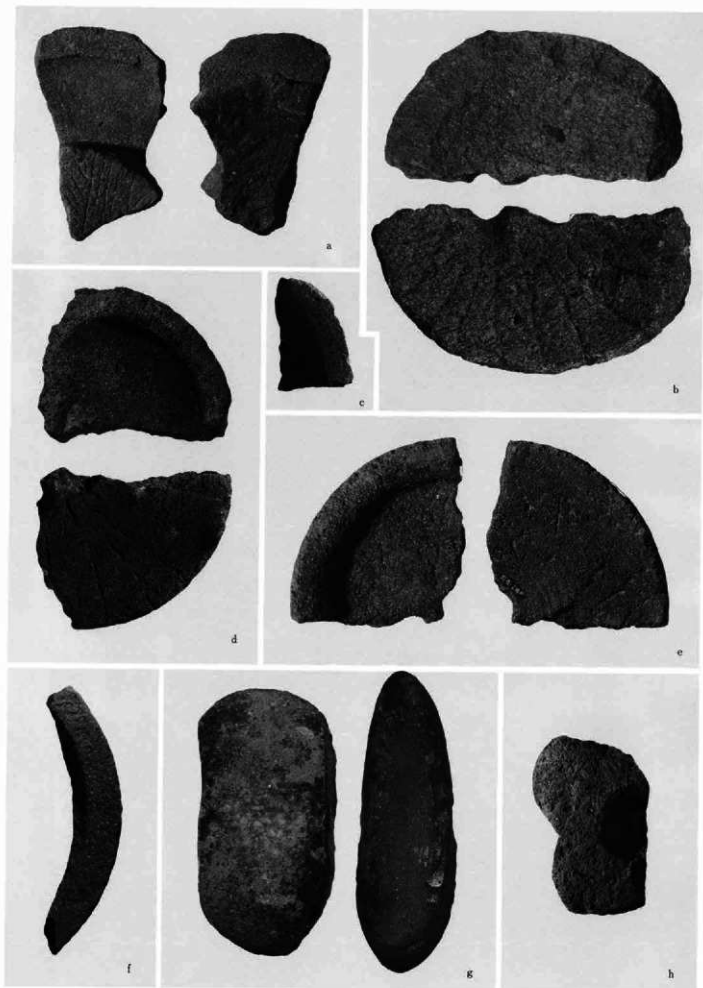


1 Ⅲ期水田の出土遺物(土器)

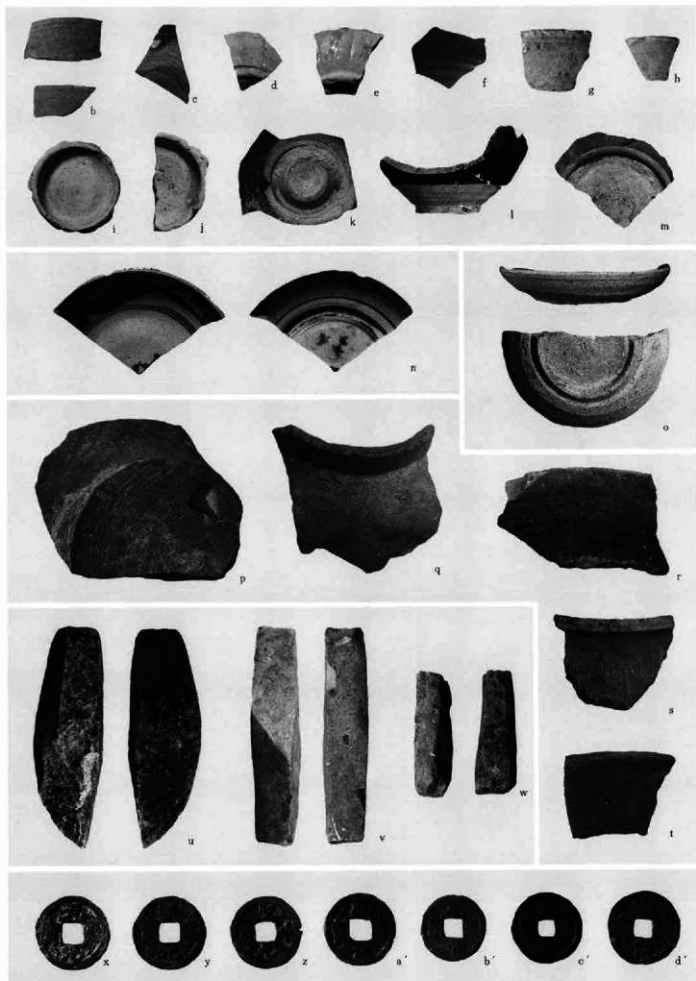




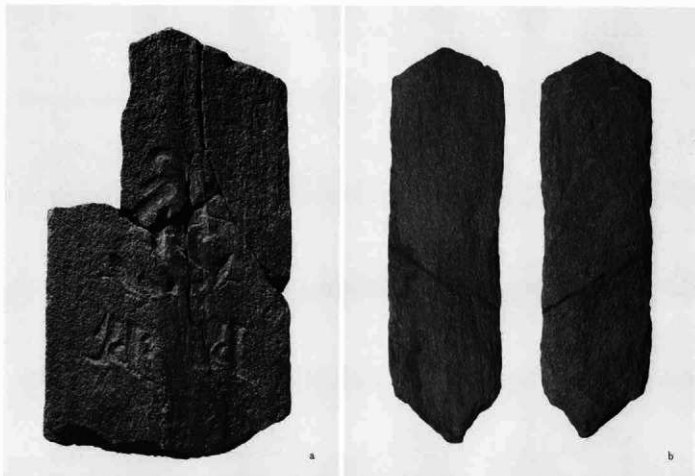
中世館址の出土遺物（土器）



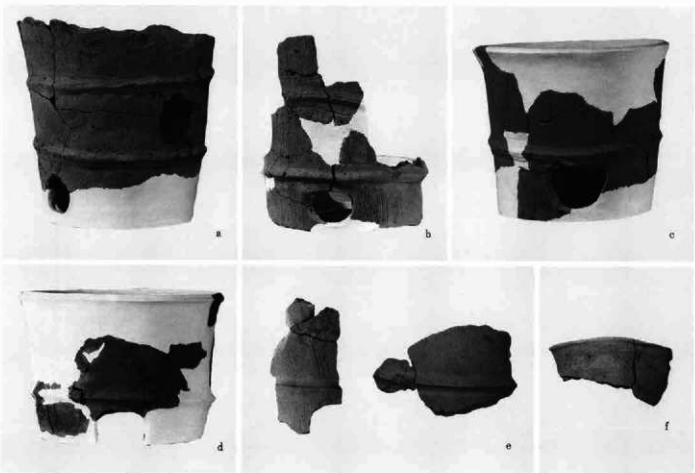
中世館址の出土遺物（石臼、砥石、不明遺物）



表土層の出土遺物（陶磁器、礫石、古銭）



1 中世館址の出土遺物（板碑）



2 八幡塚古墳表探の埴輪

同道遺跡

県立高崎北高等学校新設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷 昭和58年3月25日

発行 昭和58年3月31日

編集 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

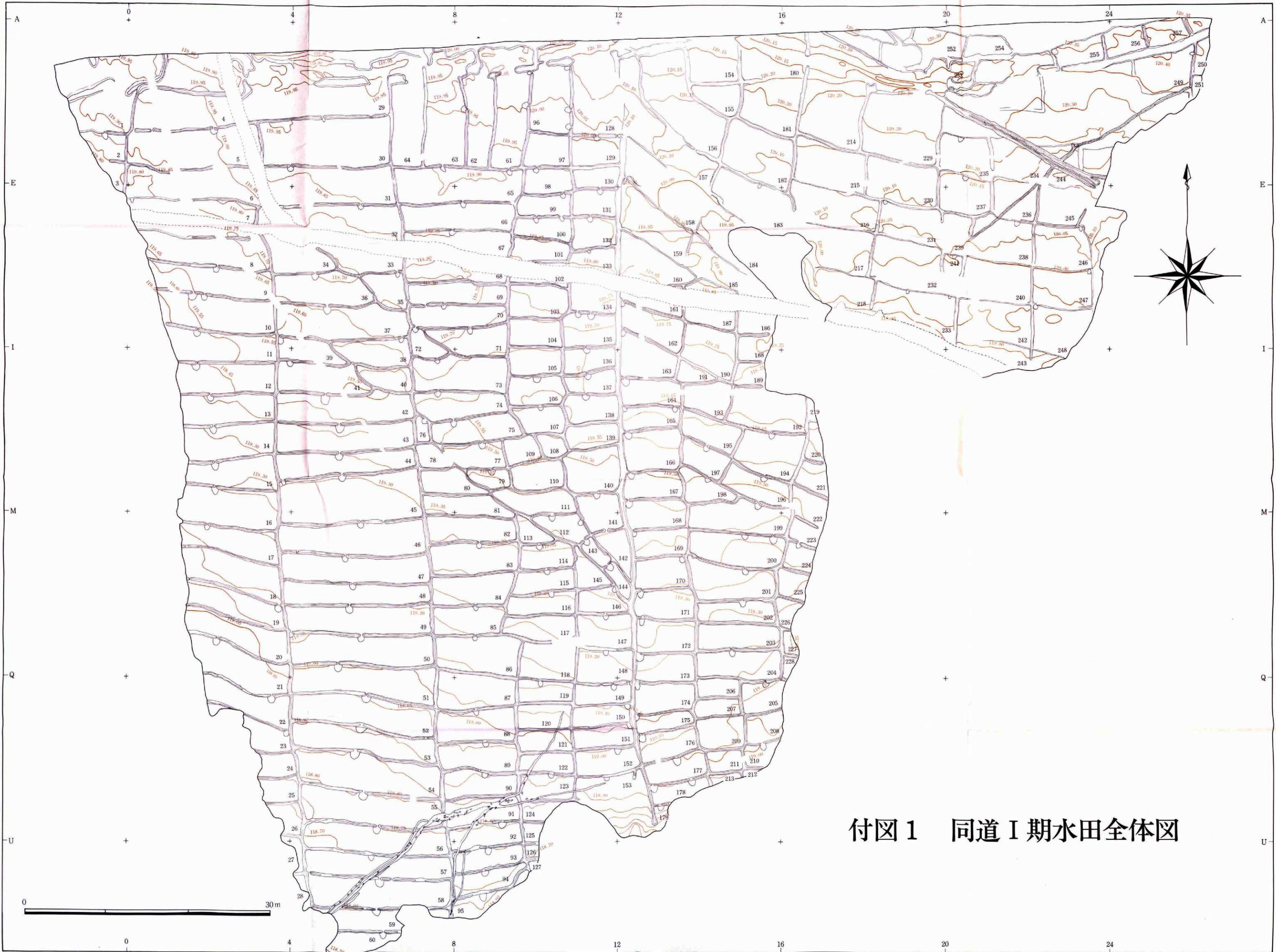
電話 (0279) 52-2511 (代表)

発行 群馬県考古資料普及会

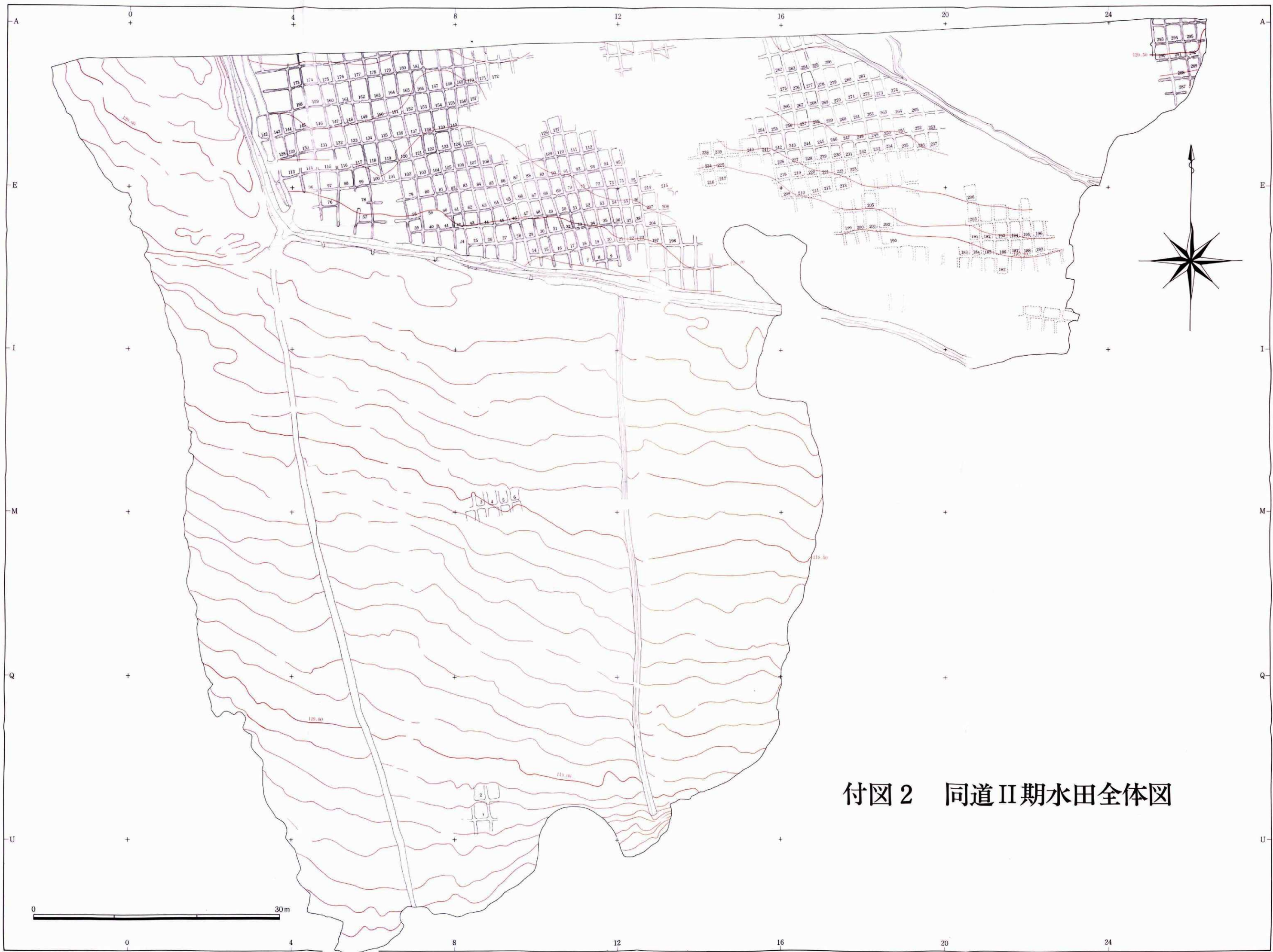
勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話 (0279) 52-2511 (代表)

印刷 朝日印刷工業株式会社

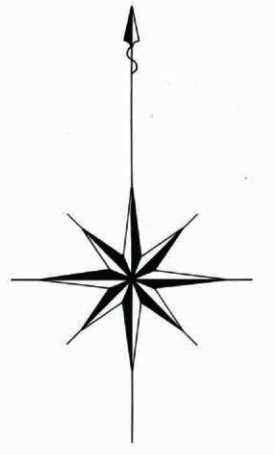


付図1 同道I期水田全体図

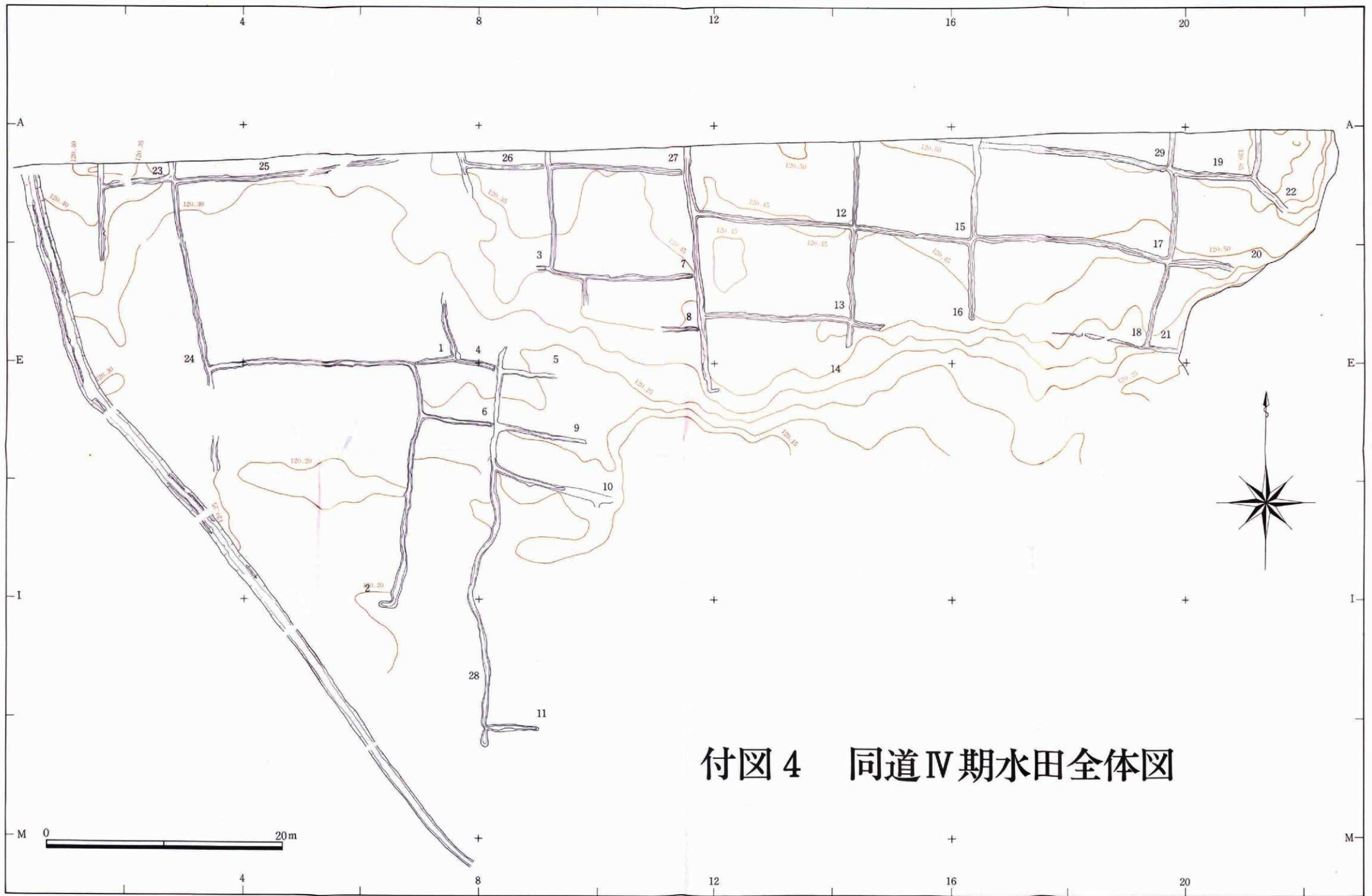


付図2 同道II期水田全体図

付図3 同道Ⅲ期水田全体図



0 30m



付図4 同道IV期水田全体図